感染症発生動向調査事業報告書

平成17年（2005年）

東京都福祉保健局

序

近年、感染症危機管理の重要性への認識がたかまり、本年６月には、インフルエンザ（H5N1）が感染症法における「指定感染症」として政令指定されるなど、国の内外においても新興感染症対策に重点を置いた防疫体制づくりが強化されています。

東京都におきましても、感染症健康危機管理に関する情報機能を強化する目的で、平成18年4月1日、健康安全研究センターに疫学情報室を新設しました。疫学情報室は、世界保健機関や諸外国の研究機関等からの専門情報をはじめ、国の内外の医療機関から患者情報を幅広く収集すると共に、感染症発生動向調査等の「基幹地方感染症情報センター」機能の一層の充実を図ります。解析された情報は、都内の医療機関、関係機関、都民へ、これまで以上に迅速かつ積極的に提供してまいります。

また、毎週発行している東京都感染症週報では、感染症発生動向の最新情報と定点医療機関から情報を報告し、引き続き、感染症の診断と感染拡大防止に役立つよう努めてまいります。

なお、これらの情報は当センターのホームページにも掲載して迅速な情報提供に努めておりますので、あわせてご活用ください。URL は、感染症情報センタートップページ（ http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/top.html） 及び東京都感染症発生動向調査週報（http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html）です。

今回の報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会に平成17年分の感染症発生情報の評価とその予防策の検討を依頼し、その結果をまとめたものです。「各疾患の動向」のうち、「一、二、三、四、五類（全数届出)」は稲垣智一委員に、「小児科・内科疾患（インフルエンザ)」と「基幹（病院）定点における疾患」は南谷幹夫委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」につきましては当センターの検査担当者が執筆いたしました。

感染症発生動向調査事業は、東京都医師会、定点医療機関、都区保健所及び福祉保健局関連部署間の有機的な連携により実施されています。今後ともこれら機関との連携を密にし、本事業の一層の充実に努める所存でございます。

本報告書を、感染症の予防や治療に少しでもご活用いただければ幸いです。

平成１８年７月

東京都健康安全研究センター所長　前田秀雄

目　次

第１章　東京都感染症発生動向調査事業報告 …… 1
１　定点医療機関 …… 4
第１表　東京都感染症発生動向調査事業定点数 …… 4
２　対象疾病 …… 4
３　運営方法 …… 4
(1) 週報、月報 …… 4
(2) 解析及び解説発表 …… 4
４　本年の概況 …… 5
(1) 一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）感染症 …… 5
(2) 小児科・内科疾患 …… 7
(3) 眼科疾患 …… 8
(4) 基幹定点における週報告疾患 …… 8
(5) 基幹定点における月報告疾患 …… 9
(6) 性感染症 …… 9
第２表－１　東京都感染症発生動向調査年別報告数（一、二、三、四、五類全数）…… 11
第２表－２　東京都感染症発生動向調査年別報告数（インフルエンザ・小児科）…… 12
第２表－３　東京都感染症発生動向調査年別報告数（眼科）…… 13
第２表－４　東京都感染症発生動向調査年別報告数（基幹定点週報告分）…… 13
第２表－５　東京都感染症発生動向調査年別報告数（基幹定点月報告分）…… 14
第２表－６　東京都感染症発生動向調査年別報告数（性感染症）…… 14
５　各疾患の動向 …… 15
(1) 一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）感染症 …… 15
ア　一類感染症 …… 15
イ　二類感染症 …… 15
ウ　三類感染症 …… 21
エ　四類感染症 …… 23
オ　五類感染症（全数把握対象） …… 31
第３表－１　一、二、三、四、五類全数把握疾病患者報告数推移表 …… 44
第３表－２　一、二、三、四、五類類全数把握疾病保健所別累計表 …… 48
第３表－３　一、二、三、四、五類類全数把握疾病年齢階級別累計表 …… 52
(2) 小児科・内科疾患 …… 56
ア　ＲＳウイルス感染症 …… 56

イ　インフルエンザ（インフルエンザ様疾患）　57
ウ　咽頭結膜熱　59
エ　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）　60
オ　感染性胃腸炎　61
カ　水痘　63
キ　手足口病　64
ク　伝染性紅斑　65
ケ　突発性発しん　66
コ　百日咳　67
サ　風しん　68
シ　ヘルパンギーナ　69
ス　麻しん（成人麻しんを除く）（麻しん様疾患）　70
セ　流行性耳下腺炎　71
ソ　ＭＣＬＳ（川崎病）　72
タ　不明発しん症　73
(3) 眼科疾患　74
ア　急性出血性結膜炎　74
イ　流行性角結膜炎　75
(4) 基幹定点における週報告疾病　76
ア　細菌性髄膜炎　76
イ　無菌性髄膜炎　77
ウ　マイコプラズマ肺炎　78
エ　クラミジア肺炎（オウム病を除く）　79
オ　成人麻しん　80
(5) 基幹定点における月報告疾病　81
ア　メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症　81
イ　ペニシリン耐性肺炎球菌感染症　82
ウ　薬剤耐性緑膿菌感染症　83
(6) 性感染症　84
ア　性器クラミジア感染症　84
イ　性器ヘルペスウイルス感染症　86
ウ　尖圭コンジローマ　87
エ　淋菌感染症　88
オ　トリコモナス症　89
カ　梅毒様疾患　90

第４表－１　週別患者発生数推移表 …… 91
第４表－２　週別定点当たり患者発生数推移表 …… 93
第５表－１　保健所別患者報告数累計表 …… 95
第５表－２　保健所別定点当たり患者報告数累計表 …… 97
第５表－３　年齢階級別累計表 …… 99
第６表－１　二次医療圏別患者報告数累計表 …… 101
第６表－２　二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表 …… 102
第７表－１　月報告疾病患者報告数推移表 …… 103
第７表－２　月報告疾病定点当たり推移表 …… 103
第７表－３　月報告疾病患者報告数推移表（男性） …… 104
第７表－４　月報告疾病患者報告数推移表（女性） …… 104
第８表　基幹定点報告疾病年齢階級別累計表 …… 105
第９表－１　性感染症保健所別、二次医療圏別患者報告数 …… 106
第９表－２　性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 …… 107
第９表－３　性感染症年齢階級別累計表 …… 108

第２章　東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績 …… 109
１ ウイルス …… 111
(1) 臨床診断名別の検体搬入状況 …… 111
(2) ウイルス分離検出状況 …… 112
(3) ウイルス遺伝子検索状況 …… 113
(4) 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検索状況 …… 115
(5) 臨床診断名別にみた抗体検査状況 …… 119
(6) 感染症疫学調査 …… 119
(7) 疾患調査（インフルエンザ集団発生） …… 121
(8) 診断キット残液を試料としたインフルエンザ遺伝子の検索 …… 122
２ 細　菌 …… 123
(1) Ａ群溶血性レンサ球菌 …… 123
(2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） …… 123
(3) 二類感染症の病原体検索 …… 124
(4) 四類感染症の病原体検索 …… 124
(5) 五類全数把握感染症の病原体検索 …… 124
① 劇症型レンサ球菌感染症（TSLS） …… 124
② 髄膜炎菌性髄膜炎 …… 124
③ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE） …… 124

(6) 感染症疫学調査 …… 125
3 性感染症 …… 125
(1) 梅毒・クラミジア・淋菌 …… 126
(2) ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）の遺伝子検査 …… 127
(3) 単純ヘルペスウイルス（ＨＳＶ） …… 127
(4) ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）の検査 …… 128
(5) 肝炎ウイルス …… 128
(6) 赤痢アメーバ …… 128
(7) 膣トリコモナス …… 129
(8) 重複感染の状況 …… 129
4 多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検査成績 …… 130
(1) 感染性胃腸炎検査成績 …… 130
(2) インフルエンザ …… 132

第３章 資 料 …… 135
1 東京都感染症発生動向調査定点名簿 …… 137
2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿 …… 145
3 感染症発生動向調査システムの概要 …… 146
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱 …… 147
別表１、２ 感染症法に基づく感染症の分類について …… 153
1 一類、二類、三類、四類感染症 …… 153
2 全数把握対象の五類感染症 …… 155
3 定点把握対象の五類感染症 …… 156
別記様式一覧表 …… 158
別記様式1～11 …… 159
別添1 検査結果コード表 …… 173
別添2 採取部位リスト …… 175

第　1　章

東京都感染症発生動向調査報告

東京都感染症発生動向調査事業報告

（２００５年）
（２００５年１月３日～２００６年１月１日）

2006 年 5 月、恒例のように 2005 年の東京都感染症発生動向調査報告書をまとめています。これをまとめるには、毎回報告される週報・月報が重要な資料であります。この基本資料の集計実務は、コンピューター・オンラインシステムを用いて東京都健康安全研究センター内の感染症情報センターが担当しており、小児科定点 142、インフルエンザ定点 36、眼科定点 14、基幹定点 25、性感染症定点 41、合計 258 定点と病原体定点の 35 施設からの貴重な報告の集計分析が基礎資料になっています。

資料の解析・検討は、東京都医師会感染症予防検討委員会が担当し、毎月 1 回、第 3 木曜日に医師会会議室で開催され、前月分の情報解析に加え、参考資料も提出されて活発な意見交換が行なわれます。毎月の情報は、東京都医師会雑誌に感染症だより「内科・小児科」「ＳＴＩ」「結核発生動向調査情報報告」として月遅れながら掲載されますが、インターネットを利用すれば最新資料を入手できます。しかし委員会当日の活発な意見交換、専門的発言、討議の熱気に接することはできません。巻末別表のような委員の構成ですが、医師会担当理事のほか、担当分野は感染症科、小児科、眼科、性感染症、小児保健、結核、微生物学、公衆衛生、感染情報担当の各委員、都からは感染症対策課長、保健所長、疫学情報室長、食品監視課副参事等の方々がメンバーであり、実務担当の方も同席されます。

議事の進行は、委員長の司会で、担当理事の挨拶があり、感染症対策課長による一類から五類の全数届出疾患、次いで疫学情報室長の五類定点把握疾患、ＳＴＩなど各担当委員の疾患及び資料説明，感染研委員の病原微生物検出情報の解説、都健康安全研究センター委員の東京都微生物検査情報の解説の後、結核担当委員の疾患と関連資料説明、最後は食品衛生担当の食中毒の最新情報と実例紹介が通常の会議過程です。この間の討議、意見が活発で、時に疾患関連の最新の知識・進歩が紹介され、自己専門外の情報を得るところが少なくありません。しばしば予定時間を超過する心配もあります。

また、かねてから問題にされていた定点数の増加・配分の是正が行なわれる気運にあります。担当理事のご尽力により小委員会が作られ、地域人口の実情・定点数・配置の検討が行なわれ、定点数の増加、一部の手直しが考慮されました。新年度から改善された定点配置、定点数による動向調査が行なわれることが期待されます。

さて、交通網の発達は、いよいよ世界を狭くしました。遠距離への所要時間が短くなり、人の交流が激しくなることは、外来感染症の侵入機会の増大にもつながります。患者、感染者の人権を配慮しながらも新興再興感染症の侵入防止を計らねばなりません。バイオテロに関連した天然痘対策や炭疽病、西ナイル熱、鳥インフルエンザ、狂犬病等々、防疫対策、侵入時の即応体制が求められております。

東京都医師会感染症予防検討委員会の役割は益々重要であり、これまでも諸先生方のご指導とご協力により着実な成果をあげてまいりましたが、今後とも一層のお力添えの程をお願い申し上げます。

平成１８年７月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長　　南　谷　幹　夫

１　定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 142、インフルエンザ定点 36、眼科定点 14、基幹定点 25、性感染症定点 41 の計 258 医療機関であり、このうち 35 医療機関が検査定点を兼ねている。

第１表　東京都感染症発生動向調査事業定点数

（2006年3月31日現在）

定点種別（疾病数）	患者定点数	病原体定点数
小児科定点（16）	142	13
インフルエンザ定点（1）	36	0
眼科定点（2）	14	2
基幹定点（8）	25	19
性感染症定点（6）	41	1
合計	258	35

２　対象疾病

厚生労働省の全国集計の対象疾病のほかに、都単独に不明発疹症とＭＣＬＳ及び性感染症にトリコモナス、梅毒様疾患を加えている。

３　運営方法

（１）週報、月報

小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週報で、性感染症定点からの報告は月報としてまとめられる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月報としてまとめられる。

週報では、定点が、毎週月曜日から日曜日までの対象疾病患者数を年齢別に所定の調査票に記入し、保健所にＦＡＸまたは郵便で送付する。保健所が、これをコンピュータに入力する。

情報の還元は、基幹地方感染症情報センター（東京都健康安全研究センター疫学情報室）及び保健所がコンピュータにより出力し、必要とするところに送付する。

月報では、定点が、当該月分の情報を週報と同様に、保健所にＦＡＸまたは郵便で送付し、保健所がコンピュータ入力し、週報と同様に還元される。

（２）解析及び解説発表

感染症予防検討委員会は、毎月 1 回、定例（第 3 木曜日）に開催され、前月分の情報について討議している。

情報は、南谷委員長に「感染症便り」としてまとめていただいている。

また、特定の感染症をとりあげ、「感染症トピックス」としてまとめ、東京都医師会ニュースに掲載している。

都の感染症発生動向調査情報は、南谷委員長により、東京都小児科地方会に毎月発表されている。

4　本年の概況

（１）一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）感染症

分類	疾 病 名	2005年届出件数 2005年1月3日～2006年1月1日
一類	エボラ出血熱	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－
	重症急性呼吸器症候群	－
	痘そう	－
	ペスト	－
	マールブルグ病	－
	ラッサ熱	－
二類	コレラ	13
	細菌性赤痢	89
	腸チフス	11
	パラチフス	4
	急性灰白髄炎	－
	ジフテリア	－
三類	腸管出血性大腸菌感染症	238
四類	E型肝炎	8
	ウエストナイル熱	－
	A型肝炎	24
	エキノコックス症	1
	黄熱	－
	オウム病	3
	回帰熱	－
	Q熱	3
	狂犬病	－
	高病原性鳥インフルエンザ	－
	コクシジオイデス症	1
	サル痘	－
	腎症候性出血熱	－
	炭疽	－
	つつが虫病	6
	デング熱	29
	ニパウイルス感染症	－
	日本紅斑熱	－
	日本脳炎	－
	ハンタウイルス肺症候群	－
	Bウイルス病	－
	ブルセラ症	1
	発しんチフス	－
	ボツリヌス症	1
	マラリア	21
	野兎症	－
	ライム病	4
	リッサウイルス感染症	－
	レジオネラ症	24
	レプトスピラ症	3
五類（全数届出）	アメーバ赤痢	183
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	36
	急性脳炎	16
	クリプトスポリジウム症	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7
	後天性免疫不全症候群	417
	ジアルジア症	13
	髄膜炎菌性髄膜炎	3
	先天性風しん症候群	－
	梅毒	98
	破傷風	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	13

①一類感染症について

《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

②二類感染症について

二類感染症は総計 117 件の届出があった。

コレラは 13 件届出があり、患者 11 人、疑似症患者 2 人であった。判明している生物型はいずれもエルトール型で古典型の発生はなかった。

細菌性赤痢は、89 件届出があった。患者の菌型では、フレキシネル菌 14 件、ボイド菌 1 件、ソンネ菌 74 件であった。推定感染地は、国内 8 件、国外 80 件、不明 1 件であった。

腸チフスは、11 件届出があった。推定感染地は国内 2 件、国外 9 件であった。

パラチフスは、4 件届出があった。推定感染地は 4 件すべて国外であった。

《急性灰白髄炎、ジフテリア》の届出はなかった。

③三類感染症について

三類感染症は計 238 件の届出があった。

腸管出血性大腸菌感染症は、238 件届出があり、菌型は、O157 VT1 が 12 件、O157 VT2 が 80 件、O157 VT1VT2 が 121 件、O26 VT1 が 12 件、O111 VT1 が 2 件、O111 VT1VT2 が 4 件、その他が 7 件届出されている。症状別では、患者 172 人、無症状病原体保有者 66 人である。溶血性尿毒症症候群と判明しているものは 5 件ある。推定感染地は国内 218 件、国外 4 件、不明 16 件であった。

④四類感染症について

四類感染症は総計 129 件の届出があった。

Ｅ型肝炎は 8 件届出があった。推定感染地は国内 4 件、国外 4 件である。

Ａ型肝炎は 24 件届出があった。推定感染地は国内 12 件、国外 9 件、不明 3 件である。

エキノコックス症は 1 件届出があった。平成 11 年 4 月に感染症法が施行されてから都内で初めての報告である。イランでの感染が疑われている。

オウム病は 3 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

Ｑ熱は 3 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

コクシジオイデス症は 1 件届出があった。推定感染地はアメリカ（カルフォルニア州）である。

つつが虫病は 6 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

デング熱は 29 件の届出があり、そのうち 3 件はデング出血熱であった。いずれも国外での感染が推定されている。

ブルセラ症は 1 件届出があった。シリア・ヨルダンでの感染が疑われている。

ボツリヌス症は 1 件届出があった。平成 11 年 4 月に感染症法が施行されてから都内で初めての報告である。蜂蜜、ハウスダストが感染源として疑われている。

マラリアは 21 件の届出があった。病原体別では、三日熱マラリア 4 件、四日熱マラリア 1 件、卵形マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 15 件であった。いずれも国外での感染が推定されている。

ライム病は 4 件届出があった。推定感染地は国内 3 件、国外 1 件である。

レジオネラ症は 24 件の届出があった。温泉または入浴での感染が推定されているものが 6 件あ

った。

レプトスピラ症は 3 件届出があった。推定感染地は国内 2 件、国外 1 件である。

《ウエストナイル熱、黄熱、回帰熱、狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、サル痘、腎症候性出血熱、炭疽、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、発しんチフス、野兎病、リッサウイルス感染症》の届出はなかった。

⑤五類感染症について

五類感染症（全数）は総計 804 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 183 件の届出があった。推定感染地は国内 127 件、国外 31 人、不明 25 件であった。

急性ウイルス性肝炎（A型・E型除く）は 36 件届出があった。病原体別では、B 型 32 件、C 型 2 件、その他 2 件が届出された。

急性脳炎は 16 件届出があった。推定感染地は国内 15 件、不明 1 件であった。

クリプトスポリジウム症は 1 件の届出があった。推定感染地はインドである。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 15 件届出があった。すべて孤発性で、ほぼ確実のものが 13 件、疑いが 2 件であった。推定感染地は国内が 7 件、不明が 8 件である。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 7 件届出があった。全て国内発生であり、4 人の死亡が確認されている。

後天性免疫不全症候群の届出は、感染者 322 人、患者 95 人、合計 417 人であった。推定感染経路は、性的接触によるものが感染者で 92.5 %、患者で 85.3 %を占め、特に感染者のうち男性同性間性的接触による感染は 70.5 %であった。また感染者で母子感染例が 1 件届出られた。推定感染地が国内である割合は感染者で 87.0 %、患者で 75.8 %であった。

ジアルジア症は 13 件届出があった。推定感染地域は国内が 5 件、国外が 8 件である。

髄膜炎菌性髄膜炎は 3 件届出があった。推定感染地域は国内 2 件、不明 1 件であった。

梅毒は 98 件届出があった。早期顕症梅毒 63 件（うち I 期 23 件、Ⅱ期 40 件）、晩期顕症梅毒 7 件、無症候梅毒 27 件、先天梅毒 1 件であった。

破傷風は 2 件届出があった。推定感染地は全て国内である。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 13 件の届出があった。遺伝子型の内訳は vanA 1 件、vanC 1 件、vanC1 3 件、vanC2/3 1 件であった。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

（２）小児科・内科疾患（五類感染症；定点把握疾患）

2005 年が 2004 年と比較して増加した疾患は、インフルエンザ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎のほか、少数報告疾患ではＲＳウイルス感染症があり、前年並に推移した疾患は、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しんであり、減少した疾患は伝染性紅斑のほか、少数報告疾患では、百日咳、風しん、麻しん、ＭＣＬＳ及び不明発しん症であった。

［前年比増加疾患］

インフルエンザ：43,336 件（243.46 人/定点）報告され、前年比 228.6%の倍増で、過去 10 年で第 1 位の報告数であった。前期流行波は当年第 2 週から第 16 週に及ぶ流行で、後期流行波は当年第 51 週から 2006 年第 5 週にいたる流行である。

ＲＳウイルス感染症：2003 年登録疾患で、848 件（5.97 人/定点）報告され、前年比 196.4%の倍増である。

咽頭結膜熱：2,468 件（17.38 人/定点）報告され、前年比 116.3%の軽度増加、昨年に続いて過去 10 年で第 1 位の報告数である。

Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎：7,564 件（53.27 人/定点）報告され、前年比 129.5%の増加、過去 10 年では昨年に続き第 1 位の報告件数である。

水痘：7,565 件（53.27 人/定点）報告され、前年比 110.5%の軽度増加、過去 10 年で第 2 位である。

ヘルパンギーナ：6,909 件（48.65 人/定点）報告、前年比 131.0%の増加、過去 10 年で第 2 位である。

流行性耳下腺炎：7,321 件（51.56 人/定点）報告され、前年比 225.3%の倍増、過去 10 年で第 1 位である。

［前年比横這い疾患］

感染性胃腸炎：42,578 件（299.85 人/定点）報告、前年比 107.9%の横這い、過去 10 年で第 1 位である。

手足口病：3,296 件（23.21 人/定点）報告され、前年比 91.9%の横這い、過去 10 年で第 6 位である。

突発性発しん：4,048 件（28.51 人/定点）報告、前年比 100.1%の横這い、過去 10 年で第 1 位である。

［前年比減少疾患］

伝染性紅斑：2,035 件（14.33 人/定点）報告され、前年比 73.5%の減少、過去 10 年で第 4 位である。

百日咳：28 件（0.20 人/定点）報告され、前年比 60.6%の減少、過去 10 年で第 9 位である。

風しん：40 件（0.28 人/定点）報告され、前年比 17.0%の激減、過去 10 年で第 10 位である。

麻しん：49 件（0.35 人/定点）報告され、前年比 63.4%の減少、過去 10 年で第 10 位である。

ＭＣＬＳ：56 件（0.39 人/定点）報告され、前年比 79.6%の減少、過去 10 年で第 9 位ある。

不明発疹症：461 件（3.25 人/定点）報告、前年比 85.5%の軽度減少、過去 10 年で第 10 位である。

（３）眼科疾患

急性出血性結膜炎の発生は 7 例で、前年の 6 例とほぼ同様で、過去 10 年で最低のレベルを保っていた。流行性角結膜炎の発生は 567 例で、前年比 79 %と 5 年連続減少し、こちらも過去 10 年で最低の値を示した。

急性出血性結膜炎も流行性角結膜炎も一年を通じて突出した発生はなく、東京都における発生状況は全国と大きな乖離をみなかった。

（４）基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2005 年は 17 件（0.68 人/定点）報告され、前年比 68%の減少。地域的特徴なく、春秋の候に増加する傾向をみるが明らかでない。

無菌性髄膜炎：2005 年は 28 件（1.12 人/定点）報告され、前年比 104%の横這い。地域的特徴なく、発生は 6 月下旬～ 9 月下旬にかけて多発（15 件；54%）しており、エンテロウイルス由来が推定される。

マイコプラズマ肺炎：164 件（6.56 人/定点）報告され、前年比 89%の軽度減少。1999 年調査開始以来

昨年まで連続増加した。春秋に多い傾向がある。
クラミジア肺炎：当年報告数は 9 件（0.36/定点）で、前年より 5 件多く、全例成人例であった。
成人麻しん：1件（0.04 人/定点）報告され、前年比 6%の激減。患者は 20 ～ 29 歳女性であった。

（５）基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（ＭＲＳＡ）：1,539 件（61.56 人/定点）報告され、前年比 99.2%の横這い。男性 1,009 件、女性 530 件、男：女＝ 2：1 で、男性に多く、昨年同様傾向。
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症（ＰＲＳＰ）：534 件（21.36 人/定点）報告され、前年比 120.3%の増加。男子 306 件、女子 228 件と男子が 1.3 倍である。春秋に多い傾向がみえるが、明らかでない。
薬剤耐性緑膿菌感染症：35 件（1.40 人/定点）報告され、前年比 89.7%と軽度減少。男性が女性の 2 倍であることは昨年同様。

（６）性感染症

1987 年の開始時から 2005 年までの 18 年間に、都の STI 定点報告数に著変が記録されたのは 1982 年の淋病の 1/2 以下への減少と 1990 年代後半のクラミジア、とくに女子の約 2 倍の増加のみである。1992 年の減少は「土浦の開業産婦人科 1 施設からの 200 人超の在日タイ人若年女子（CSW）の HIV 陽性例報告」によるマスコミのパニック的報道で全国で起こったもので同時にクラミジアの減少を伴っている。全国の STI 定点報告数では変動幅は都に比して少ないが同じ傾向が認められ、また当時まだ行われていた旧性病予防法による全国届出数でも淋病の減少は都及び全国で記録されている。すなわち変動幅が 2 倍に達するこのような大変動は全数届出、定点報告数のいずれでも把握可能と思われる。淋病以外の STI について同時期の減少が明瞭でないことは、それらの診断、報告に問題があることを示している。1990 年代のクラミジア、とくに女子の増加は全国について著明である。1999 年新感染症法に伴って全国の STI 定点が約 600 から約 900 に増加されたが、この増加は“クラミジア性器感染症は女子に多い”との主張から婦人科定点を主として実施されたためクラミジア女子報告数の実際の増加の有無は明確でない。都では STI 定点増加は実施されなかったがクラミジア女子報告数増加は都でも記録され、この時期の増加が婦人科定点数の増加のみによるものではなく、同時期に生じたアンプリコア PCR などの普及に伴う婦人科領域でのクラミジア検出機会の増加の影響にもよることが知れる。無症状の若年女子の性器クラミジア陽性率は、検出が可能になった 1980 年代から現在まで日本全国を通じて約 5%で不変であり、検出機会の増加は把握症例数の増加に直結する。アンプリコア PCR のキット販売量は 1990 年代後半から右肩上りで増加し、1999 年には 30 万程度であった年間テスト数は 2002 年には 90 万と 3 倍に達している。STI の実体把握は医療制度と同じで問題点が多く、世界諸国いずれも実体との乖離が指摘されている。日本の 1994 年の旧法に基づく淋病全数届出数は米国ＣＤＣの報告症例数のわずか 0.4%に過ぎず内外から信頼性を疑問視されてきた。この批判に対して新感染症法を機に全数届出に変って、梅毒を除く STI は定点報告とされた。STI が婦人科、泌尿器科、皮膚科などとパートナー同士別々に診断、治療される日本では STI 定点の専門別によるバイヤスは不可避である。都の定点は 3 科が大略 1/3 ずつとなっているが地方によっては主として泌尿器科、主として婦人科などとバラツキが大きい。また各定点の STI 診療内容のバラツキも大きい。これは明治時代の医局制度、学位制度以来日本の医学教育が学問にかたより、本来の目的である臨床能力が軽視されてきた結果である。抗菌薬時代、新規抗菌薬の治験に熱中する大学教授と、皆保険下副作用の少ない広域抗菌薬を大量処方する第一線医

師とで、日本では全世界の 1/3 の抗菌薬が消費され耐性菌は増加し感染症医療は世界に立ち遅れた。STI は大学では「見えない感染症」となり実習、講義の機会はなく専門医はいなくなった。抗菌薬の大量使用を許した保険制度は STI 診療には枷となった。淋菌、クラミジアは性器と共に咽頭、直腸などに感染し、しかも抗菌薬の有効性は部位により相違するにもかかわらず多部位からの検出は保険適用となりにくい。STI 教育、専門医の不在、正診を軽視した抗菌薬投与、患者の無知などの現状を見れば全数、定点などシステムを改変は基礎を造らず、建物を建てるのに似て STI 症例数把握の向上にはつながりそうもない。ようやく最近研修医制度の改変、研修医の大学離れに伴いとくに私学系の若年医師を中心として臨床医学への関心が増加し世界レベルの臨床医学が見え始めている。

第２表－１　　東京都感染症発生動向調査年別報告数（一、二、三、四、五類全数）

分類	疾 病 名	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群 ＊1	－	－	－	－	－	－
	痘そう ＊1	－	－	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－	－	－
二類	コレラ	7	13	14	5	12	13
	細菌性赤痢	142	138	112	105	133	89
	腸チフス	14	17	22	20	17	11
	パラチフス	7	15	11	7	15	4
	急性灰白髄炎	－	－	－	－	－	－
	ジフテリア	－	－	－	－	－	－
三類	腸管出血性大腸菌感染症	314	314	186	182	273	238
四類	E型肝炎 ＊1	－	－	－	1	4	8
	ウエストナイル熱	－	－	－	－	－	－
	A型肝炎 ＊1	－	－	－	3	21	24
	エキノコックス症	－	－	－	－	－	1
	黄熱	－	－	－	－	－	－
	オウム病	3	7	5	2	3	3
	回帰熱	－	－	－	－	－	－
	Q熱	－	19	36	1	1	3
	狂犬病	－	－	－	－	－	－
	高病原性鳥インフルエンザ ＊1	－	－	－	－	－	－
	コクシジオイデス症	1	－	－	－	1	1
	サル痘 ＊1	－	－	－	－	－	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	－	－	－
	炭疽	－	－	－	－	－	－
	つつが虫病	15	9	11	3	7	6
	デング熱	12	21	17	15	27	29
	ニパウイルス感染症 ＊1	－	－	－	－	－	－
	日本紅斑熱	－	－	－	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	－	－	－
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	1	－	－	1
	発しんチフス	－	－	－	－	－	－
	ボツリヌス症 ＊2	－	－	－	－	－	1
	マラリア	61	43	29	33	22	21
	野兎症 ＊1	－	－	－	－	－	－
	ライム病	－	3	2	－	－	4
	リッサウイルス感染症 ＊1	－	－	－	－	－	－
	レジオネラ症	10	17	19	18	18	24
	レプトスピラ症 ＊1	－	－	－	－	3	3
五類（全数届出）	アメーバ赤痢 ＊3	95	108	126	122	141	183
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く） ＊4	105	148	161	67	58	36
	急性脳炎 ＊1	－	－	－	1	8	16
	クリプトスポリジウム症 ＊3	1	5	4	6	8	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病 ＊3	13	10	13	13	20	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ＊3	10	6	13	6	6	7
	後天性免疫不全症候群 ＊3	308	376	368	359	411	417
	ジアルジア症 ＊3	18	59	46	29	18	13
	髄膜炎菌性髄膜炎 ＊3	1	2	1	4	7	3
	先天性風しん症候群 ＊3	－	－	－	－	3	－
	梅毒 ＊3	125	102	61	67	65	98
	破傷風 ＊3	7	4	6	3	2	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ＊1	－	－	－	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 ＊3	7	14	9	4	10	13

＊1：2003年11月5日より新たに追加指定された。
＊2：2003年11月5日より新たに追加指定された。11月4日までは、「乳児ボツリヌス症」を含む。
＊3：2003年11月5日より「四類（全数届出）」から「五類（全数届出）」に分類が変更になった。
＊4：2003年11月4日までは、「急性ウイルス性肝炎」として四類感染症に分類されており、A型とE型を含む。

第２表－２　　東京都感染症発生動向調査年別報告数（インフルエンザ・小児科）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
内科・小児科定点数	142	142	142	142	142	142	142	142	142	142
インフルエンザ定点数 *1				178	178	178	178	178	178	178
インフルエンザ	18,014 126.89	14,888 104.85	24,420 171.97	29,346 206.66	18,101 101.69	6,114 34.35	14,877 83.58	27,007 151.72	18,958 106.51	43,336 243.46
RSウイルス感染症 *2								68 0.48	432 3.04	848 5.97
咽頭結膜熱 *3	237 1.52	315 2.22	536 3.77	318 2.24	489 3.44	645 4.54	600 4.23	1,353 9.53	2,123 14.95	2,468 17.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,409 16.96	2,800 19.72	2,700 19.01	2,505 17.64	3,259 22.95	2,936 20.68	3,772 26.56	4,261 30.01	5,842 41.14	7,564 53.27
感染性胃腸炎	28,069 197.67	28,144 198.20	23,600 166.20	34,137 240.40	33,084 232.99	31,639 222.81	34,659 244.08	35,718 251.54	39,464 277.92	42,578 299.85
水　痘	7,912 55.72	7,187 50.61	5,946 41.87	6,508 45.83	6,973 49.11	6,877 48.43	7,079 49.85	6,439 45.35	6,845 48.20	7,565 53.27
手足口病	2,121 14.94	3,626 25.54	5,662 39.87	844 5.94	6,464 45.52	2,133 15.02	3,213 22.63	6,872 48.39	3,585 25.25	3,296 23.21
伝染性紅斑	2,814 19.82	1,689 11.89	1,693 11.92	1,146 8.07	1,740 12.25	2,510 17.68	1,574 11.08	1,471 10.36	2,771 19.51	2,035 14.33
突発性発しん	4,041 28.46	3,840 27.04	3,839 27.04	3,851 27.12	3,663 25.80	3,507 24.70	3,632 25.58	3,777 26.60	4,043 28.47	4,048 28.51
百日咳	143 1.01	72 0.51	64 0.45	57 0.40	56 0.39	23 0.16	32 0.23	34 0.24	47 0.33	28 0.20
風しん	1,289 9.08	2,236 15.75	726 5.11	286 2.01	226 1.59	114 0.80	71 0.50	143 1.01	234 1.65	40 0.28
ヘルパンギーナ	7,160 50.42	4,091 28.81	4,309 30.35	5,465 38.49	6,577 46.32	6,314 44.46	5,067 35.68	5,064 35.66	5,275 37.15	6,909 48.65
麻しん	574 4.04	322 2.27	454 3.20	409 2.88	589 4.15	628 4.42	377 2.65	376 2.65	78 0.55	49 0.35
流行性耳下腺炎	5,662 39.87	6,096 42.93	3,714 26.15	2,763 19.46	4,804 33.83	6,284 44.25	3,678 25.90	1,290 9.08	3,250 22.89	7,321 51.56
MCLS	69 0.89	39 0.27	65 0.46	76 0.54	66 0.46	75 0.53	60 0.42	66 0.46	69 0.49	56 0.39
不明発しん症	509 3.58	535 3.77	710 5.00	632 4.45	645 4.54	585 4.12	613 4.32	579 4.08	540 3.80	461 3.25

＊1　1999年3月までのインフルエンザの定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点数で割ったもの。

＊2　2003年45週より実施。

＊3　1999年3月までの咽頭結膜熱の定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点と眼科定点の合計数で割ったもの。

第２表－３　　東京都感染症発生動向調査年別報告数（眼科）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
定点数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
流行性角結膜炎	817 59.07	1,047 74.79	816 58.29	776 55.43	1,240 88.57	1,008 72.00	925 66.07	880 62.86	719 51.36	567 40.50
急性出血性結膜炎	17 1.21	15 1.07	9 0.64	22 1.57	11 0.79	16 1.14	12 0.86	18 1.29	6 0.43	7 0.50

第２表－４　　東京都感染症発生動向調査年別報告数
（基幹定点週報告分）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
定点数	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	12 0.48	14 0.56	12 0.48	24 0.96	18 0.72	25 1.00	17 0.68
無菌性髄膜炎	33 1.32	83 3.32	36 1.44	66 2.64	66 2.64	27 1.08	28 1.12
マイコプラズマ肺炎	19 0.76	22 0.88	45 1.80	163 6.52	173 6.92	184 7.36	164 6.56
クラミジア肺炎	4 0.16	1 0.04	0 0.00	2 0.08	3 0.12	4 0.16	9 0.36
成人麻しん	8 0.32	120 4.80	181 7.24	116 4.64	144 5.76	16 0.64	1 0.04

1999年14週より実施

第２表－５　　東京都感染症発生動向調査年別報告数
（基幹定点月報告分）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
定点数	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	823 32.92	1,456 58.24	1,365 54.60	1,759 70.36	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	160 6.40	338 13.52	355 14.20	557 22.28	617 24.68	444 17.76	534 21.36
薬剤耐性緑膿菌感染症	118 4.72	85 3.40	69 2.76	107 4.28	61 2.44	39 1.56	35 1.40

1999年14週より実施

第２表－６　　東京都感染症発生動向調査年別報告数（性感染症）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
定点数	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
性器クラミジア感染症	1,597 38.95	1,803 43.98	2,054 50.10	2,692 65.66	2,688 65.56	2,789 68.02	2,536 61.85	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00
性器ヘルペスウイルス感染症	1,227 29.93	1,138 27.76	1,039 25.34	1,020 24.88	1,054 25.71	1,019 24.85	950 23.17	865 21.10	982 23.95	923 22.51
尖圭コンジローマ	473 11.54	396 9.66	428 10.44	518 12.63	578 14.10	549 13.39	502 12.24	518 12.63	627 15.29	555 13.54
淋菌感染症	1,330 32.44	1,121 27.34	1,157 28.22	1,250 30.49	1,204 29.37	1,364 33.27	1,249 30.46	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54
トリコモナス症	339 8.27	275 6.71	274 6.68	323 7.88	295 7.20	367 8.95	447 10.90	343 8.37	298 7.27	212 5.17
梅毒様疾患	75 1.83	110 2.68	138 3.37	118 2.88	108 2.63	63 1.54	41 1.00	68 1.66	42 1.02	43 1.05

５　各疾患の動向

（1）一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）感染症

ア　一類感染症

一類感染症（以下参照）の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ　二類感染症

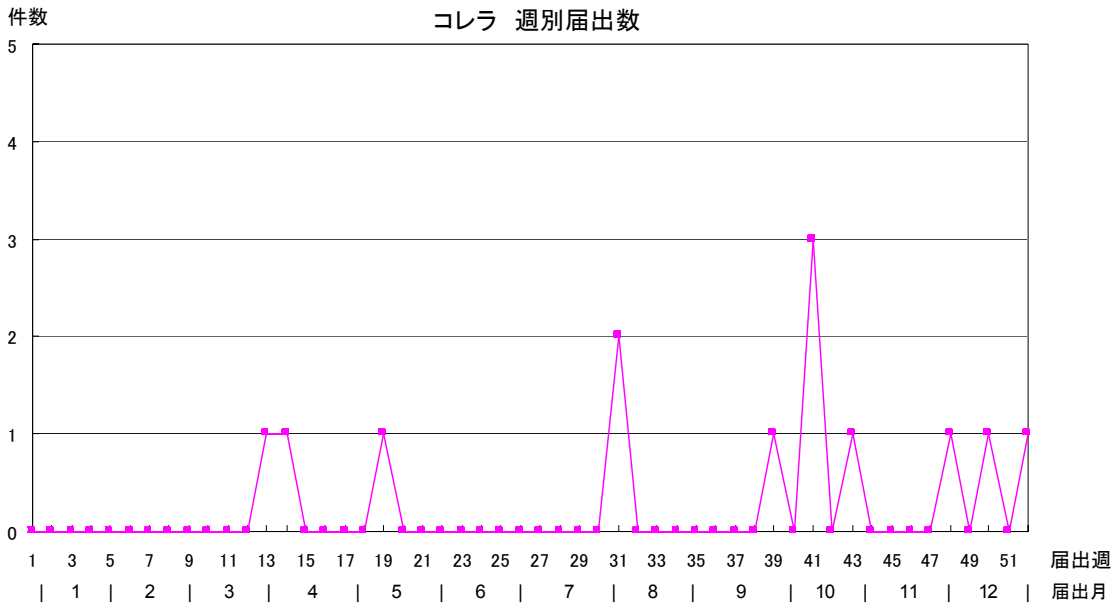
① コレラ

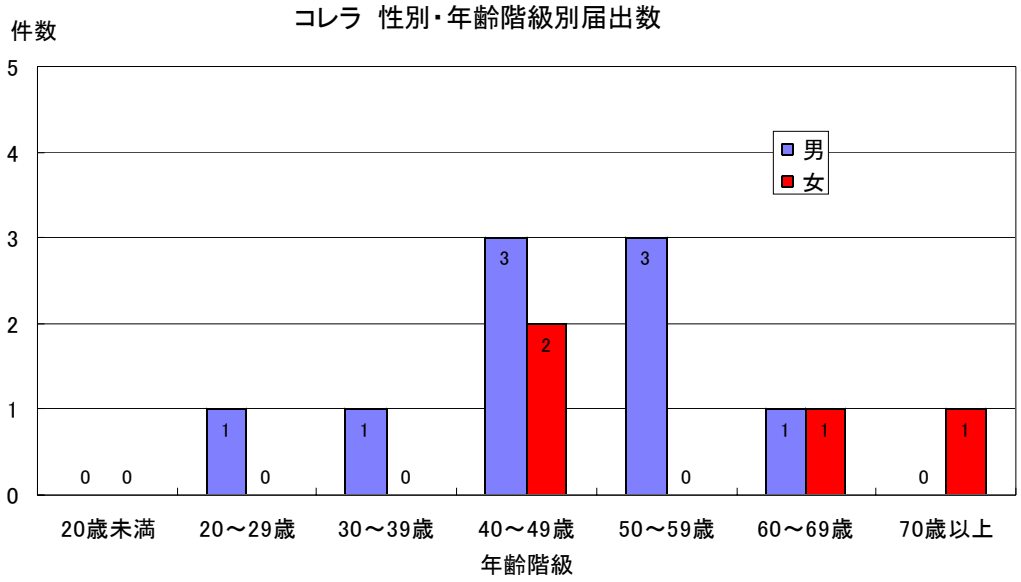
コレラは 13 件届出があり、患者 11 人、疑似症患者 2 人であった。

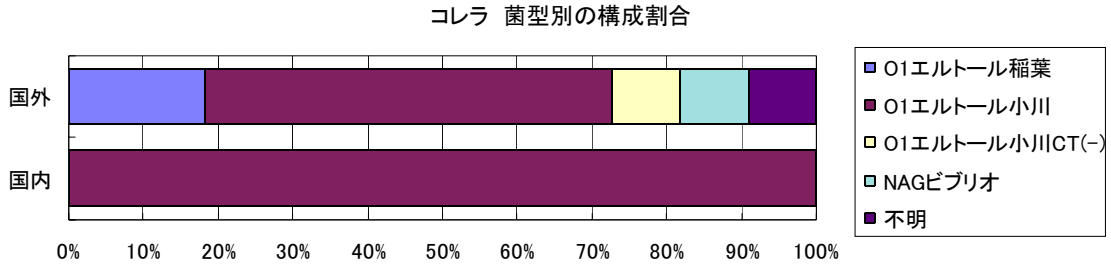
性別では、男性 9 人、女性 4 人で、年齢別では、20 歳代 1 人、30 歳代 1 人、40 歳代 5 人、50 歳代 3 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 1 人である。

推定感染地は国内 2 件、国外 11 件であった。国外の国別では、フィリピン 5 件、タイ 2 件、台湾 2 件、その他 2 件である。

届出日	週	性別	年齢	菌型	入院	推定感染地
3/31	13	男	57	01エルトール小川	無	台湾
4/4	14	女	44	01エルトール稲葉	無	台湾
5/13	19	男	32	01エルトール小川	有	インドネシア（バリ島）
8/4	31	男	45	疑似症→01エルトール小川コレラトキシン(ー)	無	タイ
8/5	31	女	41	疑似症→NAGビブリオ	無	タイ
9/30	39	女	67	01エルトール小川	有	国内（仙台）
10/13	41	男	58	不明	無	フィリピン
10/13	41	女	83	01エルトール小川	有	国内
10/12	41	男	47	01エルトール稲葉	有	パキスタン
10/26	43	男	40	01エルトール小川	無	フィリピン
12/4	48	男	25	01エルトール小川	無	フィリピン
12/15	50	男	56	01エルトール小川	有	フィリピン（マニラ）
12/30	52	男	69	01エルトール小川	無	フィリピン







② 細菌性赤痢

細菌性赤痢は、89 件届出があった。

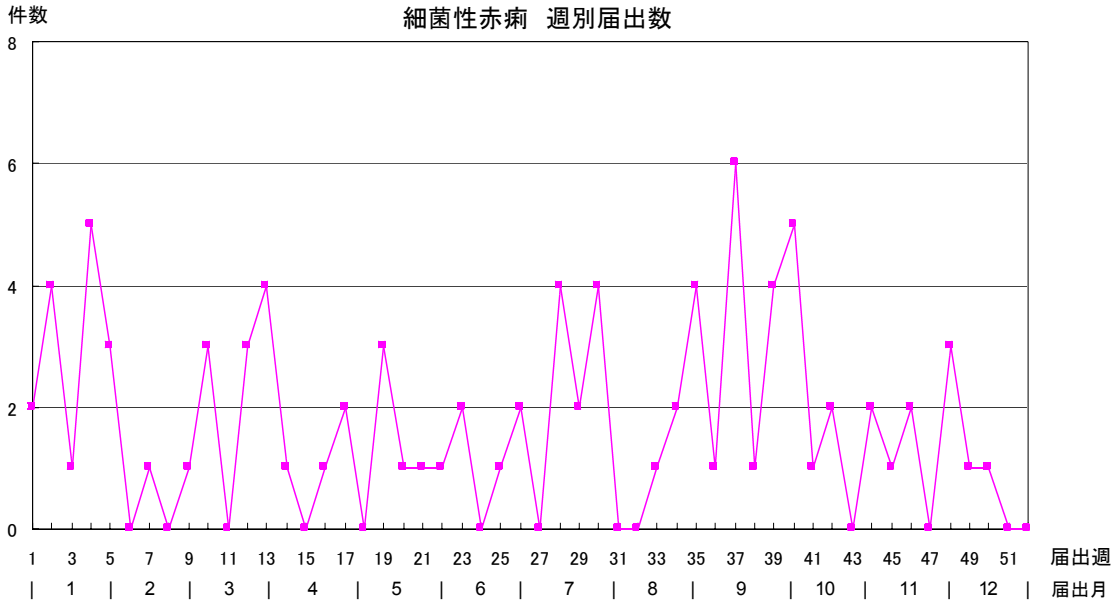
性別では、男性 44 人、女性 45 人である。年齢別では、10 歳未満が 2 人、10 歳代が 3 人、20 歳代が 36 人、30 歳代が 24 人、40 歳代が 7 人、50 歳代が 7 人、60 歳代が 8 人、70 歳以上が 2 人であった。同一家庭内での発生が判明しているのは 2 家族であった。

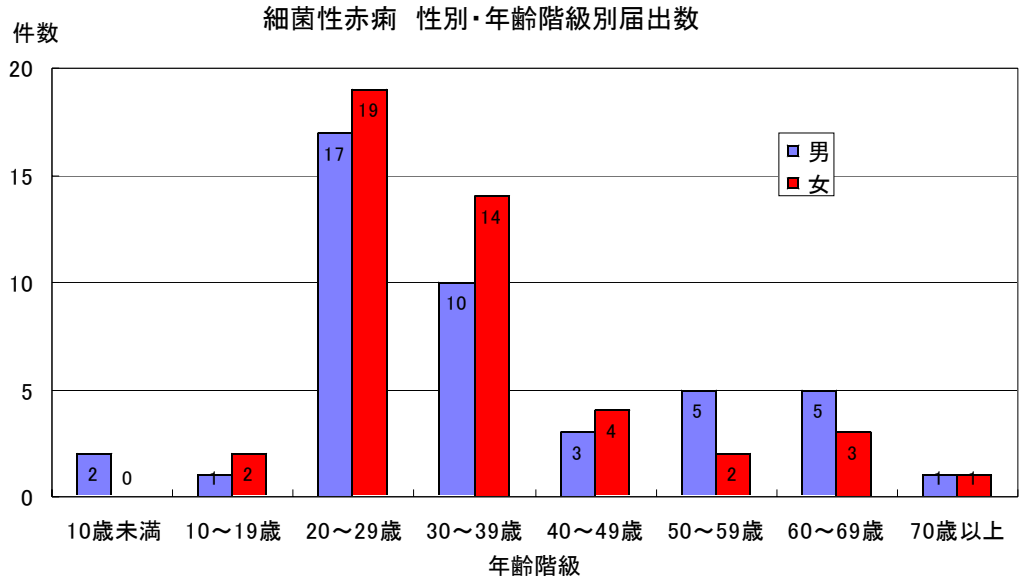
患者の菌型では、フレキシネル菌 14 件、ボイド菌 1 件、ソンネ菌 74 件であった。推定感染地は、

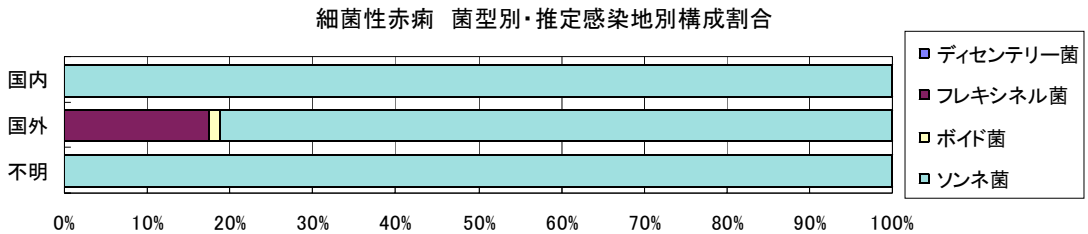
国内 8 件、国外 80 件、不明 1 件であった。

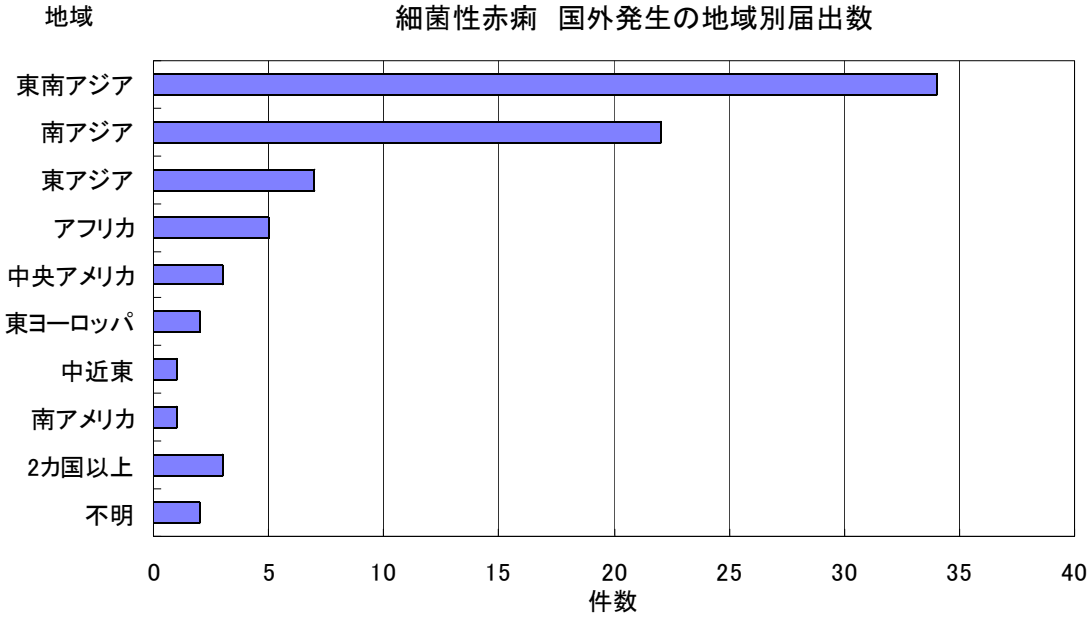
国内で感染が推定される 8 件の年齢は、20 歳未満 1 人、20 歳代 2 人、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳以上 2 人であった。推定感染原因としては、2 次感染が疑われるもの 1 件、不明 7 件である。

国外発生の国別では、インド 20 件、インドネシア 10 件、フィリピン 9 件、ベトナム 8 件、中国 6 件、カンボジア 4 件、タイ 2 件、ウズベキスタン 2 件、モロッコ 2 件、メキシコ 2 件、その他 15 件であった。









細菌性赤痢　国内発生

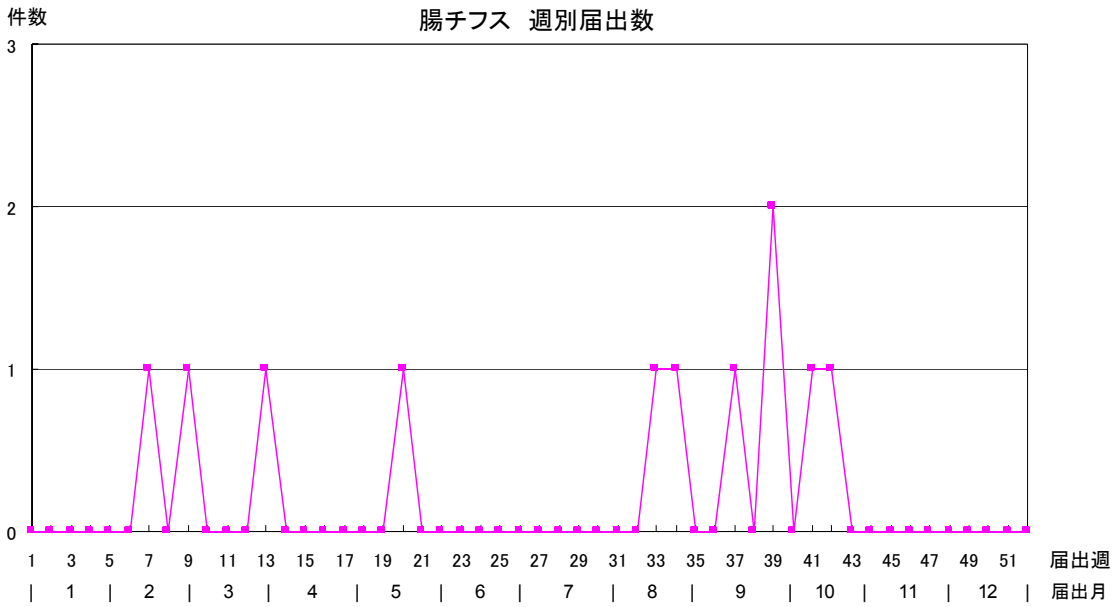
届出日	週	性別	年齢	菌型	症状	備考
1/13	2	1	49	ソンネ	有	
1/17	3	2	25	ソンネ	有	
1/24	4	2	58	ソンネ	有	家族内感染
5/20	20	1	34	ソンネ	有	生焼け秋刀魚の喫食歴あり
8/26	34	2	25	ソンネ	有	
9/13	37	1	7	ソンネ	有	
9/16	37	1	64	ソンネ	無	井戸水の使用歴あり
9/16	37	2	64	ソンネ	無	井戸水の使用歴あり

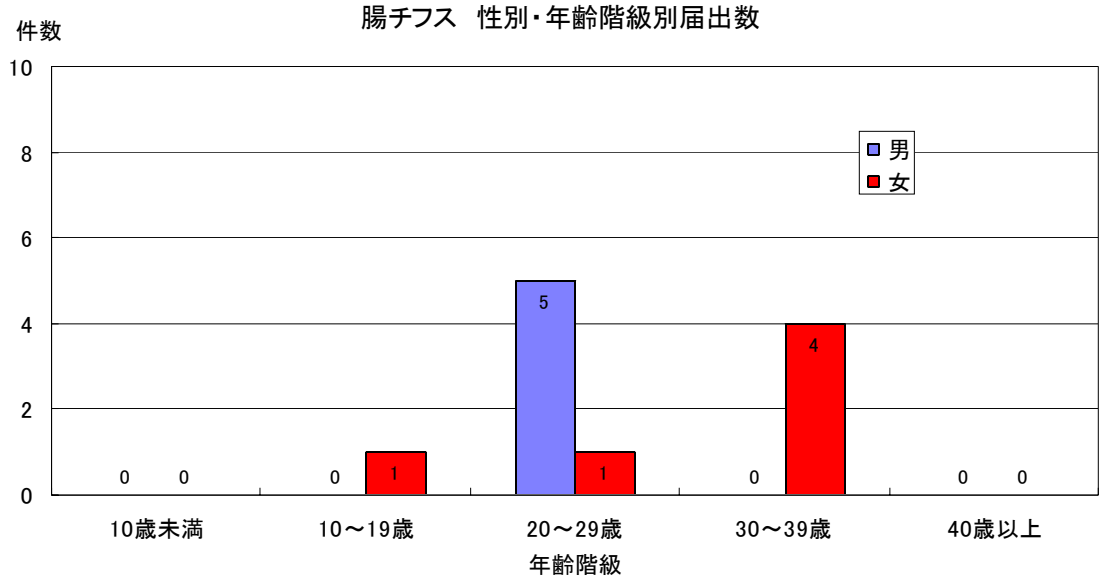
③ 腸チフス

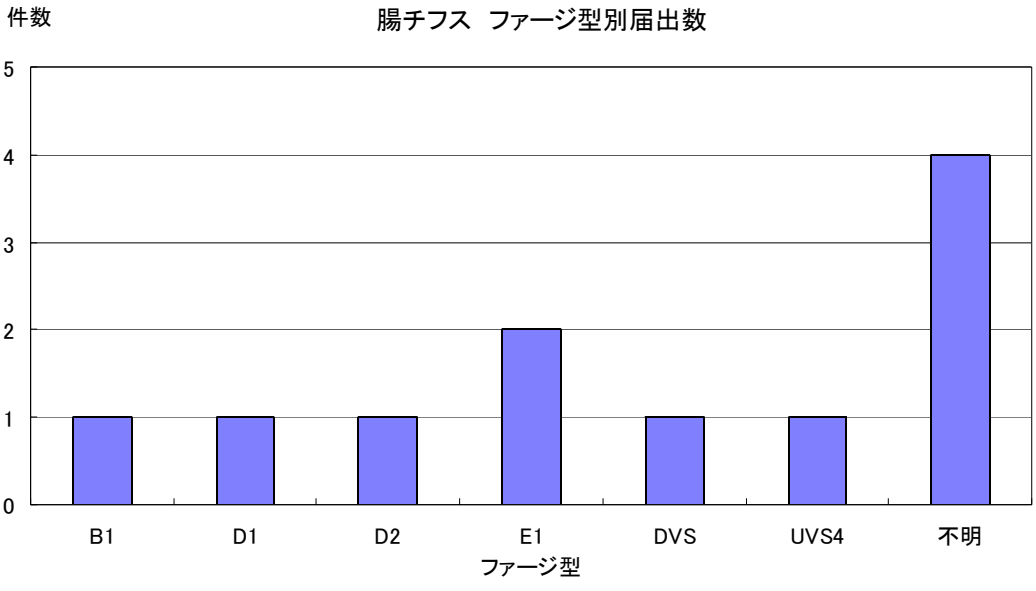
腸チフスは、11 件届出があった。

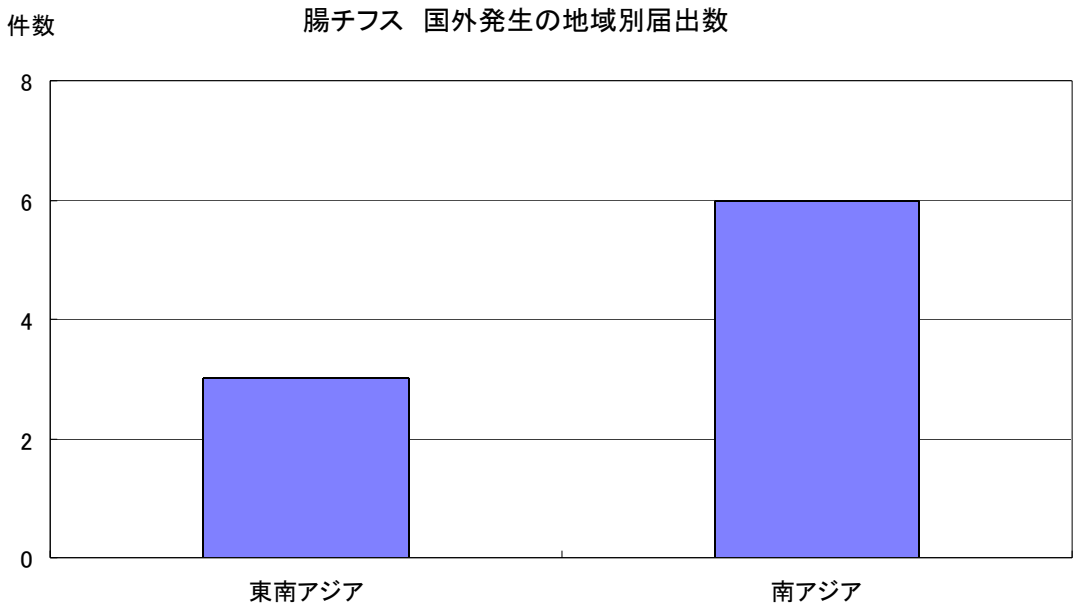
性別では男性 5 人、女性 6 人、年齢別では、10 歳代 1 人、20 歳代 6 人、30 歳代 4 人であった。

推定感染地は国内 2 件、国外 9 件であった。国外発生の国別ではインド 5 件、インドネシア 2 件、その他 2 件である。


腸チフス　週別届出数
件数
3
2
1
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51
届出週
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
届出月


腸チフス　性別・年齢階級別届出数
件数
10
8
6
4
2
0
男
女
0 0 0 1 5 1 0 4 0 0
10歳未満
10～19歳
20～29歳
30～39歳
40歳以上
年齢階級


腸チフス　ファージ型別届出数
件数
5
4
3
2
1
0
B1
D1
D2
E1
DVS
UVS4
不明
ファージ型



腸チフス　国内発生

届出日	週	性別	年齢	ファージ型	症状の有無	推定感染経路
5/19	20	女	31	UVS4	有	不明
8/19	33	男	22	不明	有	不明

④ パラチフス

パラチフスは、4 件届出があった。

性別では男性 2 人、女性 2 人、年齢別では 20 歳代 3 人、50 歳代 1 人であった。届出月別では 1 月 1 人、4 月 1 人、6 月 1 人、10 月 1 人である。

推定感染地は 4 件すべて国外であった。

届出日	週	年齢	性別	ファージ型	症状	推定感染地	備考
1/27	4	24	女	4	有	モルジブ	
4/23	16	25	男	不明	有	カンボジア	
6/1	22	54	男	不明	有	ミャンマー	HIV陽性
10/21	42	21	女	不明	有	インド	潰瘍性大腸炎あり

⑤ その他の二類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア

ウ　三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

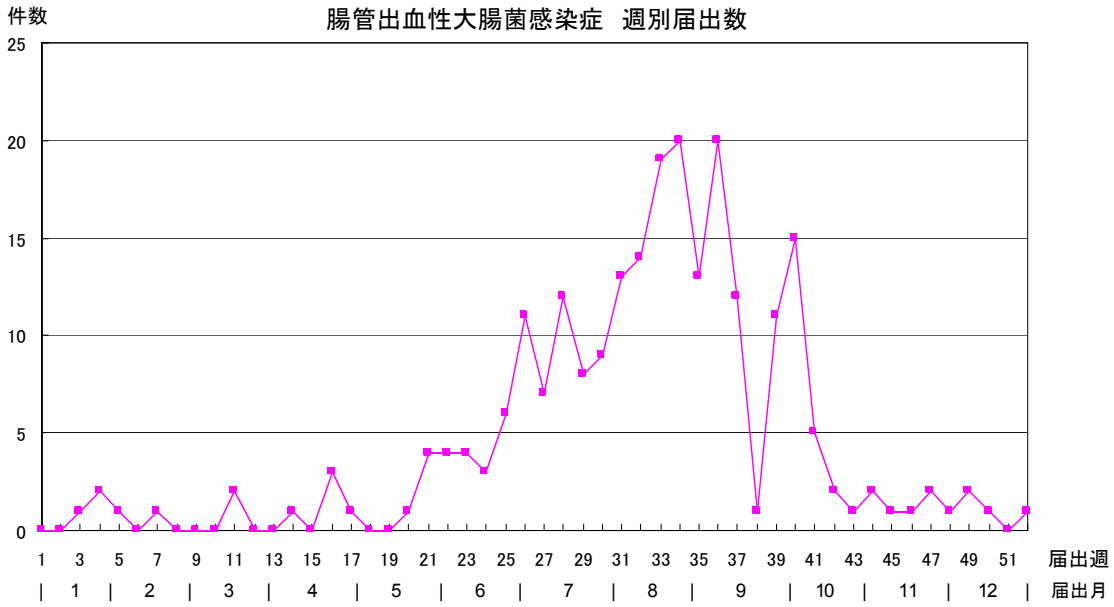
腸管出血性大腸菌感染症は、238 件届出があった。

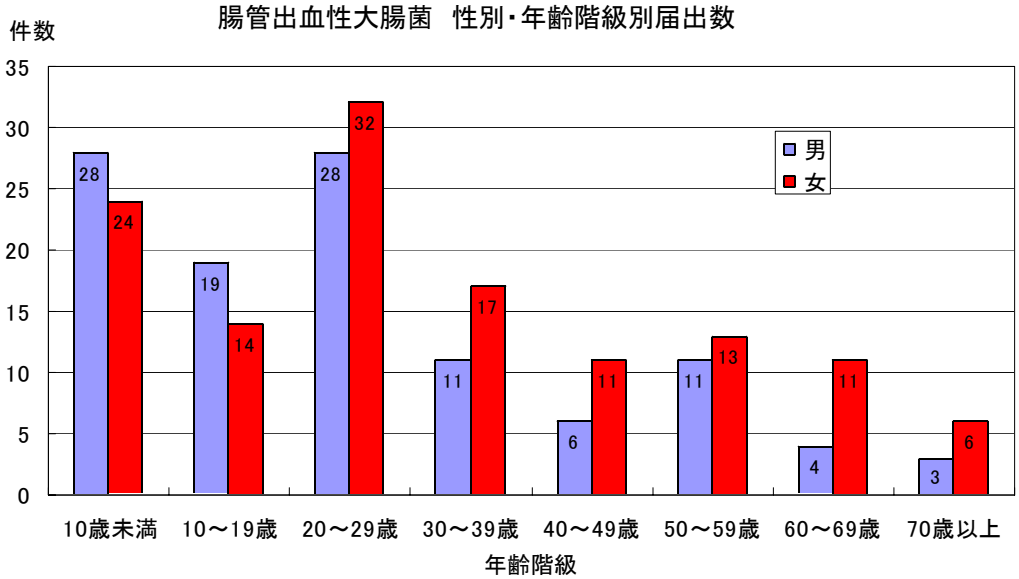
性別では男 110 人、女性 128 人、年齢別では 10 歳未満 52 人、10 歳代 33 人、20 歳代 60 人、30 歳代 28 人、40 歳代 17 人、50 歳代 24 人、60 歳代 15 人、70 歳以上 9 人であった。

菌型は、O157 VT1 が 12 件、O157 VT2 が 80 件、O157 VT1VT2 が 121 件、O26 VT1 が 12 件、O111 VT1 が 2 件、O111 VT1VT2 が 4 件、その他が 7 件届出されている。

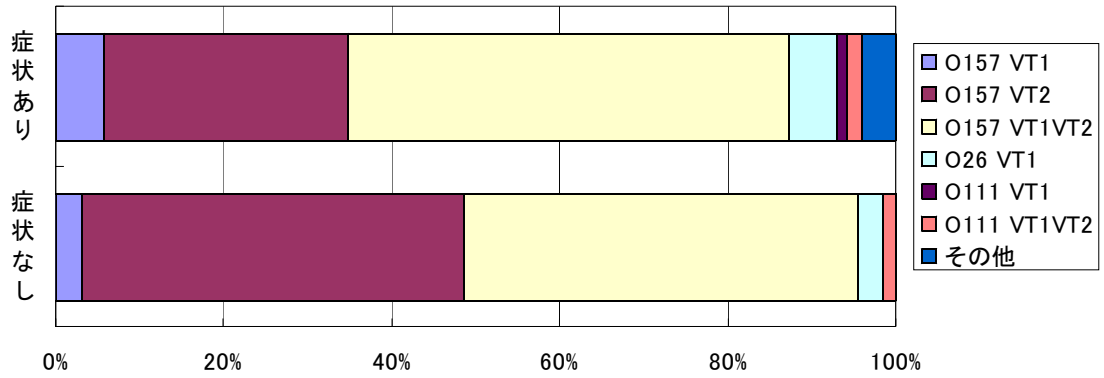
症状別では、患者 172 人、無症状病原体保有者 66 人である。溶血性尿毒症症候群と判明しているものは 5 件あり、内訳は 10 歳未満 2 人、10 歳代 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地は国内 218 件、国外 4 件、不明 16 件であった。

同一家庭内での発生は 20 件届出された。

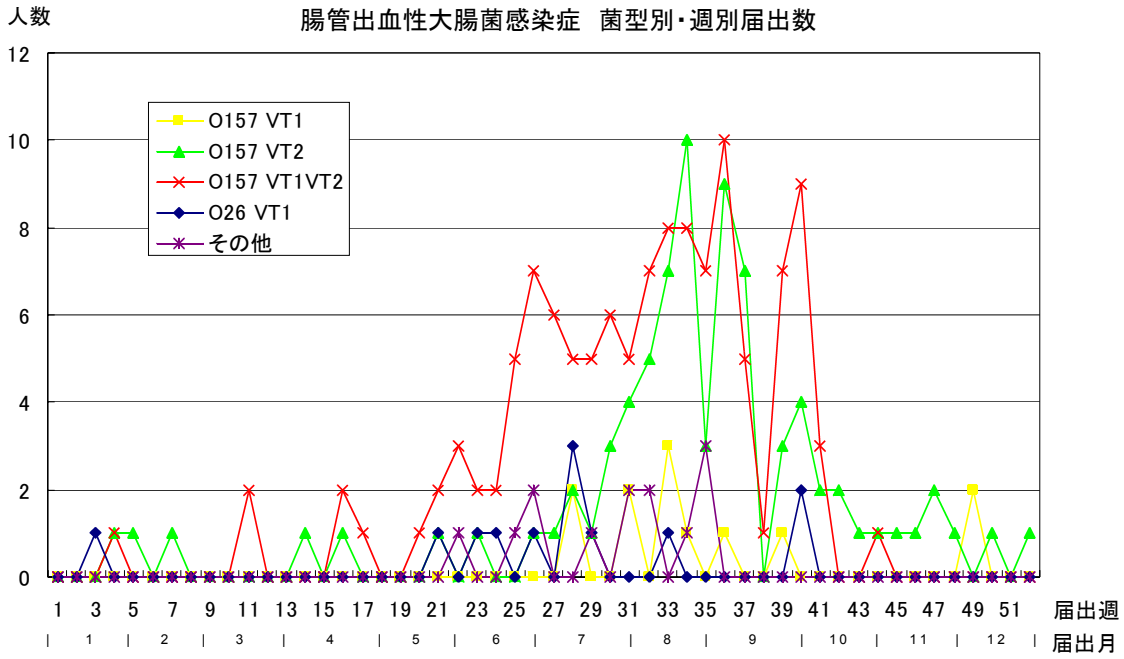




腸管出血性大腸菌感染症　菌型別構成割合



腸管出血性大腸菌感染症　菌型別・週別届出数



エ　四類感染症

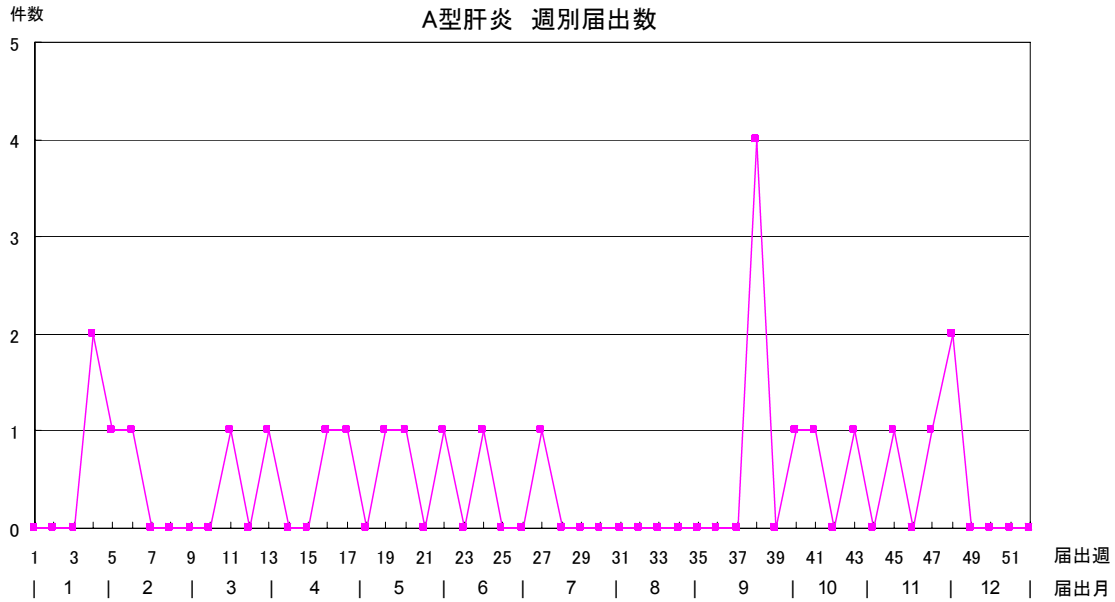
① Ｅ型肝炎

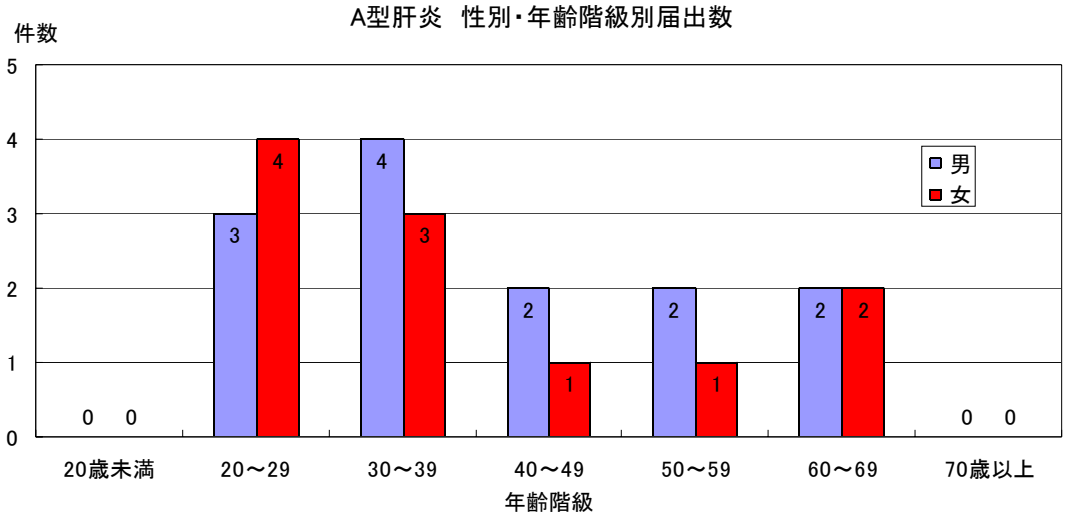
Ｅ型肝炎は 8 件届出があった。性別では男性 7 人、女性 1 人であり、年齢別では 20 歳代 2 人、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、50 歳代 3 人、60 歳以上 1 人であった。推定感染地は国内 4 件、国外 4 件である。

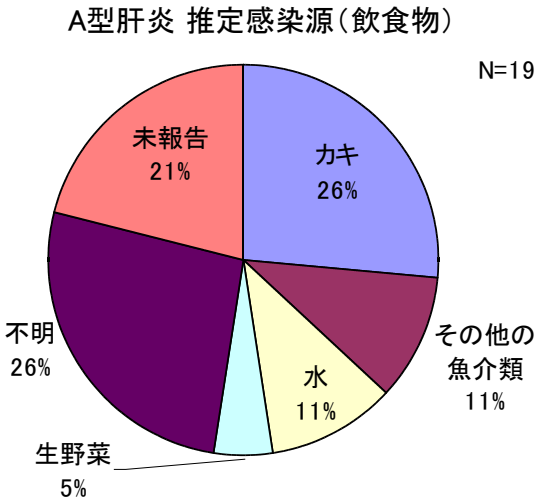
届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地域	推定感染経路	飲食物
2/1	5	女	77	肝障害	国内	不明	
3/8	10	男	56	肝障害	国内	不明	
3/8	10	男	54	肝障害	国内	不明	
3/25	12	男	43	全身倦怠感	国内	経口感染	生ブタレバー
7/8	27	男	22	黄疸、全身倦怠感	ネパール	経口感染	
8/23	34	男	34	黄疸、肝障害	ミャンマー	経口感染	
9/15	37	男	59	黄疸	中国	経口感染	
11/15	46	男	24	黄疸、全身倦怠感、下痢、発熱、上腹部痛、食欲不振	ネパール	経口感染	

② Ａ型肝炎

Ａ型肝炎は 24 件届出があった。性別では男性 13 人、女性 11 人であり、年齢別では 20 歳代 7 人、30 歳代 7 人、40 歳代 3 人、50 歳代 3 人、60 歳代 4 人であった。推定感染地は国内 12 件、国外 9 件、不明 3 件で、推定感染経路は経口感染 19 件、不明 5 件である。







③ エキノコックス症

エキノコックス症は 1 件届出があった。平成 11 年 4 月に感染症法が施行されてから都内で初めての報告である。症例は 36 歳男性で、イランでの感染が疑われている。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
8/2	31	男	36	腹痛	イラン	不明

④ オウム病

オウム病は 3 件届出があった。性別では男性 2 人、女性 1 人であり、年齢別では 40 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。

届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地	推定感染源
1/15	2	男	45	発熱	国内	インコ
1/21	3	女	44	発熱	国内	インコ
11/8	45	男	61	全身倦怠感、頭痛、発熱	国内	不明

⑤ Ｑ熱

Ｑ熱は 3 件届出があった。性別では男性 1 人、女性 2 人であり、年齢別では 10 歳代、30 歳代、70

歳代それぞれ 1 人ずつであった。

届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地	推定感染源
6/8	23	男	13	全身倦怠感、筋肉痛、関節痛	国内	猫
6/7	23	女	71	微熱、左手硬直感	国内	猫
7/11	28	女	33	全身倦怠感、発熱、筋肉痛	国内	犬

⑥ コクシジオイデス症

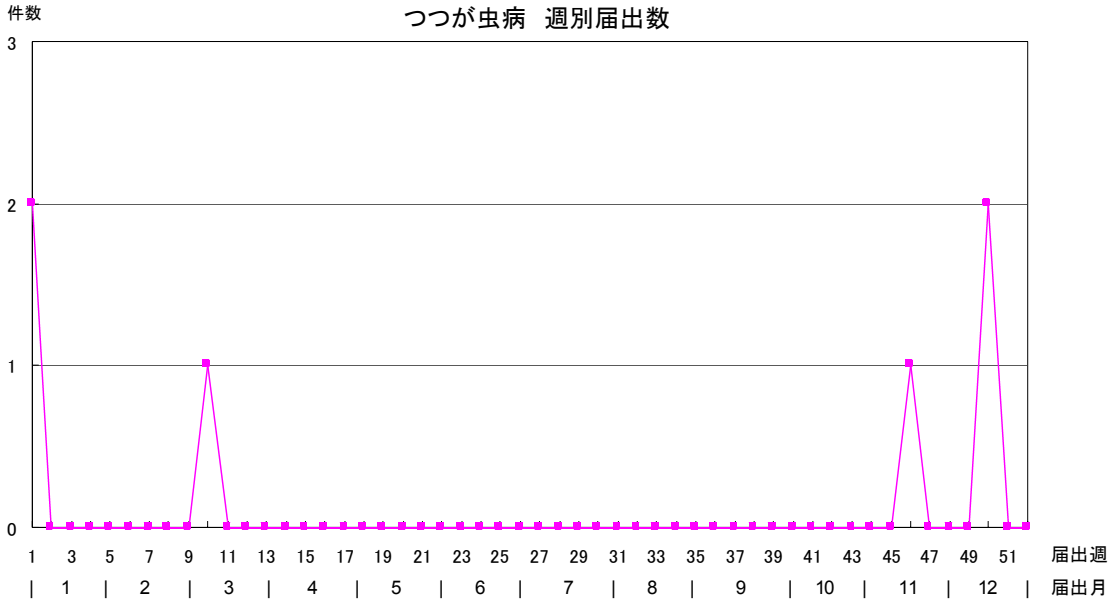
コクシジオイデス症は 1 件届出があった。65 才男性で、推定感染地はアメリカ（カルフォルニア州）である。

届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地	推定感染経路
12/16	50	男	65	熱発、左肺腫瘍	アメリカ(カルフォルニア州)	空気感染

⑦ つつが虫病

つつが虫病は 6 件届出があった。性別では男性 5 人、女 1 人であり、年齢別では 20 歳代 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 3 人、70 歳代 1 人である。

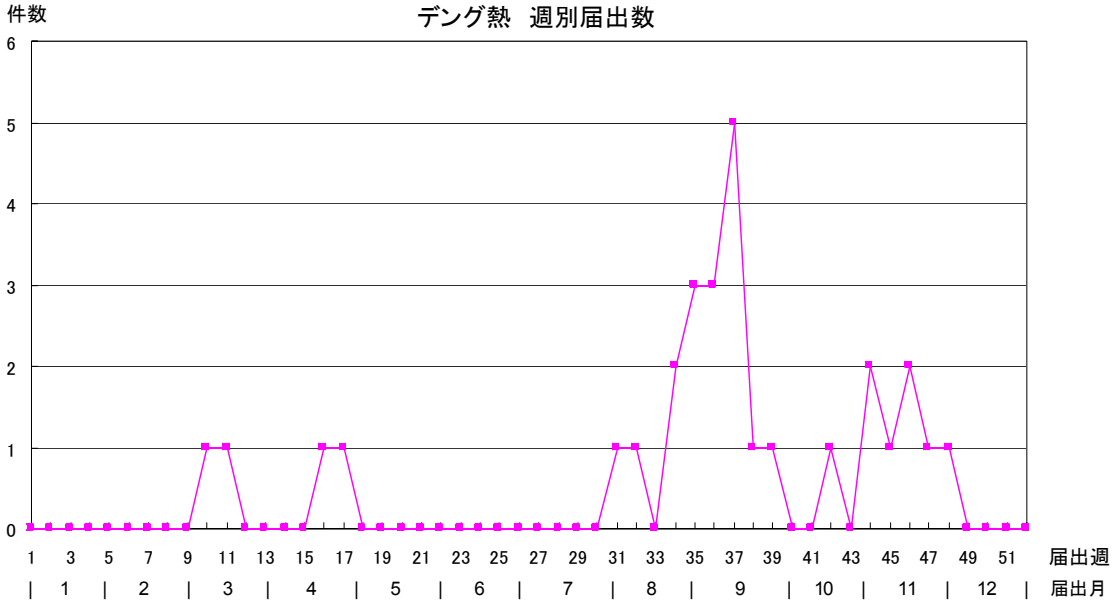
届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1/6	1	男	53	全身紅斑・発熱	国内	山
1/4	1	男	60	発熱・発疹	国内	畑
3/7	10	男	23	発疹、圧痛	国内	その他
11/15	46	女	66	発熱、発疹	国内	畑
12/12	50	男	71	発熱、発疹	国内	草刈り
12/10	50	男	61	発熱、発疹、リンパ節腫大、肝機能障害	国内	

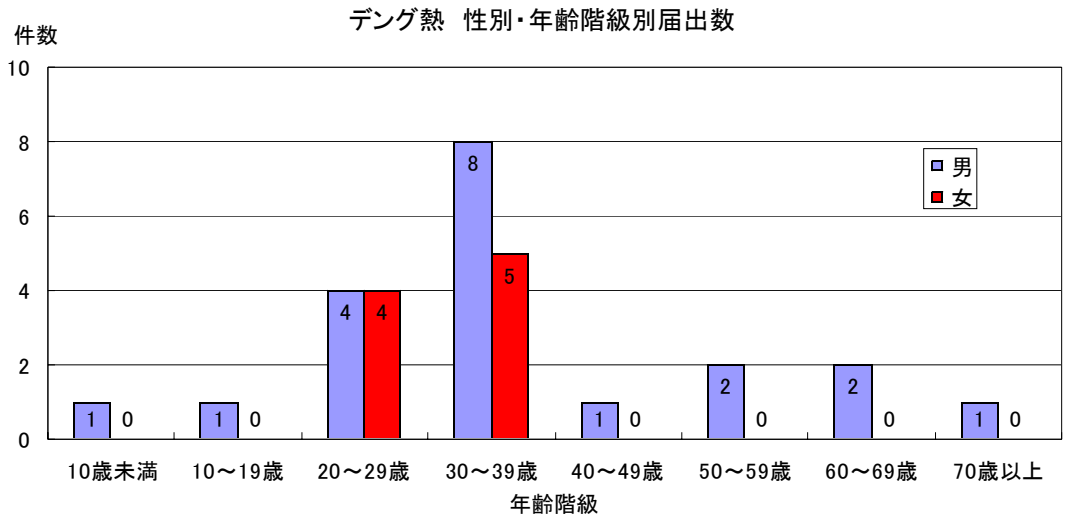


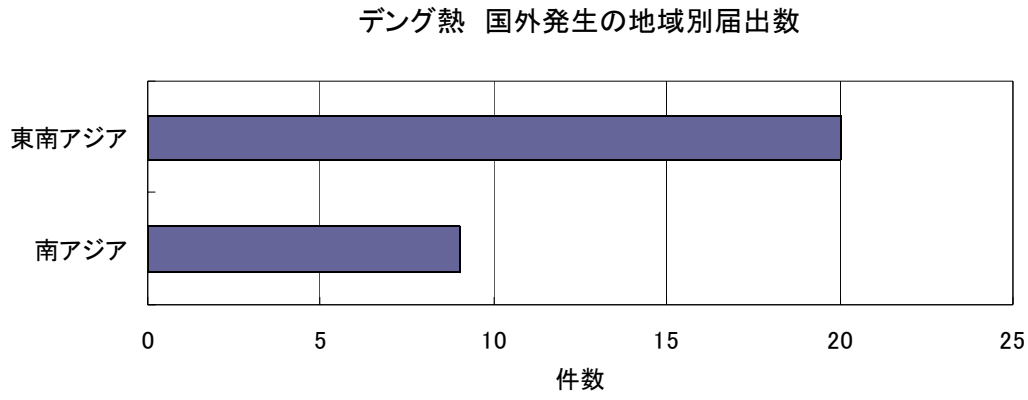
⑧ デング熱

デング熱は 29 件の届出があり、そのうち 3 件はデング出血熱であった。性別では男性 20 人、女性 9 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、20 歳代 8 人、30 歳代 13 人、40 歳代 1 人、50 歳代 2 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 1 人であった。

いずれも国外での感染が推定されており、国別ではインドネシア 5 件、フィリピン 4 件、ミャンマー 4 件、インド 3 件、スリランカ 3 件、タイ 2 件、シンガポール 2 件、バングラデシュ 2 件、その他 4 件であった。







＜デング出血熱＞

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地域
9/8	37	男	34	発熱、粘膜出血	モルジブ
9/12	37	男	53	発熱、歯肉出血、多臓器不全	スリランカ
11/24	48	男	69	発熱、出血傾向	インドネシア（バリ島）

⑨ ブルセラ症

ブルセラ症は 1 件届出があった。35 歳女性で、シリア・ヨルダンでの感染が疑われている。

届出日	週	性別	年齢	症　状	推定感染地	推定感染経路
7/29	31	女	35	発熱、関節痛	シリア･ヨルダン	不明

⑩ ボツリヌス症

ボツリヌス症は 1 件届出があった。平成 11 年 4 月に感染症法が施行されてから都内で初めての報告である。9 ヶ月の男児で、蜂蜜、ハウスダストが感染源として疑われている。

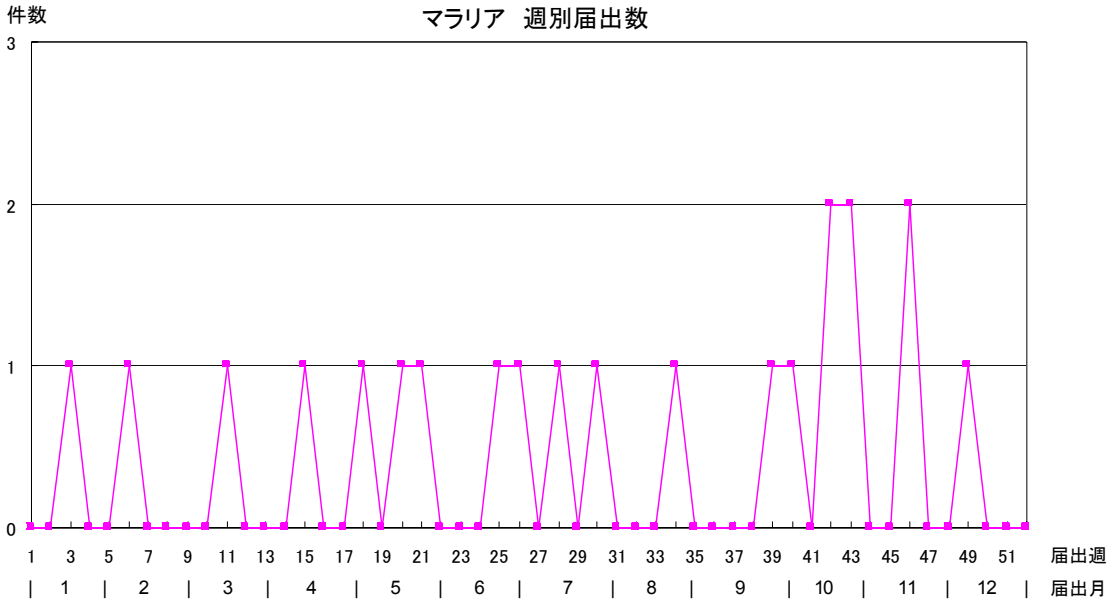
届出日	週	性別	年齢	毒素	症　状	推定感染地	推定感染源
2/8	6	男	0	E型	四肢脱力、眼瞼下垂、対光皮射の消失、呼吸障害	国内	蜂蜜、ハウスダスト

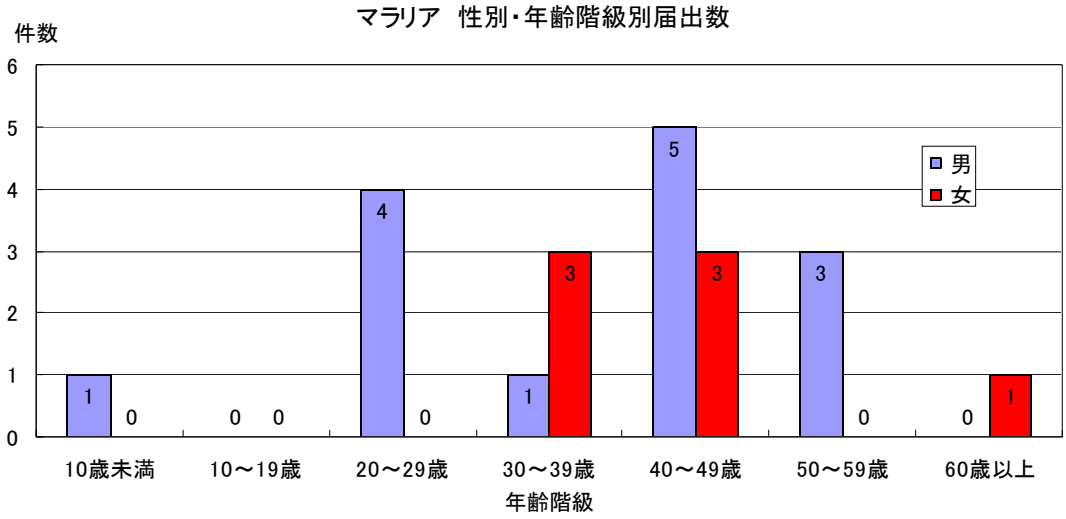
⑪ マラリア

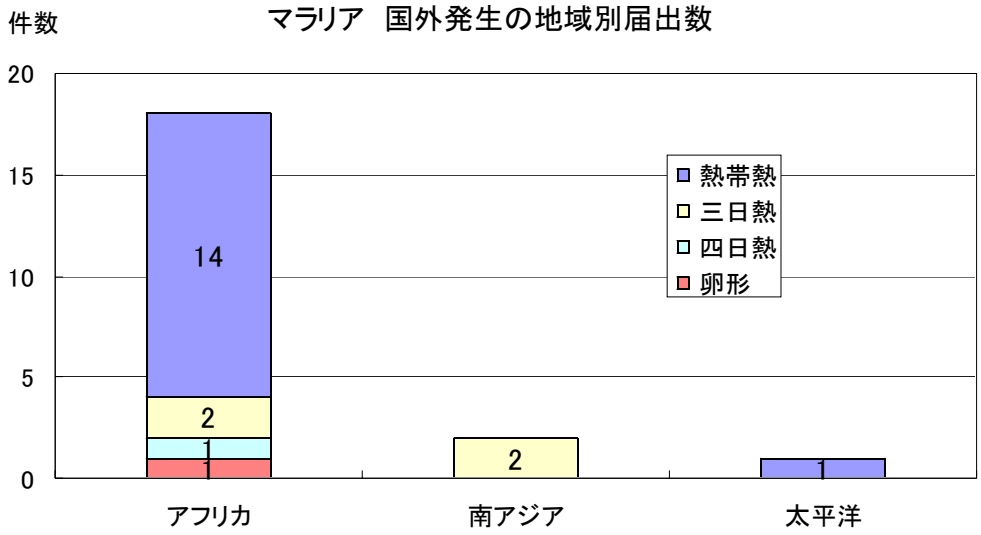
マラリアは 21 件の届出があった。性別では男性 14 人、女性 7 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、20 歳代 4 人、30 歳代 4 人、40 歳代 8 人、50 歳代 3 人、60 歳以上 1 人であった。

病原体別では、三日熱マラリア 4 件、四日熱マラリア 1 件、卵形マラリア 1 件、熱帯熱マラリア 15 件であった。

推定感染地域はいずれも国外で、内訳はガーナ 5 件、ナイジェリア 3 件、インド 2 件、その他 11 件である。







⑫ ライム病

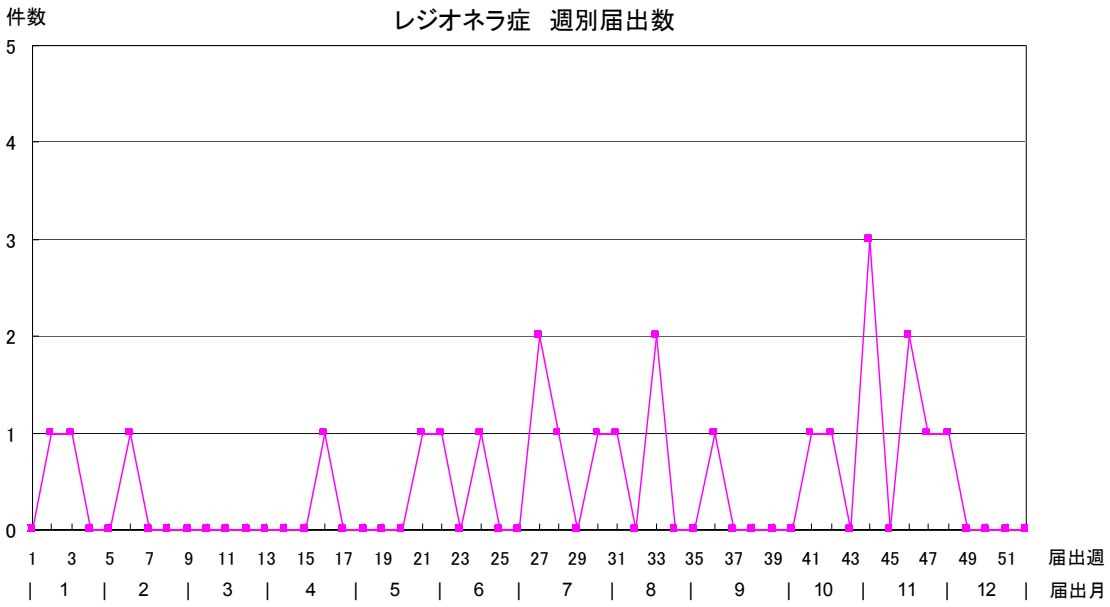
ライム病は 4 件届出があった。性別では男性 2 人、女性 2 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、30 歳代 2 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地は国内 3 件、国外 1 件である。

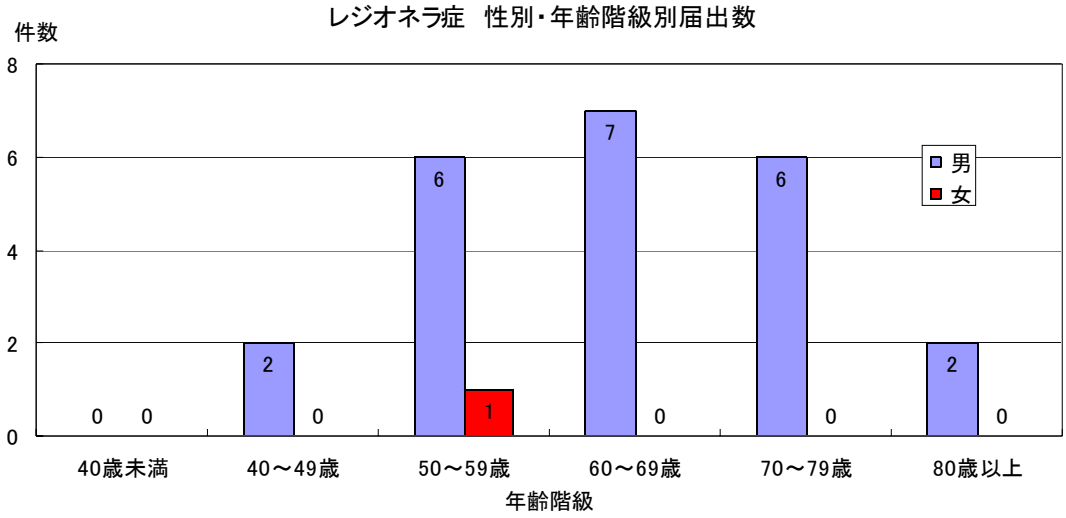
届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地
7/21	29	男	78	発熱、関節痛、下痢	カンボジア
8/1	31	男	39	全身倦怠感	栃木県
8/1	31	女	37	全身倦怠感	三重県
9/8	36	女	4		国内

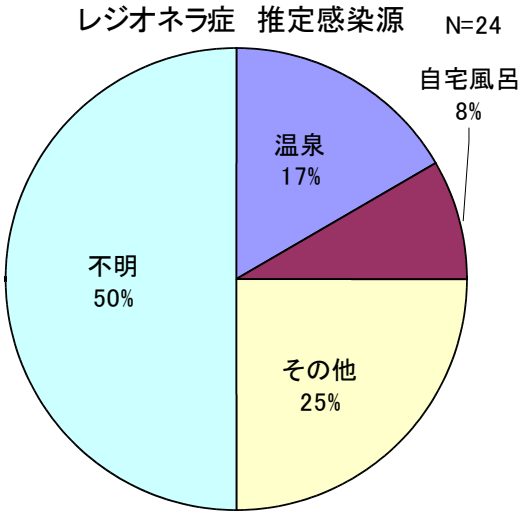
⑬ レジオネラ症

レジオネラ症は 24 件の届出があった。性別では男性 23 人、女性 1 人であり、年齢別では 40 歳代 2 人、50 歳代 7 人、60 歳代 7 人、70 歳代 6 人、80 歳以上 2 人である。推定感染地は国内 21 件、国外 2 件、不明 1 件である。

温泉または入浴での感染が推定されているものが 6 件あった。







⑭ レプトスピラ症

レプトスピラ症は 3 件届出があった。性別は男性 1 人、女性 2 人であり、年齢別では 40 歳代、50

歳代、60 歳代それぞれ 1 人ずつであった。推定感染地は国内 2 件、国外 1 件である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染源
2/14	7	女	41	発熱、頭痛、眼球結膜充血、皮疹	マレーシア	その他
11/15	46	女	53	発熱、黄疸、紫斑、眼球結膜充血	国内	ネズミ
11/14	46	男	65	黄疸、腎不全、白血球増多、炎症反応高値	国内	ネズミ

⑮ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、回帰熱、狂犬病、高病原性鳥インフルエンザ、サル痘、腎症候性出血熱、炭疽、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、発しんチフス、野兎病、リッサウイルス感染症

オ　五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は 183 件の届出があった。

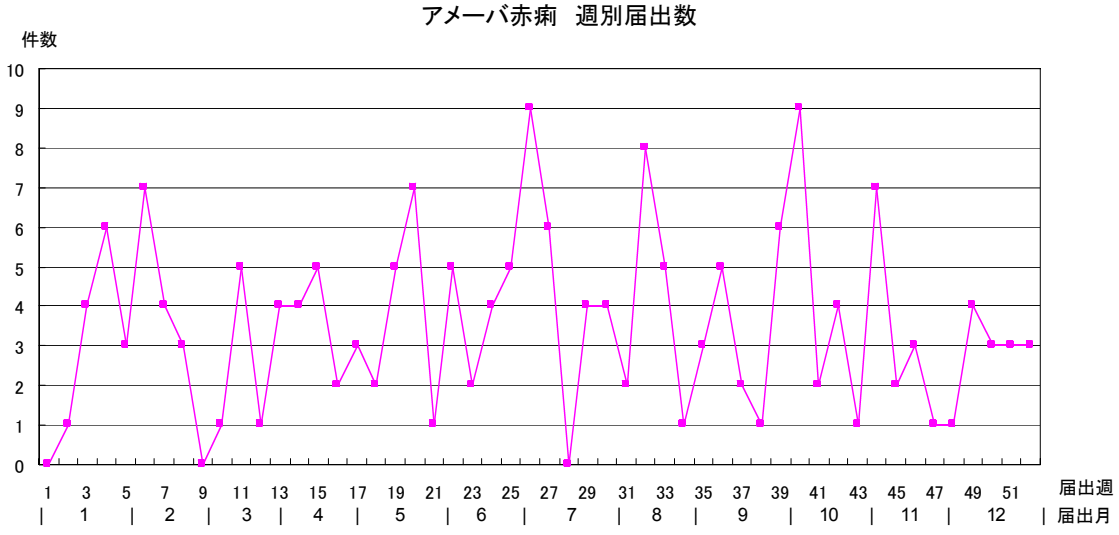
性別では男性 151 人、女性 32 人であり、年齢別では 10 歳代 1 人、20 歳代 16 人、30 歳代 53 人、40 歳代 50 人、50 歳代 45 人、60 歳代 14 人、70 歳以上 4 人である。推定感染地は国内 127 件、国外 31 人、不明 25 件であった。

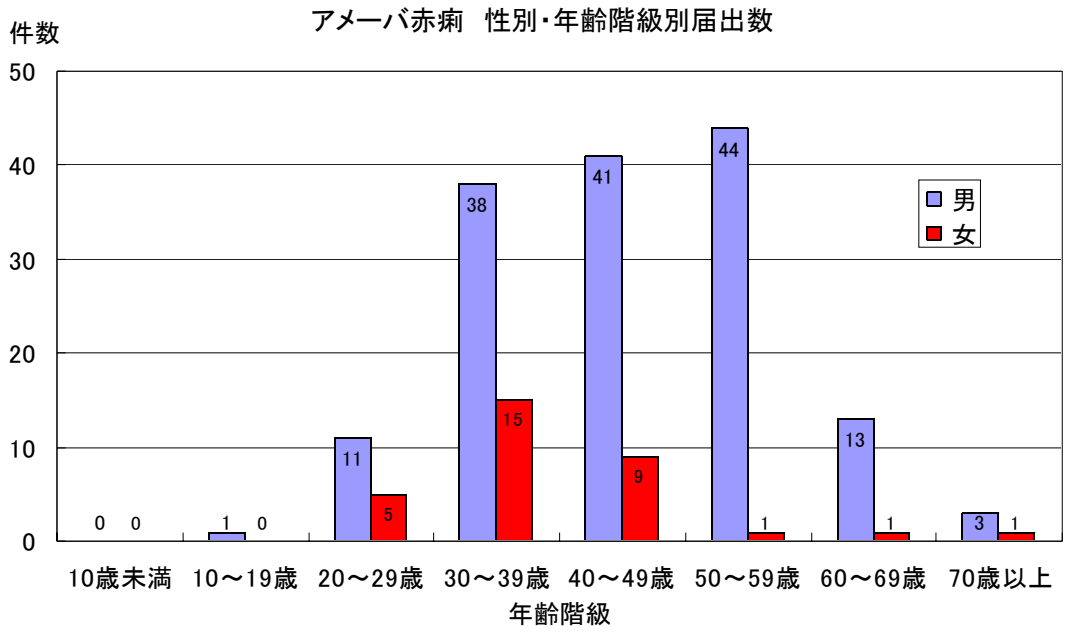
推定感染経路別では、経口感染 32 件、異性間性的接触 24 件、同性間性的接触 18 件、両性間性的接触 2 件、媒介動物等からの感染 1 件、その他 2 件、2 経路以上による感染 4 件、不明 100 件である。

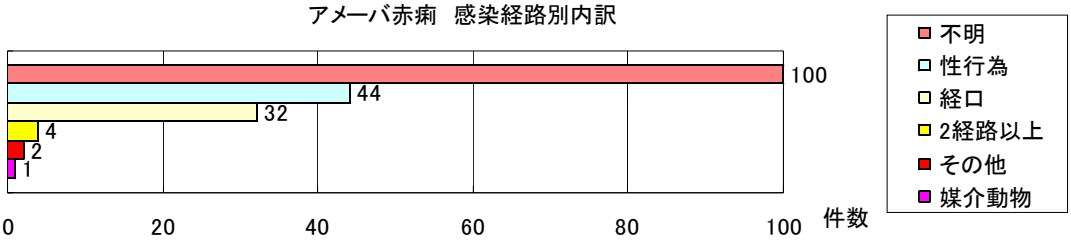
国内発生の推定感染経路別では、経口感染 8 件、性行為感染 40 件、媒介動物等からの感染 1 件、その他 2 件、2 経路以上による感染 2 件、不明 74 件であった。

国外発生で感染地が推定されるものはタイ 6 件、中国 5 件、インドネシア 4 件、フィリピン 3 件、マレーシア 2 件、カンボジア 1 件、ミャンマー 1 件、インド 1 件、ネパール 1 件、パキスタン 1 件、スリランカ 1 件、トルコ 1 件、フランス 1 件、ウガンダ 1 件、2 カ国以上の地域 2 件であり、そのうち、経口感染 21 件、性行為感染 1 件、2 経路以上による感染 2 件、不明 7 件が感染経路として推定されている。

感染地不明の 25 件では、推定感染経路は経口感染 3 件、性行為感染 3 件、不明 19 件であった。







② 急性ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）

急性ウイルス性肝炎は 36 件届出があった。

性別では、男性 30 人、女性 6 人であり、年齢別では 10 歳未満 20 歳代 18 人、30 歳 10 人、40 歳代 5 人、50 歳代 1 人、60 歳代 1 人、70 歳以上 1 人であった。病原体別では、B 型 32 件、C 型 2 件、その他 2 件が届出された。

B 型肝炎の推定感染地は、国内 30 件、アメリカ 1 件、不明 1 件であった。推定される感染経路は、異性間性的接触 20 件、同性間性的接触 5 件、その他 2 件、不明 5 件であった。

C 型肝炎 2 件の推定感染地は、どちらも国内で、推定される感染経路はその他（入墨）1 件、不明 1 件であった。

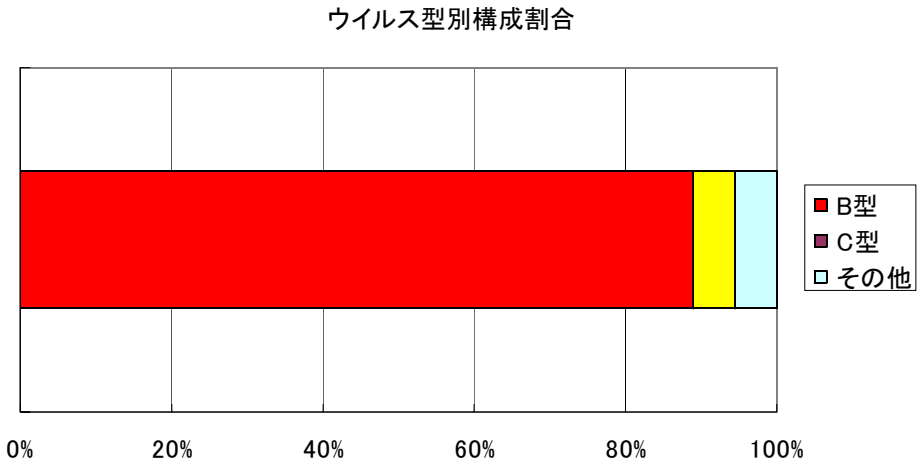
その他 2 件の推定感染地は、どちらも国内で、サイトメガロウイルスによるものが疑われた。

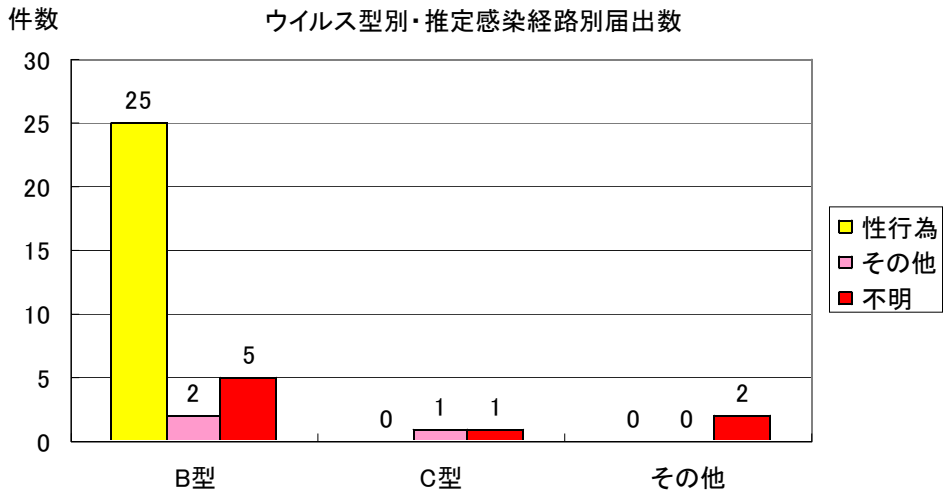
ウイルス型別・性別構成

	男性	女性	総計
B型	28	4	32
C型	1	1	2
その他	1	1	2
計	30	6	36

ウイルス型別・年齢階級別構成

	B型	C型	その他	総計
10歳未満	0	0	0	0
10～19	0	0	0	0
20～29	15	1	2	18
30～39	10	0	0	10
40～49	5	0	0	5
50～59	1	0	0	1
60～69	1	0	0	1
70歳以上	0	1	0	1
計	32	2	2	36

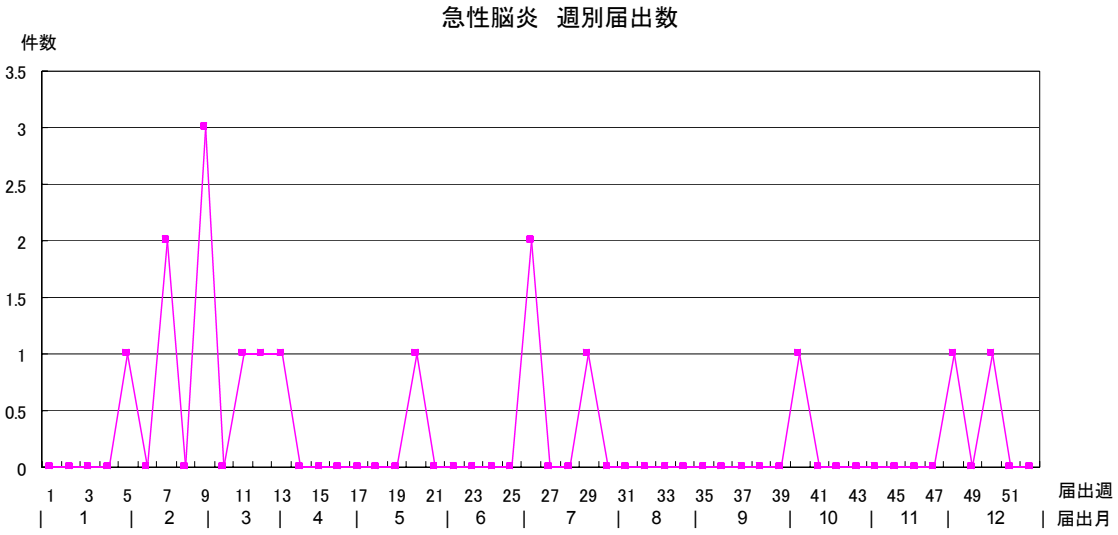


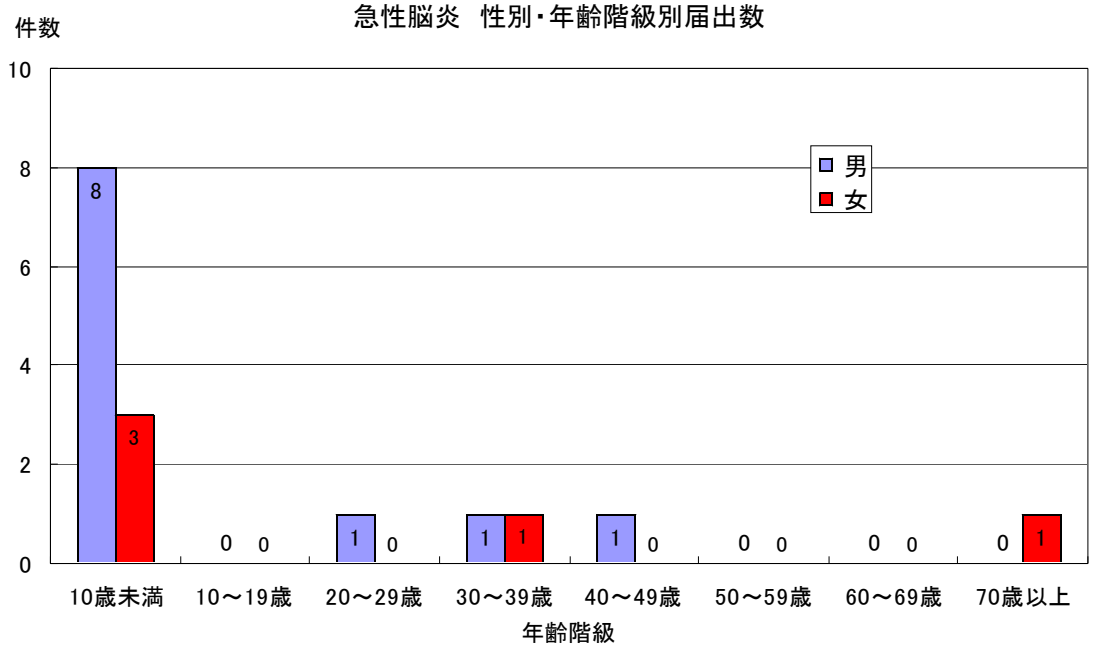


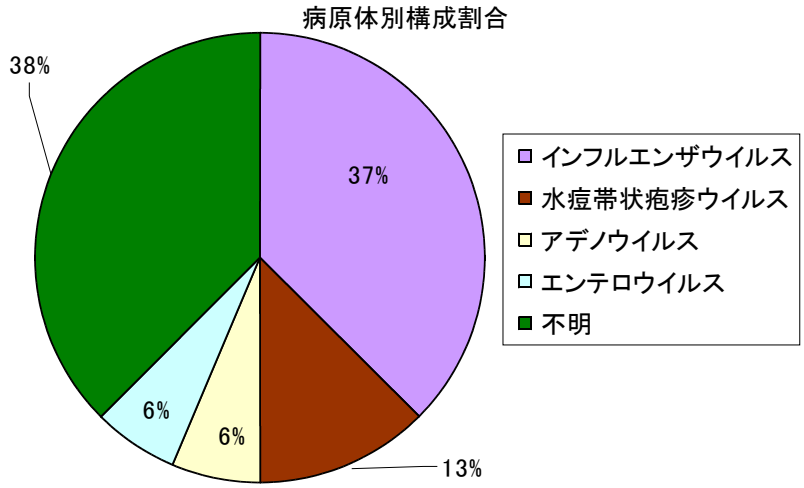
③ 急性脳炎

急性脳炎は 16 件届出があった。性別では男性が 11 名、女性が 5 名で、年齢別では 10 歳未満 11 人、20 歳代 1 人、30 歳代 2 人、40 歳代 1 人、70 歳以上 1 人であった。病原体別では、インフルエンザウイルス 6 件、水痘帯状疱疹ウイルス 2 件、アデノウイルス 1 件、エンテロウイルス 1 件、不明 6 件が届出された。

推定感染地は国内 15 件、不明 1 件であった。推定感染経路別では、その他 5 件、不明 11 件である。


急性脳炎　週別届出数
件数
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51
届出週
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
届出月


急性脳炎　性別・年齢階級別届出数
件数
10
8
6
4
2
0
男
女
8
3
0 0
1 0
1 1
1 0
0 0
0 0
0 1
10歳未満
10～19歳
20～29歳
30～39歳
40～49歳
50～59歳
60～69歳
70歳以上
年齢階級


病原体別構成割合
38%
37%
13%
6%
6%
インフルエンザウイルス
水痘帯状疱疹ウイルス
アデノウイルス
エンテロウイルス
不明

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は 1 件の届出があった。22 歳男性で、推定感染地はインドである。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
3/11	10	男	22	下痢	インド	経口感染

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は 15 件届出があった。

性別では男性が 9 名、女性が 6 名で、年齢別では 50 歳代 2 人、60 歳代 4 人、70 歳以上 9 人であった。

すべて孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病で、ほぼ確実のものが 13 件、疑いが 2 件であった。

プリオンたん白遺伝子検査（コドン多型・異常）による診断がなされている届出は 3 件であった。

コドン 129 の多型（M/M）のみ認められた症例が 2 件、コドン 129 の多型（M/M）とコドン 219 の多型（E/E）の両方が認められた症例が 1 件あった。

推定感染地は国内が 7 件、不明が 8 件である。推定感染経路についてはその他が 2 件、不明が 13 件届出された。

症状に関しては進行性痴呆 15 件、記憶障害 12 件、精神・知能障害 10 件、臨床的に頑固な不眠 1 件、視覚異常 3 件、錐体路症状 6 件、錐体外路症状 8 件、筋強剛 8 件、小脳症状 3 件、ミオクローヌス 12 件、無動性無言状態 8 件、脳波検査で周期性同期生放電（PSD）13 件、その他（MRI 異常）1 件であった。

届出日	週	性別	年齢	病型		推定感染地	推定感染経路
1/25	4	男	57	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
2/16	7	男	69	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
2/24	8	男	72	孤発性	疑い	不明	不明
2/28	9	男	72	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
3/14	11	女	70	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
3/23	12	男	61	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
3/29	13	男	77	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
5/18	20	女	76	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
6/17	24	女	74	孤発性	ほぼ確実	国内	その他
6/30	26	男	74	孤発性	疑い	不明	不明
7/28	30	男	53	孤発性	ほぼ確実	国内	不明
9/28	39	女	73	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
9/28	39	男	66	孤発性	ほぼ確実	不明	不明
9/21	38	女	70	孤発性	ほぼ確実	国内	その他
11/15	46	女	62	孤発性	ほぼ確実	不明	不明

クロイツフェルト・ヤコブ病　別表

発病日	初診日	診断日	進行性痴呆	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	視覚異常	錯感覚・異常感覚	錐体路症状	痙性対麻痺	錐体外路症状	筋強剛	小脳症状	ミオクローヌス	無動性無言状態	PSD	その他
	2005/1/19	2005/1/20	+	+	+									+	+	+	
2005/1/25	2005/1/21	2005/2/12	+	+	+	+			+		+	+		+		+	
2005/2/4	2005/2/16	2005/2/24	+	+	+				+					+			MRI異常
	2005/1/19	2005/2/16	+	+			+				+	+		+	+	+	
	2005/2/12	2005/3/11	+	+	+							+		+	+	+	
	2005/2/23	2005/3/22	+		+				+					+	+	+	
	2005/3/8	2005/3/28	+	+	+						+		+		+	+	
	2005/5/9	2005/5/9	+	+					+		+	+			+	+	
2004/9/30	2004/10/13	2005/5/20	+	+	+						+	+		+	+	+	
	2005/5/6	2005/5/6	+										+	+			
	2005/7/9	2005/7/21	+	+	+						+			+		+	
	2005/9/8	2005/9/16	+	+	+				+		+		+	+	+	+	
	2005/9/20	2005/9/22	+	+	+						+	+		+		+	
	2005/8/17	2005/9/9	+	+			+		+			+				+	
	2005/9/14	2005/11/11	+				+					+		+		+	
合計			15	12	10	1	3	0	6	0	8	8	3	12	8	13	

⑥ 劇症型溶血性連鎖球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 7 件届出があった。性別では男性 5 人、女性 2 人、年齢別では 30 歳代 1 人、40 歳代 1 人、50 歳代 2 人、60 歳代 2 人、70 歳以上 1 人である。全て国内発生であり、4 人の死亡が確認されている。

届出日	週	性別	年齢	群	症状	発病日	死亡日	推定感染源
1/11	2	男	46	A群	右大腿部の腫張、皮膚下部の壊死、プレショック状態、肝・腎機能障害	2004/12/30		右大腿部皮膚炎病巣より感染
2/14	7	女	36		敗血症性ショック、播種性血管内凝固症候群、胎児死亡、発熱、肝不全、腎不全、成人型呼吸窮迫症	2005/1/28	2/4	不明
11/4	44	男	57	A群	前ショック状態、肺、肝、腎臓の障害、右足背皮膚壊死、播種性血管内凝固症候群	2005/10/10		不明
11/9	45	男	85		多臓器不全、敗血性ショック	2005/11/8	11/9	創感染
11/16	46	女	52	A群	腹痛	2005/11/2		不明
11/30	48	男	61	A群	低血圧、腎障害、血液凝固障害、肝機能障害、皮膚軟部組織の壊死	2005/11/17	11/22	不明
12/1	48	男	67		発熱、ショック、肝不全、腎不全、呼吸不全(ARDS)	2005/11/25	12/1	不明

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群の届出は、感染者 322 人、患者 95 人、合計 417 人であった。そのうち日本人男性が占める割合は感染者の 89.1 %、患者の 83.2 %であった。

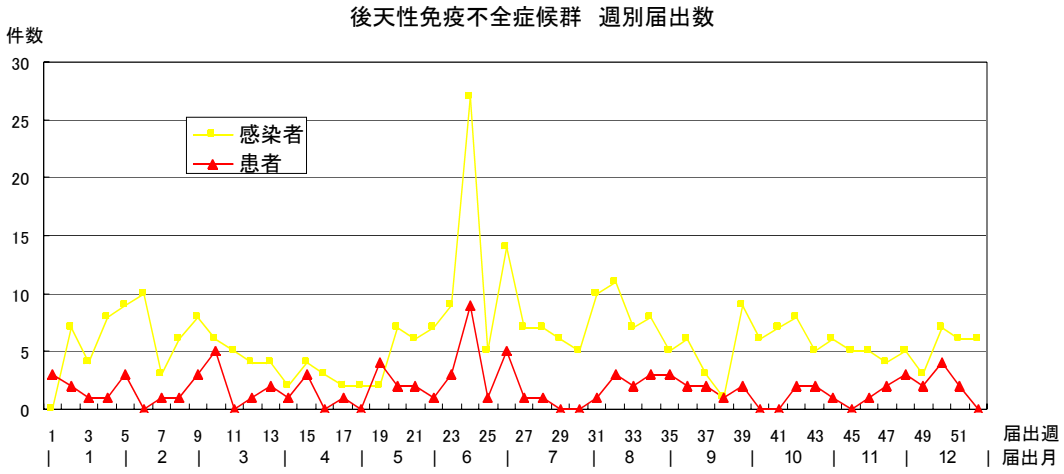
推定感染経路は、性的接触によるものが感染者で 92.5 %、患者で 85.3 %を占め、特に感染者のうち男性同性間性的接触による感染は 70.5 %であった。また感染者で母子感染例が 1 件届出られ

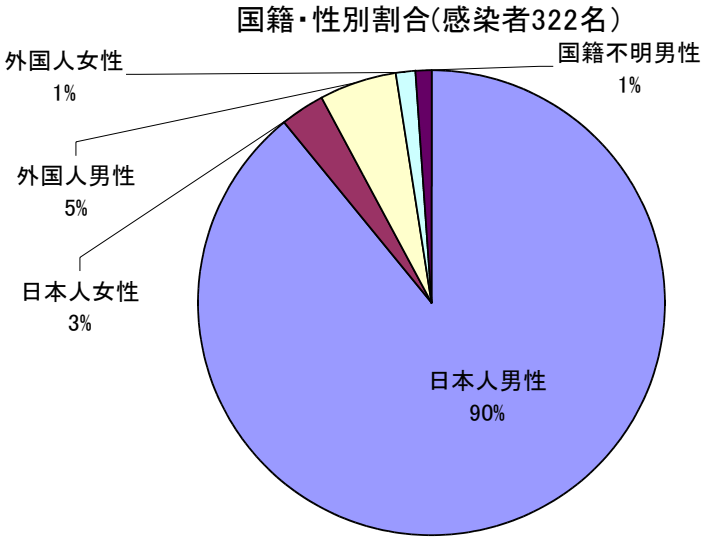
た。

推定感染地が国内である割合は感染者で 87.0 %、患者で 75.8 %であった。

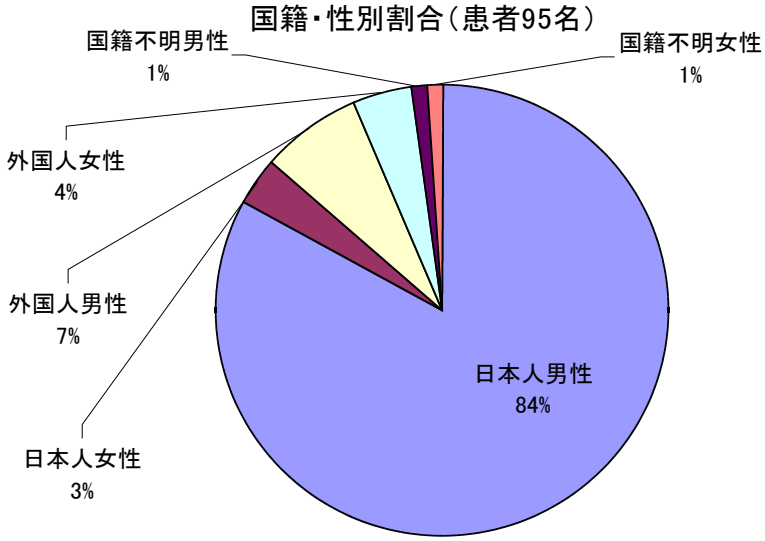
性別では感染者で男性 308 人、女性 14 人、患者で男性 87 人、女性 8 人であった。年齢別では、感染者は 10 歳代 6 人、20 歳代 105 人、30 歳代 126 人、40 歳代 47 人、50 歳代 27 人、60 歳代 9 人、70 歳代 2 人で、患者は 20 歳代 10 人、30 歳代 44 人、40 歳代 17 人、50 歳代 16 人、60 歳代 8 人であった。

	日本人男性	外国人男性	国籍不明男性	日本人女性	外国人女性	国籍不明女性	合計
感染者	287	17	4	10	4	0	322
患者	79	7	1	3	4	1	95
合計	366	24	5	13	8	1	417

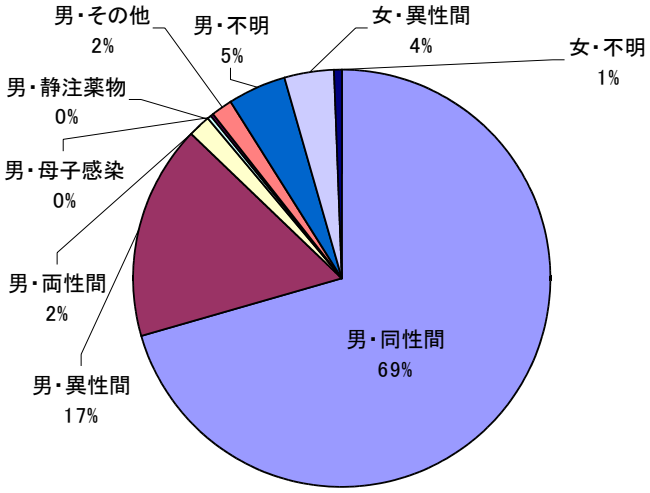




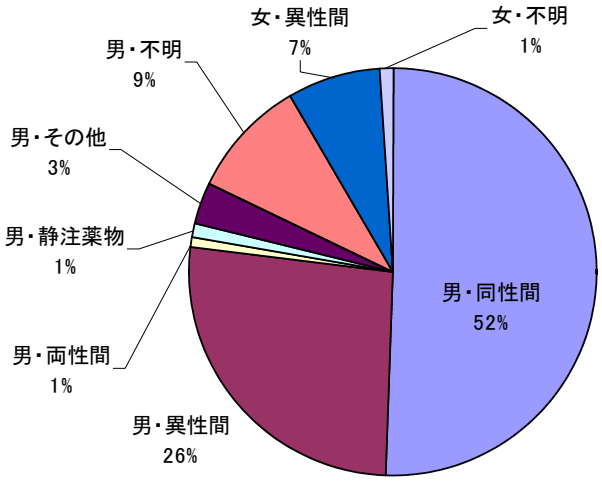
国籍・性別割合（患者95名）



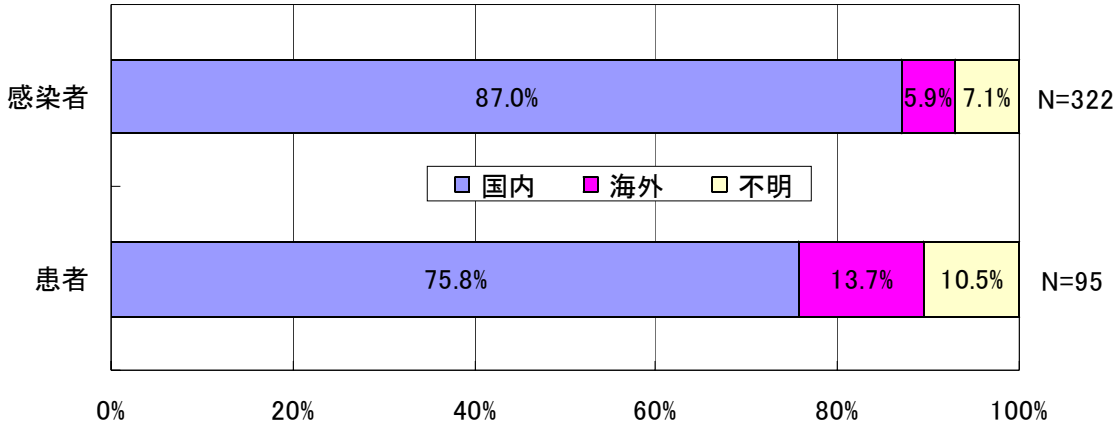
推定感染経路別構成割合（感染者322名）



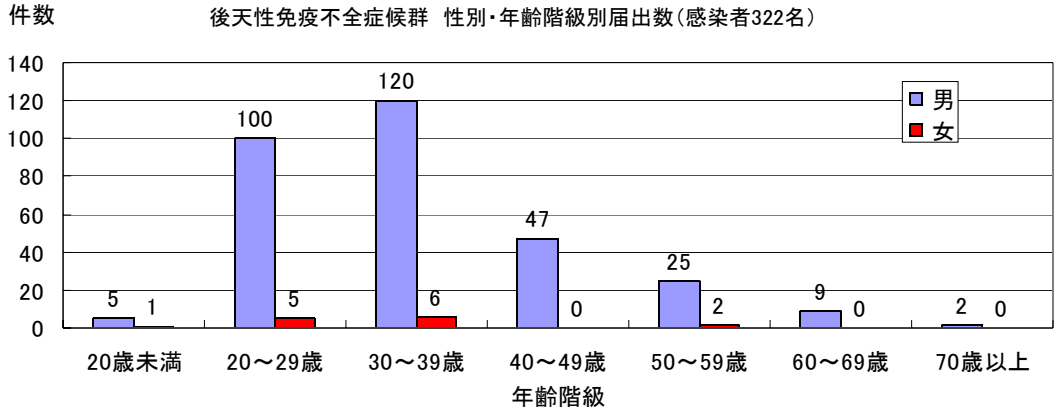
推定感染経路別構成割合（患者95名）



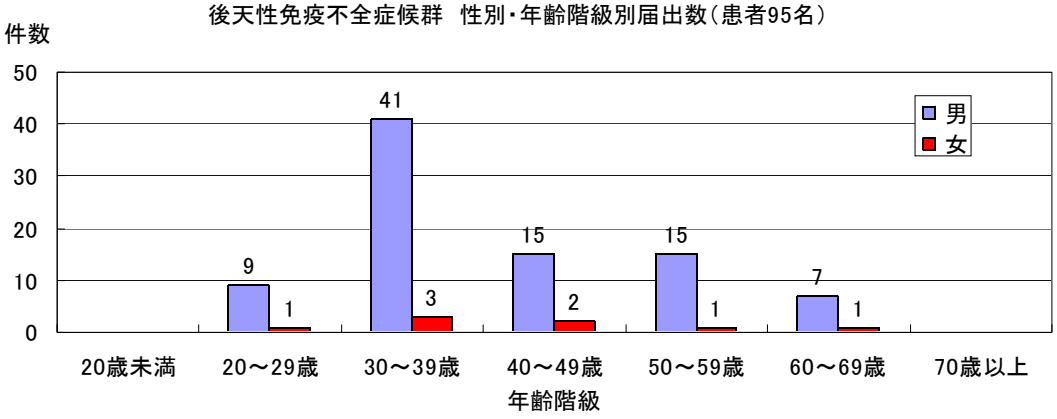
後天性免疫不全症候群　推定感染地域別構成割合



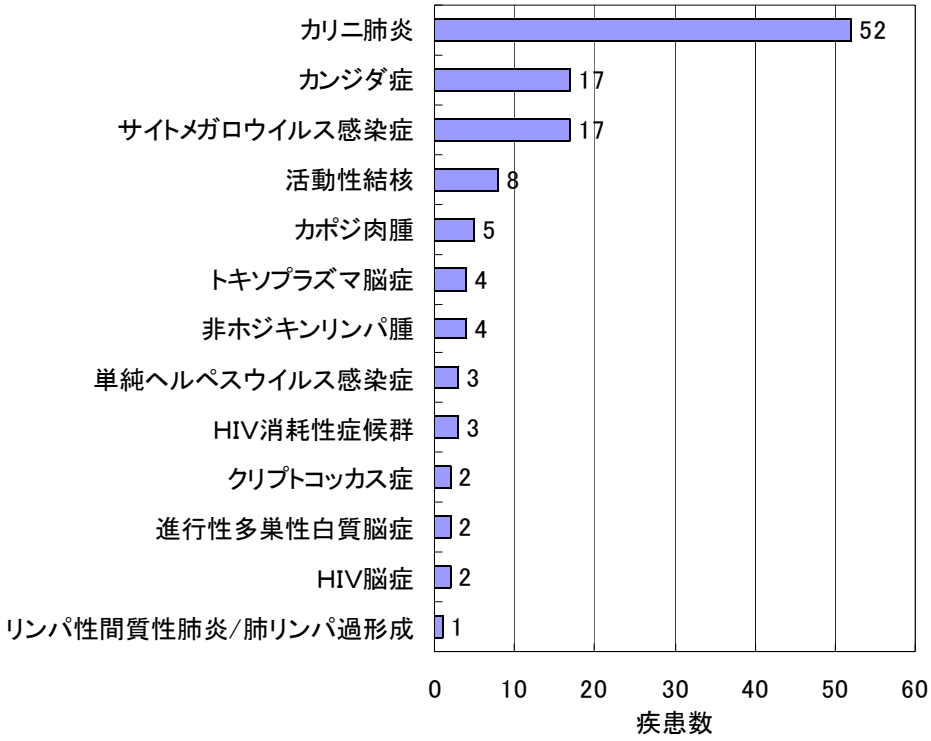
後天性免疫不全症候群　性別・年齢階級別届出数（感染者322名）



後天性免疫不全症候群　性別・年齢階級別届出数（患者95名）



後天性免疫不全症候群　AIDS指標疾患内訳（重複有）



⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は 13 件届出があった。性別では男性 9 人、女性 4 人である。

年齢別では、10 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、20 歳代 5 人、30 歳代 2 人、40 歳代 4 人である。

推定感染地域は国内が 5 件、国外が 8 件である。感染経路は経口感染 7 件、その他 3 件、不明 3 件が推定されている。

国外発生の国別では、インド 3 件、以下カンボシア、バングラデシュ、アフガニスタン、ヨルダン、スペインが 1 件ずつ届出されている。

届出日	週	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路	飲食物
3/4	9	男	43	アフガニスタン	経口感染	飲み水
4/22	16	女	25	バングラデッシュ	経口感染	
5/12	19	女	22	インド	経口感染	飲み水
5/17	20	女	35	インド゛	経口感染	
6/6	23	男	40	国内	不明	
6/14	24	男	1	国内	メキシコ帰りの叔父	
6/21	25	女	25	ヨルダン	不明	
7/7	27	男	11	国内	メキシコ帰りの叔父	
9/28	39	男	25	インド	経口感染	
11/7	45	男	26	国内	不明	
11/14	46	男	34	国内	水系感染	
11/17	46	男	41	カンボジア	経口感染	
12/5	49	男	41	スペイン	経口感染	飲み水

⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

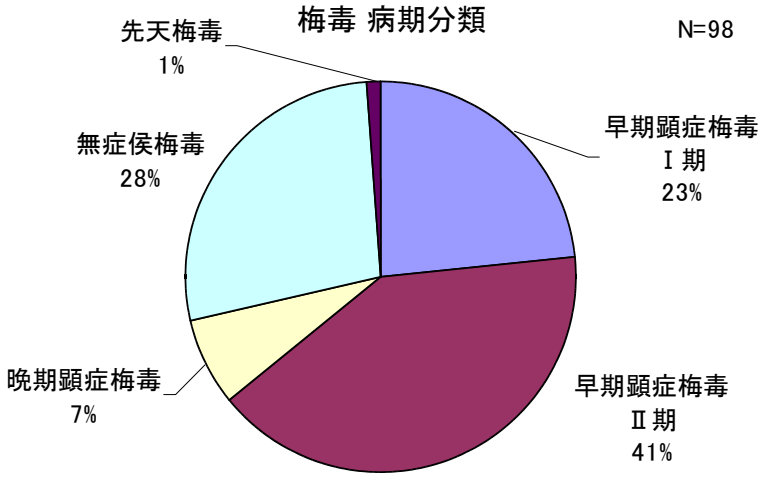
髄膜炎菌性髄膜炎は 3 件届出があった。全員女性で、年齢別では 10 歳未満 1 人、10 歳代 1 人、60 歳代 1 人である。推定感染地域は国内 2 件、不明 1 件であった。2 件で血清群が判明しており、どちらも B 群であった。

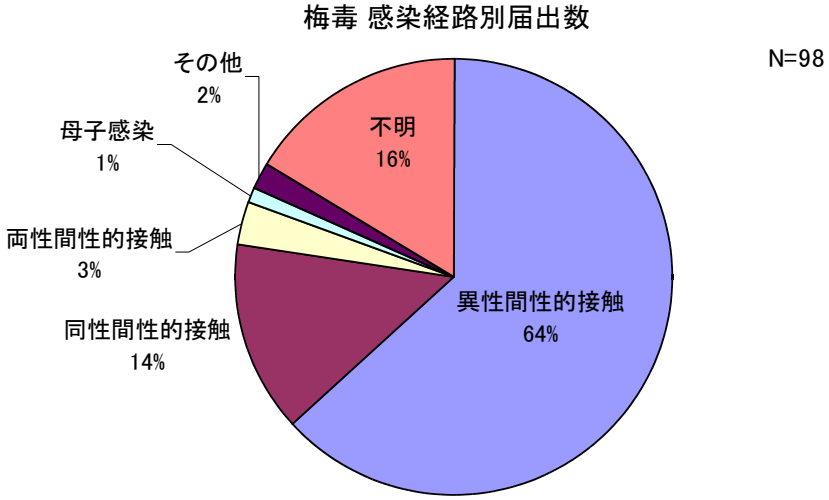
届出日	週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染地	推定感染経路
1/27	4	女	60		失語、右上下肢不全片麻痺	国内	不明
6/6	23	女	0	B群	呼吸不全、心不全、痙攣、敗血症、播種性血管内凝固症候群	不明	不明
7/19	29	女	16	B群	発熱、意識障害	国内	不明

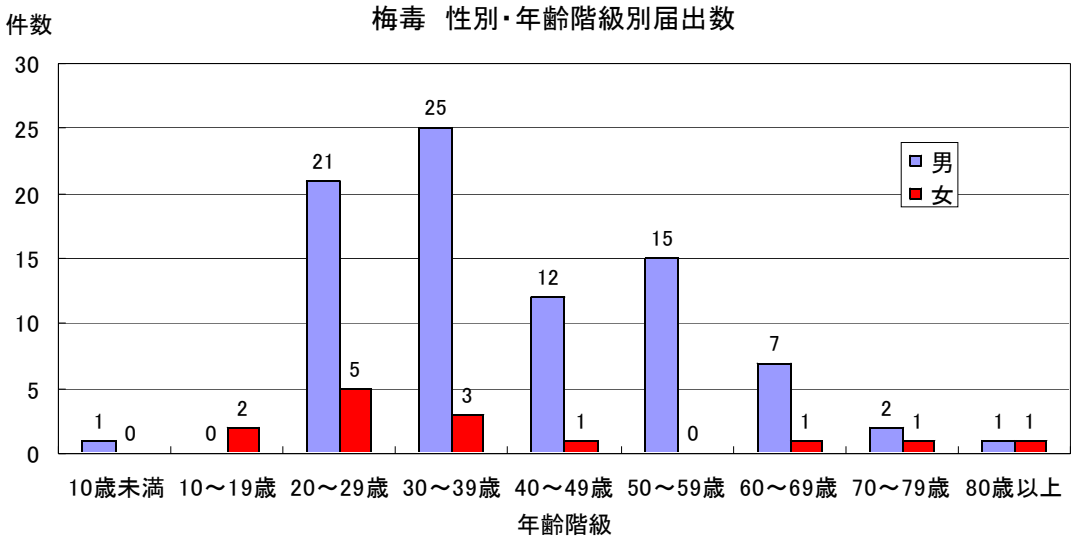
⑩ 梅毒

梅毒は 98 件届出があった。早期顕症梅毒 63 件（うち Ⅰ 期 23 件、Ⅱ 期 40 件）、晩期顕症梅毒 7 件、無症候梅毒 27 件、先天梅毒 1 件であった。性別では男性 84 人、女性 14 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、10 歳代 2 人、20 歳代 26 人、30 歳代 28 人、40 歳代 13 人、50 歳代 15 人、60 歳代 8 人、70 歳代 3 人、80 歳以上 2 人である。

推定感染地域は国内 89 件、不明 9 件である。感染経路は異性間性的接触 62 件、同性間性的接触 14 件、両性間性的接触 3 件、母子感染 1 件、その他 2 件、不明 16 件が推定されている。







⑪ 破傷風

破傷風は 2 件届出があった。性別は男性 1 人、女性 1 人、年齢別では 60 歳代 1 人、70 歳代 1 人である。診断方法はどちらも臨床決定であった。

届出日	週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染地	推定感染経路
5/6	18	女	73	臨床決定	開口障害、四肢硬直、呼吸抑制、血圧変動	国内	自宅庭の土壌
11/28	48	男	64	臨床決定	開口障害	国内	

⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 13 件の届出があった。性別では、男性 9 人、女性 4 人、年齢別では 50 歳代 3 人、60 歳代 1 人、70 歳代 6 人、80 歳以上 3 人である。遺伝子型の内訳は vanA 1 件、vanC 1 件、vanC1 3 件、vanC2/3 1 件であった。

届出日	週	性別	年齢	遺伝子型	症状	推定感染地	推定感染経路
1/26	4	男	71		胆管炎	国内	胆管からの感染
1/24	4	女	76		胆嚢炎	国内	
2/1	5	男	58		敗血症	国内	不明
2/15	7	男	80		発熱	不明	不明
4/11	15	女	71		発熱	国内	不明
5/24	21	男	78	vanC1	発熱、血圧低下、呼吸不全	不明	不明
5/29	21	女	91	vanC1	発熱、腰痛、血圧低下、酸素飽和度低下、ショック状態	国内	不明
7/8	27	女	73	vanA	発熱、膀胱炎	不明	不明
8/23	34	男	95		蜂窩織炎	国内	不明
9/5	36	男	57		発熱	国内	不明
9/28	39	男	74	vanC	発熱、胆管炎	国内	不明
11/22	47	男	55	vanC1	発熱	不明	不明
12/6	49	男	68	vanC2/C3	胆管炎	国内	不明

⑬ その他の五類感染症（全数届出）

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

第３表－１－１　一、二、三、四、五類全数把握疾病　患者報告数推移表

（2005年第1週～2005年第52週）

週	期間	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	重症急性呼吸器症候群	痘そう	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
1	1. 3～ 1. 9									2					
2	1.10～ 1.16									4					
3	1.17～ 1.23									1					1
4	1.24～ 1.30									5		1			2
5	1.31～ 2. 6									3					1
6	2. 7～ 2.13														
7	2.14～ 2.20									1	1				1
8	2.21～ 2.27														
9	2.28～ 3. 6									1	1				
10	3. 7～ 3.13									3					
11	3.14～ 3.20														2
12	3.21～ 3.27									3					
13	3.28～ 4. 3								1	4	1				
14	4. 4～ 4.10								1	1					1
15	4.11～ 4.17														
16	4.18～ 4.24									1		1			3
17	4.25～ 5. 1									2					1
18	5. 2～ 5. 8														
19	5. 9～ 5.15								1	3					
20	5.16～ 5.22									1	1				1
21	5.23～ 5.29									1					4
22	5.30～ 6. 5									1		1			4
23	6. 6～ 6.12									2					4
24	6.13～ 6.19														3
25	6.20～ 6.26									1					6
26	6.27～ 7. 3									2					11
27	7. 4～ 7.10														7
28	7.11～ 7.17									4					12
29	7.18～ 7.24									2					8
30	7.25～ 7.31									4					9
31	8. 1～ 8. 7								2						13
32	8. 8～ 8.14														14
33	8.15～ 8.21									1	1				19
34	8.22～ 8.28									2	1				20
35	8.29～ 9. 4									4					13
36	9. 5～ 9.11									1					20
37	9.12～ 9.18									6	1				12
38	9.19～ 9.25									1					1
39	9.26～10. 2								1	4	2				11
40	10. 3～10. 9									5					15
41	10.10～10.16								3	1	1				5
42	10.17～10.23									2	1	1			2
43	10.24～10.30								1						1
44	10.31～11. 6									2					2
45	11. 7～11.13									1					1
46	11.14～11.20									2					1
47	11.21～11.27														2
48	11.28～12. 4								1	3					1
49	12. 5～12.11									1					2
50	12.12～12.18								1	1					1
51	12.19～12.25														
52	12.26～ 1. 1								1						1
	合　計								13	89	11	4			238

第３表－１－２　一、二、三、四、五類全数把握疾病　患者報告数推移表

（2005年第1週～2005年第52週）

週	期間	E型肝炎	434 ウエストナイル熱	A型肝炎	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回帰熱	407 Q熱	408 狂犬病	高病原性鳥インフルエンザ	413 コクシジオイデス症	サル痘	415 腎症候性出血熱	418 炭疽	419 つつが虫病
1	1. 3～ 1. 9															2
2	1.10～ 1.16						1									
3	1.17～ 1.23						1									
4	1.24～ 1.30			2												
5	1.31～ 2. 6	1		1												
6	2. 7～ 2.13			1												
7	2.14～ 2.20															
8	2.21～ 2.27															
9	2.28～ 3. 6															
10	3. 7～ 3.13	2														1
11	3.14～ 3.20			1												
12	3.21～ 3.27	1														
13	3.28～ 4. 3			1												
14	4. 4～ 4.10															
15	4.11～ 4.17															
16	4.18～ 4.24			1												
17	4.25～ 5. 1			1												
18	5. 2～ 5. 8															
19	5. 9～ 5.15			1												
20	5.16～ 5.22			1												
21	5.23～ 5.29															
22	5.30～ 6. 5			1												
23	6. 6～ 6.12								2							
24	6.13～ 6.19			1												
25	6.20～ 6.26															
26	6.27～ 7. 3															
27	7. 4～ 7.10			1												
28	7.11～ 7.17	1							1							
29	7.18～ 7.24															
30	7.25～ 7.31															
31	8. 1～ 8. 7				1											
32	8. 8～ 8.14															
33	8.15～ 8.21															
34	8.22～ 8.28	1														
35	8.29～ 9. 4															
36	9. 5～ 9.11															
37	9.12～ 9.18	1														
38	9.19～ 9.25			4												
39	9.26～10. 2															
40	10. 3～10. 9			1												
41	10.10～10.16			1												
42	10.17～10.23															
43	10.24～10.30			1												
44	10.31～11. 6															
45	11. 7～11.13			1			1									
46	11.14～11.20	1														1
47	11.21～11.27			1												
48	11.28～12. 4			2												
49	12. 5～12.11															
50	12.12～12.18											1				2
51	12.19～12.25															
52	12.26～ 1. 1															
	合　計	8		24	1		3		3			1				6

第３表－１－３　一、二、三、四、五類全数把握疾病　患者報告数推移表

（2005年第1週～2005年第52週）

週	期間	420 デング熱	ニパウイルス感染症	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	427 ハンタウイルス肺症候群	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発しんチフス	ボツリヌス症	431 マラリア	野兎症	432 ライム病	リッサウイルス感染症	433 レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 3～ 1. 9															
2	1.10～ 1.16														1	
3	1.17～ 1.23										1				1	
4	1.24～ 1.30															
5	1.31～ 2. 6															
6	2. 7～ 2.13									1	1				1	
7	2.14～ 2.20															1
8	2.21～ 2.27															
9	2.28～ 3. 6															
10	3. 7～ 3.13	1														
11	3.14～ 3.20	1									1					
12	3.21～ 3.27															
13	3.28～ 4. 3															
14	4. 4～ 4.10															
15	4.11～ 4.17										1					
16	4.18～ 4.24	1													1	
17	4.25～ 5. 1	1														
18	5. 2～ 5. 8										1					
19	5. 9～ 5.15															
20	5.16～ 5.22										1					
21	5.23～ 5.29										1				1	
22	5.30～ 6. 5														1	
23	6. 6～ 6.12															
24	6.13～ 6.19														1	
25	6.20～ 6.26										1					
26	6.27～ 7. 3										1					
27	7. 4～ 7.10														2	
28	7.11～ 7.17										1				1	
29	7.18～ 7.24												1			
30	7.25～ 7.31										1				1	
31	8. 1～ 8. 7	1						1					2		1	
32	8. 8～ 8.14	1														
33	8.15～ 8.21														2	
34	8.22～ 8.28	2									1					
35	8.29～ 9. 4	3														
36	9. 5～ 9.11	3											1		1	
37	9.12～ 9.18	5														
38	9.19～ 9.25	1														
39	9.26～10. 2	1									1					
40	10. 3～10. 9										1					
41	10.10～10.16														1	
42	10.17～10.23	1									2				1	
43	10.24～10.30										2					
44	10.31～11. 6	2													3	
45	11. 7～11.13	1														
46	11.14～11.20	2									2				2	2
47	11.21～11.27	1													1	
48	11.28～12. 4	1													1	
49	12. 5～12.11										1					
50	12.12～12.18															
51	12.19～12.25															
52	12.26～ 1. 1															
	合　計	29						1		1	21		4		24	3

第３表－１－４　一、二、三、四、五類全数把握疾病　患者報告数推移表

（2005年第1週～2005年第52週）

週	期間	401 アメーバ赤痢	406 ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	急性脳炎	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	412 後天性免疫不全症候群	414 ジアルジア症	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群	424 梅毒	425 破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	426 バンコマイシン耐性腸球菌感染症
1	1. 3～ 1. 9		2					3				1			
2	1.10～ 1.16	1					1	9							
3	1.17～ 1.23	4						5				2			
4	1.24～ 1.30	6	1			1		9		1		3			2
5	1.31～ 2. 6	3	1	1				12				5			1
6	2. 7～ 2.13	7	1					10				2			
7	2.14～ 2.20	4	2	2		1	1	4				1			1
8	2.21～ 2.27	3				1		7				1			
9	2.28～ 3. 6		2	3		1		11	1			1			
10	3. 7～ 3.13	1			1			11				2			
11	3.14～ 3.20	5		1		1		5				4			
12	3.21～ 3.27	1	2	1		1		5							
13	3.28～ 4. 3	4		1		1		6							
14	4. 4～ 4.10	4	3					3				3			
15	4.11～ 4.17	5	1					7							1
16	4.18～ 4.24	2						3	1			2			
17	4.25～ 5. 1	3	2					3				1			
18	5. 2～ 5. 8	2						2				1	1		
19	5. 9～ 5.15	5	1					6	1			1			
20	5.16～ 5.22	7	1	1		1		9	1			3			
21	5.23～ 5.29	1						8				1			2
22	5.30～ 6. 5	5	5					8				1			
23	6. 6～ 6.12	2						12	1	1					
24	6.13～ 6.19	4	1			1		36	1			1			
25	6.20～ 6.26	5	1					6	1						
26	6.27～ 7. 3	9		2		1		19				2			
27	7. 4～ 7.10	6	1					8	1			2			1
28	7.11～ 7.17							8							
29	7.18～ 7.24	4		1				6		1		1			
30	7.25～ 7.31	4				1		5				4			
31	8. 1～ 8. 7	2						11							
32	8. 8～ 8.14	8						14				2			
33	8.15～ 8.21	5						9				2			
34	8.22～ 8.28	1	1					11				1			1
35	8.29～ 9. 4	3	1					8				1			
36	9. 5～ 9.11	5						8				2			1
37	9.12～ 9.18	2						5				1			
38	9.19～ 9.25	1				1		2				1			
39	9.26～10. 2	6	2			2		11	1			1			1
40	10. 3～10. 9	9		1				6				4			
41	10.10～10.16	2	1					7				3			
42	10.17～10.23	4						10				2			
43	10.24～10.30	1						7				5			
44	10.31～11. 6	7					1	7				6			
45	11. 7～11.13	2					1	5	1			7			
46	11.14～11.20	3				1	1	6	2			2			
47	11.21～11.27	1						6				1			1
48	11.28～12. 4	1	1	1			2	8				2	1		
49	12. 5～12.11	4						5	1			5			1
50	12.12～12.18	3	1	1				11				1			
51	12.19～12.25	3						8				3			
52	12.26～ 1. 1	3	2					6				1			
	合　計	183	36	16	1	15	7	417	13	3		98	2		13

第３表－２－１　一、二、三、四、五類全数把握疾病　保健所別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

保健所	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	重症急性呼吸器症候群	痘そう	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
千代田									1					6
中央区									5					10
みなと								2	6	1				9
新宿区								1	5	1	1			7
文京								1	9	1				2
台東									1					6
墨田区									7	1	1			8
江東区									1					9
品川区									3	1				5
目黒区									1	1	1			9
大田区								3	2	2				12
世田谷区								1	4					13
渋谷区								2	5					3
中野区								1	6					15
杉並									4					12
池袋									1					4
北区								1	2					7
荒川区								1						5
板橋区									2		1			12
練馬区									1					7
足立									3					7
葛飾										1				9
江戸川									3					14
西多摩									1					
八王子									1	1				13
南多摩									3					1
町田									3					3
多摩立川									2					2
多摩府中									3	1				15
多摩小平									3					13
島しょ									1					
合　計								13	89	11	4			238

第３表－２－２　一、二、三、四、五類全数把握疾病　保健所別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

保健所	E型肝炎	434 ウエストナイル熱	A型肝炎	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回帰熱	407 Q熱	408 狂犬病	高病原性鳥インフルエンザ	413 コクシジオイデス症	サル痘	415 腎症候性出血熱	418 炭疽	419 つつが虫病
千代田	1														
中央区															
みなと	2		3			2					1				1
新宿区			4												
文京			2												
台東															
墨田区			1	1											
江東区															
品川区			1												
目黒区	1		1												
大田区															
世田谷区															
渋谷区			2												
中野区															
杉並															
池袋	1		3												
北区															1
荒川区															
板橋区								3							
練馬区															
足立			1												
葛飾	1		2												
江戸川			2												
西多摩	1														3
八王子															
南多摩															
町田															
多摩立川						1									
多摩府中			1												1
多摩小平	1		1												
島しょ															
合　計	8		24	1		3		3			1				6

第３表－２－３　一、二、三、四、五類全数把握疾病　保健所別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

保健所	420 デング熱	ニパウイルス感染症	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	427 ハンタウイルス肺症候群	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発しんチフス	ボツリヌス症	431 マラリア	野兎症	432 ライム病	リッサウイルス感染症	433 レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田															
中央区										1					
みなと	3									5		2		1	
新宿区	6						1			7				2	2
文京	9									1		1		1	1
台東															
墨田区	3									5				2	
江東区															
品川区														3	
目黒区														1	
大田区	2													2	
世田谷区									1						
渋谷区														1	
中野区														1	
杉並															
池袋														1	
北区														1	
荒川区														1	
板橋区										1		1		1	
練馬区															
足立															
葛飾															
江戸川															
西多摩														1	
八王子										1				2	
南多摩	1														
町田															
多摩立川	1													2	
多摩府中	2														
多摩小平	2													1	
島しょ															
合　計	29						1		1	21		4		24	3

第３表－２－４　一、二、三、四、五類全数把握疾病　保健所別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

保健所	401 アメーバ赤痢	406 ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	急性脳炎	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	412 後天性免疫不全症候群	414 ジアルジア症	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群	424 梅毒	425 破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	426 バンコマイシン耐性腸球菌感染症
千代田	7	1					7				5			
中央区	4						4				2			
みなと	21	1	1		1	1	38	2			8			6
新宿区	21	16	5	1	3		136	1	1		11			2
文京	18		2				33	2			3			
台東							3				2			
墨田区	3	1					8				2			
江東区	1				1		3				2			
品川区	9	6				1	4				5			
目黒区	6	1	1				3	1			2	1		
大田区	14				1	2	8	1			2			
世田谷区	11				1		4	1			5			
渋谷区	6	1					103		1		7			
中野区	5				1		2				13			
杉並	7	1					7				1			
池袋	4		1				3				1			
北区	2										3			
荒川区	1				1						2			1
板橋区	11		2			1	13				5			1
練馬区	3	1			1		3		1		2			
足立	3		1				1	1						
葛飾	3				2		5							1
江戸川	2						5				4			
西多摩	3					1	1				2			
八王子	2	1					6	1			1			
南多摩							1				2	1		
町田							1							
多摩立川	5	1					1				2			
多摩府中	8		3		3	1	7	2			2			1
多摩小平	3	5					7	1			2			1
島しょ														
合　計	183	36	16	1	15	7	417	13	3		98	2		13

第３表－３－１　一、二、三、四、五類全数把握疾病　年齢階級別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

年齢階級	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	重症急性呼吸器症候群	痘そう	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
0歳														2
1～4歳														25
5～9歳									2					25
10～14歳									1					15
15～19歳									2	1				18
20～24歳									17	5	3			34
25～29歳								1	19	1				26
30～34歳								1	15	2				12
35～39歳								1	9	2				16
40～44歳								2	6					8
45～49歳								2	1					9
50～54歳									3		1			10
55～59歳								3	4					14
60～64歳									4					13
65～69歳								2	4					2
70歳以上								1	2					9
合　計								13	89	11	4			238

第３表－３－２　一、二、三、四、五類全数把握疾病　年齢階級別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

年齢階級	E型肝炎	434 ウエストナイル熱	A型肝炎	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回帰熱	407 Q熱	408 狂犬病	高病原性鳥インフルエンザ	413 コクシジオイデス症	サル痘	415 腎症候性出血熱	418 炭疽	419 つつが虫病
0歳															
1～4歳															
5～9歳															
10～14歳								1							
15～19歳															
20～24歳	2		3												1
25～29歳			3												
30～34歳			3					1							
35～39歳	1		3	1											
40～44歳	1		1			1									
45～49歳			3			1									
50～54歳	1		3												1
55～59歳	2														
60～64歳			3			1									2
65～69歳			2								1				1
70歳以上	1							1							1
合　計	8		24	1		3		3			1				6

第３表－３－３　一、二、三、四、五類全数把握疾病　年齢階級別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

年齢階級	420 デング熱	ニパウイルス感染症	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	427 ハンタウイルス肺症候群	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発しんチフス	ボツリヌス症	431 マラリア	野兎症	432 ライム病	リッサウイルス感染症	433 レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳									1						
1～4歳												1			
5～9歳	1									1					
10～14歳	1														
15～19歳															
20～24歳	5									3					
25～29歳	3									1					
30～34歳	7									3					
35～39歳	6						1			1		2			
40～44歳	1									6				1	1
45～49歳										2				1	
50～54歳	2									3				2	1
55～59歳														5	
60～64歳	1									1				6	
65～69歳	1													1	1
70歳以上	1											1		8	
合　計	29						1		1	21		4		24	3

第３表－３－４　一、二、三、四、五類全数把握疾病　年齢階級別累計表

（2005年第1週～2005年第52週）

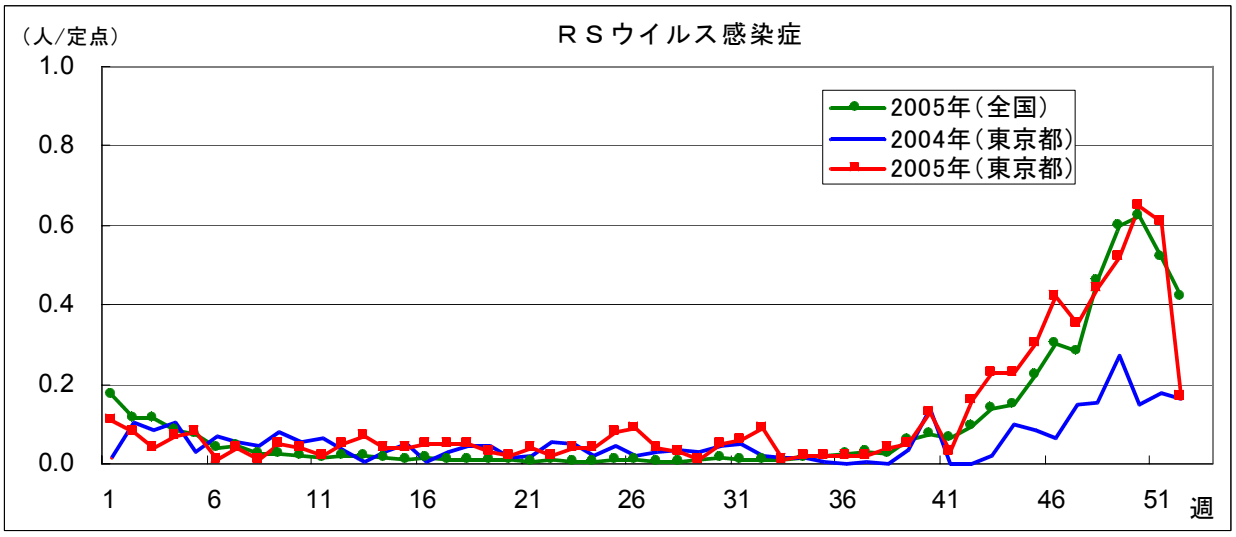
年齢階級	401 アメーバ赤痢	406 ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	急性脳炎	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	412 後天性免疫不全症候群	414 ジアルジア症	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群	424 梅毒	425 破傷風	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	426 バンコマイシン耐性腸球菌感染症
0歳			1						1		1			
1～4歳			6					1						
5～9歳			4											
10～14歳	1						1	1						
15～19歳							5		1		2			
20～24歳	7	7		1			39	1			11			
25～29歳	9	11	1				76	4			15			
30～34歳	30	7	2				99	1			15			
35～39歳	23	3				1	71	1			13			
40～44歳	27	3	1				42	4			7			
45～49歳	23	2				1	22				6			
50～54歳	22	1			1	1	30				11			
55～59歳	23				1	1	13				4			3
60～64歳	5				2	1	10		1		4	1		
65～69歳	9	1			2	1	7				4			1
70歳以上	4	1	1		9	1	2				5	1		9
合　計	183	36	16	1	15	7	417	13	3		98	2		13

（２）小児科・内科疾患

ア　ＲＳウイルス感染症

本症は 2003 年 11 月、感染症法改正に伴い、新規に定点把握疾患として登録された。

2003 年 11、12 月の 2 か月間に 68 件(0.48 人/定点)報告され、2004 年 432 件(3.04 人/定点)、当年は 848 件(5.97 人/定点)報告されて前年比 196.4%の倍増である。第 40 週(0.13 人/定点)頃より報告数が増加し始め、第 50 週(0.65 人/定点)にピークとなり、2006 年に向けて減少しており、例年の如く晩秋から冬期に多発する傾向がみられた。罹患年齢は 6 か月未満 98 件(11.6%)、12 か月未満 142 件(16.8%)、1 歳 197 件(23.2%)、2 歳 73 件(8.6%)、3 歳 51 件(6.0%)、4 ～ 6 歳 46 件(5.4%)、7 ～ 9 歳 29 件(3.4%)で、乳幼児、殊に 1 歳未満に多発し、重症化する傾向がみられる。地域的にみて特徴はないが、北多摩北部圏、区中央部圏、南多摩圏に報告数が多かった。



イ　インフルエンザ（インフルエンザ様疾患）

2005 年の年間患者報告数は 43,336 件(243.46 人/定点)で、前年(18,958 件、106.51 人/定点)に比し 228.6%の倍増であり、過去 10 年で第 1 位であった。当年の前期流行波(2004/2005 期)は、当年第 2 週(1.03 人/定点)に始まり、ピークは第 7 週(43.33 人/定点)で、第 16 週(1.05 人/定点)に終る大きな流行であり、東京都では 7 年振りにインフルエンザ流行発生警報が発令された。後期流行波(2005/2006 期)は、当年第 51 週(1.72 人/定点)に始まり、ピークは 2006 年第 5 週(25.84 人/定点)で、第 12 週(1.60 人/定点)まで続いた。罹患年齢は、12 か月未満 1.2%、1 ～ 3 歳 15.7%、4 ～ 6 歳 23.4%、7 ～ 9 歳 16.1%、10 ～ 14 歳 9.9%、15 ～ 19 歳 2.4%、20 ～ 29 歳 6.4%、30 ～ 39 歳 11.0%、40 ～ 49 歳 6.9%、50 ～ 59 歳 3.4%、60 ～ 69 歳 2.2%、70 歳以上 1.4%であった。医療圏別では、西多摩圏(434.86 人/定点)、北多摩北部圏(399.38 人/定点)、南多摩圏(375.90 人/定点)に多発し、区中央部圏(154.75 人/定点)、区西南部圏(162.89 人/定点)に少なかった。

保健所別にみれば、町田(621.67 人/定点)、江戸川(486.60 人/定点)、西多摩(434.86 人/定点)に多く、千代田(84.00 人/定点)、池袋(95.00 人/定点)、みなと(99.43 人/定点)では少なかった。前期流行波の起因ウイルスは前年秋から当年第 15 週までに定点医療機関から得た陽性 566 件の内訳はＡソ連型；5 件、Ａ香港型；189 件、Ｂ型；372 件であり、検出推移をみると、前年から当年第 3 週：Ａ香港型優位、当年第 4 週～第 10 週：Ｂ型優位、第 11 週～第 15 週：Ａ香港型優位であった。合併症としてインフルエンザ脳症 5 例が注目された。後期流行波(2005/2006 期)の起因ウイルスは、当年秋から 2006 年第 15 週の間に定点医療機関から搬入された 841 検体から得た陽性 483 件からＡソ連型；125 件、Ａ香港型；357 件、Ｂ型；1 件が確認された。流行の初期～中期はＡ香港型優位、後期にはＡソ連型優位の混合流行であった。東南アジアにみられる新型鳥インフルエンザＡ(H5N1)の発生はみられなかった。

資料１　インフルエンザ脳症(IDWR,Vol.7,No.14,2005)：これまでＡ型インフルエンザ罹患者に多いとされたが、当年第 14 週現在、全国で 36 例（東京都：5 例）が報告され、罹患者の男女比＝ 15：21、年齢は 3 歳未満 13 例、3 ～ 5 歳 7 例、6 ～ 14 歳 10 例、20 ～ 79 歳 6 例で、ウイルス型別では、Ａ型罹患：6 例、Ｂ型罹患：24 例、型不明罹患：6 例であり、届出時既死亡 8 例中Ｂ型罹患：6 例、型不明罹患：2 例とされた。

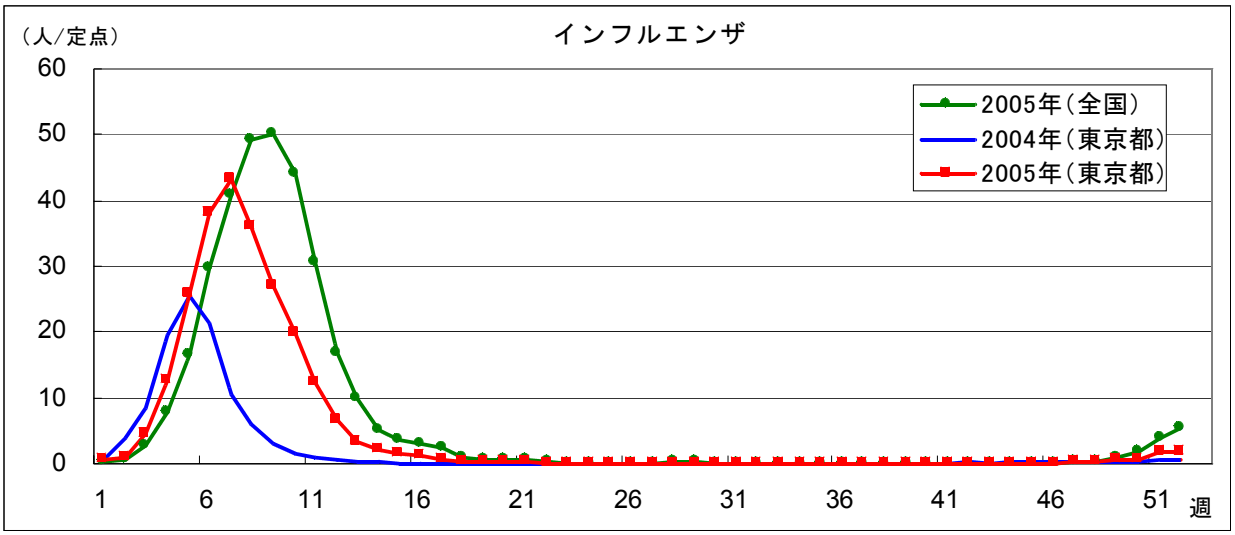
資料２　東京都におけるインフルエンザ発生状況：東京微生物検査情報、第 26 巻、第 1 号 2005 年 1 月.

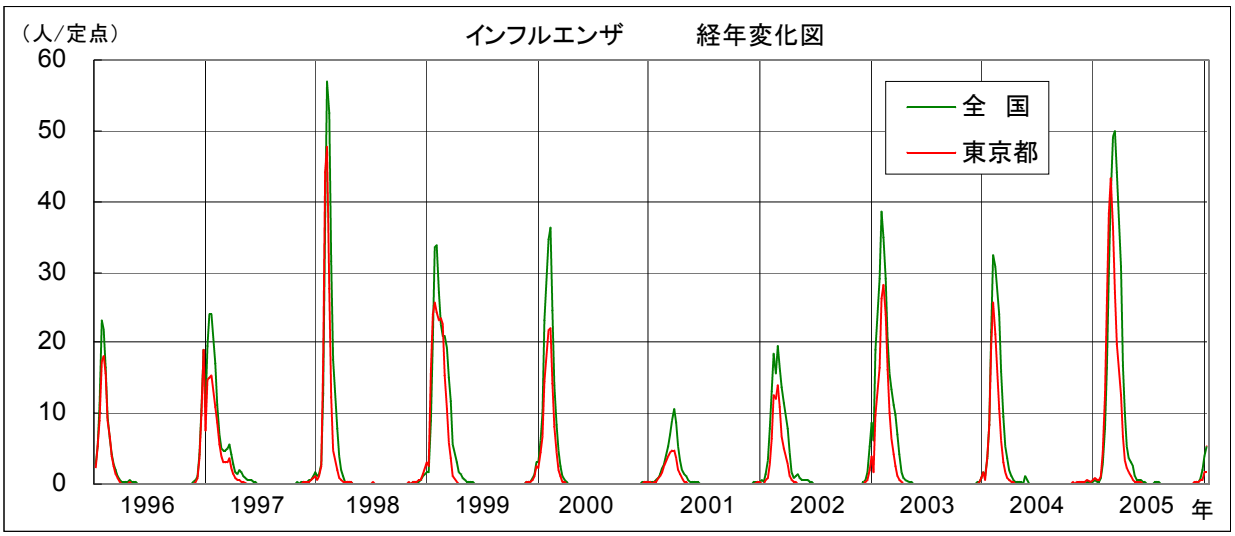
資料３　東京都におけるインフルエンザ発生状況(2005/2006 シーズン)：同上第 27 巻、第 1 号 2006 年 1 月.

資料４　ＷＨＯに報告された鳥インフルエンザＡ(H5N1)感染検査確認数と死亡数(2003 － 2006)

（2006 年 1 月 10 日現在）

	2003		2004		2005		2006		合計	
	感染数	死亡数	感染数	死亡数	感染数	死亡数	感染数	死亡数	感染数	死亡数
カンボジア	0	0	0	0	4	4	0	0	4	4
中　国	0	0	0	0	7	5	1	0	8	5
インドネシア	0	0	0	0	16	11	0	0	16	11
タ イ	0	0	17	12	5	2	0	0	22	14
トルコ	0	0	0	0	0	0	4	2	4	2
ベトナム	3	3	29	20	61	19	0	0	93	42
計	3	3	46	32	93	41	5	2	147	78

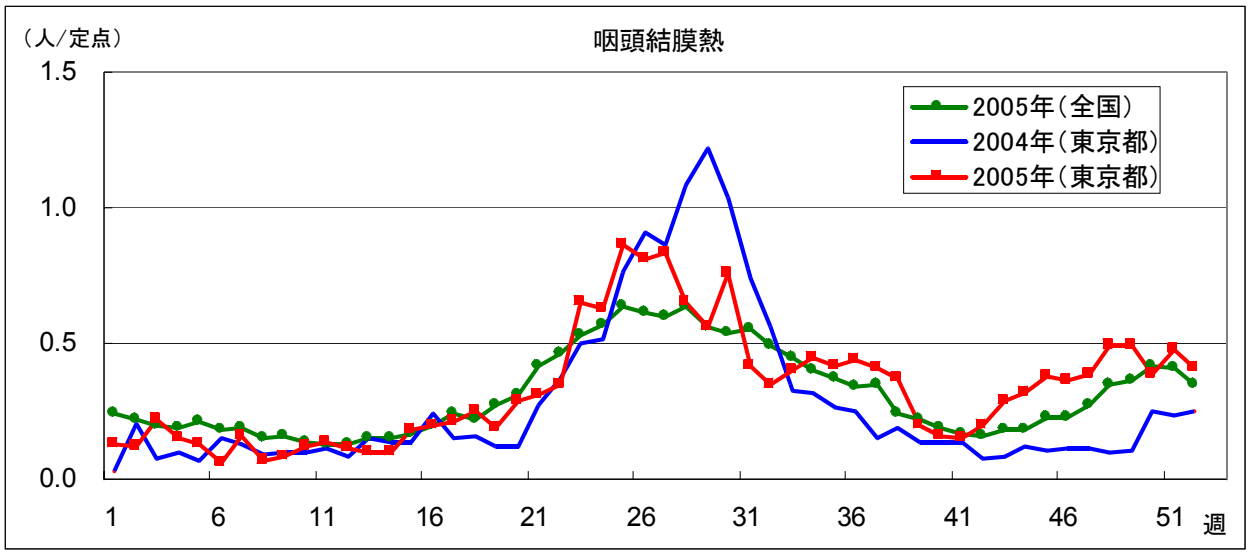

（人/定点）
インフルエンザ
60
50
40
30
20
10
0
1
6
11
16
21
26
31
36
41
46
51
週
2005年（全国）
2004年（東京都）
2005年（東京都）

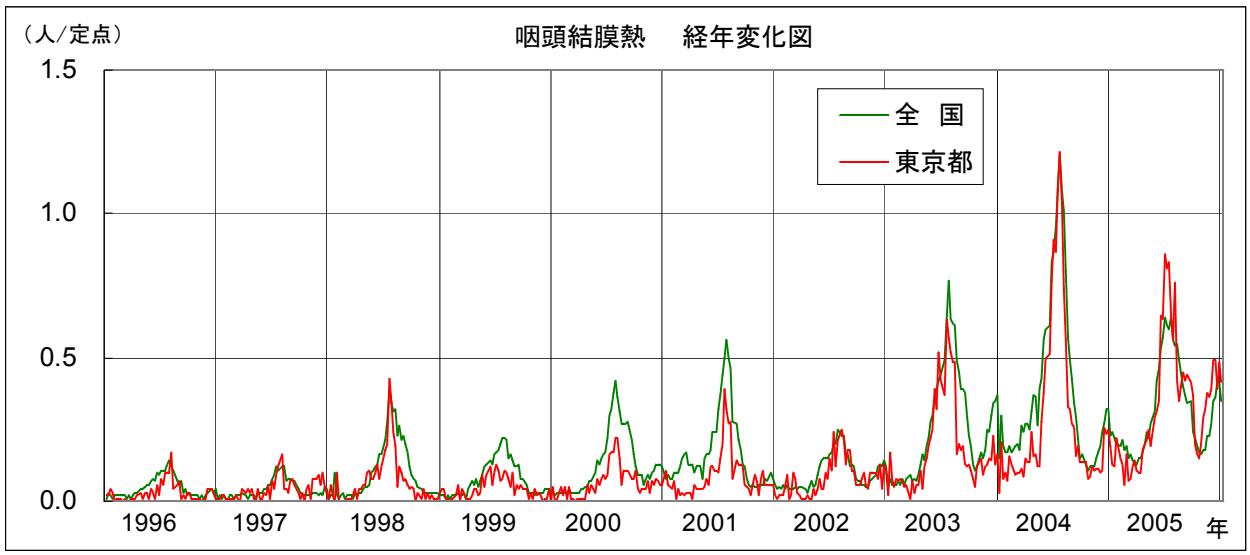

（人/定点）
インフルエンザ　　経年変化図
60
50
40
30
20
10
0
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
年
全　国
東京都

ウ　咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は小児科・内科と眼科の両科の対応疾患であったが、感染症法施行後、小児科・内科が定点把握を担当している。2005 年の患者報告数は 2,468 件(17.38 人/定点)であり、前年(2,123 件、14.95 人/定点)比で 116.3%の軽度増加であったが、過去 10 年で昨年に続いて第 1 位であった。

本症は夏期に流行する軽症疾患であり、当年の流行推移をみると、第 20 週(41 件、0.29 人/定点)より増加傾向を示し、第 25 週(122 件、0.86 人/定点)にピークとなり、以後多少の増減をみせながら第 38 週(53 件、0.37 人/定点)まで漸減する。第 41 週(0.15 人/定点)を最低点として、昨年に類似した冬期に向けた緩やかな多発傾向を認めている。最近 10 年間の変動をみると、この 5 年間は増加傾向（2001 年；第 4 位、2002 年；第 5 位、2003 年；第 3 位、2004 年；第 2 位）が認められる。罹患年齢は 1 ～ 6 歳が多く、2,468 件中 1,921 件(77.8%)を占めた。本症は、ときに局地的小流行をみることがあり、当年は北多摩北部圏、西多摩圏、区中央部圏にやや多く発生した。



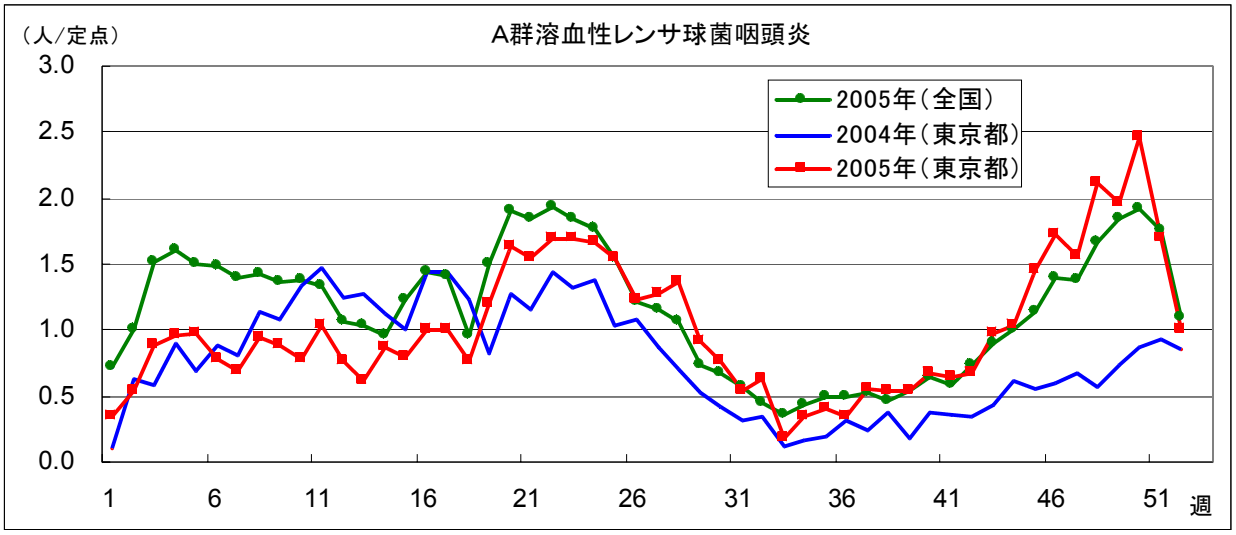


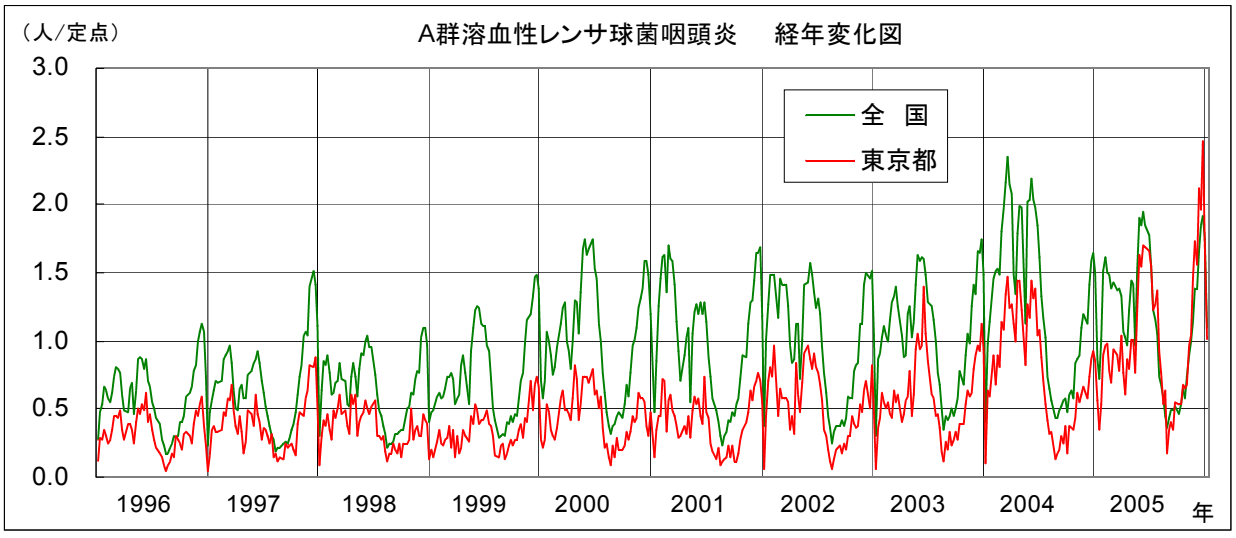
エ　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）

2005 年の報告数は 7,564 件(53.27 人/定点)であり、前年(5,842 件、41.14 人/定点)比 129.5%の増加であり、過去 10 年間では、3 年連続して第 1 位を占めている。本症は 1994 年まで横這い、ないし微増傾向であったが、1994 年(23.02 人/定点)を従来の最高値として、95 年(14.19 人/定点)以降、報告件数の低値が続いたが、2000 年(22.95 人/定点)から増加傾向が続き、2003 年は 94 年の報告数を越え、2004 年はさらに 2003 年を越え、また 2005 年は 2004 年より増加した。

本症の発生推移は梅雨期と晩秋冬期に増加するW字型流行像を示すことで知られるが、2001 年まではやや低い山で経過しており、2002 年の山はこれよりやや高く、2003 年以降、増高、逐年報告数の増加がみられる。長年、東京の流行推移は全国に平行しながら、その低位にあったが、年間ピークの第 50 週(2.46 人/定点)は、全国第 50 週(1.92 人/定点)及び年間ピークの第 22 週(1.94 人/定点)の値を越えた。

罹患年齢状況は、12 か月未満：24 件(0.32%)、1 ～ 2 歳：408 件(5.39%)、3 ～ 6 歳：3,893 件(51.47%)、7 ～ 9 歳：1,916 件(25.33%)、10 ～ 14 歳：611 件(8.08%)、15 ～ 19 歳 78 件(1.03%)、20 ～ 29 歳 634 件(8.38%)であり、3 ～ 6 歳児の罹患が過半数を占める。ブロック別発生状況は、南多摩圏、区東部圏、北多摩北部圏で多発し、北多摩西部圏に少ない。





オ　感染性胃腸炎

2005 年の報告数は 42,578 件(299.85 人/定点)であり、前年(39,464 件、277.92 人/定点)比 107.9%の横這い状況であったが、過去 10 年間では昨年に続き、第 1 位の報告件数であった。本症は秋季に始まり冬季に多発し春季にかけて流行する疾患で、通年図では年初から春季にかけて流行するやや低い山と秋季から年末にかかる高い山を示す流行像がみられる。2005 年前期流行波は、04 年後期流行波（ピーク；第 52 週＝ 18.15 人/定点)の延長で、第 2 週(10.25 人/定点)を当年前期ピークとする例年並の流行であり、後期流行波は第 50 週(19.25 人/定点、過去 10 年で最高)をピークとする流行であった。通年の流行波は全国集計波と平行相似して推移する傾向がみられた。罹患年齢分布は 12 か月未満 6.6%(2,794 件)、1 ～ 3 歳 31.4%(13、353 件)、4 ～ 6 歳 24.0%(10,213 件)であった。ブロック別発生状況では、昨年に類似して南多摩圏、北多摩北部圏、区南部圏及び区東部圏で報告数が多く、北多摩西部圏、区西北部圏及び区中央部圏で発生が少なかった。

2005 年前期感染性胃腸炎の原因の多くはノロウイルス（G Ⅱが多い）であり、一部にロタウイルスが混在(第 1 ～ 10 週までノロウイルス：ロタウイルス＝ 676：23)していた。後期感染性胃腸炎の第 45 週～第 52 週の原因（第 45 ～ 52 週までノロウイルス：ロタウイルス＝ 557：3）もノロウイルス（主因：NoroG Ⅱ）が大部分を占め、一部にロタウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルスが検出された。

また、ノロウイルスは、当年 12 月から 2006 年春にかけて高齢者施設で食中毒・感染性胃腸炎の原因としても注目された。

参考資料１　森　功次：「話題」ノロウイルスによる集団胃腸炎の発生・拡大への不顕性感染者の関与」東京都微生物検査情報 第 26 巻 第 11 号 2005 年 11 月

参考資料２　片山浩之(国土交通省国土技術政策総合研究所)：「下水中のノロウイルス」

研究対象：2003 ～ 2004 年に関東、近畿の 6 下水処理場の流入水と放流水

研究目的：ノロウイルスのＲＮＡを抽出処理し、平均濃度の測定

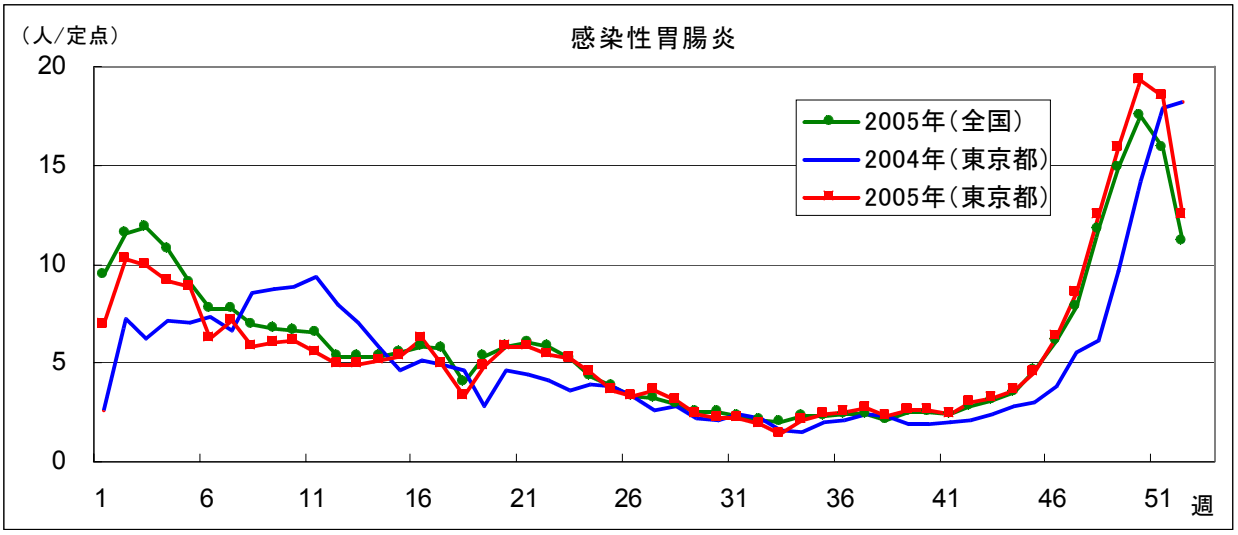
研究結果：①季節と下水のウイルス量：流入水も放流水も感染性胃腸炎の流行傾向に一致して夏期低値、冬期高値であった。

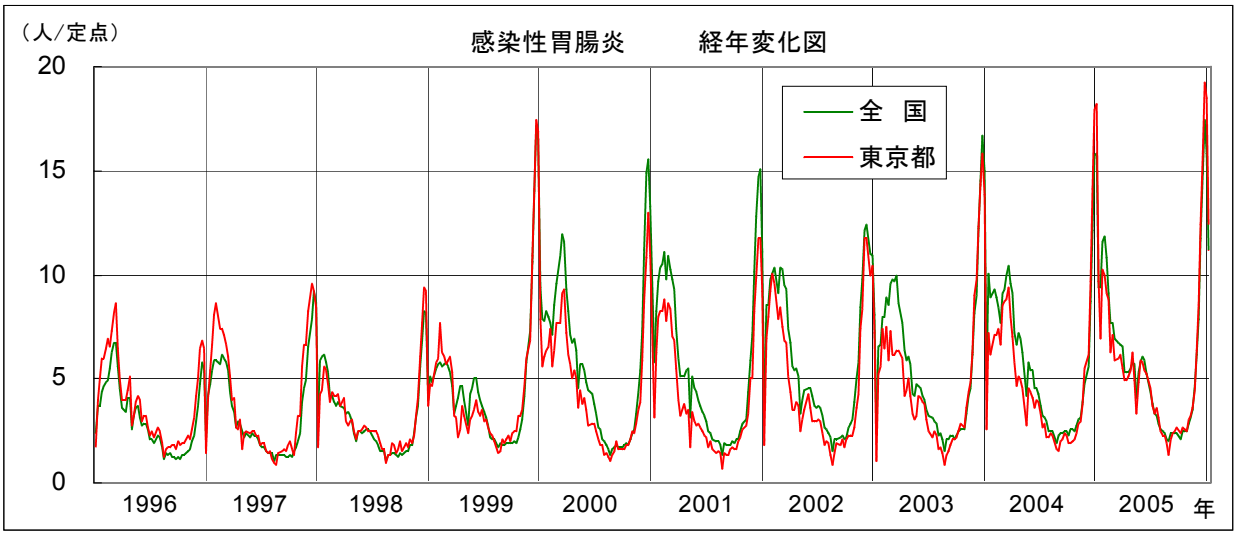
②下水中のウイルス濃度

季節	流入水	下水処理	放流水
12～2月	約555個／ml		約 11個／ml
6～8月	約 14個／ml		約 0.18個／ml
冬／夏	39.6		61.1

参考：1999 年 3 月までは感染性胃腸炎と乳児嘔吐下痢症を別集計したが、同年 4 月以降、両疾患を集計して報告している。下記に併記して対比した。

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
内科･小児科定点数	142	142	142	142	142	142	142	142	142	142
感染性胃腸炎のみ	28,069	28,144	23,600	34,137	33,084	31,639	34,659	35,718	39,464	42,578
人/定点	197.67	198.20	166.20	240.40	232.99	222.81	244.08	251.54	277.92	299.85
感染性胃腸炎＋乳児嘔吐下痢症	32,993	33,710	27,964	36,245	33,084	31,639	34,659	35,718	39,464	42,578
人/定点	232.35	237.39	196.93	255.25	232.99	222.81	244.08	251.54	277.92	299.85

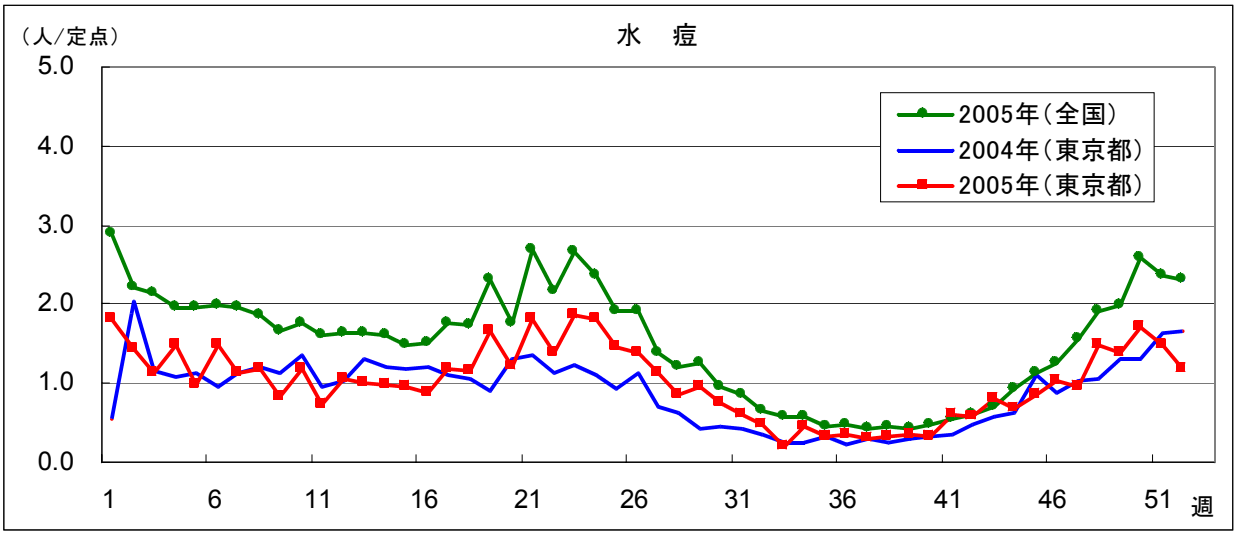


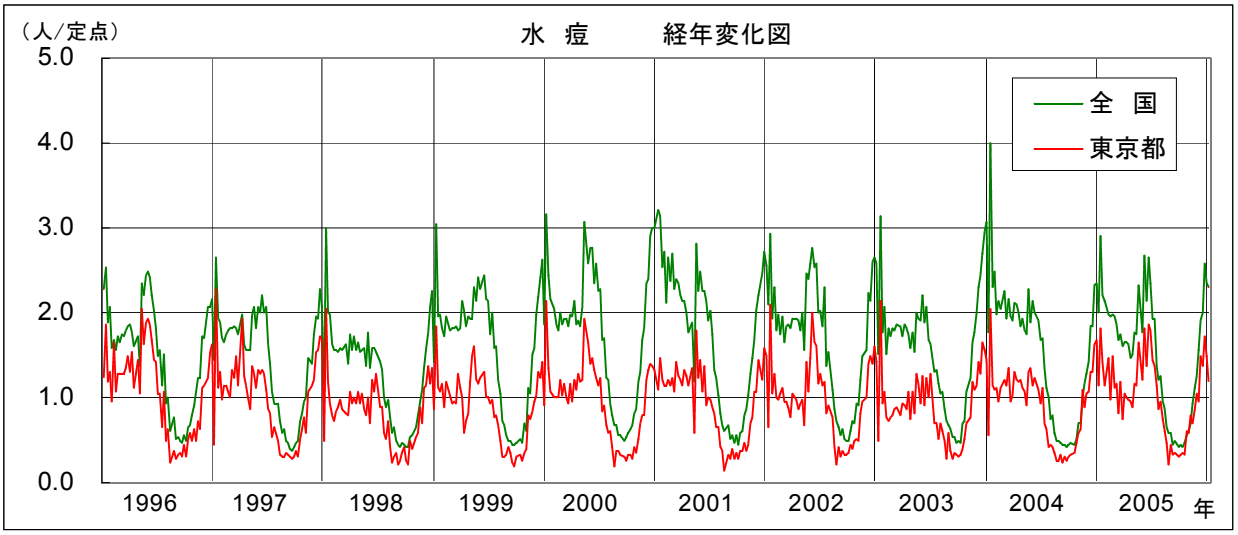


（経年変化図は、感染性胃腸炎のみのものを掲載している）

カ　水痘

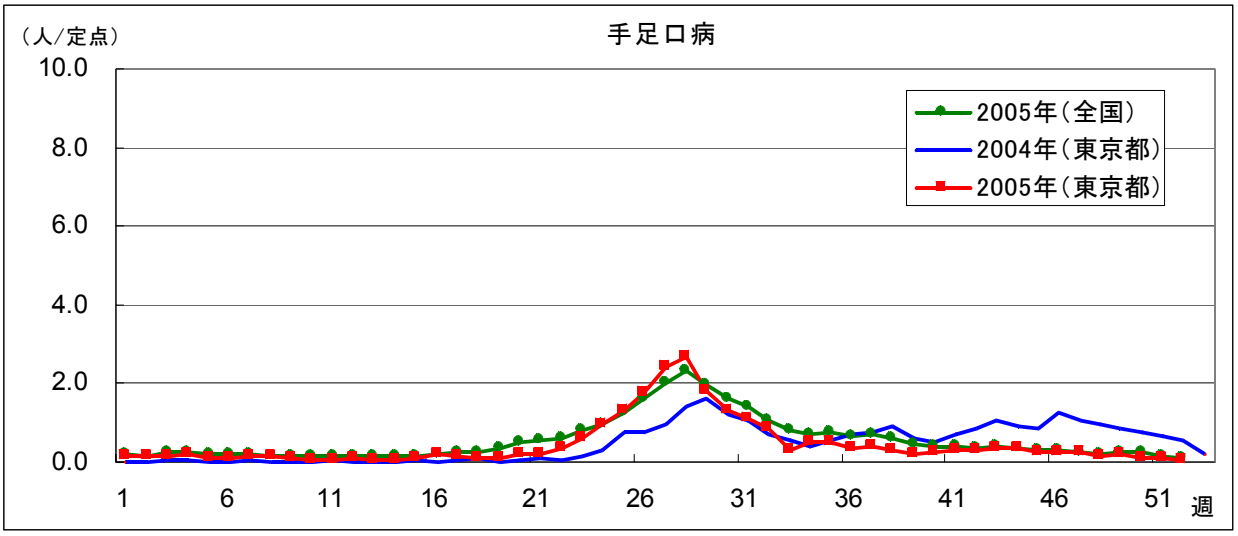
2005 年の報告数は 7,565 件(53.27 人/定点)で、前年(6,845 件、48.20 人/定点)比 110.5%の軽度増加であり、過去 10 年では第 2 位の報告数であった。流行波型は毎年相似型をとっているが、当年の流行推移をみると、昨年に準じて全国流行波の低位に並行して経過している。前年晩秋～冬期の流行を継いだ前期の流行波は晩春の小流行期に当年の低いピーク(第 23 週：1.86 人/定点)を迎えるが、その後減少を続けて晩夏初秋の底辺を経た後、晩秋から翌年に向けて増加している。その経過は全国流行推移の下位平行に推移している。最近 10 年間の年定点当り発生数の年次推移では、第 1 位 1996 年(55.72 人/定点)、第 2 位当年であり、第 3 位 97 年(50.61 人/定点)、次いで 2002 年(49.85 人/定点)、2000 年(49.11 人/定点)であり、第 6 位 2001 年(48.43 人/定点)、第 7 位 2004 年(48.20 人/定点)、以下 1999 年(45.83 人/定点)、2003 年(45.35 人/定点)、第 10 位 1998 年(41.87 人/定点)であるが、いずれも接近している。1997 年以前は年報告は 50.00 人/定点以上で、1998 年以降は減少傾向にあったが、当年は 50.00 人/定点を越えた。罹患年齢は従来とほとんど変りなく、10 歳未満が大部分を占めており、5 歳未満が 84.5%(6,390 件)であった。10 歳以上は 2.8%(215 件)で例年並みであった。ブロック別発生状況は、南多摩圏、北多摩北部圏に多く、北多摩西部圏、区中央部圏に少なかった。

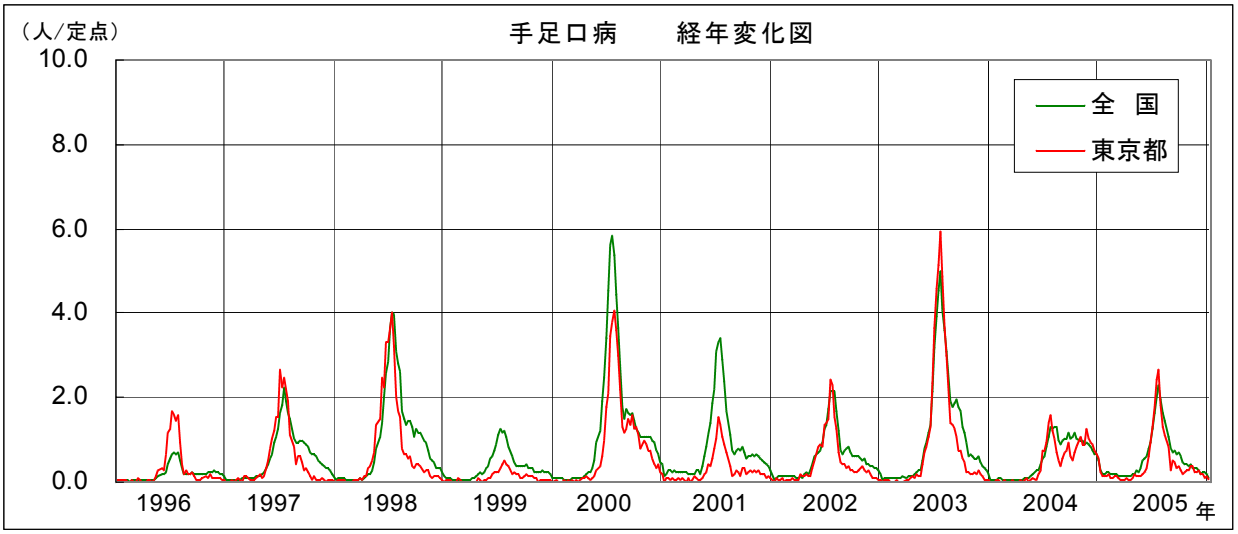




キ　手足口病

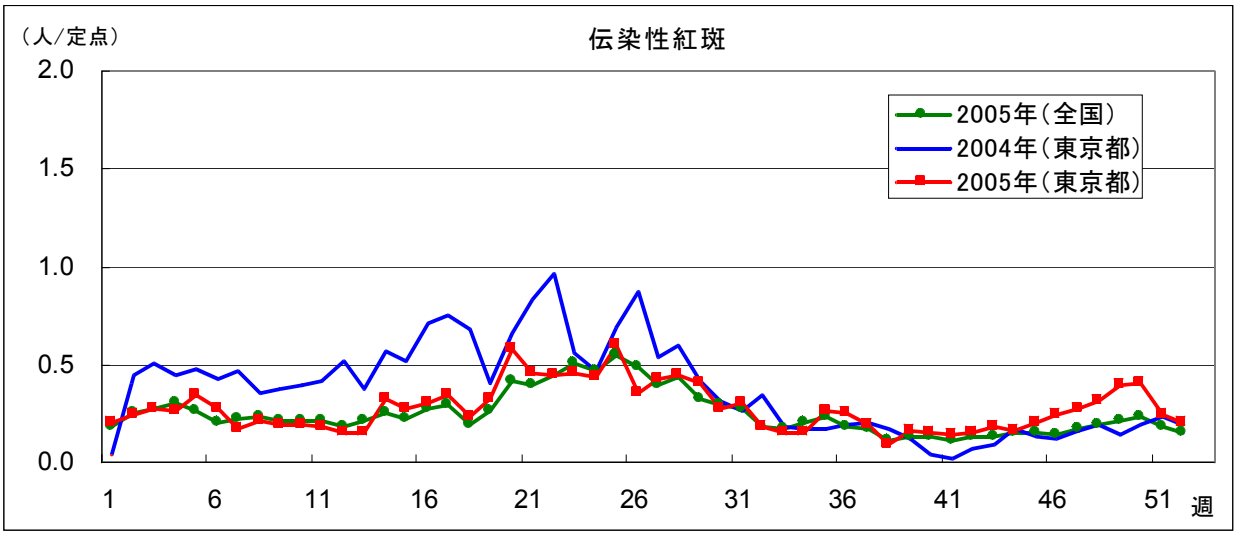
2005 年の報告数は 3,296 件(23.21 人/定点)であり、前年(3,585 件、25.25 人/定点)に比し 91.9%の横這い状態で、過去 10 年間では第 6 位であった。第 1 位は 2003 年(48.39 人/定点) で、過去 10 年の流行変動をみると、1998 年、2000 年、2003 年が流行年であり、その間の 1996 年、1997 年、1999 年、2001 年、2002 年、2004 年、2005 年が非流行年とみられ、1、2 年の間隔で増大流行が認められる。1995 年(58.04 人/定点)の流行後、96 年(14.94 人/定点、過去 10 年で第 9 位)の激減、1998 年(39.87 人/定点)の流行後、99 年(5.94 人/定点、過去 10 年で第 10 位)の激減、2000 年(45.52 人/定点)の流行後の 2001 年(15.02 人/定点)の激減、そして 2003 年の流行後の 2004 年、2005 年は非流行年であった。当年の流行推移をみると、本症の流行期に相当する晩春～盛夏にみる筈の目立った患者多発がなく、報告数も低い山で、ピークの第 28 週(2.66 人/定点)も低く、患者報告数 2.00 人/定点を超えた週は第 27 週～第 29 週の 3 週に過ぎなかった。罹患年齢は 1 ～ 3 歳 (1,844 人) が 56.0%であり、1 ～ 5 歳 (2,543 人) では 77.2%を占めた。地域別発生状況では、西多摩圏、南多摩圏、区南部圏に多く発生し、北多摩西部圏、区西部圏で少なかった。





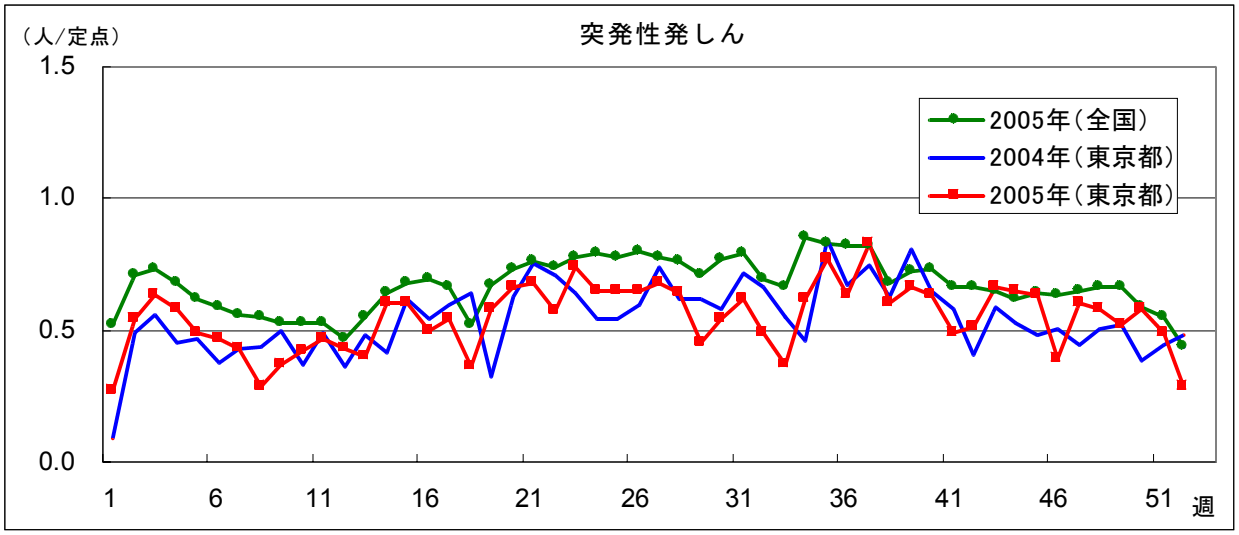
ク　伝染性紅斑

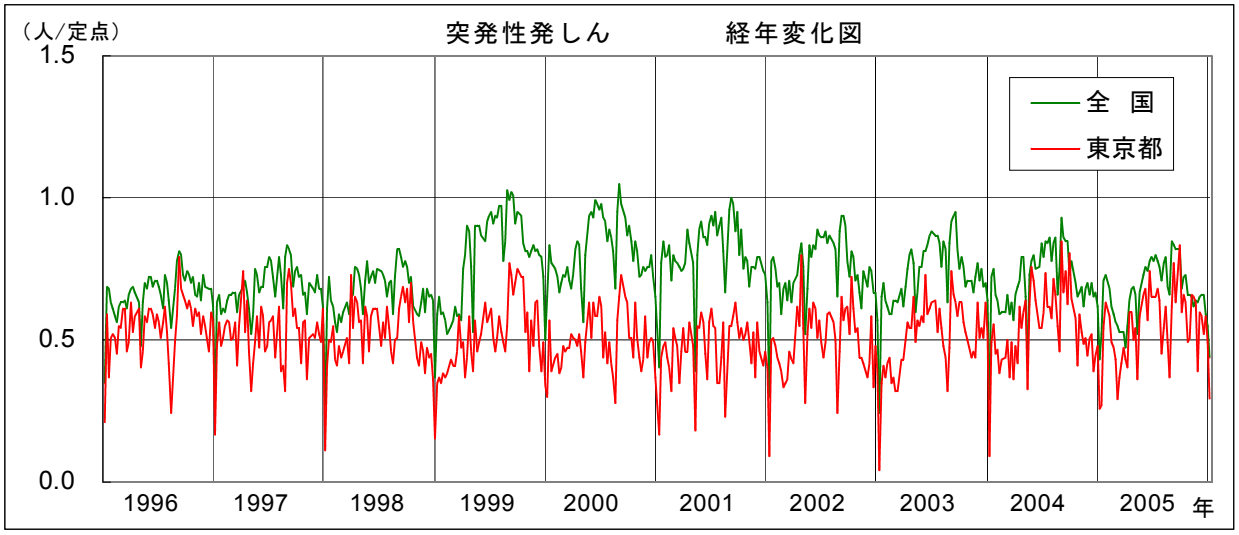
当年の年間報告数は 2,035 件(14.33 人/定点)で、前年(2,771 件、19.51 人/定点)比 73.5%の減少であり、過去 10 年では第 4 位であった。この 10 年間余の流行疫学では、1995 年(9.55 人/定点)は 1992 年(26.90 人/定点)の流行後、93 年から 3 年間にわたる非流行期の 3 年目であり、96 年(19.82 人/定点、過去 10 年第 1 位)の流行後、97 年(11.89 人/定点)、98 年(11.92 人/定点)、99 年(8.07 人/定点)の非流行期を経て、2000、2001 年の小流行があり、2002 年に減少、2003 年の非流行年を経て、2004 年の小流行年の後、当年を迎えた。本症は 2 ～ 3 年の周期で 1 ～ 2 年の流行発生をみるようである。感染症予防法施行以前の疫学統計でも 1986 年(49.4 人/定点)、87 年(31.4 人/定点)と小流行後、3 年の非流行期を経て 1991 年(33.50 人/定点)、92 年(26.90 人/定点)の流行が知られている。当年の罹患年齢別分布では、3 ～ 6 歳が 52.2%(1063 件)を占め、7 ～ 9 歳が 24.3%(495 件)で、幼児、学童低学年が多く罹患している。当年の地域別発生状況は、区東北部圏、北多摩北部圏に多く、北多摩西部圏、区中央部圏、西多摩圏に少なかった。



ケ　突発性発しん

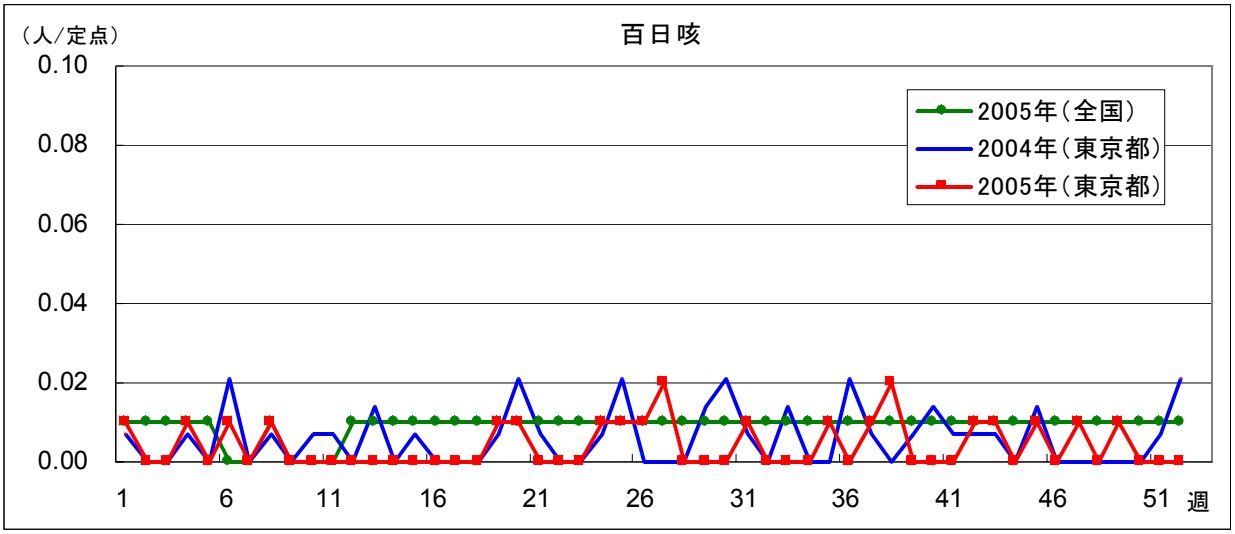
当年の年間報告数は 4,048 件(28.51 人/定点)であり、前年(4,043 件、28.47 人/定点)比 100.1%と前年並の報告数であるが、過去 10 年では第 1 位であった。過去 10 年の推移をみると、年間報告数は多少動揺はあるが、患者発生状況は毎年大きな変動はなく、相似のパターンを示している。患者報告数を通年的みれば、毎年夏期にやや多くなる傾向があり、罹患年齢は 2 歳未満が殆どを占め、当年では 95.0%（3,846 件）であり、昨年は 96.3%、一昨年は 96.7%であった。最近 10 年間の定点当り年間報告数順位は、第 1 位は当年、2 位は 2004 年、3 位 1996 年、4 位 1999 年、5 位 2003 年、次いで 2000 年、2002 年、2001 年、1997 年、1998 年と続くが僅差である。地域別発生状況に特徴はみられないが、何故か北多摩西部圏の報告数は少ない。

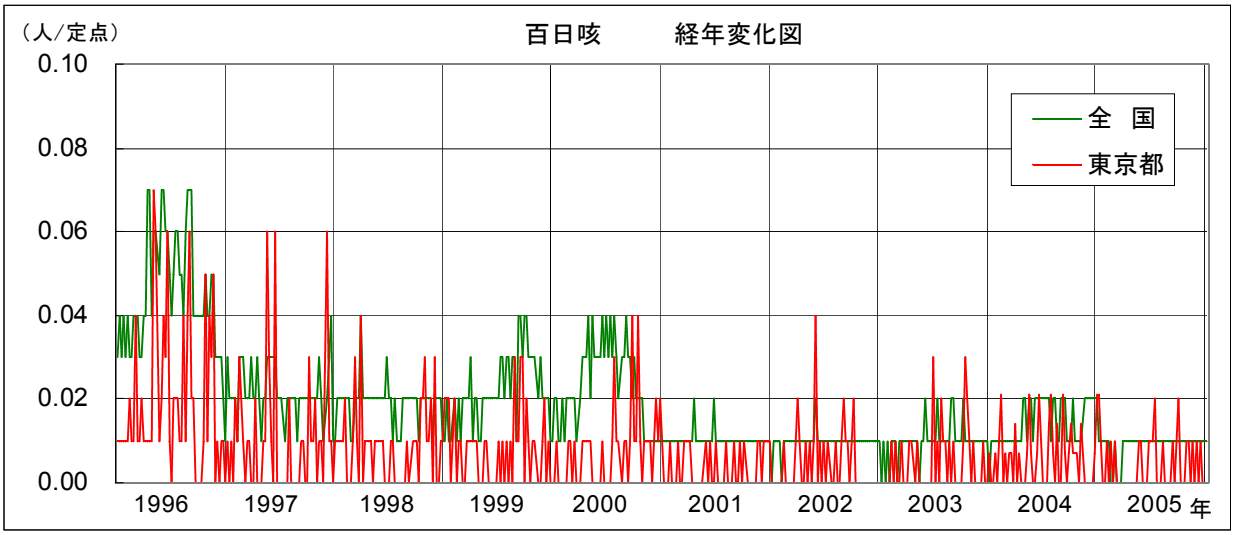




コ　百日咳

2005 年の年間報告数は 28 件(0.20 人/定点)で、前年(47 件、0.33 人/定点)比 60.6%の減少で、過去 10 年間では第 9 位であった。1997 年以降、年間 100 件未満、2001 年以後は 50 件未満の報告数である。最近 10 年間で 100 件以上の報告は 1996 年(143 件、1.01 人/定点)のみであった。年間定点当り報告数は、1987 年以降 1.00 人台が続き、98 年から 0.50 人未満である。順調な減少は百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチンの普及の成果と思われる。2005 年の報告患者の罹患年齢は、6 か月未満 6 件、7 ～ 12 か月未満が 8 件であり、12 か月未満が 50.0%(14 件)を占める。1 ～ 5 歳 7 件、6 ～ 14 歳 4 件に加えて成人 3 例が報告された。乳児期の予防接種完了の促進が望まれるし、乳児周辺の小児、成人を含めて百日咳予防の配慮が必要である。流行季節は百日咳が流行していた頃は春秋の季節であったが、少数発生の現在では季節的特徴はない。ブロック別発生状況では区西部圏 10 件、区東北部圏 6 件が目立った。

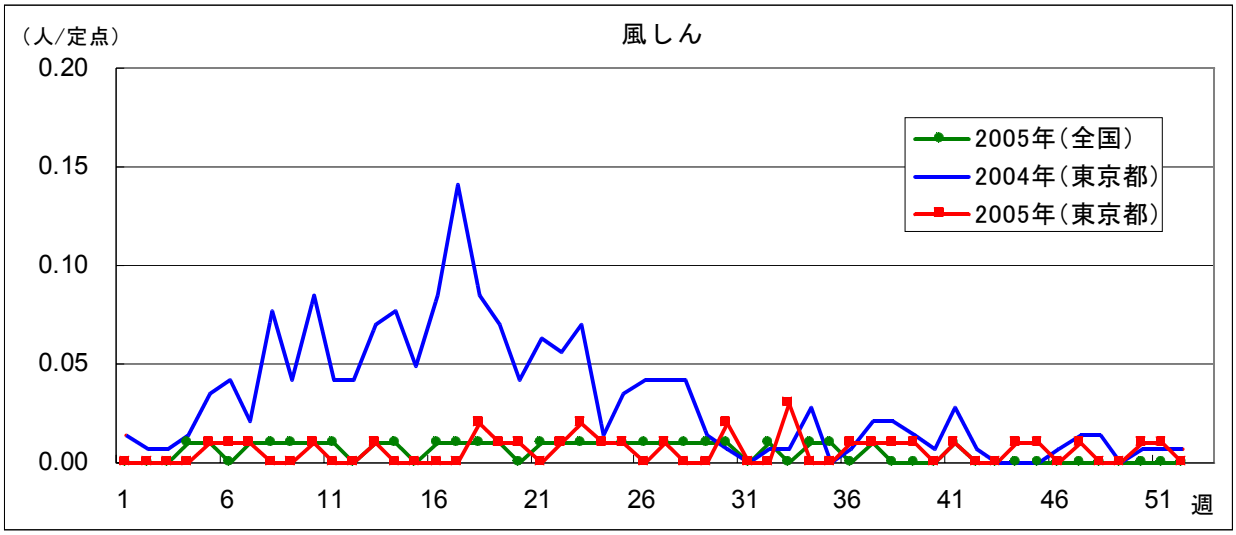


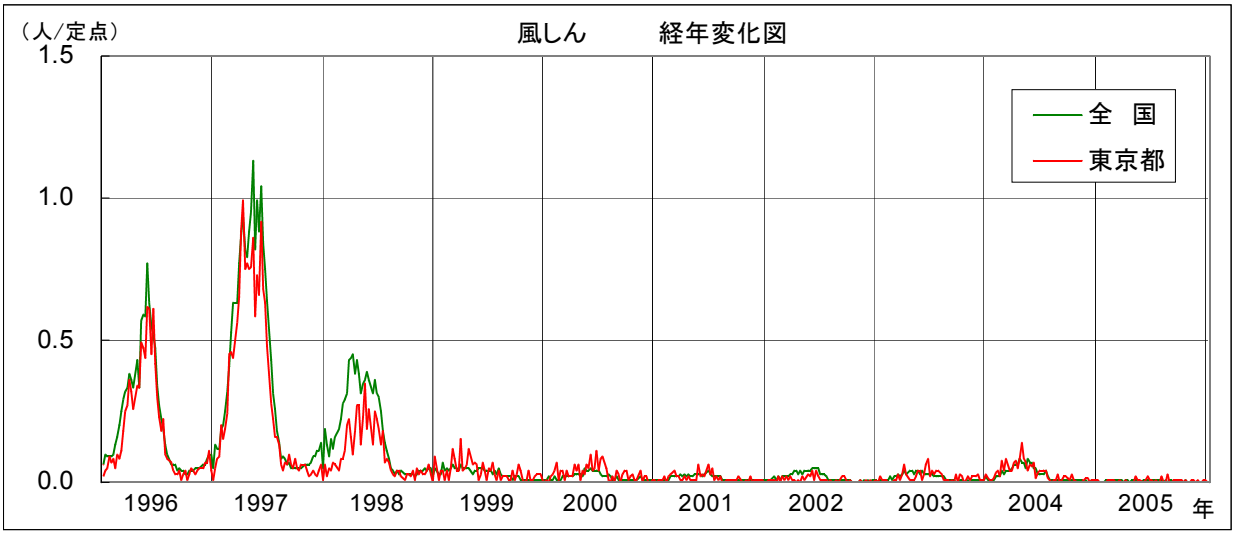


サ　風しん

当年の年間報告数は 40 件(0.28 人/定点)で、前年(234 件、1.65 人/定点)比 17.0%の激減であり、1998 年以来連続した減少推移が 2003 年と 2004 年の 2 年間の増加で中断したが、当年は再び減少し、過去 10 年間で第 10 位と最少報告であった。経年変化図によれば、風疹流行は 1992 年を中心とした 3 年間の流行期の後、1994 年、95 年の非流行期を経て増加傾向を示し、97 年 15.75 人/定点(過去 10 年で第 1 位)を中心とした 3 年間の小流行期を経て 1999 年(2.01 人/定点)、2000 年(1.59 人/定点)、2001 年(0.80 人/定点)、2002 年(0.50 人/定点、過去 10 年で 9 位)と連続的減少の後、2003 年(1.01 人/定点)、2004 年(1.65 人/定点、過去 10 年で 5 位)の連続微増加年をみて、2004 年には先天性風疹症候群(全国：10 例、うち東京 3 例)が注目された。当年の風疹発生推移は、流行を思わせる山はなく、年間のピークは第 33 週(0.03 人/定点)であり、次位の第 18 週、第 23 週、第 30 週(いづれも 0.02/定点)も低値であった。

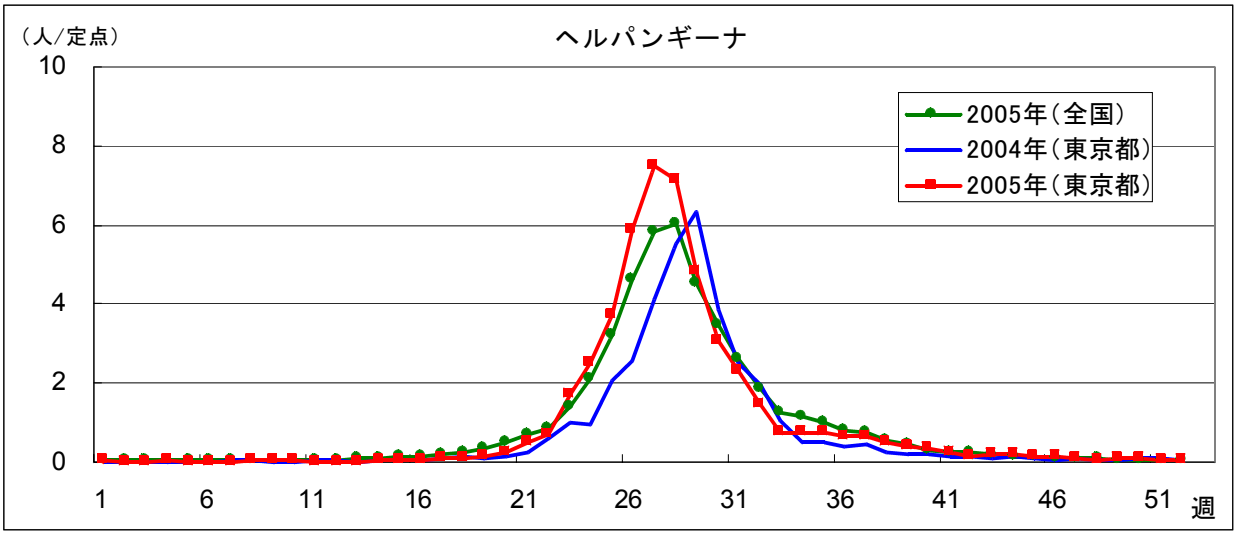
罹患年齢分布は 2 歳未満 20.0%(8 件)、2 ～ 5 歳 42.5%(17 件)、6 ～ 9 歳 10.0%(4 件)、10 歳以上(11 件)であり、ブロック別発生状況は、各圏に少数散発しており、特徴はみられなかった。

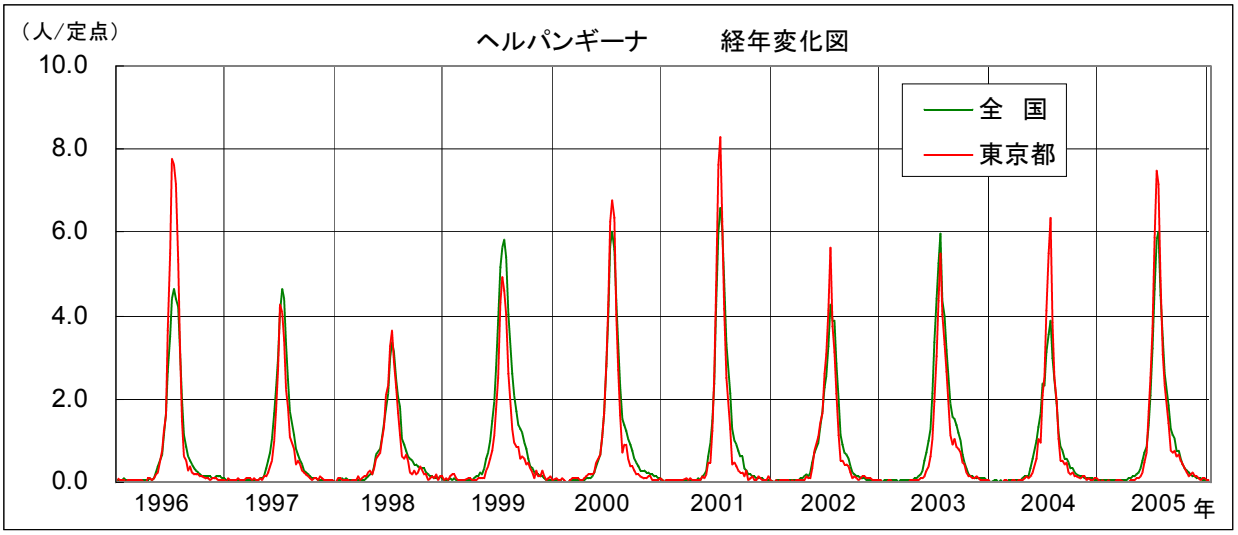




シ　ヘルパンギーナ

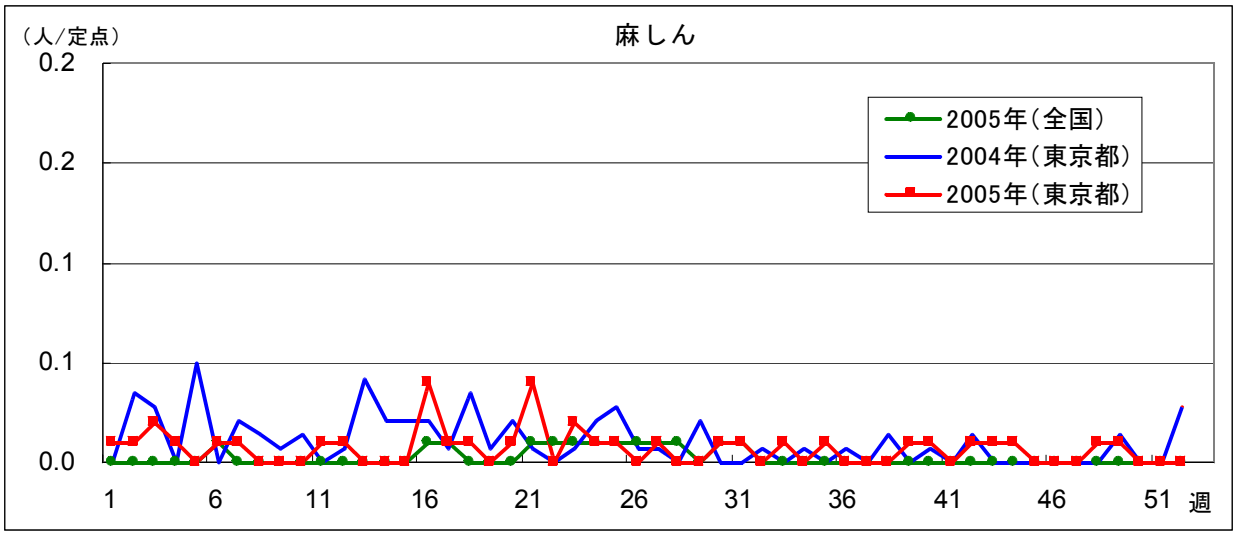
当年の年間報告数は 6,909 件(48.65 人/定点)で、前年(5,275 件、37.15 人/定点)比 131.0%の増加であり、過去 10 年間では第 2 位の報告数である。当年の流行は第 23 週(1.69 人/定点)から第 32 週(1.44 人/定点)に及ぶ単峰型流行で、ピークは第 27 週(7.49 人/定点)であり、昨年のピーク(第 29 週 ; 6.33/定点)より高く、また、本年の全国流行像のピーク(第 28 週、6.04 人/定点)よりも高い。本症は毎年流行を繰り返しているが、過去 10 年間の定点当り年間報告では、最多は 1996 年 50.42 人/定点、第 2 位当年 48.65 人/定点、第 3 位 2000 年 46.32 人/定点、次いで 2001 年、1999 年、2004 年、2002 年、2003 年、1998 年、第 10 位 1997 年の順であった。過去 10 年間の発生の最高値は 2001 年(第 28 週;8.31 人/定点)で、第 2 位 1996 年(第 27 週 ; 7.77 人/定点)、第 3 位当年(第 27 週(7.49 人/定点)、第 4 位 2000 年(第 28 週;6.76 人/定点)であり、定点当り年間報告数の過去最高は 1987 年 56.2 人であった。当年の罹患年齢は 1 ～ 3 歳(3,958 件)が 57.3%と過半数を占めるほか、4 ～ 6 歳(1,735 件、25.1%)がこれに次ぎ、年齢別頻度は例年ほぼ同様であり、ブロック別発生状況では、北多摩北部圏、区東部圏、南多摩圏に多く、北多摩西部圏、区西部圏に少なかった。





ス　麻しん（成人麻しんを除く）

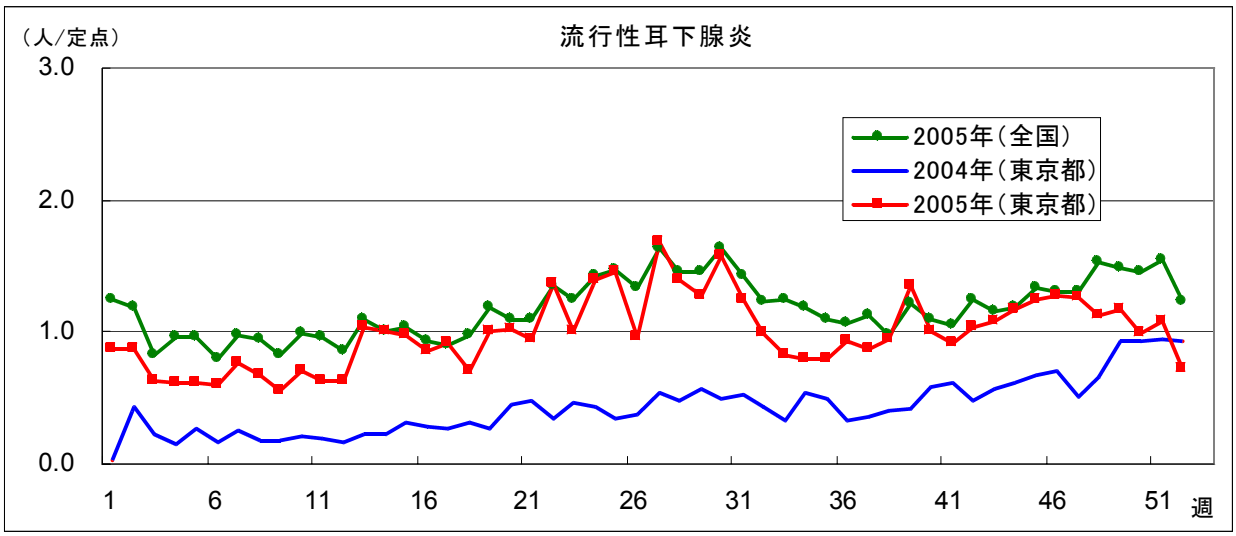
2005 年の年間報告数は 49 件(0.35 人/定点)で、前年(78 件、0.55 人/定点)に比べ 63.4%の減少報告であり、過去 10 年間では昨年についで第 10 位と最低であった。当年の報告数推移をみると、多発期は冬季から春季であるが、患者の集積性は低く、年間のピークは第 21 週(6 人、0.04 人/定点)で、次いで第 16 週(5 人、0.04 人/定点)、報告 3 人の週が 2 回、報告 2 人の週が 8 回、報告 1 人の週が 16 回であり、報告 0 人の週が 24 回であった。罹患年齢分布は 2 歳未満(16 件)32.7%、2 ～ 5 歳(19 件)38.8%であり、10 ～ 29 歳以上(4 件)8.2%である。10 歳以上の罹患者は 1987 ～ 78 年頃は 5%弱であったが、1994 年 12.4%、95 年 17.3%、96 年 17.0%、97 年 13.7%、98 年 15.6%、99 年 17.9%と増加傾向にあり、その後も 2000 年 21.4%、2001 年 26.4%、2002 年 31.6%、2003 年 29.8%であり、成人麻疹の増加が注目されている。当年の患者発生地域は全域に散発しており、特徴はない。過去 10 年の発生状況をみると、流行は小さいながらも流行年、非流行年がみられており、ワクチン未接種の未罹患児の集積が流行を招くことが伺われる。20 ～ 30 年前に比べると、麻疹は確かに減少し、流行の季節感は少なくなったが、現在でも春にやや多く発生する点は変わらない。世界の先進国のなかでは、わが国はまだ麻疹多発国であり、麻疹輸出国との指摘もあり、麻疹根絶対策の一層の強化が望まれる。



セ　流行性耳下腺炎

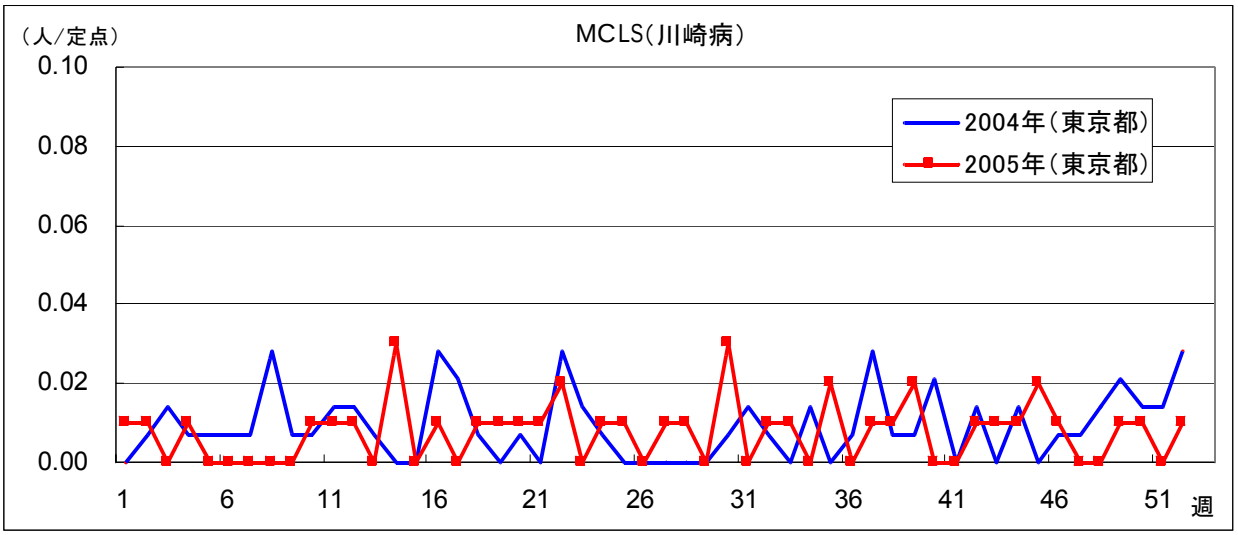
2005 年の年間報告数は 7,321 件(51.56 人/定点)で、前年(3,250 件、22.89 人/定点)比 225.3%の倍増であり、過去 10 年では第 1 位の報告数である。本症は元来春から初夏にかけて多発する傾向があるが、本年の流行像は昨年(過去 10 年で第 8 位)の低位微変動に続き、年初よりやや増加傾向を示し、初夏にかけて多発して第 27 週(1.68 人/定点)にピークをみた後、年末に向けて増減しながら経過している。

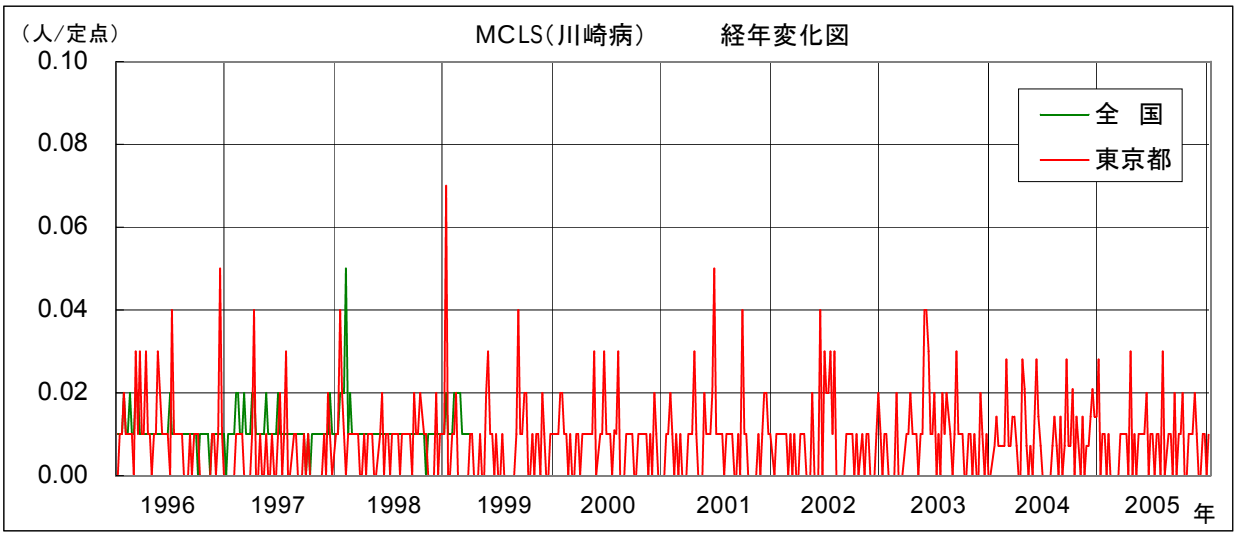
過去 10 年間の報告数順位は、第 1 位当年、第 2 位 2001 年(44.25 人/定点)、第 3 位 1997 年(42.93 人/定点)、第 4 位 1996 年(39.87 人/定点)、以下 2000 年(33.83/定点)、1998 年(26.15 人/定点)、2002 年(25.90 人/定点)、2004 年(22.89 人/定点)、1999 年(19.46 人/定点)及び第 10 位 2003 年(9.08/定点)であるが、長期的にみると、2 年目をピークとする 3 年続きの流行が推定され、1996、97、98 の 3 年間、2000、01、02 の 3 年間の各流行期と、その間の 1995 年、1999 年、2003 年は各非流行期をみることができる。当年は 2004 年からの流行期の 2 年目に相当する。当年の罹患年齢は、3 ～ 6 歳未満(4,448 件)60.8%、7 ～ 9 歳(1,268 件)17.3%、10 ～ 14 歳(399 件)4.6%、15 歳以上(331 件)4.5%で、例年と変りない。ブロック別発生状況は、西多摩圏、南多摩圏、区東部圏に多く、北多摩西部圏で少なかった。



ソ　ＭＣＬＳ（川崎病）

本症は東京都単独の調査対象疾患である。2005 年の報告数は 56 件（0.39 人/定点）であり、前年（69 件、0.49 人/定点）比 79.6%の減少で、過去 10 年間では第 9 位の報告数である。ＭＣＬＳは近年大きな患者発生がなく、最近 10 年間の最多報告年は 1996 年（69 件、0.89/定点）で、最少報告年は 1997 年（39 件、0.27/定点）であった。当年の発生報告が少なく、季節的発生傾向は明らかではない。年齢分布では乳幼児期に多い傾向（3 歳未満；31 人、55.4%）がみられるが、地域別発生状況に特徴はない。

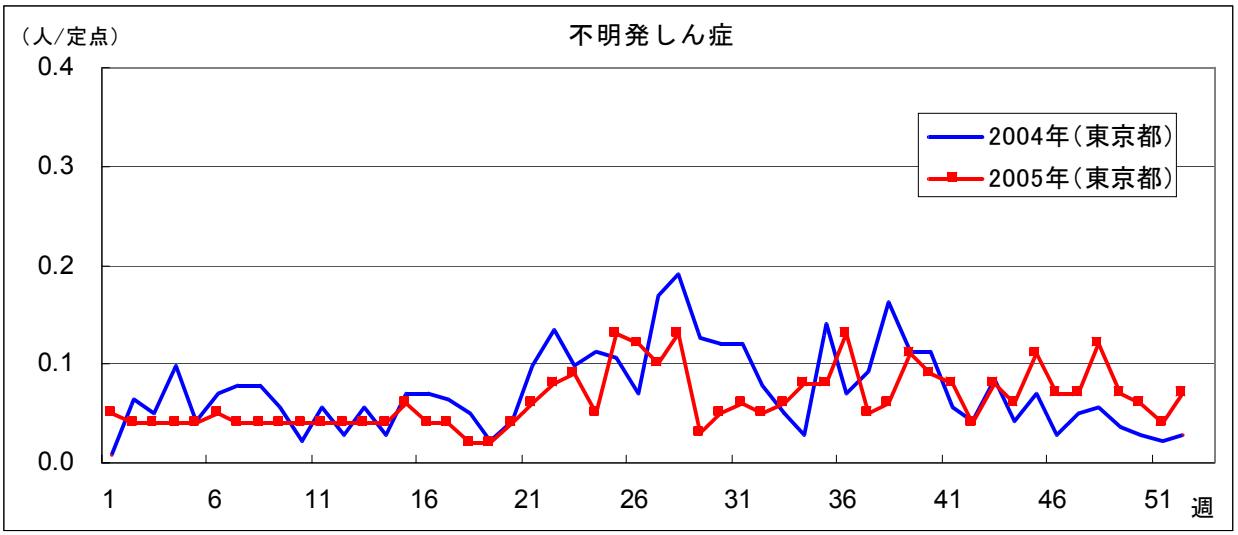


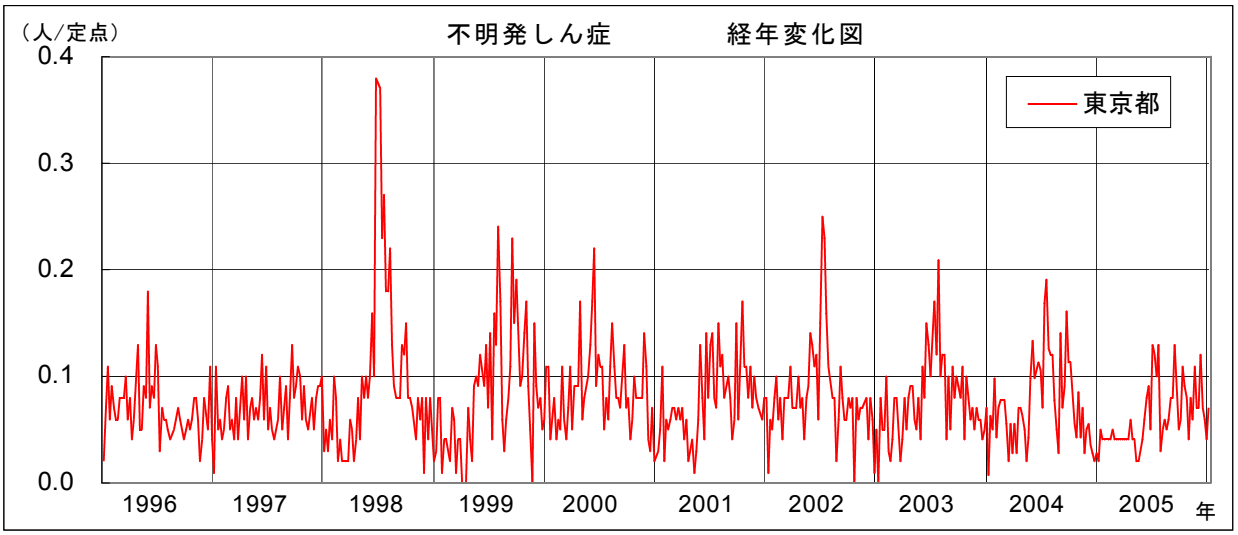


タ　不明発しん症

本症も東京都単独の調査対象疾患で、エンテロウイルスによる夏かぜ発疹症のほか、新規の発疹性感染症を想定している。

2005 年の報告数は 461 件(3.25 人/定点)で、前年(540 件、3.80 人/定点)比 85.5%の軽度減少であり、過去 10 年間では第 10 位である。この 10 年間の発生状況では大きな流行報告はなく、最多報告は 1998 年(5.00/定点)、次いで 2000 年(4.54/定点)、1999 年(4.45/定点)、2002 年、2001 年、2003 年、2004 年、1997 年、1996 年、当年の順であった。発生状況をみると、発生数が少なく傾向があきらかではないが、第 20 週頃から増加し、増減を示しながら秋まで続いている。罹患年齢は、3 歳未満(295 件)が 64.0%を占めていた。ブロック別発生状況では、南多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏に多い傾向があるが、特徴はみられない。





（３）眼科疾患

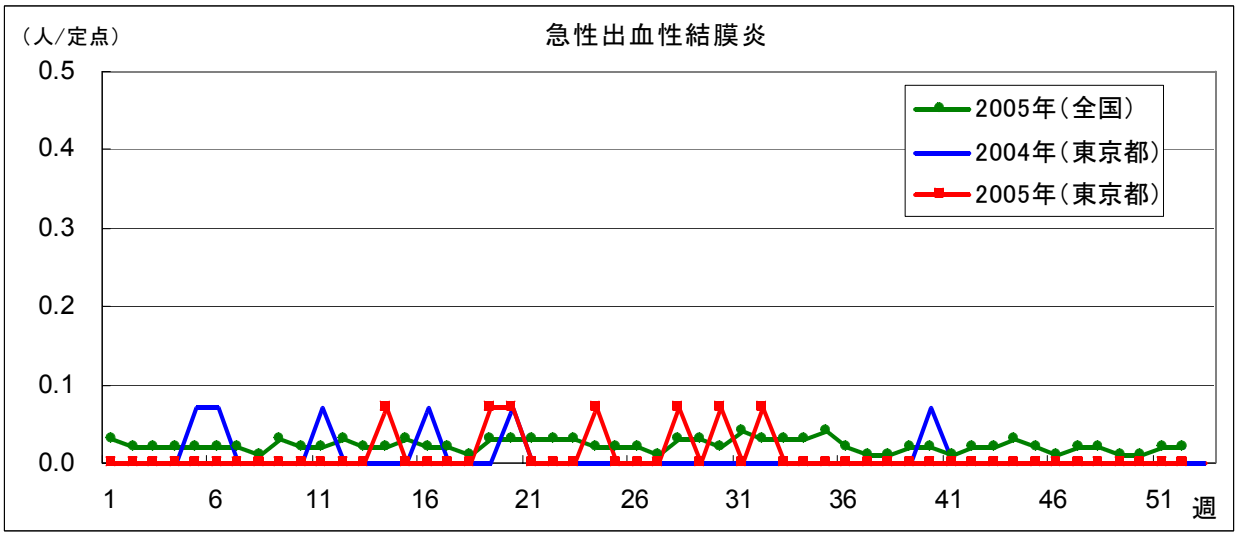
ア　急性出血性結膜炎

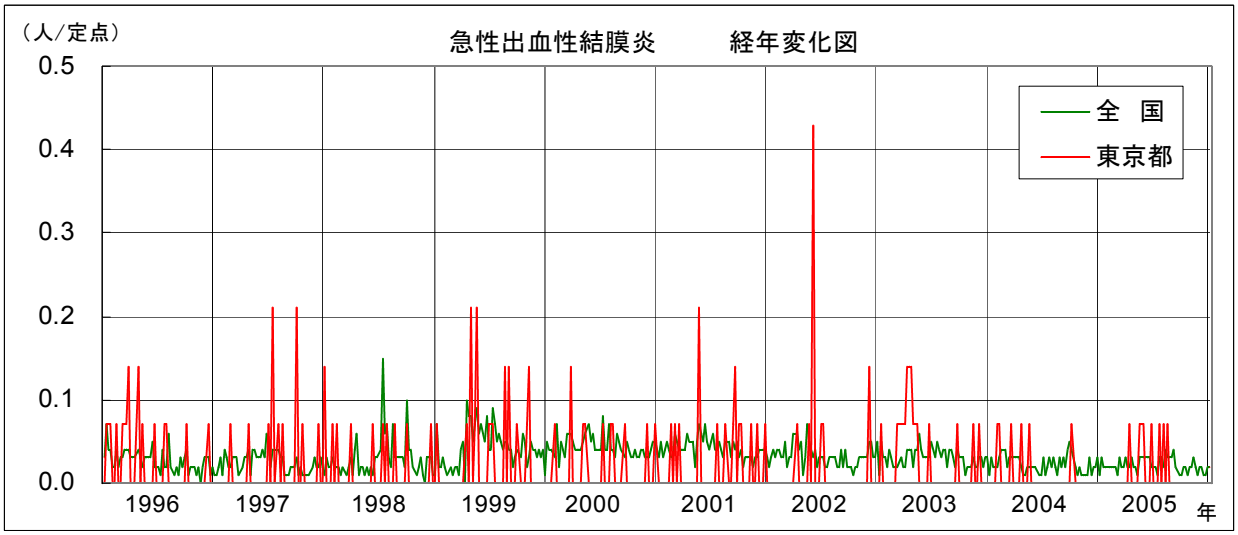
2005 年の報告数は 7 例（定点あたり 0.50 人）で、前年の報告数 6 例（定点あたり 0.43 人）より微増はしたが、年間発生が 10 例以下の低いレベルを保っていた。東京都では 1994 年に定点あたり 2.00 人以下となり、1998 年、2000 年、2002 年、2004 年、2005 年と定点あたり 1.00 人以下になっている。

患者発生数推移にはあまり特徴がなく、全例が 4 月から 8 月の間に発生していた。全てが散発例で、2 例以上の集中した発生は見られなかった。

地域的には 4 例が池袋であった他には特別な偏りは見られなかった。

罹患年齢は、全例が 20 歳から 49 歳の成人で、うち 5 例が 20 歳から 29 歳であった。





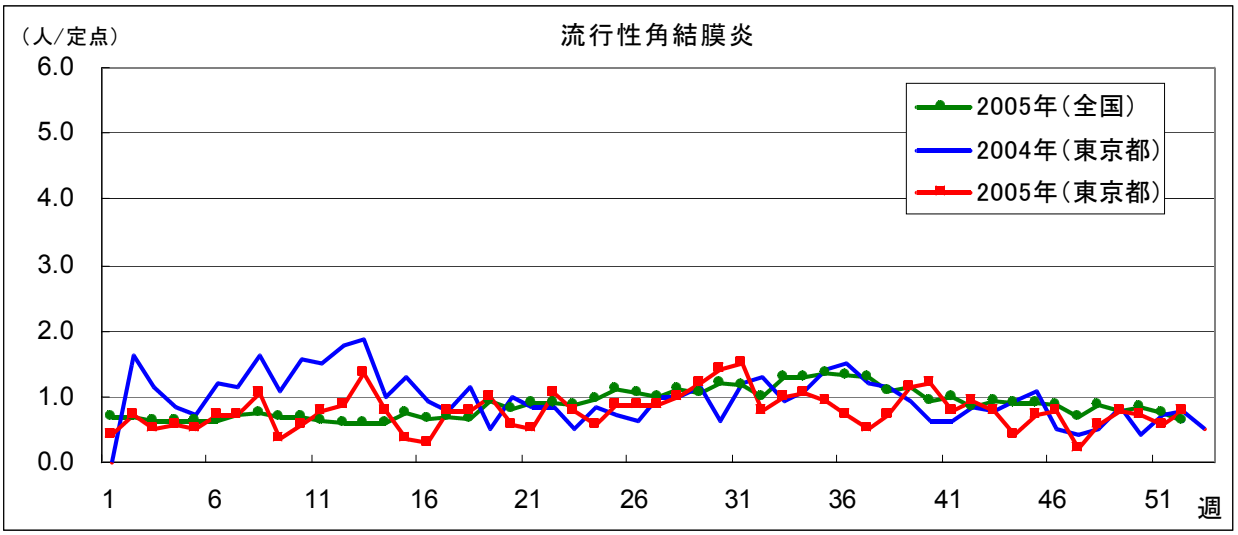
イ　流行性角結膜炎

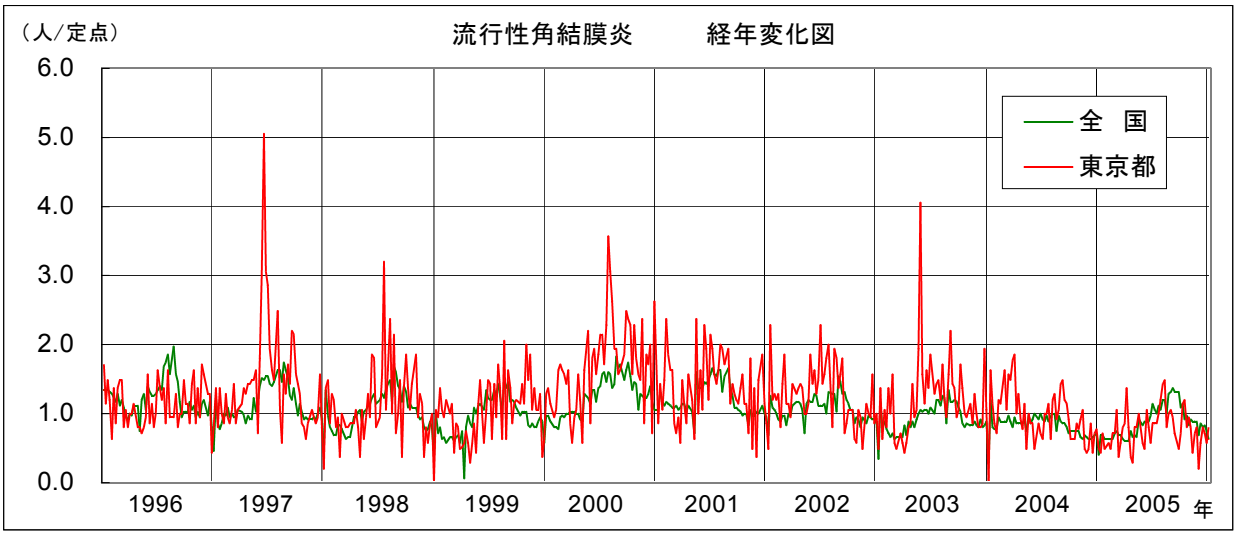
2005 年の報告数は 567 例（定点あたり 40.50 人）で、前年の報告数 719 例（定点あたり 51.36 人）の 78.9%と 5 年連続して減少し、定点数が現在の 14 カ所となった 1991 年以降で最低の発生数となった。

患者発生数推移はほぼ平均しており、一週間に 20 例以上の発生を見たのは第 30 週と第 31 週の夏のみである一方、10 例を割る週も 7 月 8 月に見られないだけで通年に散在していた。この様に多少の変動は見られたが、一年を通じて定点あたり 1.50 人以下の発生であり、1.00 人を超えたのは年 52 週中 12 週だけであった。全国の発生も一年を通じて定点あたり 1.00 人前後を推移しており、東京都も同様で大きな乖離は見られなかった。

地域的には、新宿区（170 例）、文京（83 例）が目立っていたが、これは例年のことで、角結膜疾患を専門とする大学施設が定点に含まれていることの影響があると考えられた。また、23 区部での発生が 411 例（72.5%）と多かった。

罹患年齢の傾向も例年通りで、20 歳から 39 歳が 279 例と約半数を占め、20 歳から 59 歳が 408 例（72.0%）であった。10 歳未満の 67 例（11.8%）は各年齢層に分散し発生していたが、1 歳 2 歳にやや多い傾向を示した。



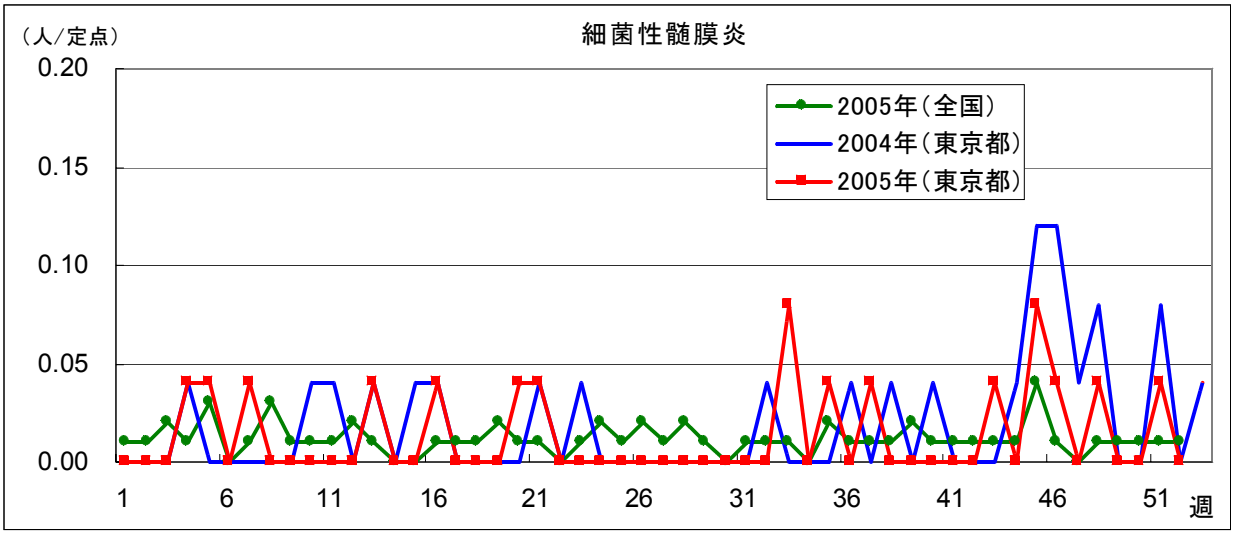


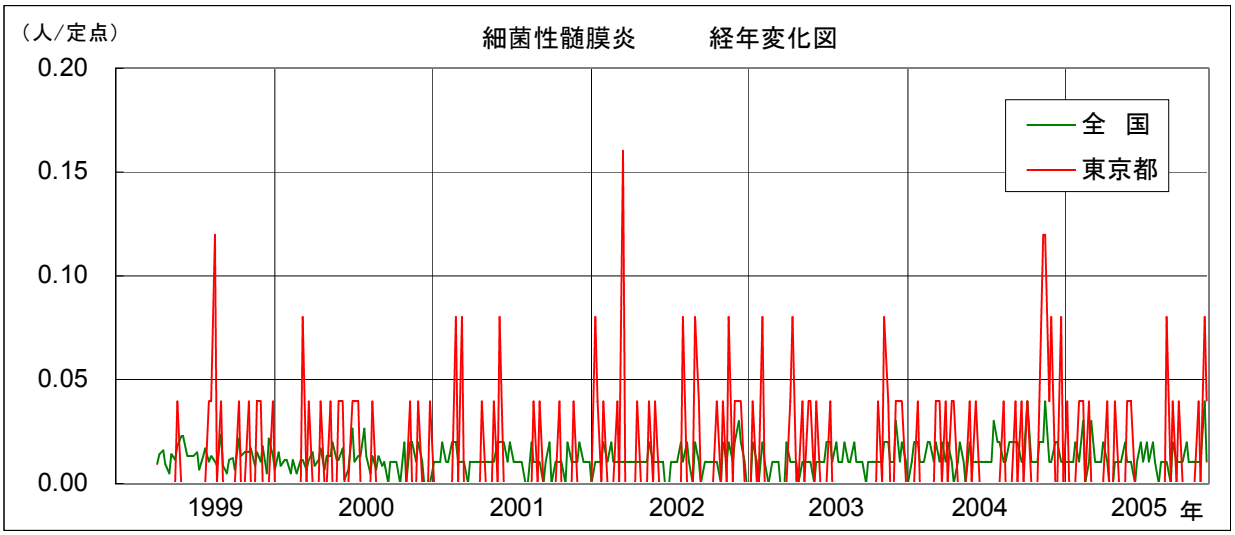
（４）基幹定点における週報告疾病

ア　細菌性髄膜炎

2005 年の患者報告数は 17 件(0.68 人/定点)であり、前年(25 件、1.00 人/定点)比 68%の減少であった。

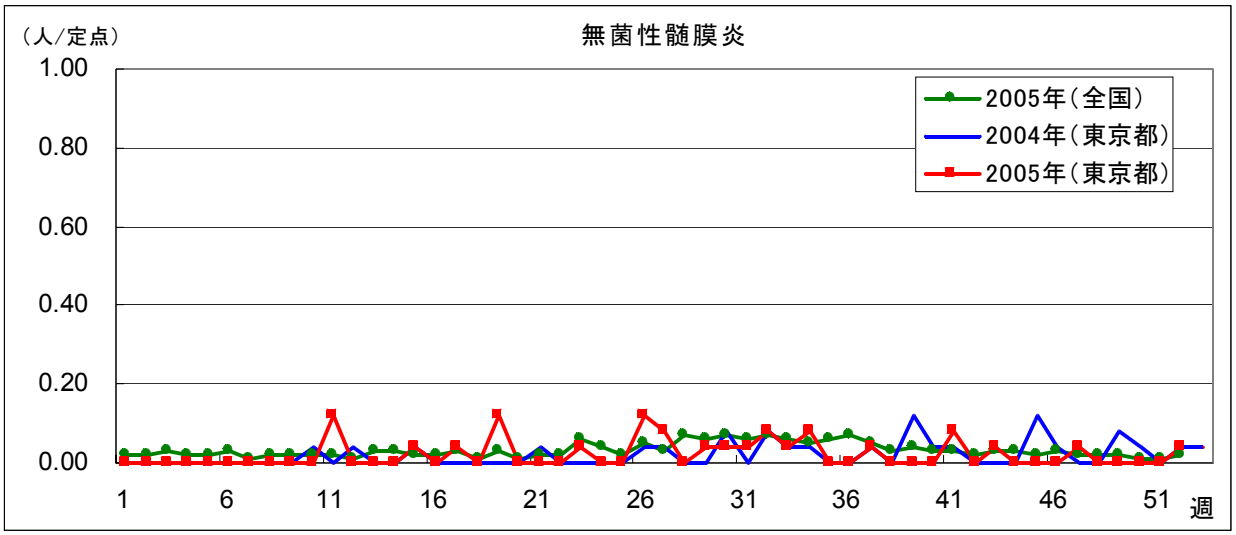
患者報告は、1 ～ 2 件/週の割りに広く年間に分散しており、春秋の候にやや多い傾向もあるが明らかではない。年齢的には 12 か月未満 8 件、1 ～ 3 歳 4 件で、4 歳未満 12 件(71%)の乳幼児に多い傾向をみるが、少数報告であり、明らかではない。地域的には世田谷区 6 件が目立つが、特徴は認められない。

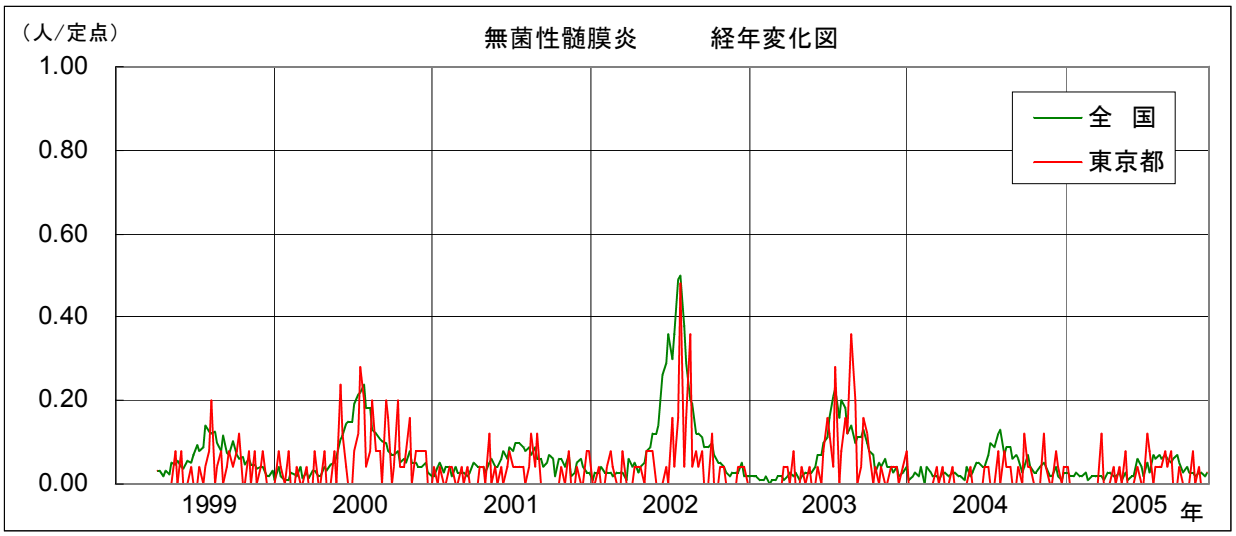




イ　無菌性髄膜炎

当年の患者報告数は 28 件(1.12 人/定点)であり、前年(27 件、1.08 人/定点)に比べ 104%の横這いである。発生時期は、第 26 週から第 34 週の間に 13 件(46%)が報告された。同期間は 6 月下旬～ 8 月下旬の夏季であり、エンテロウイルスによる無菌性髄膜炎が想定される。罹患年齢は 6 か月未満 6 件、1 ～ 6 歳 6 件(21%)、8 ～ 9 歳 3 件で、乳幼児に多い傾向があるが、例数少なく明確ではない。発生地域では、世田谷区(9 件)、文京区(6 件)が多いが、特徴はみられない。



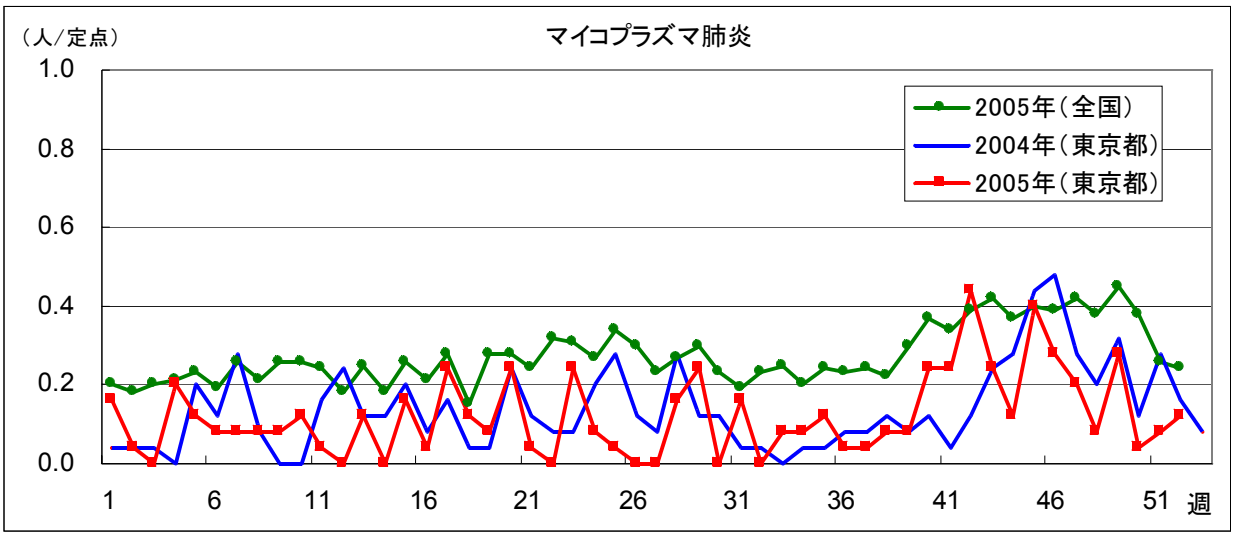


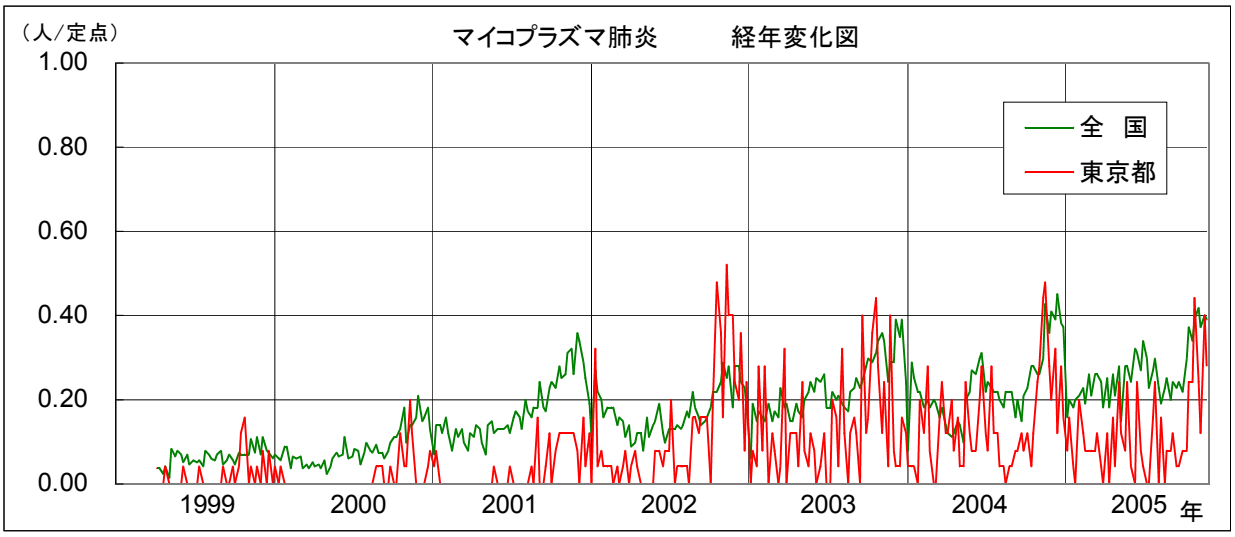
ウ　マイコプラズマ肺炎

感染症予防法施行以前は「異型肺炎」として定点報告疾患として集計されたが、法施行後は基幹定点から確定診断を伴う報告対象疾患である。

本症患者報告数は 164 件(6.56 人/定点)であり、前年(184 件、7.36 人/定点)比 89%の軽度減少であった。

1999 年調査開始以来昨年まで、連続増加、ないし増加傾向にあったが、当年は減少した。当年の発生報告から年間を通じて発生しているようであるが、第 15 週～第 25 週に小計 38 件(23%)、第 40 週～第 49 週に小計 65 件(40%)報告されており、春秋の候に多い傾向がみられる。罹患年齢は、12 か月未満 9 件(5.5%)、1 ～ 3 歳 73 件(44.5%)、4 ～ 6 歳 37 件(22.6%)、7 ～ 14 歳 37 件(22.6%)、15 歳以上 8 件(4.8%)であり、幼児、学童に多く、報告地区は板橋区、新宿区から多く報告されたが、地域的特徴はみられない。

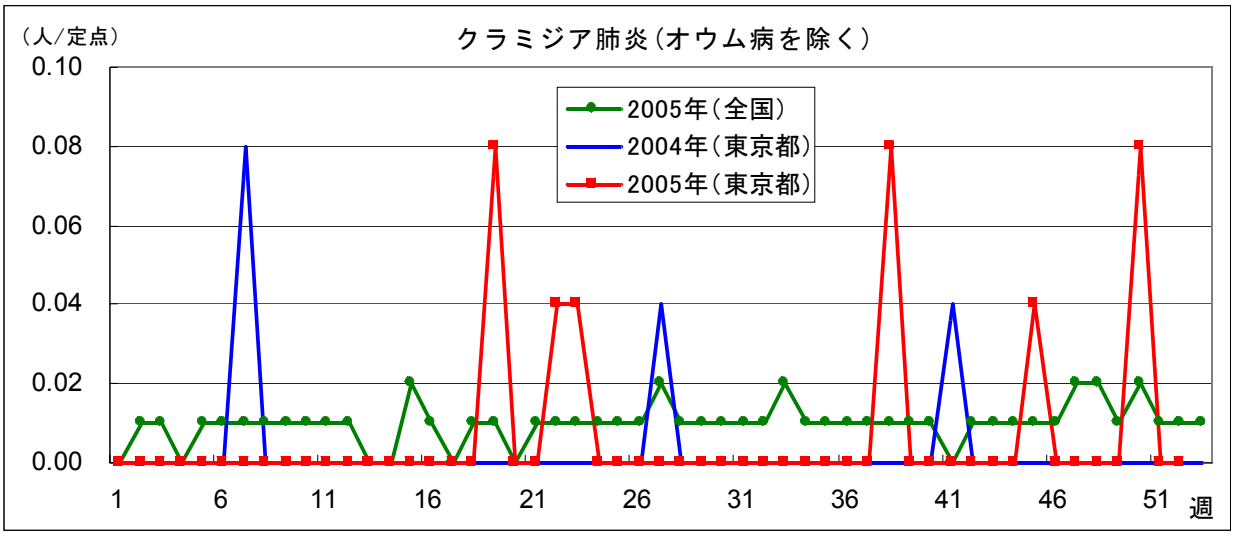


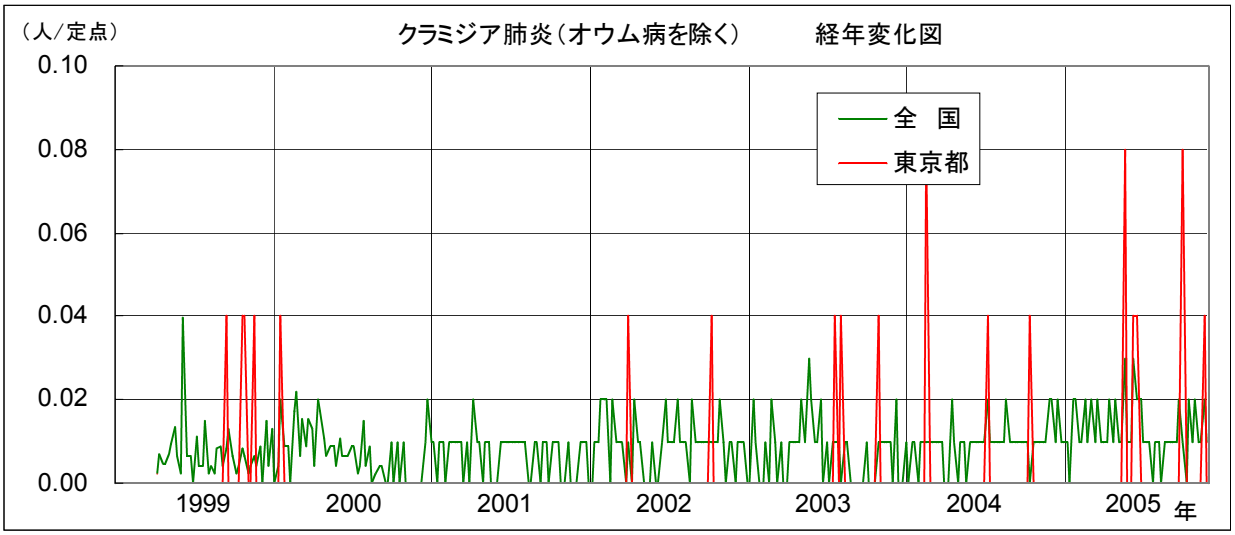


エ　クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2005 年のクラミジア肺炎患者報告数は 9 件(0.36/定点)で、前年(4 件、0.16 人/定点)より 5 件多い。

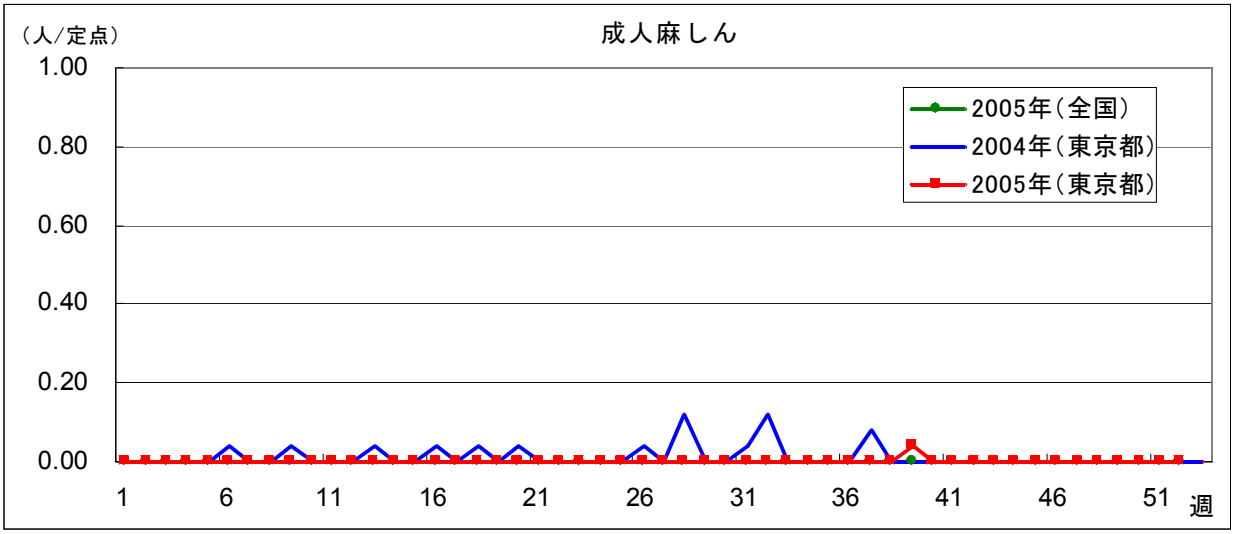
その内訳は第 19 週、38 週、50 週が各 2 件、第 22 週、23 週、45 週が各 1 件であり、罹患年齢は全て 40 歳以上の成人で、全員港区在住者であったが、特別な要因は認められなかった。。

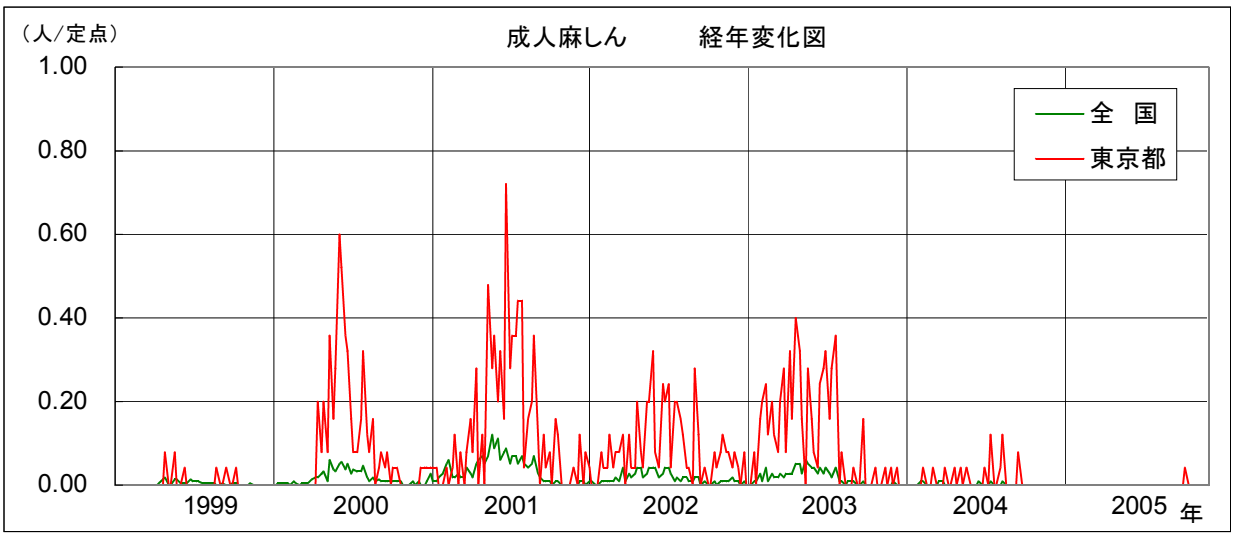




オ　成人麻しん

2005 年の成人麻疹患者報告数は 1 件(0.04 人/定点)であり、前年(16 件、0.64 人/定点)比 6%の激減であった。患者発生は第 39 週、北多摩北部圏で、20 ～ 29 歳女性、感染源は明らかでない。

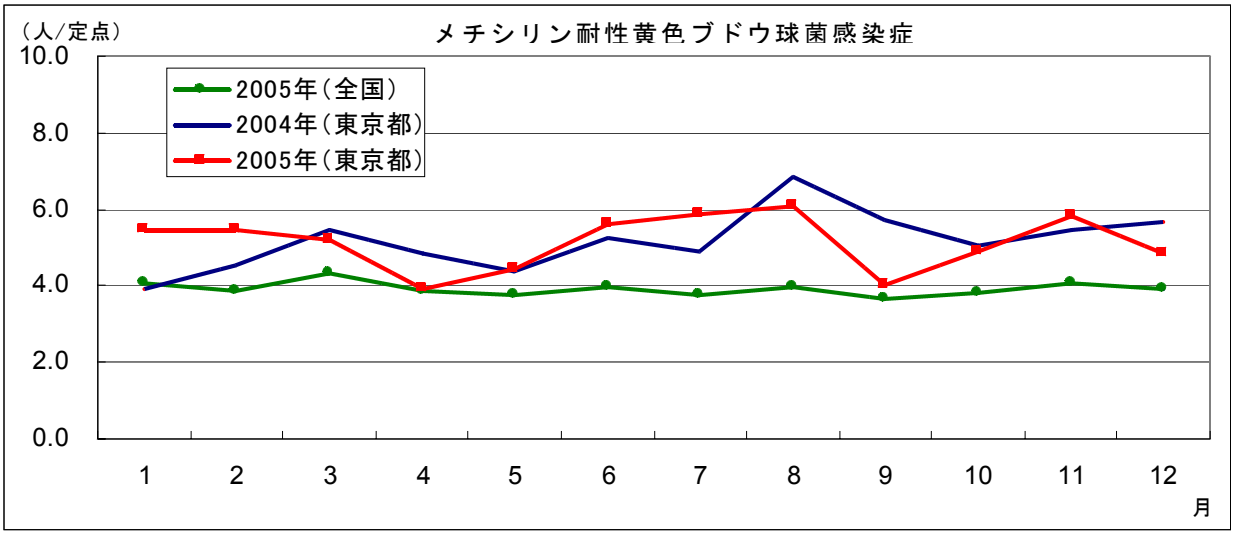


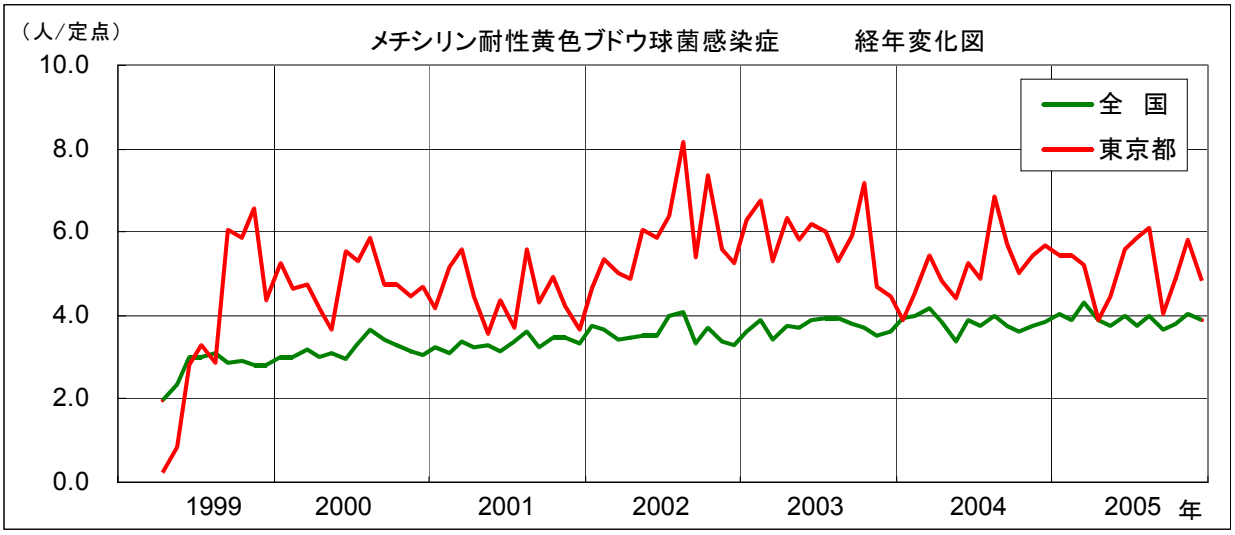


（５）基幹定点における月報告疾病

ア　メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

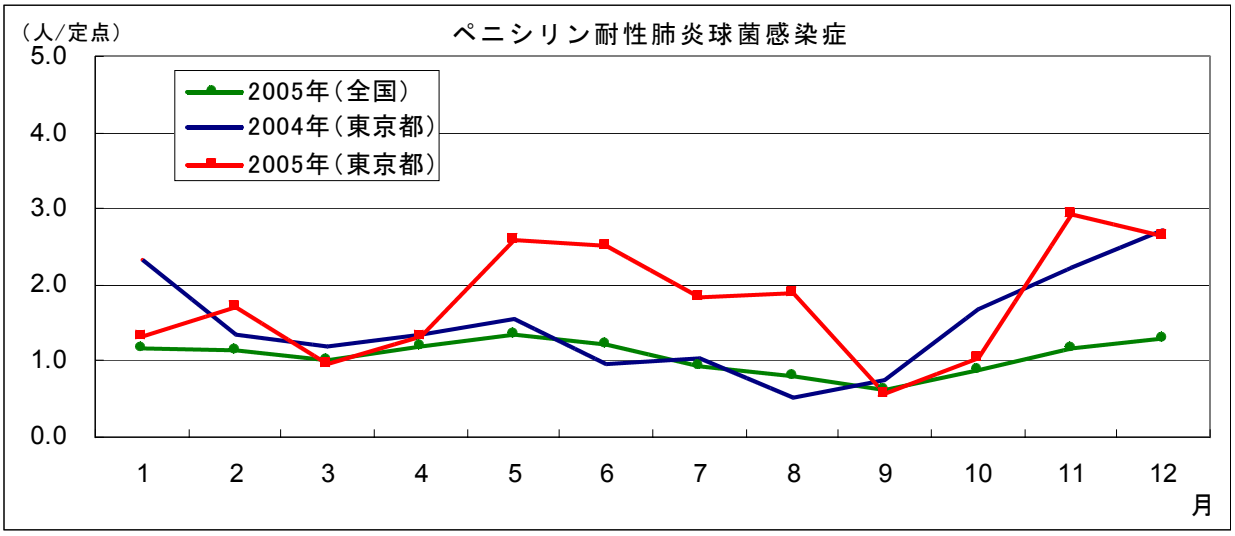
2005 年の本症患者報告数は 1,539 件(61.56 人/定点)で、前年(1,552 件、62.08 人/定点)比 99.2%の横這い状態であり、患者の性別比は、男性 1,009 件、女性 530 件で男：女＝ 2：1 であった。前年患者の男子 1,022 件、女子 530 件と当年の夫々を比べると、男性 98.7%、女性 100.0%で、男子、女子とも差がみられない。月別報告をみると、男子は 67 件から 102 件に分散しており、女子は 28 件から 64 件に分散し、男女とも夏季にやや多い傾向がみられるようだが、季節差は明かではない。罹患年齢は男女とも 10 歳未満(男児 127 件；12.6%、女児 109 件；20.6%)と成人男性は 50 歳以上(771 件；76.4%)、成人女性は 55 歳以上(329 件；62.1%)に多い傾向がみられる。

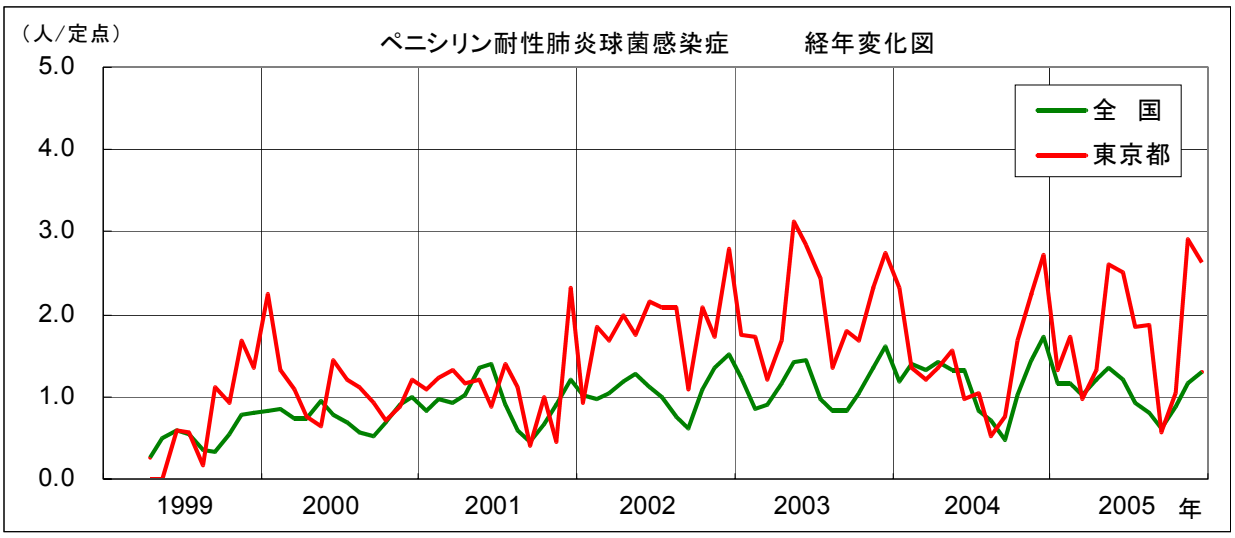




イ　ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

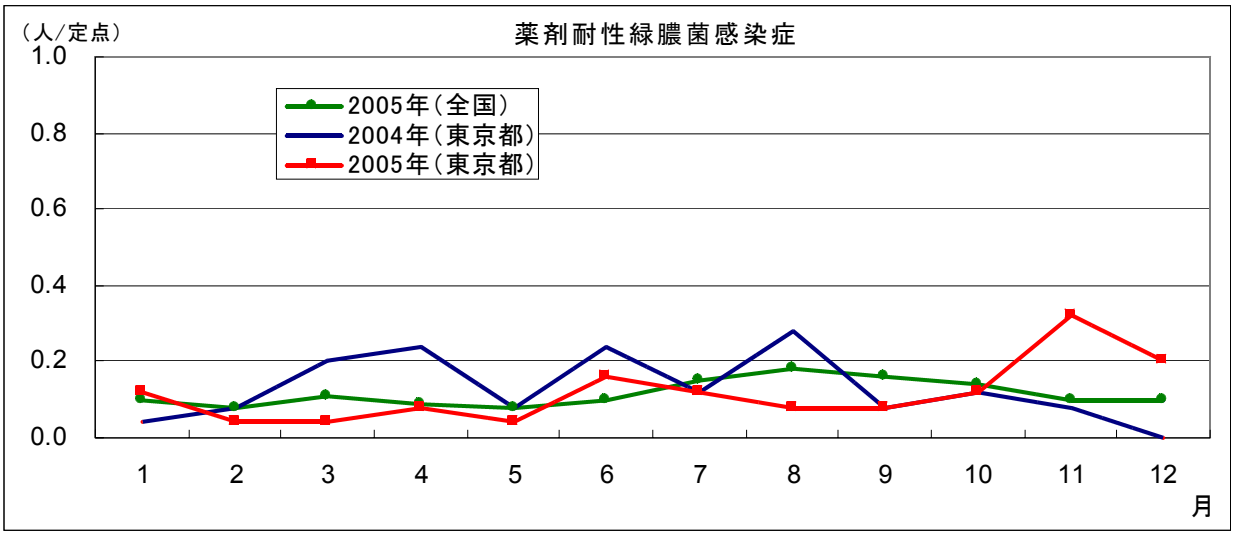
2005 年の本症患者報告数は 534 件(21.36 人/定点)で、前年(444 件、17.76 人/定点)比 120.3%の軽度増加であり、男性 306 件、女性 228 件、男：女＝ 1.3：1 である。前年(男性 277 件、女性 167 件、計 444 件)と比べると、男性 110.5%、女性 136.5%の増加であった。月別患者報告状況は、男女とも 5 ～ 8 月にやや多く、9 ～ 10 月にやや少なくなる傾向をみるが、明らかでない（昨年は 5 ～ 7 月にやや多く、8 ～ 10 月にやや少ない傾向であり、一昨年は 5 ～ 6 月にやや多く、8 ～ 10 月にやや少ない傾向であった)。患者の年齢分布は、男女とも 5 歳未満(男児 175 件；57.2%、女児 147 件；64.5%)と 70 歳以上(男性 48 件；15.7%、女性 21 件；9.2%)に多かった。

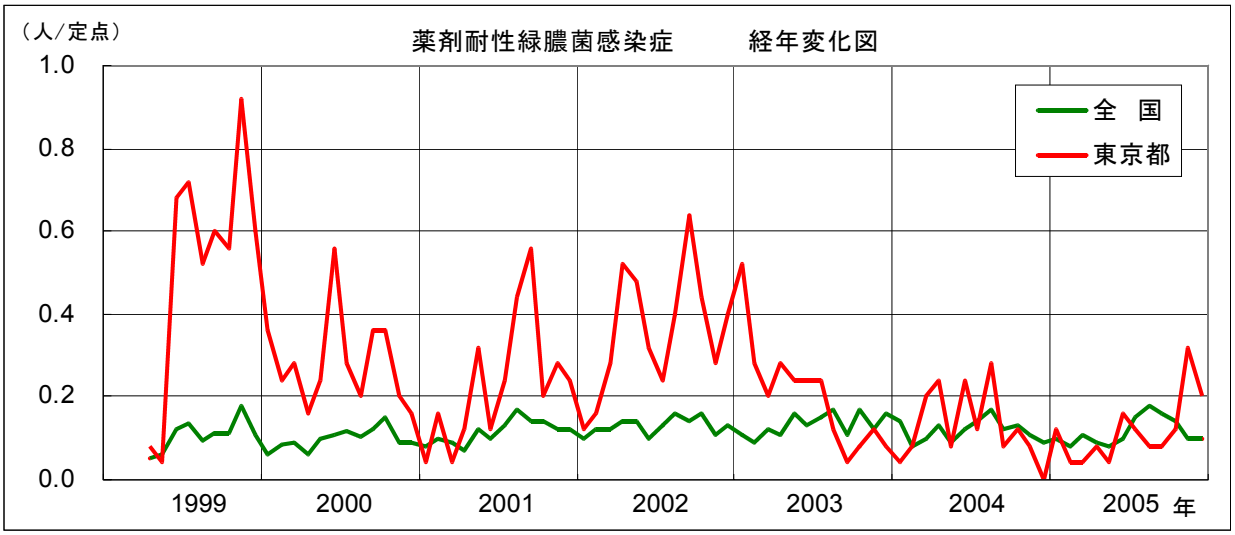




ウ　薬剤耐性緑膿菌感染症

当年の本症の報告数は 35 件(1.40 人/定点)で、前年(39 件、1.56 人/定点)比で 89.7%、軽度減少であり、男性 25 件、女性 10 件、男：女＝ 2.5：1 である。性別を前年(男性 26 件、女性 13 件)と比べると、男性 96.2%で横這い、女性 76.9%で減少あった。罹患年齢は男性は 55 歳以上(18 件、72%)に多く、女性は 70 歳以上(7 件、70%)に多くみるが、例数が少なく、明確ではない。月別患者報告は分散しており、好発季節も明らかな傾向を見出せない。



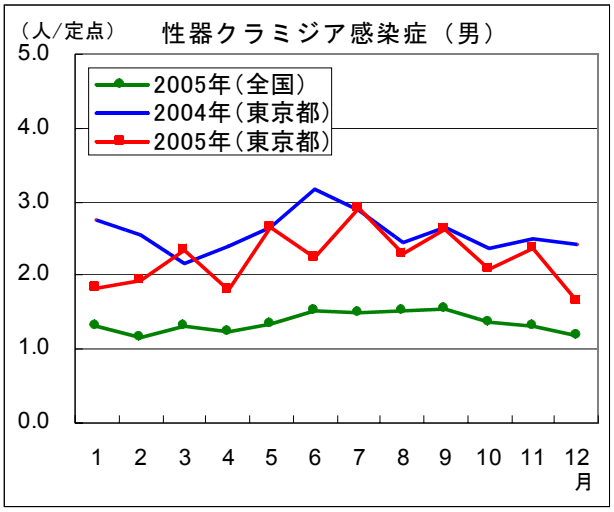


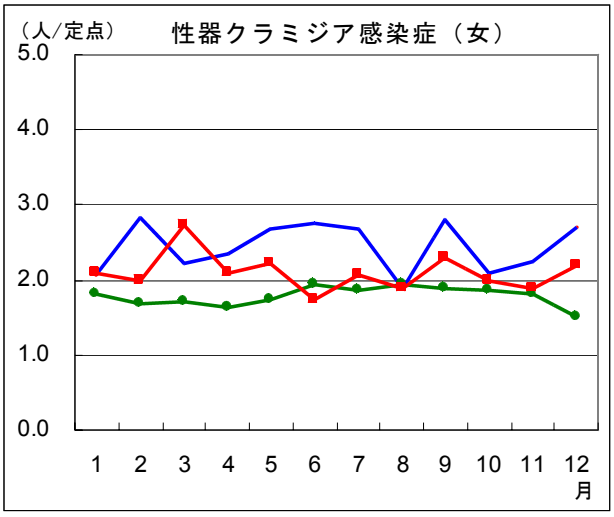
（６）性感染症

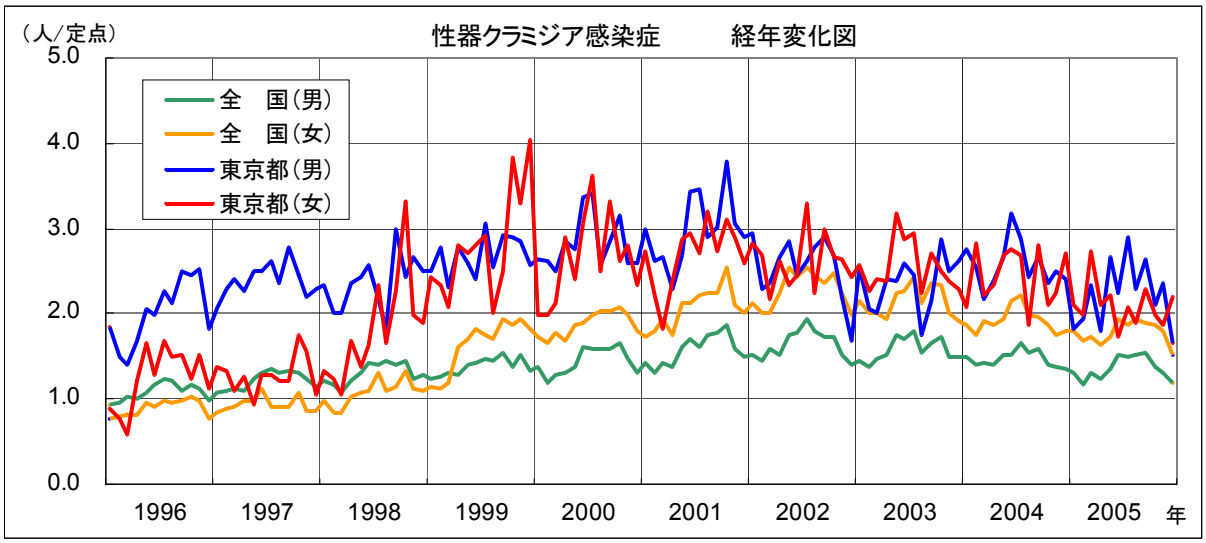
2005 年、東京都のＳＴＩ定点からの総報告数は 4,871（5,596）、前年比 13.0%の減少である。内訳は男子 2,802（3,112）、女子 2,069（2,484）。（括弧内は 2004 年報告数。以下同様）ＳＴＩ全体では男子 10.0%、女子 16.7%の減少である。トリコモナス男子、梅毒男子を除いて全ての男子、女子で減少がみられ、とくに診断のバラツキが少なく指標疾患である淋病、クラミジアに減少が著しい。この減少にはセフトリアキソン（ＣＴＲＸ）、アジスロマイシン（ＡＺＭ）による淋菌、クラミジアの単回投与療法の保険適用の影響が大きいと思われる。最多疾患はクラミジア 2,132（2,476）以下、淋菌 1,006（1,171）、ヘルペス 923（982）、コンジローマ 555（627）、トリコモナス 212（298）、梅毒 43（42）で、報告症例数の順位は 1998 年以後不変である。梅毒については全数報告数がＨＩＶ/エイズの 1/5、アメーバ赤痢を下廻るなど診断、報告の不充分、不適切がつづいている。ＳＴＩの若年化に歯止めはなく、2005 年には 10 ～ 14 才年令層女子のクラミジア、ヘルペスが記録されている。クラミジアの抑制には無症状者のスクリーニングが不可欠であり、非侵収性の尿からの検出によるスクリーニングの、とくに低年令層の女子を対象とする普及が抑制のカギとなると思われる。クラミジアと淋菌の同一検体からの検出はアンプリコアＰＣＲなどですでにながく可能であったが、保険適用では両者のいずれかが 240 点とされ、同時検出はきわめて不合理にも不認であった。2006 年 2 月アプティマ　コンボ２がはじめて淋菌とクラミジアとの同時検出試薬として 300 点で保険収載となったことはきわめて遅ればせであるが望ましいことである。

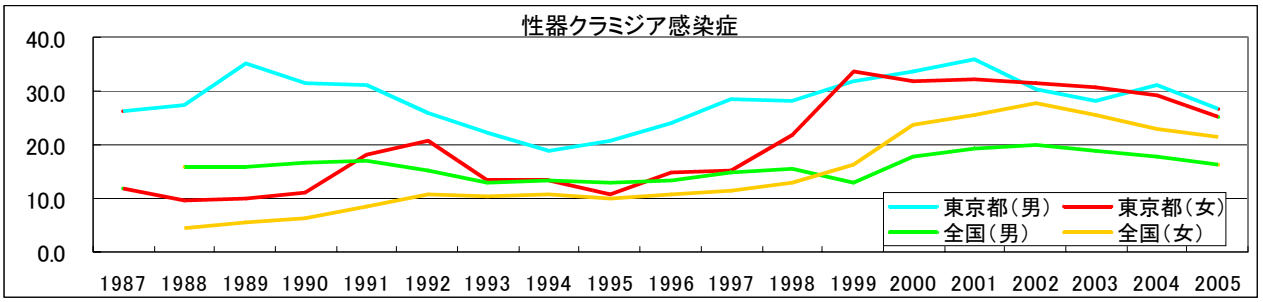
ア　性器クラミジア感染症

報告数は男子 1,100（1,273）、女子 1,032（1,203）。男子、女子共に前年を下廻り、前年につづいて男子が女子を上廻った。淋菌と同じく男子尿道、女子頸管を初感染部位とするクラミジアは、男子では淋菌に比してきわめて軽度であるが排尿痛、分泌物の自覚症状があるが、女子では症状の自覚はない。男子の感染は、19 世紀と淋菌の発見当時から「非淋菌性尿道炎」としてその存在が認識されていたが、女子の感染はクラミジアの検出が可能となる 1980 年代まで知られず、その後急速にクラミジア卵管炎が卵管閉塞性不妊の主因であるとの理解が普及した。1980 年代、日本の若年女子のクラミジア頸管陽性率は全国各地で約 5%であり、たまたま病院で発見される陽性者の治療のみによってはモグラ叩きのように陽性率は低下せず、現在まで 20 年間ほぼ不変で持続している。昨年ようやく保険適用となったアジスロマイシン（ＡＺＭ）1 ｇ内服の単回投与療法は婦人科領域で普及しつつあり、ＡＺＭの呼吸器科領域などでの使用による偶然の性器クラミジア陰性化、またクラミジアの代表的ＳＴＩとの一般認識のゆき渡りとともに緩徐ではあるが本症の減少傾向が定着しつつあると思われる。


（人/定点）
性器クラミジア感染症（男）
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
2005年(全国)
2004年(東京都)
2005年(東京都)
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月

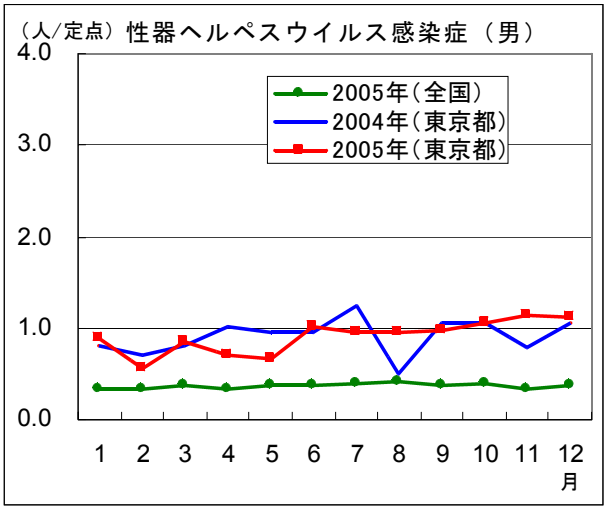

（人/定点）
性器クラミジア感染症（女）
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
月

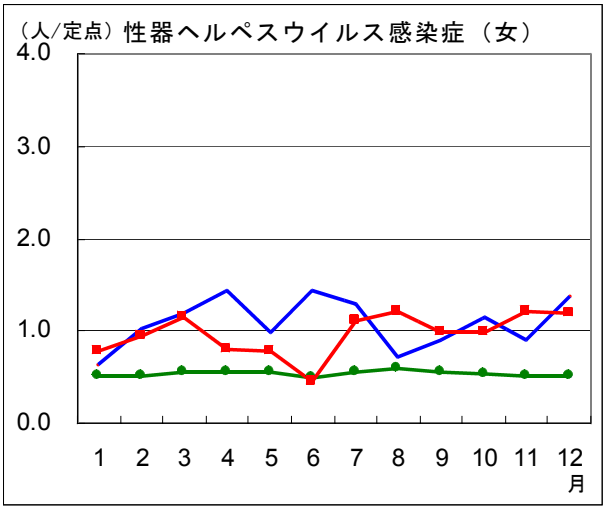

（人/定点）
性器クラミジア感染症　　経年変化図
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
全　国(男)
全　国(女)
東京都(男)
東京都(女)
1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005
年

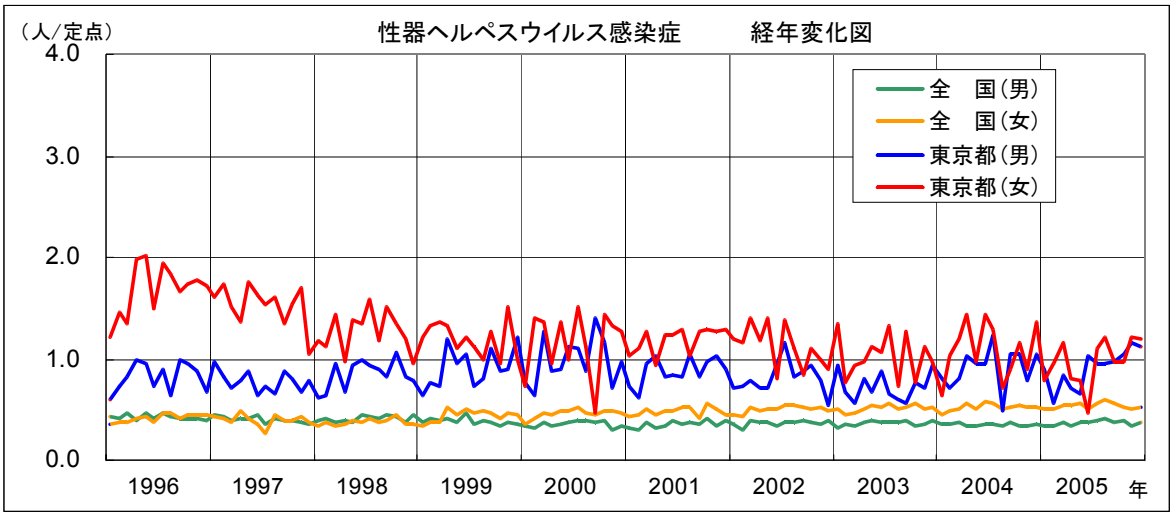

性器クラミジア感染症
40.0
30.0
20.0
10.0
0.0
東京都(男)
東京都(女)
全国(男)
全国(女)
1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

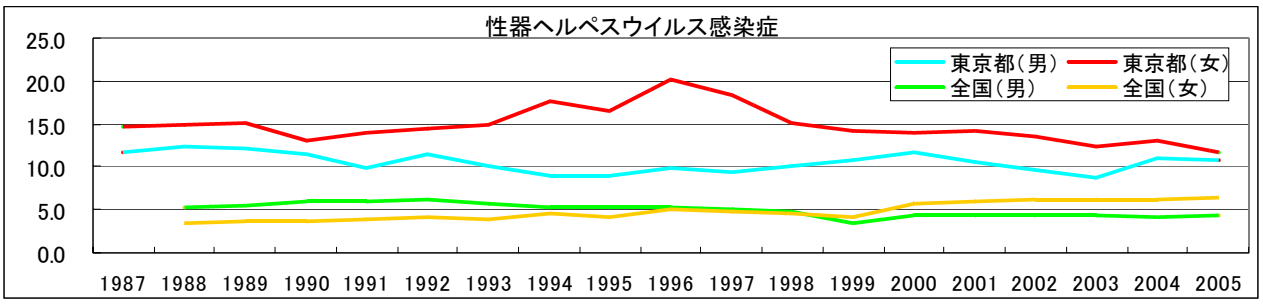
イ　性器ヘルペスウイルス感染症

報告数は男子 447（448）、女子 476（534）で昨年より少ないが、男子、女子ともに一昨年よりは多い。第 9 表で明らかなように本症の女子の罹患年令層はクラミジア、淋菌に比して著明に高令者に及んでいる。本症に対するアシクロビルは抗ウイルス薬として最初の成功例であるが、神経根に潜伏するヘルペスウイルスは陰性化せず、初感染部位の皮疹再発をくり返す場合がある。初発と再発との区別は困難で報告数には両者の混在が避けられない。



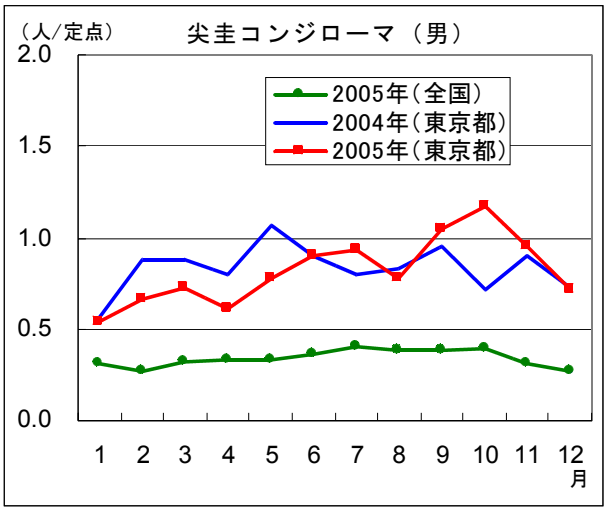


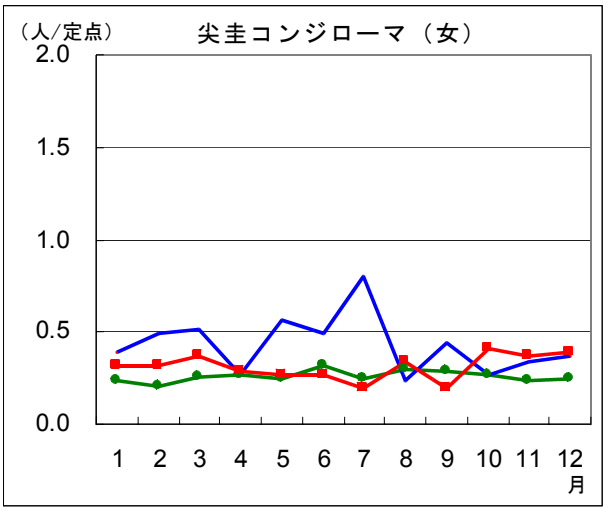


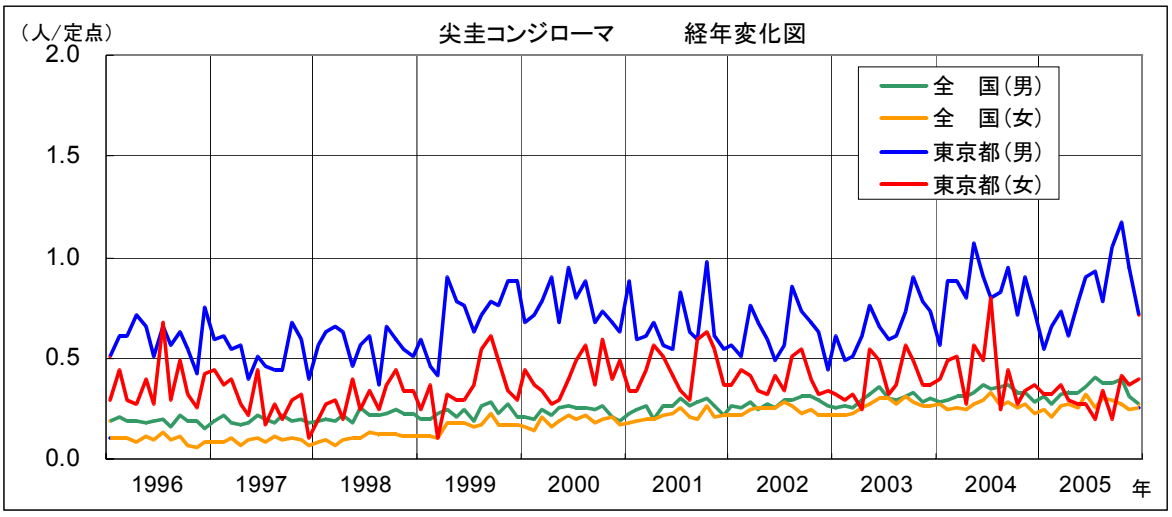


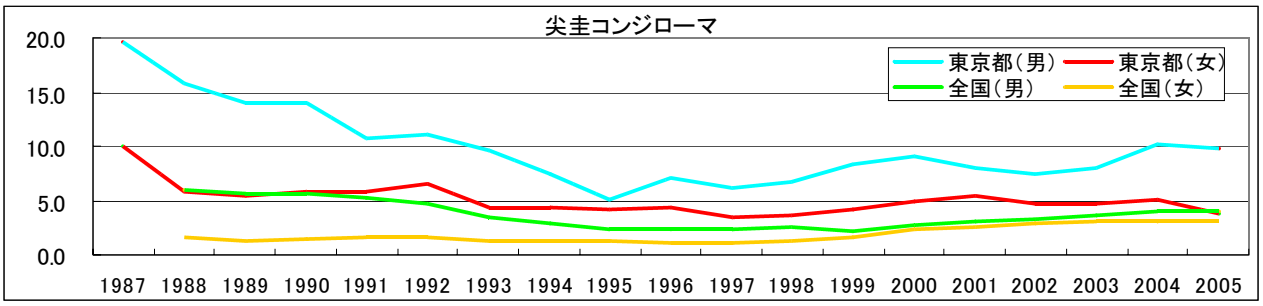
ウ　尖圭コンジローマ

報告数は男子 402（415）、女子 153（212）で、男子、女子ともに前年を下廻っている。表在性の本症は古代ローマから知られていたが、ウイルスによる STI との認識は、1954 年の日本、朝鮮からの米国帰還兵とその妻の本症罹患によってである。病因であるヒト乳頭腫ウイルスは培養不能であるため検出法の開発が遅れている。ハイブリッドキャプチャー法による経験ではウイルス陽性率は視診によるコンジローマ陽性率を大きく上廻っている。



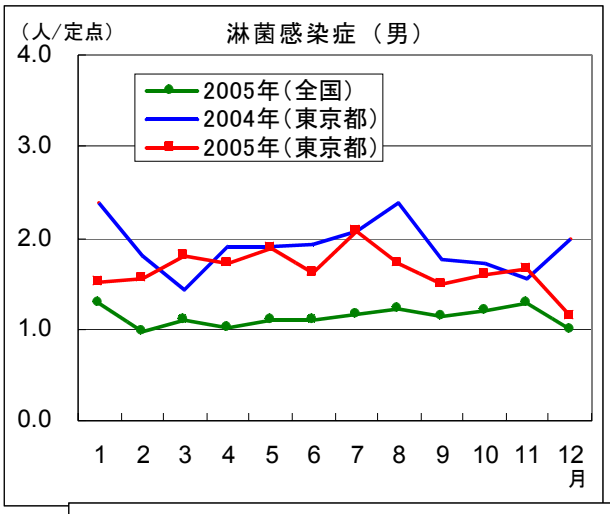


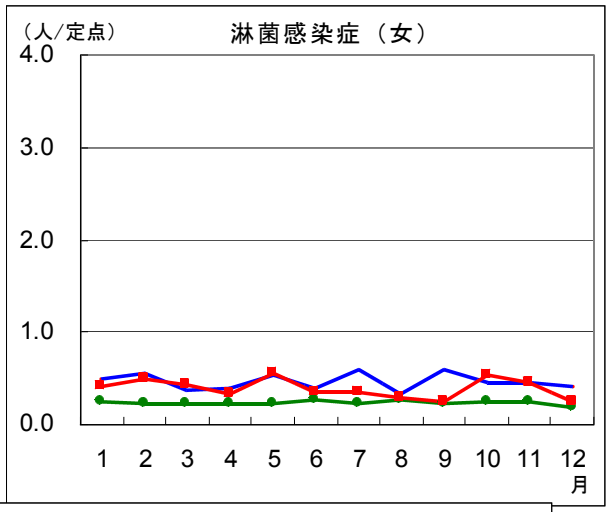


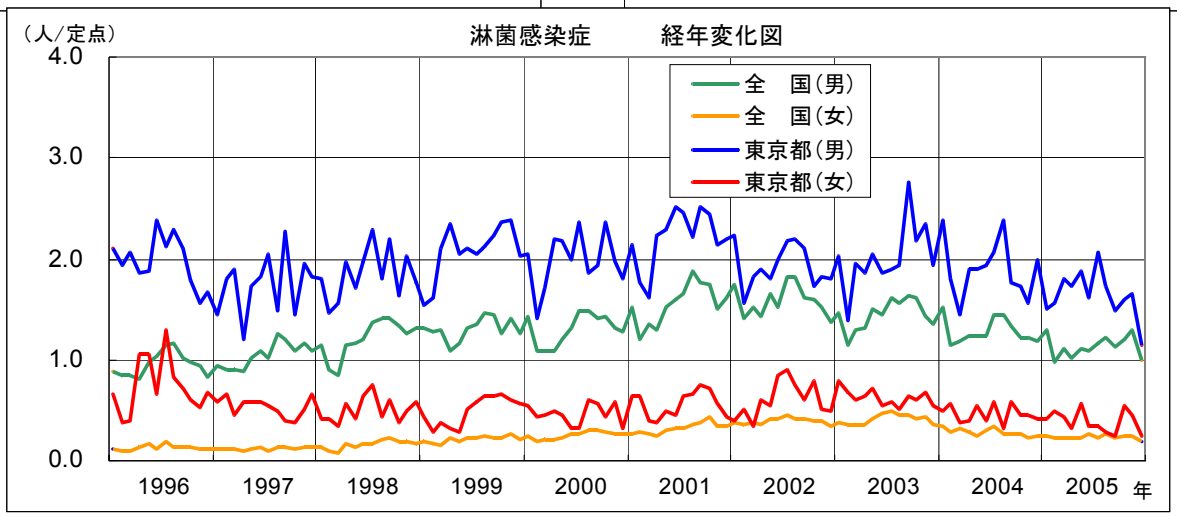


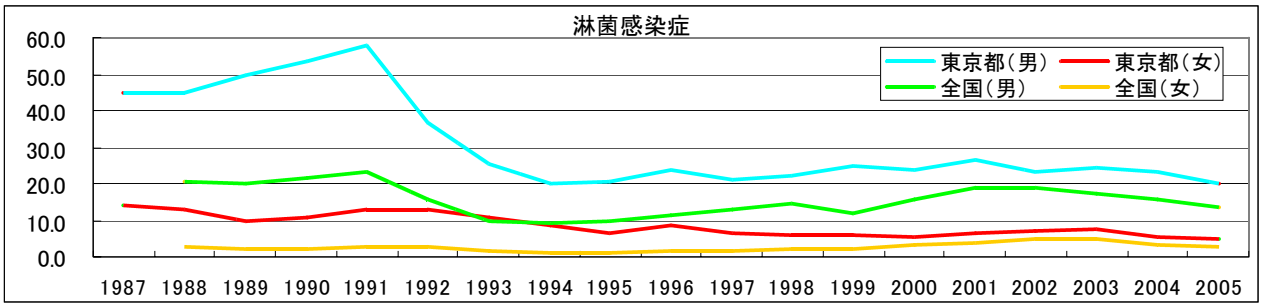
エ　淋菌感染症

報告数は男子 814（943）、女子 192（228）。男子、女子ともに昨年より低値で、3 年連続の減少である。皆保険下、新薬が優先使用され、また陰性化率 100%で耐性菌の発生を許さない単回投与療法が、注射薬への忌避感から重用されなかった日本では、臨床分離淋菌の耐性化は世界にさきがけて速い。米国 CDC は淋菌のペニシリンに対する早期耐性化の経験から、1950 年代以後治療指針はあくまで単回投与療法に固執し、1989 年からセフトリアキソン（CTRX）となっている。この単回投与療法は日本の学会でも発表されたが、1996 年から作成された性感染症学会の治療指針の作成については“CTRX には淋菌に対する保険適用がない”など枝葉にとらわれて本質を見ない横槍から“保険適用における日本の慣行の投与法との不整合”、2004 年の CTRX の保険適用まで見送られ、その間に日本の淋菌セフェム耐性化は増加して 1997 年には常用量の経口セフェム薬では陰性化不可能であるセフィキシム（CFIX）MICO 0.5mg/dl の耐性株が出現した。このセフェム耐性株の分離頻度が現在まで 3%程度に止まっていることは不幸中の幸いである。



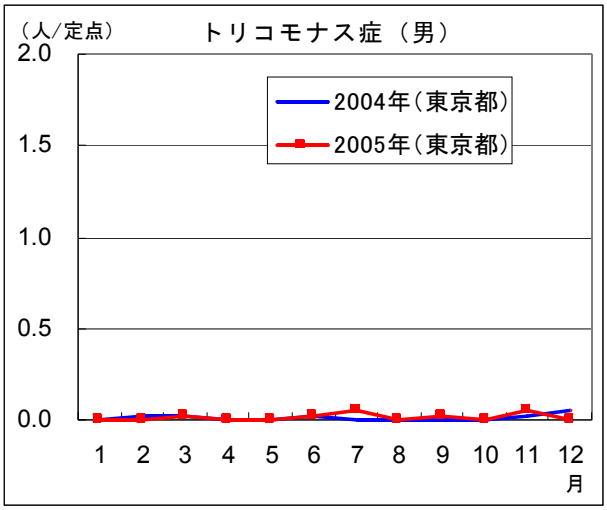


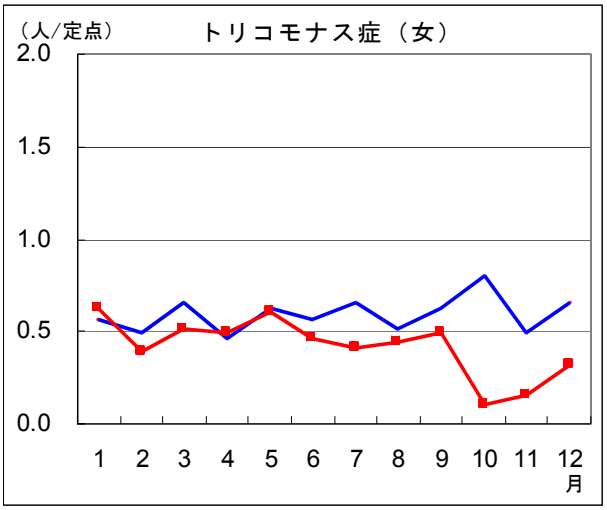


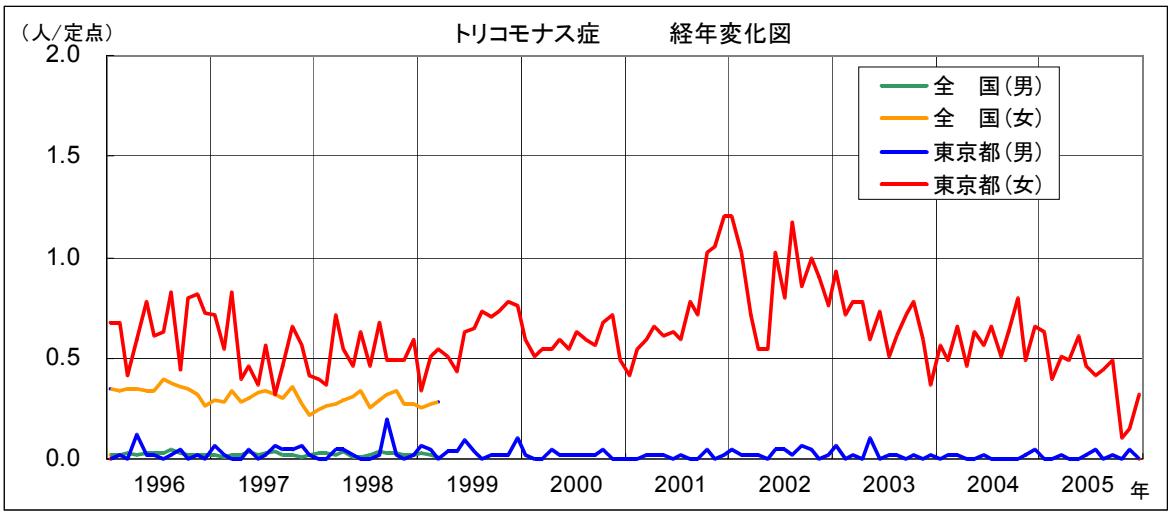


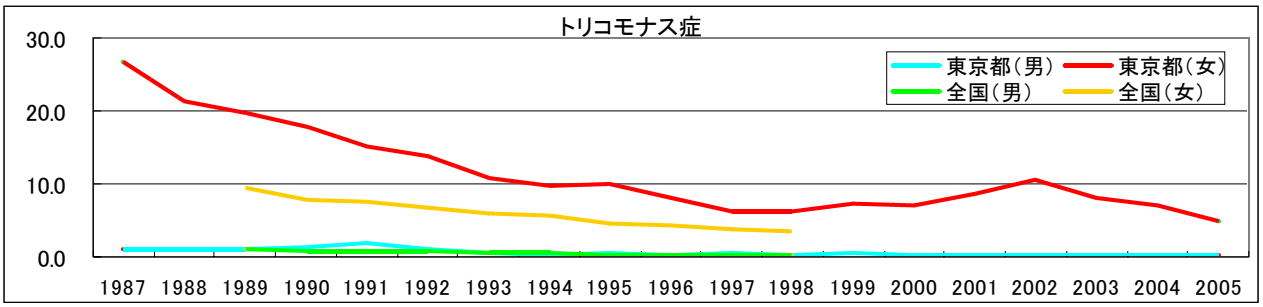
オ　トリコモナス症

報告数は男子 7（6）、女子 205（292）で、男子、女子ともに 4 年連続の減少である。トリコモナスは 1836 年に発見されたが、男子からも検出されて STI である可能性を示唆したのは三浦謹之助である。トリコモナスは男子では保菌されても病変を生じることがなく、また膣より中枢側への感染拡大がないため抗原、抗体検出法は未発達で知見も不十分である。



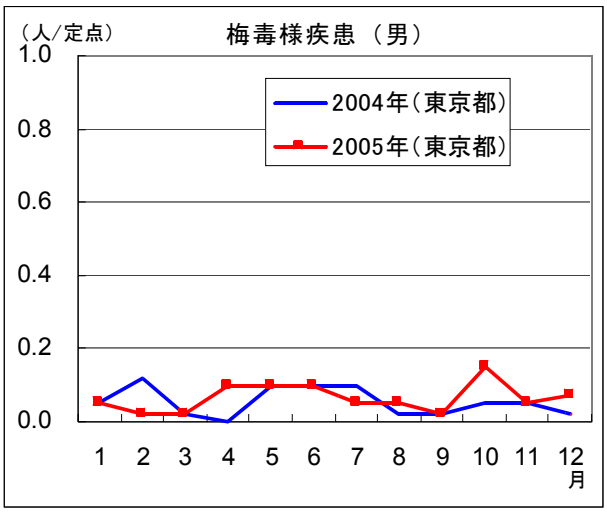


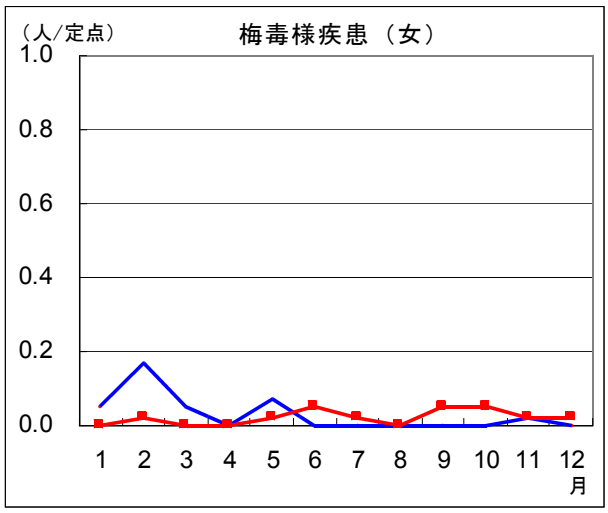


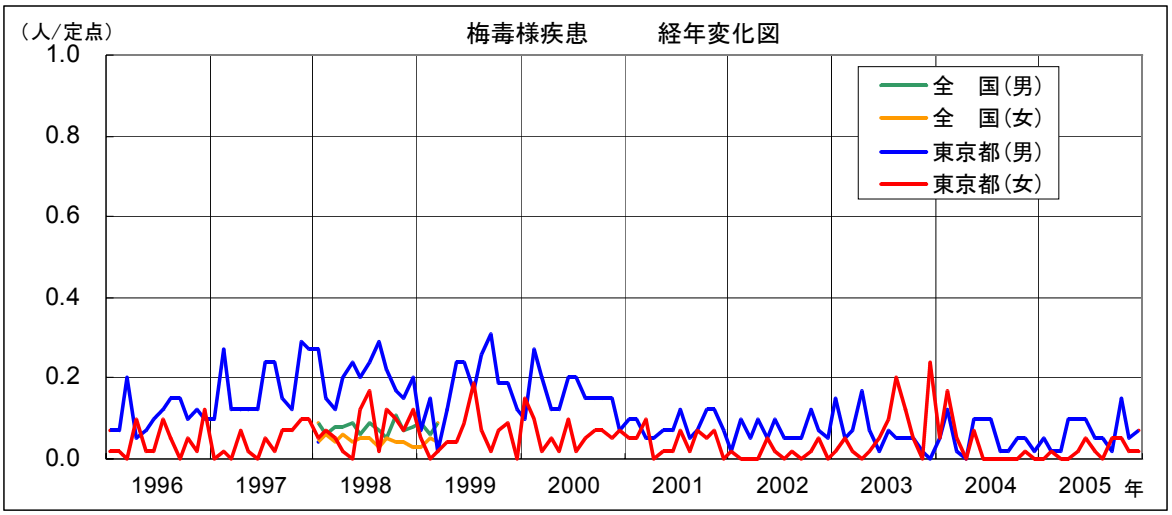


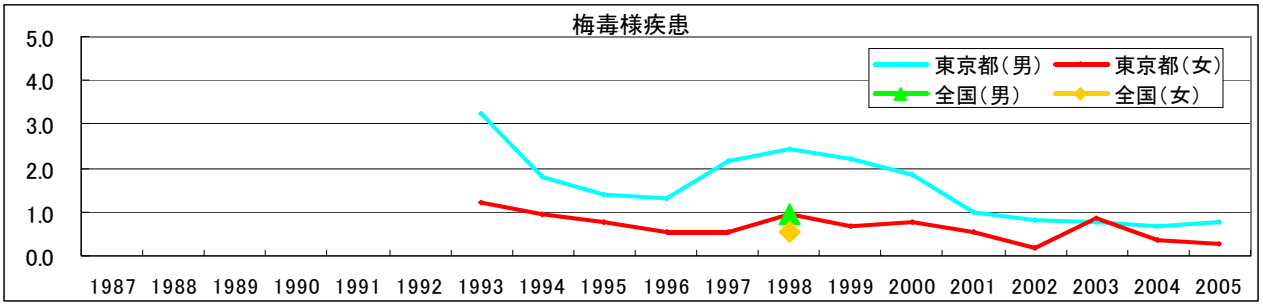
カ　梅毒様疾患

報告数は男子 32（27)、女子 11（15）である。年報でも毎年指摘している通り新感染症法による改変でも全数把握に止った全国と都の梅毒全数報告及び都で継続して実施された梅毒 STI 定点報告のいずれかも低値で HIV/エイズの報告数を下廻りつづけ、2004 年にはアメーバ赤痢を下廻り、本症サーベイランスの体制は明らかに不適切である。米国では 2001 年以後男子同性愛者を中心に梅毒症例が増加している。日本でも同性間感染 HIV/エイズ男子の梅毒抗体陽性率は B 型肝炎とともに約 70 %に達することから本症の疫学的重要性は明白である。









第4表－1－1 週別患者発生数推移表（インフルエンザ・小児科） 2005年第1週～2005年第52週

人

週	期間	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ
1	1. 3～ 1. 9	178	88
2	1.10～ 1.16	178	184
3	1.17～ 1.23	178	805
4	1.24～ 1.30	178	2,249
5	1.31～ 2. 6	178	4,596
6	2. 7～ 2.13	178	6,805
7	2.14～ 2.20	178	7,713
8	2.21～ 2.27	178	6,433
9	2.28～ 3. 6	178	4,829
10	3. 7～ 3.13	178	3,531
11	3.14～ 3.20	178	2,212
12	3.21～ 3.27	178	1,178
13	3.28～ 4. 3	178	588
14	4. 4～ 4.10	178	396
15	4.11～ 4.17	178	279
16	4.18～ 4.24	178	187
17	4.25～ 5. 1	178	117
18	5. 2～ 5. 8	178	41
19	5. 9～ 5.15	178	32
20	5.16～ 5.22	178	56
21	5.23～ 5.29	178	29
22	5.30～ 6. 5	178	10
23	6. 6～ 6.12	178	6
24	6.13～ 6.19	178	6
25	6.20～ 6.26	178	2
26	6.27～ 7. 3	178	
27	7. 4～ 7.10	178	3
28	7.11～ 7.17	178	
29	7.18～ 7.24	178	1
30	7.25～ 7.31	178	1
31	8. 1～ 8. 7	178	
32	8. 8～ 8.14	178	
33	8.15～ 8.21	178	
34	8.22～ 8.28	178	
35	8.29～ 9. 4	178	
36	9. 5～ 9.11	178	
37	9.12～ 9.18	178	3
38	9.19～ 9.25	178	
39	9.26～10. 2	178	
40	10. 3～10. 9	178	7
41	10.10～10.16	178	1
42	10.17～10.23	178	2
43	10.24～10.30	178	2
44	10.31～11. 6	178	2
45	11. 7～11.13	178	5
46	11.14～11.20	178	25
47	11.21～11.27	178	33
48	11.28～12. 4	178	48
49	12. 5～12.11	178	81
50	12.12～12.18	178	122
51	12.19～12.25	178	307
52	12.26～ 1. 1	178	321
合 計			43,336

人

小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
142	15	18	50	987	257	21	29	39	1		9	1	123
142	11	17	77	1,455	203	18	34	76			2	1	123
142	6	31	126	1,415	162	19	38	90			2	3	90
142	10	21	136	1,293	209	26	37	82	2		4	1	88
142	11	18	139	1,255	138	15	49	70		1	3		88
142	1	9	111	887	210	15	39	67	1	1	2	2	85
142	5	23	98	1,013	159	20	24	61		2	3	1	109
142	2	10	134	829	166	19	30	41	1		6		97
142	7	12	126	851	116	12	27	53			5		78
142	6	17	111	869	169	9	27	59		1	4		100
142	3	20	147	783	105	8	26	67			3	1	90
142	7	15	109	696	149	12	22	61			2	1	90
142	10	14	86	696	143	9	21	57		1	3		148
142	6	14	124	732	138	9	46	85			6		142
142	6	25	112	762	136	13	38	85			8		138
142	7	28	144	888	126	28	42	71			10	5	122
142	7	30	143	700	166	23	49	77			16	1	131
142	7	35	109	471	164	17	33	51		3	11	1	100
142	4	27	170	684	235	17	46	82	1	2	21		142
142	3	41	232	830	171	26	82	94	2	1	32	2	145
142	5	44	218	825	259	31	66	97			68	6	134
142	3	50	242	773	196	48	64	81		1	101		193
142	5	92	240	745	264	89	66	105		3	240	3	144
142	5	90	236	642	256	133	62	93	1	2	353	1	198
142	11	122	218	520	206	188	85	93	1	1	525	1	206
142	13	115	174	470	196	251	51	92	1		834		137
142	5	118	181	515	160	342	61	97	3	2	1,063	2	238
142	4	93	195	447	121	378	64	91			1,016		197
142	2	80	130	344	137	259	58	64			687		182
142	7	108	110	320	106	184	38	76		3	435	2	223
142	9	59	76	318	87	161	43	88	1		330	1	176
142	13	50	90	264	67	121	26	70			204		140
142	2	57	25	193	29	43	21	52		4	108	2	117
142	3	64	48	294	64	71	22	88			103		112
142	3	60	57	337	45	69	37	109	2		110	1	113
142	3	62	50	352	50	47	36	89		1	90		132
142	3	58	78	379	44	56	27	118	2	2	93		124
142	5	53	77	332	46	43	13	85	3	1	71		135
142	7	28	76	370	48	28	23	94		2	60	2	191
142	19	23	96	367	46	33	21	90			49	1	145
142	4	21	92	350	86	43	20	69		1	32		130
142	23	29	96	434	82	42	22	73	1		23	2	146
142	33	41	138	457	113	53	25	94	1		30	1	153
142	32	45	148	516	98	51	23	93		1	31	2	166
142	43	54	208	638	120	36	29	89	1	1	20		178
142	60	51	245	903	148	34	34	55			19		182
142	49	56	222	1,211	136	39	38	85	1	1	15		179
142	65	69	301	1,765	212	24	44	83			10	1	160
142	74	70	278	2,252	194	27	57	74	2		12	1	166
142	93	55	349	2,734	243	15	58	83		1	13		140
142	87	68	241	2,621	210	17	34	69		1	5		153
142	24	58	145	1,794	174	4	28	41			7		102
	848	2,468	7,564	42,578	7,565	3,296	2,035	4,048	28	40	6,909	49	7,321

第4表－1－2 週別患者発生数推移表(眼科・基幹・小児科)　2005年第1週～2005年第52週

人

週	期間	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
1	1. 3～ 1. 9	14		6
2	1.10～ 1.16	14		10
3	1.17～ 1.23	14		7
4	1.24～ 1.30	14		8
5	1.31～ 2. 6	14		7
6	2. 7～ 2.13	14		10
7	2.14～ 2.20	14		10
8	2.21～ 2.27	14		15
9	2.28～ 3. 6	14		5
10	3. 7～ 3.13	14		8
11	3.14～ 3.20	14		11
12	3.21～ 3.27	14		12
13	3.28～ 4. 3	14		19
14	4. 4～ 4.10	14	1	11
15	4.11～ 4.17	14		5
16	4.18～ 4.24	14		4
17	4.25～ 5. 1	14		11
18	5. 2～ 5. 8	14		11
19	5. 9～ 5.15	14	1	14
20	5.16～ 5.22	14	1	8
21	5.23～ 5.29	14		7
22	5.30～ 6. 5	14		15
23	6. 6～ 6.12	14		11
24	6.13～ 6.19	14	1	8
25	6.20～ 6.26	14		12
26	6.27～ 7. 3	14		12
27	7. 4～ 7.10	14		12
28	7.11～ 7.17	14	1	14
29	7.18～ 7.24	14		17
30	7.25～ 7.31	14	1	20
31	8. 1～ 8. 7	14		21
32	8. 8～ 8.14	14	1	11
33	8.15～ 8.21	14		14
34	8.22～ 8.28	14		15
35	8.29～ 9. 4	14		13
36	9. 5～ 9.11	14		10
37	9.12～ 9.18	14		7
38	9.19～ 9.25	14		10
39	9.26～10. 2	14		16
40	10. 3～10. 9	14		17
41	10.10～10.16	14		11
42	10.17～10.23	14		13
43	10.24～10.30	14		11
44	10.31～11. 6	14		6
45	11. 7～11.13	14		10
46	11.14～11.20	14		11
47	11.21～11.27	14		3
48	11.28～12. 4	14		8
49	12. 5～12.11	14		11
50	12.12～12.18	14		10
51	12.19～12.25	14		8
52	12.26～ 1. 1	14		11
合　計			7	567

人

基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻しん
25			4		
25			1		
25					
25	1		5		
25	1		3		
25			2		
25	1		2		
25			2		
25			2		
25			3		
25		3	1		
25					
25	1		3		
25					
25		1	4		
25	1		1		
25		1	8		
25			7		
25		3	2	2	
25	1		6		
25	1		1		
25				1	
25		1	6	1	
25			2		
25			1		
25		3			
25		2			
25			4		
25		1	6		
25		1			
25		2			
25	1		3		
25			1		
25	1	1	1		
25		1	2	2	
25			2		1
25			6		
25		2	6		
25			11		
25	1	1	6		
25			3		
25	2		10	1	
25	1		7		
25			6		
25	1		3		
25			7		
25			1	2	
25	1		2		
25		1	3		
	17	28	164	9	1

人

小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
142	7	1
142	6	1
142	6	
142	6	2
142	6	
142	7	
142	5	
142	6	
142	5	
142	5	1
142	6	1
142	5	1
142	5	
142	6	4
142	9	
142	5	1
142	5	
142	3	1
142	3	1
142	6	2
142	8	2
142	11	3
142	13	
142	7	2
142	19	1
142	17	
142	14	1
142	18	1
142	4	
142	7	4
142	8	
142	7	1
142	8	1
142	11	
142	12	3
142	18	
142	7	1
142	8	2
142	15	3
142	13	
142	11	
142	6	2
142	12	2
142	8	2
142	15	3
142	10	1
142	10	
142	17	
142	10	2
142	9	2
142	6	
142	10	1
	461	56

第4表－2－1 週別定点当たり患者発生数推移表（インフルエンザ・小児科） 2005年第1週～2005年第52週

人／定点

週	期間	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ
1	1. 3～ 1. 9	178	0.49
2	1.10～ 1.16	178	1.03
3	1.17～ 1.23	178	4.52
4	1.24～ 1.30	178	12.63
5	1.31～ 2. 6	178	25.82
6	2. 7～ 2.13	178	38.23
7	2.14～ 2.20	178	43.33
8	2.21～ 2.27	178	36.14
9	2.28～ 3. 6	178	27.13
10	3. 7～ 3.13	178	19.84
11	3.14～ 3.20	178	12.43
12	3.21～ 3.27	178	6.62
13	3.28～ 4. 3	178	3.30
14	4. 4～ 4.10	178	2.22
15	4.11～ 4.17	178	1.57
16	4.18～ 4.24	178	1.05
17	4.25～ 5. 1	178	0.66
18	5. 2～ 5. 8	178	0.23
19	5. 9～ 5.15	178	0.18
20	5.16～ 5.22	178	0.31
21	5.23～ 5.29	178	0.16
22	5.30～ 6. 5	178	0.06
23	6. 6～ 6.12	178	0.03
24	6.13～ 6.19	178	0.03
25	6.20～ 6.26	178	0.01
26	6.27～ 7. 3	178	
27	7. 4～ 7.10	178	0.02
28	7.11～ 7.17	178	
29	7.18～ 7.24	178	0.01
30	7.25～ 7.31	178	0.01
31	8. 1～ 8. 7	178	
32	8. 8～ 8.14	178	
33	8.15～ 8.21	178	
34	8.22～ 8.28	178	
35	8.29～ 9. 4	178	
36	9. 5～ 9.11	178	
37	9.12～ 9.18	178	0.02
38	9.19～ 9.25	178	
39	9.26～10. 2	178	
40	10. 3～10. 9	178	0.04
41	10.10～10.16	178	0.01
42	10.17～10.23	178	0.01
43	10.24～10.30	178	0.01
44	10.31～11. 6	178	0.01
45	11. 7～11.13	178	0.03
46	11.14～11.20	178	0.14
47	11.21～11.27	178	0.19
48	11.28～12. 4	178	0.27
49	12. 5～12.11	178	0.46
50	12.12～12.18	178	0.69
51	12.19～12.25	178	1.72
52	12.26～ 1. 1	178	1.80
平 均			4.68

人／定点

小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
142	0.11	0.13	0.35	6.95	1.81	0.15	0.20	0.27	0.01		0.06	0.01	0.87
142	0.08	0.12	0.54	10.25	1.43	0.13	0.24	0.54			0.01	0.01	0.87
142	0.04	0.22	0.89	9.96	1.14	0.13	0.27	0.63			0.01	0.02	0.63
142	0.07	0.15	0.96	9.11	1.47	0.18	0.26	0.58	0.01		0.03	0.01	0.62
142	0.08	0.13	0.98	8.84	0.97	0.11	0.35	0.49		0.01	0.02		0.62
142	0.01	0.06	0.78	6.25	1.48	0.11	0.27	0.47	0.01	0.01	0.01	0.01	0.60
142	0.04	0.16	0.69	7.13	1.12	0.14	0.17	0.43		0.01	0.02	0.01	0.77
142	0.01	0.07	0.94	5.84	1.17	0.13	0.21	0.29	0.01		0.04		0.68
142	0.05	0.08	0.89	5.99	0.82	0.08	0.19	0.37			0.04		0.55
142	0.04	0.12	0.78	6.12	1.19	0.06	0.19	0.42		0.01	0.03		0.70
142	0.02	0.14	1.04	5.51	0.74	0.06	0.18	0.47			0.02	0.01	0.63
142	0.05	0.11	0.77	4.90	1.05	0.08	0.15	0.43			0.01	0.01	0.63
142	0.07	0.10	0.61	4.90	1.01	0.06	0.15	0.40		0.01	0.02		1.04
142	0.04	0.10	0.87	5.15	0.97	0.06	0.32	0.60			0.04		1.00
142	0.04	0.18	0.79	5.37	0.96	0.09	0.27	0.60			0.06		0.97
142	0.05	0.20	1.01	6.25	0.89	0.20	0.30	0.50			0.07	0.04	0.86
142	0.05	0.21	1.01	4.93	1.17	0.16	0.35	0.54			0.11	0.01	0.92
142	0.05	0.25	0.77	3.32	1.15	0.12	0.23	0.36		0.02	0.08	0.01	0.70
142	0.03	0.19	1.20	4.82	1.65	0.12	0.32	0.58	0.01	0.01	0.15		1.00
142	0.02	0.29	1.63	5.85	1.20	0.18	0.58	0.66	0.01	0.01	0.23	0.01	1.02
142	0.04	0.31	1.54	5.81	1.82	0.22	0.46	0.68			0.48	0.04	0.94
142	0.02	0.35	1.70	5.44	1.38	0.34	0.45	0.57		0.01	0.71		1.36
142	0.04	0.65	1.69	5.25	1.86	0.63	0.46	0.74		0.02	1.69	0.02	1.01
142	0.04	0.63	1.66	4.52	1.80	0.94	0.44	0.65	0.01	0.01	2.49	0.01	1.39
142	0.08	0.86	1.54	3.66	1.45	1.32	0.60	0.65	0.01	0.01	3.70	0.01	1.45
142	0.09	0.81	1.23	3.31	1.38	1.77	0.36	0.65	0.01		5.87		0.96
142	0.04	0.83	1.27	3.63	1.13	2.41	0.43	0.68	0.02	0.01	7.49	0.01	1.68
142	0.03	0.65	1.37	3.15	0.85	2.66	0.45	0.64			7.15		1.39
142	0.01	0.56	0.92	2.42	0.96	1.82	0.41	0.45			4.84		1.28
142	0.05	0.76	0.77	2.25	0.75	1.30	0.27	0.54		0.02	3.06	0.01	1.57
142	0.06	0.42	0.54	2.24	0.61	1.13	0.30	0.62	0.01		2.32	0.01	1.24
142	0.09	0.35	0.63	1.86	0.47	0.85	0.18	0.49			1.44		0.99
142	0.01	0.40	0.18	1.36	0.20	0.30	0.15	0.37		0.03	0.76	0.01	0.82
142	0.02	0.45	0.34	2.07	0.45	0.50	0.15	0.62			0.73		0.79
142	0.02	0.42	0.40	2.37	0.32	0.49	0.26	0.77	0.01		0.77	0.01	0.80
142	0.02	0.44	0.35	2.48	0.35	0.33	0.25	0.63		0.01	0.63		0.93
142	0.02	0.41	0.55	2.67	0.31	0.39	0.19	0.83	0.01	0.01	0.65		0.87
142	0.04	0.37	0.54	2.34	0.32	0.30	0.09	0.60	0.02	0.01	0.50		0.95
142	0.05	0.20	0.54	2.61	0.34	0.20	0.16	0.66		0.01	0.42	0.01	1.35
142	0.13	0.16	0.68	2.58	0.32	0.23	0.15	0.63			0.35	0.01	1.02
142	0.03	0.15	0.65	2.46	0.61	0.30	0.14	0.49		0.01	0.23		0.92
142	0.16	0.20	0.68	3.06	0.58	0.30	0.15	0.51	0.01		0.16	0.01	1.03
142	0.23	0.29	0.97	3.22	0.80	0.37	0.18	0.66	0.01		0.21	0.01	1.08
142	0.23	0.32	1.04	3.63	0.69	0.36	0.16	0.65		0.01	0.22	0.01	1.17
142	0.30	0.38	1.46	4.49	0.85	0.25	0.20	0.63	0.01	0.01	0.14		1.25
142	0.42	0.36	1.73	6.36	1.04	0.24	0.24	0.39			0.13		1.28
142	0.35	0.39	1.56	8.53	0.96	0.27	0.27	0.60	0.01	0.01	0.11		1.26
142	0.46	0.49	2.12	12.43	1.49	0.17	0.31	0.58			0.07	0.01	1.13
142	0.52	0.49	1.96	15.86	1.37	0.19	0.40	0.52	0.01		0.08	0.01	1.17
142	0.65	0.39	2.46	19.25	1.71	0.11	0.41	0.58		0.01	0.09		0.99
142	0.61	0.48	1.70	18.46	1.48	0.12	0.24	0.49		0.01	0.04		1.08
142	0.17	0.41	1.02	12.63	1.23	0.03	0.20	0.29			0.05		0.72
	0.11	0.33	1.02	5.77	1.02	0.45	0.28	0.55	0.00	0.01	0.94	0.01	0.99

第4表－2－2 週別定点当たり患者発生数推移表（眼科・基幹・小児科）

2005年第1週～2005年第52週

人／定点

週	期間	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
1	1. 3～ 1. 9	14		0.43
2	1.10～ 1.16	14		0.71
3	1.17～ 1.23	14		0.50
4	1.24～ 1.30	14		0.57
5	1.31～ 2. 6	14		0.50
6	2. 7～ 2.13	14		0.71
7	2.14～ 2.20	14		0.71
8	2.21～ 2.27	14		1.07
9	2.28～ 3. 6	14		0.36
10	3. 7～ 3.13	14		0.57
11	3.14～ 3.20	14		0.79
12	3.21～ 3.27	14		0.86
13	3.28～ 4. 3	14		1.36
14	4. 4～ 4.10	14	0.07	0.79
15	4.11～ 4.17	14		0.36
16	4.18～ 4.24	14		0.29
17	4.25～ 5. 1	14		0.79
18	5. 2～ 5. 8	14		0.79
19	5. 9～ 5.15	14	0.07	1.00
20	5.16～ 5.22	14	0.07	0.57
21	5.23～ 5.29	14		0.50
22	5.30～ 6. 5	14		1.07
23	6. 6～ 6.12	14		0.79
24	6.13～ 6.19	14	0.07	0.57
25	6.20～ 6.26	14		0.86
26	6.27～ 7. 3	14		0.86
27	7. 4～ 7.10	14		0.86
28	7.11～ 7.17	14	0.07	1.00
29	7.18～ 7.24	14		1.21
30	7.25～ 7.31	14	0.07	1.43
31	8. 1～ 8. 7	14		1.50
32	8. 8～ 8.14	14	0.07	0.79
33	8.15～ 8.21	14		1.00
34	8.22～ 8.28	14		1.07
35	8.29～ 9. 4	14		0.93
36	9. 5～ 9.11	14		0.71
37	9.12～ 9.18	14		0.50
38	9.19～ 9.25	14		0.71
39	9.26～10. 2	14		1.14
40	10. 3～10. 9	14		1.21
41	10.10～10.16	14		0.79
42	10.17～10.23	14		0.93
43	10.24～10.30	14		0.79
44	10.31～11. 6	14		0.43
45	11. 7～11.13	14		0.71
46	11.14～11.20	14		0.79
47	11.21～11.27	14		0.21
48	11.28～12. 4	14		0.57
49	12. 5～12.11	14		0.79
50	12.12～12.18	14		0.71
51	12.19～12.25	14		0.57
52	12.26～ 1. 1	14		0.79
平均			0.01	0.78

人／定点

基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻しん
25			0.16		
25			0.04		
25					
25	0.04		0.20		
25	0.04		0.12		
25			0.08		
25	0.04		0.08		
25			0.08		
25			0.08		
25			0.12		
25		0.12	0.04		
25					
25	0.04		0.12		
25					
25		0.04	0.16		
25	0.04		0.04		
25		0.04	0.32		
25			0.28		
25		0.12	0.08	0.08	
25	0.04		0.24		
25	0.04		0.04		
25				0.04	
25		0.04	0.24	0.04	
25			0.08		
25			0.04		
25		0.12			
25		0.08			
25			0.16		
25		0.04	0.24		
25		0.04			
25		0.04	0.16		
25		0.08			
25	0.08	0.04	0.08		
25		0.08	0.08		
25	0.04		0.12		
25			0.04		
25	0.04	0.04	0.04		
25		0.04	0.08	0.08	
25			0.08		0.04
25			0.24		
25		0.08	0.24		
25			0.44		
25	0.04	0.04	0.24		
25			0.12		
25	0.08		0.40	0.04	
25	0.04		0.28		
25			0.24		
25	0.04		0.12		
25			0.28		
25			0.04	0.08	
25	0.04		0.08		
25		0.04	0.12		
	0.01	0.02	0.13	0.01	0.00

人／定点

小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
142	0.05	0.01
142	0.04	0.01
142	0.04	
142	0.04	0.01
142	0.04	
142	0.05	
142	0.04	
142	0.04	
142	0.04	
142	0.04	0.01
142	0.04	0.01
142	0.04	0.01
142	0.04	
142	0.04	0.03
142	0.06	
142	0.04	0.01
142	0.04	
142	0.02	0.01
142	0.02	0.01
142	0.04	0.01
142	0.06	0.01
142	0.08	0.02
142	0.09	
142	0.05	0.01
142	0.13	0.01
142	0.12	
142	0.10	0.01
142	0.13	0.01
142	0.03	
142	0.05	0.03
142	0.06	
142	0.05	0.01
142	0.06	0.01
142	0.08	
142	0.08	0.02
142	0.13	
142	0.05	0.01
142	0.06	0.01
142	0.11	0.02
142	0.09	
142	0.08	
142	0.04	0.01
142	0.08	0.01
142	0.06	0.01
142	0.11	0.02
142	0.07	0.01
142	0.07	
142	0.12	
142	0.07	0.01
142	0.06	0.01
142	0.04	
142	0.07	0.01
	0.06	0.01

第5表－1－1　保健所別患者報告数累計表（インフルエンザ・小児科）　2005年第1週～2005年第52週

人

	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ
千代田	5	420
中央区	4	771
みなと	7	696
新宿区	7	1,223
文京	4	909
台東	4	918
墨田区	4	1,024
江東区	4	1,170
品川区	7	1,144
目黒区	4	573
大田区	10	2,222
世田谷区	9	1,679
渋谷区	5	680
中野区	7	1,818
杉並	7	2,186
池袋	6	570
北区	5	1,511
荒川区	3	877
板橋区	7	1,070
練馬区	6	2,118
足立	5	897
葛飾区	5	1,657
江戸川	5	2,433
西多摩	7	3,044
八王子	3	559
南多摩	4	1,335
町田	3	1,865
多摩立川	8	1,843
多摩府中	13	2,788
多摩小平	8	3,195
島しょ	2	141
合　計	178	43,336
前年計	178	18,958
当年/前年		2.29
増減数		24,378
定点当たり報告数		243.46

人

小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
4	18	13	31	125	33	10	15	6			35	2	55
3		9	67	538	73	40	30	121			94		133
6	231	505	638	1,214	202	53	47	78		2	110	2	77
6	13	30	76	1,388	134	56	72	73	4	1	150	2	215
3	20	31	20	535	81	47	14	41		1	137		107
3	52	43	196	1,174	202	78	33	120		2	285		145
3	20	9	197	884	205	73	42	109	2	1	129	1	182
3		9	151	1,651	207	82	26	139		2	280	11	321
6	15	80	149	2,559	261	254	48	181			241	1	203
3		27	153	541	108	41	16	69			87		88
9	29	190	638	3,762	498	370	79	356	1	3	403		871
8	8	72	217	2,464	376	142	105	239		1	286	2	261
4		31	112	1,362	234	88	48	113		3	172	2	127
6	30	25	277	1,873	226	94	94	72	6		145		187
6	29	139	496	2,949	365	60	93	192		1	145	2	338
5	3	5	3	323	157	14	27	52			49	5	47
4	9	43	158	1,227	338	118	201	256		1	456		519
2	1	113	194	1,046	185	89	108	110	4		275	2	69
6	39	13	75	1,045	110	23	72	71		4	85		181
5	8	95	437	1,320	315	128	126	169	1	3	309		229
4	1	24	139	934	159	62	52	35	1	1	161	1	73
4		8	275	947	341	102	149	228	1	1	336	1	416
4	18	246	762	1,636	372	91	46	135	2		575		350
5	10	182	302	1,551	360	470	38	114		4	192	2	528
2	24	50	151	297	162	38	34	63	2		36		185
3	40	34	114	1,176	217	110	62	139	1	1	225	3	231
2	24	17	534	2,163	415	210	55	100		1	375	1	263
6	4	56	65	974	152	48	21	23		3	80	2	107
10	7	48	347	2,112	494	161	116	328		1	362	5	416
6	195	305	575	2,778	560	140	160	306	3	3	667	1	372
1		16	15	30	23	4	6	10			27	1	25
142	848	2,468	7,564	42,578	7,565	3,296	2,035	4,048	28	40	6,909	49	7,321
142	432	2,123	5,842	39,464	6,845	3,585	2,771	4,043	47	234	5,275	78	3,250
	1.96	1.16	1.29	1.08	1.11	0.92	0.73	1.00	0.60	0.17	1.31	0.63	2.25
	416	345	1,722	3,114	720	−289	−736	5	−19	−194	1,634	−29	4,071
	5.97	17.38	53.27	299.85	53.27	23.21	14.33	28.51	0.20	0.28	48.65	0.35	51.56

第5表－1－2 保健所別患者報告数累計表(眼科・基幹・小児科)　2005年第1週～2005年第52週

人

	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
千代田			
中央区			
みなと	1	1	67
新宿区	2	1	170
文京	1		83
台東			
墨田区			
江東区	1		43
品川区			
目黒区			
大田区	1		10
世田谷区			
渋谷区	1		2
中野区			
杉並			
池袋	1	4	10
北区			
荒川区	1		26
板橋区			
練馬区			
足立			
葛飾区			
江戸川			
西多摩			
八王子	1		32
南多摩			
町田	1	1	29
多摩立川	1		13
多摩府中	1		16
多摩小平	1		66
島しょ			
合　計	14	7	567
前年計	14	6	719
当年/前年		1.17	0.79
増減数		1	-152
定点当たり報告数		0.50	40.50

人

	基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻しん
千代田	2			17		
中央区						
みなと	1	1	1	2	9	
新宿区	2	1	2	23		
文京	1	2	6	6		
台東						
墨田区	1		3			
江東区						
品川区						
目黒区						
大田区	1	1	1			
世田谷区	2	6	9			
渋谷区	2	2				
中野区	1					
杉並	1					
池袋	1			5		
北区						
荒川区						
板橋区	1	1	3	80		
練馬区						
足立						
葛飾区	1					
江戸川						
西多摩	1	2	3	13		
八王子	1			17		
南多摩						
町田						
多摩立川	1					
多摩府中	2	1				
多摩小平	2			1		1
島しょ	1					
合　計	25	17	28	164	9	1
前年計	25	25	27	184	4	16
当年/前年		0.68	1.04	0.89	2.25	0.06
増減数		-8	1	-20	5	-15
定点当たり報告数		0.68	1.12	6.56	0.36	0.04

人

	小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
千代田	4	12	7
中央区	3	1	
みなと	6	32	2
新宿区	6	33	4
文京	3		
台東	3		2
墨田区	3	16	
江東区	3		
品川区	6	17	
目黒区	3		
大田区	9	47	7
世田谷区	8	13	10
渋谷区	4	3	
中野区	6	18	3
杉並	6		
池袋	5		
北区	4	12	1
荒川区	2	9	1
板橋区	6	32	1
練馬区	5	10	
足立	4		
葛飾区	4	36	2
江戸川	4	9	3
西多摩	5		
八王子	2	7	1
南多摩	3	6	1
町田	2	93	2
多摩立川	6		
多摩府中	10	19	5
多摩小平	6	34	4
島しょ	1	2	
合　計	142	461	56
前年計	142	540	69
当年/前年		0.85	0.81
増減数		-79	-13
定点当たり報告数		3.25	0.39

第5表－2－1　保健所別定点当たり患者報告数累計表（インフルエンザ・小児科）　2005年第1週～2005年第52週

人／定点

	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
千代田	5	84.00	4	4.50	3.25	7.75	31.25	8.25	2.50	3.75	1.50			8.75	0.50	13.75
中央区	4	192.75	3		3.00	22.33	179.33	24.33	13.33	10.00	40.33			31.33		44.33
みなと	7	99.43	6	38.50	84.17	106.33	202.33	33.67	8.83	7.83	13.00		0.33	18.33	0.33	12.83
新宿区	7	174.71	6	2.17	5.00	12.67	231.33	22.33	9.33	12.00	12.17	0.67	0.17	25.00	0.33	35.83
文京	4	227.25	3	6.67	10.33	6.67	178.33	27.00	15.67	4.67	13.67		0.33	45.67		35.67
台東	4	229.50	3	17.33	14.33	65.33	391.33	67.33	26.00	11.00	40.00		0.67	95.00		48.33
墨田区	4	256.00	3	6.67	3.00	65.67	294.67	68.33	24.33	14.00	36.33	0.67	0.33	43.00	0.33	60.67
江東区	4	292.50	3		3.00	50.33	550.33	69.00	27.33	8.67	46.33		0.67	93.33	3.67	107.00
品川区	7	163.43	6	2.50	13.33	24.83	426.50	43.50	42.33	8.00	30.17			40.17	0.17	33.83
目黒区	4	143.25	3		9.00	51.00	180.33	36.00	13.67	5.33	23.00			29.00		29.33
大田区	10	222.20	9	3.22	21.11	70.89	418.00	55.33	41.11	8.78	39.56	0.11	0.33	44.78		96.78
世田谷区	9	186.56	8	1.00	9.00	27.13	308.00	47.00	17.75	13.13	29.88		0.13	35.75	0.25	32.63
渋谷区	5	136.00	4		7.75	28.00	340.50	58.50	22.00	12.00	28.25		0.75	43.00	0.50	31.75
中野区	7	259.71	6	5.00	4.17	46.17	312.17	37.67	15.67	15.67	12.00	1.00		24.17		31.17
杉並	7	312.29	6	4.83	23.17	82.67	491.50	60.83	10.00	15.50	32.00		0.17	24.17	0.33	56.33
池袋	6	95.00	5	0.60	1.00	0.60	64.60	31.40	2.80	5.40	10.40			9.80	1.00	9.40
北区	5	302.20	4	2.25	10.75	39.50	306.75	84.50	29.50	50.25	64.00		0.25	114.00		129.75
荒川区	3	292.33	2	0.50	56.50	97.00	523.00	92.50	44.50	54.00	55.00	2.00		137.50	1.00	34.50
板橋区	7	152.86	6	6.50	2.17	12.50	174.17	18.33	3.83	12.00	11.83		0.67	14.17		30.17
練馬区	6	353.00	5	1.60	19.00	87.40	264.00	63.00	25.60	25.20	33.80	0.20	0.60	61.80		45.80
足立	5	179.40	4	0.25	6.00	34.75	233.50	39.75	15.50	13.00	8.75	0.25	0.25	40.25	0.25	18.25
葛飾区	5	331.40	4		2.00	68.75	236.75	85.25	25.50	37.25	57.00	0.25	0.25	84.00	0.25	104.00
江戸川	5	486.60	4	4.50	61.50	190.50	409.00	93.00	22.75	11.50	33.75	0.50		143.75		87.50
西多摩	7	434.86	5	2.00	36.40	60.40	310.20	72.00	94.00	7.60	22.80		0.80	38.40	0.40	105.60
八王子	3	186.33	2	12.00	25.00	75.50	148.50	81.00	19.00	17.00	31.50	1.00		18.00		92.50
南多摩	4	333.75	3	13.33	11.33	38.00	392.00	72.33	36.67	20.67	46.33	0.33	0.33	75.00	1.00	77.00
町田	3	621.67	2	12.00	8.50	267.00	1081.50	207.50	105.00	27.50	50.00		0.50	187.50	0.50	131.50
多摩立川	8	230.38	6	0.67	9.33	10.83	162.33	25.33	8.00	3.50	3.83		0.50	13.33	0.33	17.83
多摩府中	13	214.46	10	0.70	4.80	34.70	211.20	49.40	16.10	11.60	32.80		0.10	36.20	0.50	41.60
多摩小平	8	399.38	6	32.50	50.83	95.83	463.00	93.33	23.33	26.67	51.00	0.50	0.50	111.17	0.17	62.00
島しょ	2	70.50	1		16.00	15.00	30.00	23.00	4.00	6.00	10.00			27.00	1.00	25.00

第5表－2－2 保健所別定点当たり患者報告数累計表（眼科・基幹・小児科）

2005年第1週～2005年第52週

人／定点

	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
千代田			
中央区			
みなと	1	1.00	67.00
新宿区	2	0.50	85.00
文京	1		83.00
台東			
墨田区			
江東区	1		43.00
品川区			
目黒区			
大田区	1		10.00
世田谷区			
渋谷区	1		2.00
中野区			
杉並			
池袋	1	4.00	10.00
北区			
荒川区	1		26.00
板橋区			
練馬区			
足立			
葛飾区			
江戸川			
西多摩			
八王子	1		32.00
南多摩			
町田	1	1.00	29.00
多摩立川	1		13.00
多摩府中	1		16.00
多摩小平	1		66.00
島しょ			

人／定点

	基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻しん
千代田	2			8.50		
中央区						
みなと	1	1.00	1.00	2.00	9.00	
新宿区	2	0.50	1.00	11.50		
文京	1	2.00	6.00	6.00		
台東						
墨田区	1		3.00			
江東区						
品川区						
目黒区						
大田区	1	1.00	1.00			
世田谷区	2	3.00	4.50			
渋谷区	2	1.00				
中野区	1					
杉並	1					
池袋	1			5.00		
北区						
荒川区						
板橋区	1	1.00	3.00	3.00		
練馬区						
足立						
葛飾区	1					
江戸川						
西多摩	1	2.00	3.00	13.00		
八王子	1			17.00		
南多摩						
町田						
多摩立川	1					
多摩府中	2	0.50				
多摩小平	2			0.50		0.50
島しょ	1					

人／定点

	小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
千代田	4	3.00	1.75
中央区	3	0.33	
みなと	6	5.33	0.33
新宿区	6	5.50	0.67
文京	3		
台東	3		0.67
墨田区	3	5.33	
江東区	3		
品川区	6	2.83	
目黒区	3		
大田区	9	5.22	0.78
世田谷区	8	1.63	1.25
渋谷区	4	0.75	
中野区	6	3.00	0.50
杉並	6		
池袋	5		
北区	4	3.00	0.25
荒川区	2	4.50	0.50
板橋区	6	5.33	0.17
練馬区	5	2.00	
足立	4		
葛飾区	4	9.00	0.50
江戸川	4	2.25	0.75
西多摩	5		
八王子	2	3.50	0.50
南多摩	3	2.00	0.33
町田	2	46.50	1.00
多摩立川	6		
多摩府中	10	1.90	0.50
多摩小平	6	5.67	0.67
島しょ	1	2.00	

第5表－3－1　年齢階級別累計表（インフルエンザ・小児科）　2005年第1週～2005年第52週

人

	501 インフルエンザ	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
6か月未満	97	98	8	1	403	150	19	4	223	6	1	69		2
12か月未満	413	142	75	23	2,391	426	223	55	2,029	8	1	516	4	26
1歳	1,872	197	318	136	5,329	1,281	778	88	1,594	5	6	1,550	12	267
2歳	2,250	73	310	272	4,032	1,235	608	135	152	1	7	1,311	5	586
3歳	2,688	51	392	672	3,992	1,297	458	199	32		5	1,097	1	992
4歳	3,313	22	401	970	3,995	1,172	429	310	8	1	3	852	7	1,301
5歳	3,523	15	288	1,176	3,468	829	270	281	4		2	589	6	1,212
6歳	3,297	9	212	1,075	2,750	482	170	273	3	1		294	4	937
7歳	2,726	13	149	902	2,219	259	117	226		1	1	190	4	629
8歳	2,355	7	92	605	1,747	133	55	164	1		3	115	1	375
9歳	1,906	9	59	409	1,423	86	47	105	1			83	1	264
10～14歳	4,291	17	73	611	3,039	126	57	123	1	2	2	100	1	399
15～19歳	1,037	14	10	78	949	13	5	5			3	19		68
20～29歳	2,782	181	81	634	6,841	76	60	67		3	6	124	3	263
30～39歳	4,744													
40～49歳	3,005													
50～59歳	1,465													
60～69歳	947													
70～79歳	427													
80歳以上	198													
合　計	43,336	848	2,468	7,564	42,578	7,565	3,296	2,035	4,048	28	40	6,909	49	7,321
前年計	18,958	432	2,123	5,842	39,464	6,845	3,585	2,771	4,043	47	234	5,275	78	3,250
当年/前年	2.29	1.96	1.16	1.29	1.08	1.11	0.92	0.73	1.00	0.60	0.17	1.31	0.63	2.25
増減数	24,378	416	345	1,722	3,114	720	−289	−736	5	−19	−194	1,634	−29	4,071

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

第5表－3－2 年齢階級別累計表(眼科・基幹・小児科)　2005年第1週～2005年第52週

人　　人　　人

	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻疹	1 不明発しん症	2 MCLS
6か月未満			4	6	4			21	2
12か月未満		6	4		5			86	7
1歳		10	1		28			124	11
2歳		12	1		23			64	11
3歳		8	2	1	22			45	8
4歳		7		2	16			35	5
5歳		8		1	10			23	2
6歳		8	1	2	11			14	1
7歳		4			8			11	5
8歳		3		2	12			7	
9歳		1		1	3			3	1
10～14歳		9		4	14			11	2
15～19歳		11		1	2			1	
20～29歳	5	108	1	1	2		1	16	1
30～39歳	1	171	1	3					
40～49歳	1	68		2	1	1			
50～59歳		61	1	1	2	3			
60～69歳		39		1	1	2			
70～79歳		33	1			3			
80歳以上									
合　計	7	567	17	28	164	9	1	461	56
前年計	6	719	25	27	184	4	16	540	69
当年/前年	1.17	0.79	0.68	1.04	0.89		0.06	0.85	0.81
増減数	1	−152	−8	1	−20	5	−15	−79	−13

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。
注：眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

第6表－1－1　二次医療圏別患者報告数累計表（インフルエンザ・小児科）　2005年第1週～2005年第52週

人

	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	24	3,714	19	321	601	952	3,586	591	228	139	366		5	661	4	517
2 区南部圏	17	3,366	15	44	270	787	6,321	759	624	127	537	1	3	644	1	1,074
3 区西南部圏	18	2,932	15	8	130	482	4,367	718	271	169	421		4	545	4	476
4 区西部圏	21	5,227	18	72	194	849	6,210	725	210	259	337	10	2	440	4	740
5 区西北部圏	24	5,269	20	59	156	673	3,915	920	283	426	548	1	8	899	5	976
6 区東北部圏	13	3,431	10	2	145	608	2,927	685	253	309	373	6	2	772	4	558
7 区東部圏	13	4,627	10	38	264	1,110	4,171	784	246	114	383	4	3	984	12	853
8 西多摩圏	7	3,044	5	10	182	302	1,551	360	470	38	114		4	192	2	528
9 南多摩圏	10	3,759	7	88	101	799	3,636	794	358	151	302	3	2	636	4	679
10 北多摩西部圏	8	1,843	6	4	56	65	974	152	48	21	23		3	80	2	107
11 北多摩南部圏	13	2,788	10	7	48	347	2,112	494	161	116	328		1	362	5	416
12 北多摩北部圏	8	3,195	6	195	305	575	2,778	560	140	160	306	3	3	667	1	372
13 島しょ圏	2	141	1		16	15	30	23	4	6	10			27	1	25
合　計	178	43,336	142	848	2,468	7,564	42,578	7,565	3,296	2,035	4,048	28	40	6,909	49	7,321

第6表－1－2　二次医療圏別患者報告数累計表（眼科・基幹・小児科）　2005年第1週～2005年第52週

人

	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
1 区中央部圏	2	1	150
2 区南部圏	1		10
3 区西南部圏	1		2
4 区西部圏	2	1	170
5 区西北部圏	1	4	10
6 区東北部圏	1		26
7 区東部圏	1		43
8 西多摩圏			
9 南多摩圏	2	1	61
10 北多摩西部圏	1		13
11 北多摩南部圏	2		16
12 北多摩北部圏			66
13 島しょ圏			
合　計	14	7	567

人

	基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻疹
1 区中央部圏	4	3	7	25	9	
2 区南部圏	1	1	1			
3 区西南部圏	4	8	9			
4 区西部圏	4	1	2	23		
5 区西北部圏	2	1	3	85		
6 区東北部圏	1					
7 区東部圏	1		3			
8 西多摩圏	1	2	3	13		
9 南多摩圏	1			17		
10 北多摩西部圏	1					
11 北多摩南部圏	2	1				
12 北多摩北部圏	2			1		1
13 島しょ圏	1					
合　計	25	17	28	164	9	1

人

	小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
1 区中央部圏	19	45	11
2 区南部圏	15	64	7
3 区西南部圏	15	16	10
4 区西部圏	18	51	7
5 区西北部圏	20	54	2
6 区東北部圏	10	45	3
7 区東部圏	10	25	3
8 西多摩圏	5		
9 南多摩圏	7	106	4
10 北多摩西部圏	6		
11 北多摩南部圏	10	19	5
12 北多摩北部圏	6	34	4
13 島しょ圏	1	2	
合　計	142	461	56

第6表－2－1　二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表（インフルエンザ・小児科）

2005年第1週～2005年第52週

人／定点

	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科定点数	RSウイルス感染症	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発しん	608 百日咳	609 風しん	610 ヘルパンギーナ	611 麻しん	612 流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	24	154.75	19	16.89	31.63	50.11	188.74	31.11	12.00	7.32	19.26		0.26	34.79	0.21	27.21
2 区南部圏	17	198.00	15	2.93	18.00	52.47	421.40	50.60	41.60	8.47	35.80	0.07	0.20	42.93	0.07	71.60
3 区西南部圏	18	162.89	15	0.53	8.67	32.13	291.13	47.87	18.07	11.27	28.07		0.27	36.33	0.27	31.73
4 区西部圏	21	248.90	18	4.00	10.78	47.17	345.00	40.28	11.67	14.39	18.72	0.56	0.11	24.44	0.22	41.11
5 区西北部圏	24	219.54	20	2.95	7.80	33.65	195.75	46.00	14.15	21.30	27.40	0.05	0.40	44.95	0.25	48.80
6 区東北部圏	13	263.92	10	0.20	14.50	60.80	292.70	68.50	25.30	30.90	37.30	0.60	0.20	77.20	0.40	55.80
7 区東部圏	13	355.92	10	3.80	26.40	111.00	417.10	78.40	24.60	11.40	38.30	0.40	0.30	98.40	1.20	85.30
8 西多摩圏	7	434.86	5	2.00	36.40	60.40	310.20	72.00	94.00	7.60	22.80		0.80	38.40	0.40	105.60
9 南多摩圏	10	375.90	7	12.57	14.43	114.14	519.43	113.43	51.14	21.57	43.14	0.43	0.29	90.86	0.57	97.00
10 北多摩西部圏	8	230.38	6	0.67	9.33	10.83	162.33	25.33	8.00	3.50	3.83		0.50	13.33	0.33	17.83
11 北多摩南部圏	13	214.46	10	0.70	4.80	34.70	211.20	49.40	16.10	11.60	32.80		0.10	36.20	0.50	41.60
12 北多摩北部圏	8	399.38	6	32.50	50.83	95.83	463.00	93.33	23.33	26.67	51.00	0.50	0.50	111.17	0.17	62.00
13 島しょ圏	2	70.50	1		16.00	15.00	30.00	23.00	4.00	6.00	10.00			27.00	1.00	25.00

第6表－2－2　二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表（眼科・基幹・小児科）

2005年第1週～2005年第52週

人／定点

	眼科定点数	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎
1 区中央部圏	2	0.50	75.00
2 区南部圏	1		10.00
3 区西南部圏	1		2.00
4 区西部圏	2	0.50	85.00
5 区西北部圏	1	4.00	10.00
6 区東北部圏	1		26.00
7 区東部圏	1		43.00
8 西多摩圏			
9 南多摩圏	2	0.50	30.50
10 北多摩西部圏	1		13.00
11 北多摩南部圏	2		8.00
12 北多摩北部圏			
13 島しょ圏			

人／定点

	基幹定点数	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎（オウム病は除く）	906 成人麻疹
1 区中央部圏	4	0.75	1.75	6.25	2.25	
2 区南部圏	1	1.00	1.00			
3 区西南部圏	4	2.00	2.25			
4 区西部圏	4	0.25	0.50	5.75		
5 区西北部圏	2	0.50	1.50	42.50		
6 区東北部圏	1					
7 区東部圏	1		3.00			
8 西多摩圏	1	2.00	3.00	13.00		
9 南多摩圏	1			17.00		
10 北多摩西部圏	1					
11 北多摩南部圏	2	0.50				
12 北多摩北部圏	2			0.50		0.50
13 島しょ圏	1					

人／定点

	小児科定点数	1 不明発しん症	2 MCLS
1 区中央部圏	19	2.37	0.58
2 区南部圏	15	4.27	0.47
3 区西南部圏	15	1.07	0.67
4 区西部圏	18	2.83	0.39
5 区西北部圏	20	2.70	0.10
6 区東北部圏	10	4.50	0.30
7 区東部圏	10	2.50	0.30
8 西多摩圏	5		
9 南多摩圏	7	15.14	0.57
10 北多摩西部圏	6		
11 北多摩南部圏	10	1.90	0.50
12 北多摩北部圏	6	5.67	0.67
13 島しょ圏	1	2.00	

第7表－1　月報告疾病患者報告数推移表　2005年1月～2005年12月

（男女計）　　人

月	STI定点数	801 性器クラミジア感染症	802 性器ヘルペスウイルス感染症	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3 トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	161	69	35	79	26	2
2月	41	160	62	40	84	16	2
3月	41	208	82	45	92	22	1
4月	41	163	62	37	87	20	4
5月	41	200	59	43	100	25	5
6月	41	163	61	48	80	20	6
7月	41	204	84	46	99	19	3
8月	41	172	89	46	83	18	2
9月	41	202	80	51	71	21	3
10月	41	167	83	65	87	4	8
11月	41	174	97	54	87	8	3
12月	41	158	95	45	57	13	4
合　計		2,132	923	555	1,006	212	43

人

基幹定点数	951 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	952 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	136	33	3
25	136	43	1
25	130	24	1
25	98	33	2
25	111	65	1
25	140	63	4
25	147	46	3
25	152	47	2
25	101	14	2
25	122	27	3
25	145	73	8
25	121	66	5
	1,539	534	35

第7表－2　月報告疾病定点当たり推移表　2005年1月～2005年12月

（男女計）　　人／定点

月	STI定点数	801 性器クラミジア感染症	802 性器ヘルペスウイルス感染症	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3 トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	3.93	1.68	0.85	1.93	0.63	0.05
2月	41	3.90	1.51	0.98	2.05	0.39	0.05
3月	41	5.07	2.00	1.10	2.24	0.54	0.02
4月	41	3.98	1.51	0.90	2.12	0.49	0.10
5月	41	4.88	1.44	1.05	2.44	0.61	0.12
6月	41	3.98	1.49	1.17	1.95	0.49	0.15
7月	41	4.98	2.05	1.12	2.41	0.46	0.07
8月	41	4.20	2.17	1.12	2.02	0.44	0.05
9月	41	4.93	1.95	1.24	1.73	0.51	0.07
10月	41	4.07	2.02	1.59	2.12	0.10	0.20
11月	41	4.24	2.37	1.32	2.12	0.20	0.07
12月	41	3.85	2.32	1.10	1.39	0.32	0.10
平　均		4.33	1.88	1.13	2.04	0.43	0.09

人／定点

基幹定点数	951 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	952 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	5.44	1.32	0.12
25	5.44	1.72	0.04
25	5.20	0.96	0.04
25	3.92	1.32	0.08
25	4.44	2.60	0.04
25	5.60	2.52	0.16
25	5.88	1.84	0.12
25	6.08	1.88	0.08
25	4.04	0.56	0.08
25	4.88	1.08	0.12
25	5.80	2.92	0.32
25	4.84	2.64	0.20
	5.13	1.78	0.12

第7表－3 月報告疾病患者報告数推移表 2005年1月～2005年12月

（男性）　　人

月	STI定点数	801 性器クラミジア感染症	802 性器ヘルペスウイルス感染症	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3 トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	75	37	22	62		2
2月	41	79	23	27	64		1
3月	41	96	35	30	74	1	1
4月	41	77	29	25	74		4
5月	41	109	27	32	77		4
6月	41	92	42	37	66	1	4
7月	41	119	39	38	85	2	2
8月	41	94	39	32	71		2
9月	41	108	40	43	61	1	1
10月	41	86	43	48	65		6
11月	41	97	47	39	68	2	2
12月	41	68	46	29	47		3
合　計		1,100	447	402	814	7	32

人

基幹定点数	951 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	952 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	88	16	2
25	90	23	1
25	90	14	1
25	67	18	2
25	74	37	0
25	90	41	3
25	91	24	3
25	102	27	2
25	73	9	0
25	84	15	2
25	81	42	5
25	79	40	4
	1,009	306	25

第7表－4 月報告疾病患者報告数推移表 2005年1月～2005年12月

（女性）　　人

月	STI定点数	801 性器クラミジア感染症	802 性器ヘルペスウイルス感染症	803 尖圭コンジローマ	804 淋菌感染症	3 トリコモナス症	4 梅毒様疾患
1月	41	86	32	13	17	26	
2月	41	81	39	13	20	16	1
3月	41	112	47	15	18	21	
4月	41	86	33	12	13	20	
5月	41	91	32	11	23	25	1
6月	41	71	19	11	14	19	2
7月	41	85	45	8	14	17	1
8月	41	78	50	14	12	18	
9月	41	94	40	8	10	20	2
10月	41	81	40	17	22	4	2
11月	41	77	50	15	19	6	1
12月	41	90	49	16	10	13	1
合　計		1,032	476	153	192	205	11

人

基幹定点数	951 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	952 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	953 薬剤耐性緑膿菌感染症
25	48	17	1
25	46	20	
25	40	10	
25	31	15	
25	37	28	1
25	50	22	1
25	56	22	
25	50	20	
25	28	5	2
25	38	12	1
25	64	31	3
25	42	26	1
	530	228	10

第8表 基幹定点報告疾病年齢階級別累計表 2005年1月～2005年12月

人

年齢階級	951 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		952 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		953 薬剤耐性緑膿菌感染症		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	61	53	47	41			108	94
1～4歳	52	45	128	106			180	151
5～9歳	14	11	22	18			36	29
10～14歳	8	6	3	2	2		13	8
15～19歳	6	8	1		2		9	8
20～24歳	17	8	1				18	8
25～29歳	10	6	4	3	1		15	9
30～34歳	19	7	2	4			21	11
35～39歳	9	19	4	3	1		14	22
40～44歳	24	9	2	5	1	1	27	15
45～49歳	18	16	3	2			21	18
50～54歳	55	13	4	2		2	59	17
55～59歳	65	26	8	6	3		76	32
60～64歳	98	38	12	6	1		111	44
65～69歳	87	33	17	9	2		106	42
70歳以上	466	232	48	21	12	7	526	260
合 計	1,009	530	306	228	25	10	1,340	768
前年計	1,022	530	277	167	26	13	1,325	710
当年／前年	0.99	1.00	1.10	1.37	0.96	0.77	1.01	1.08
増減数	-13		29	61	-1	-3	15	58

第9表－1　性感染症保健所別、二次医療圏別患者報告数　2005年1月～2005年12月

人

	定点数	801 性器クラミジア感染症		802 性器ヘルペスウイルス感染症		803 尖圭コンジローマ		804 淋菌感染症		3 トリコモナス症		4 梅毒様疾患		合　計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
中央区	2	100	4	27	4	19	1	49				1		196	9
みなと	2	62	128	35	44	5	12	26	12	1	21	4	2	133	219
新宿区	5	307	25	127	15	145	4	293	4	2	1	6		880	49
文京	1		1	1	1		1		2					1	5
台東	4	4	276	10	196	2	16	20	46		119	1	1	37	654
墨田区	1	40	25	26	3	26		23	1			1		116	29
江東区	3	159		66	2	51		150						426	2
品川区	1	11	12	3	5	3	3	11	2		2		1	28	25
大田区	3	30	105	9	77		33	39	23		4		2	78	244
渋谷区	3	62		24		13		11	1					110	1
中野区	1	45	137	8	78	7	60	9	58		12		1	69	346
池袋	3	206		75		101		104				18		504	
北区	1	8		5		5		10						28	
荒川区	1				7										7
板橋区	2	12	86	23	11	10	8	19	16					64	121
足立	1	31	8	5	4	11		17						64	12
八王子	3		3		1				1						5
町田	1		171	1	9		12		6	3	27		3	4	228
多摩立川	2	6	16	1	7	1		30		1	14	1	1	40	38
多摩府中	1	17	35	1	12	3	3	3	20		5			24	75
合　計	41	1,100	1,032	447	476	402	153	814	192	7	205	32	11	2,802	2,069
前年計		1,273	1,203	448	534	415	212	943	228	6	292	27	15	3,112	2,484
当年/前年		0.86	0.86	1.00	0.89	0.97	0.72	0.86	0.84	1.17	0.70	1.19	0.73	0.90	0.83
増減数		−173	−171	−1	−58	−13	−59	−129	−36	1	−87	5	−4	−310	−415
定点当たり報告数		26.83	25.17	10.90	11.61	9.80	3.73	19.85	4.68	0.17	5.00	0.78	0.27	68.34	50.46

区中央部圏	9	166	409	73	245	26	30	95	60	1	140	6	3	367	887
区南部圏	4	41	117	12	82	3	36	50	25		6		3	106	269
区西南部圏	3	62		24		13		11	1					110	1
区西部圏	6	352	162	135	93	152	64	302	62	2	13	6	1	949	395
区西北部圏	6	226	86	103	11	116	8	133	16			18		596	121
区東北部圏	2	31	8	5	11	11		17						64	19
区東部圏	4	199	25	92	5	77		173	1			1		542	31
南多摩圏	4		174	1	10		12		7	3	27		3	4	233
北多摩西部圏	2	6	16	1	7	1		30		1	14	1	1	40	38
北多摩南部圏	1	17	35	1	12	3	3	3	20		5			24	75

第9表－2 性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 2005年1月～2005年12月

人／定点

	定点数	801 性器クラミジア感染症		802 性器ヘルペスウイルス感染症		803 尖圭コンジローマ		804 淋菌感染症		3 トリコモナス症		4 梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
中央区	2	50.00	2.00	13.50	2.00	9.50	0.50	24.50				0.50		98.00	4.50
みなと	2	31.00	64.00	17.50	22.00	2.50	6.00	13.00	6.00	0.50	10.50	2.00	1.00	66.50	109.50
新宿区	5	61.40	5.00	25.40	3.00	29.00	0.80	58.60	0.80	0.40	0.20	1.20		176.00	9.80
文京	1		1.00	1.00	1.00		1.00		2.00					1.00	5.00
台東	4	1.00	69.00	2.50	49.00	0.50	4.00	5.00	11.50		29.75	0.25	0.25	9.25	163.50
墨田区	1	40.00	25.00	26.00	3.00	26.00		23.00	1.00			1.00		116.00	29.00
江東区	3	53.00		22.00	0.67	17.00		50.00						142.00	0.67
品川区	1	11.00	12.00	3.00	5.00	3.00	3.00	11.00	2.00		2.00		1.00	28.00	25.00
大田区	3	10.00	35.00	3.00	25.67		11.00	13.00	7.67		1.33		0.67	26.00	81.33
渋谷区	3	20.67		8.00		4.33		3.67	0.33					36.67	0.33
中野区	1	45.00	137.00	8.00	78.00	7.00	60.00	9.00	58.00		12.00		1.00	69.00	346.00
池袋	3	68.67		25.00		33.67		34.67				6.00		168.00	
北区	1	8.00		5.00		5.00		10.00						28.00	
荒川区	1				7.00										7.00
板橋区	2	6.00	43.00	11.50	5.50	5.00	4.00	9.50	8.00					32.00	60.50
足立	1	31.00	8.00	5.00	4.00	11.00		17.00						64.00	12.00
八王子	3		1.00		0.33				0.33						1.67
町田	1		171.00	1.00	9.00		12.00		6.00	3.00	27.00		3.00	4.00	228.00
多摩立川	2	3.00	8.00	0.50	3.50	0.50		15.00		0.50	7.00	0.50	0.50	20.00	19.00
多摩府中	1	17.00	35.00	1.00	12.00	3.00	3.00	3.00	20.00		5.00			24.00	75.00
合 計	41	1,100	1,032	447	476	402	153	814	192	7	205	32	11	2,802	2,069
前年計		1,273	1,203	448	534	415	212	943	228	6	292	27	15	3,112	2,484
当年/前年		0.86	0.86	1.00	0.89	0.97	0.72	0.86	0.84	1.17	0.70	1.19	0.73	0.90	0.83
増減数		−173	−171	−1	−58	−13	−59	−129	−36	1	−87	5	−4	−310	−415
定点当たり報告数		26.83	25.17	10.90	11.61	9.80	3.73	19.85	4.68	0.17	5.00	0.78	0.27	68.34	50.46

区中央部圏	9	18.44	45.44	8.11	27.22	2.89	3.33	10.56	6.67	0.11	15.56	0.67	0.33	40.78	98.56
区南部圏	4	10.25	29.25	3.00	20.50	0.75	9.00	12.50	6.25		1.50		0.75	26.50	67.25
区西南部圏	3	20.67		8.00		4.33		3.67	0.33					36.67	0.33
区西部圏	6	58.67	27.00	22.50	15.50	25.33	10.67	50.33	10.33	0.33	2.17	1.00	0.17	158.17	65.83
区西北部圏	6	37.67	14.33	17.17	1.83	19.33	1.33	22.17	2.67			3.00		99.33	20.17
区東北部圏	2	15.50	4.00	2.50	5.50	5.50		8.50						32.00	9.50
区東部圏	4	49.75	6.25	23.00	1.25	19.25		43.25	0.25			0.25		135.50	7.75
南多摩圏	4		43.50	0.25	2.50		3.00		1.75	0.75	6.75		0.75	1.00	58.25
北多摩西部圏	2	3.00	8.00	0.50	3.50	0.50		15.00		0.50	7.00	0.50	0.50	20.00	19.00
北多摩南部圏	1	17.00	35.00	1.00	12.00	3.00	3.00	3.00	20.00		5.00			24.00	75.00

第9表－3 性感染症年齢階級別累計表 2005年1月～2005年12月

人

年齢階級	801 性器クラミジア感染症		802 性器ヘルペスウイルス感染症		803 尖圭コンジローマ		804 淋菌感染症		3 トリコモナス症		4 梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳														
10～14歳		2		1										3
15～19歳	29	111	5	15	11	9	17	26		13		1	62	175
20～24歳	165	327	31	86	41	66	131	59		44	2	2	370	584
25～29歳	234	258	64	127	99	40	212	47		37	7	2	616	511
30～34歳	180	165	93	93	77	18	137	33	3	37	4		494	346
35～39歳	177	94	75	52	63	8	132	15	1	22	8	1	456	192
40～44歳	136	53	65	30	48	5	85	8	2	20	2	2	338	118
45～49歳	67	17	36	26	18	2	41	1		17	3	1	165	64
50～54歳	52	5	25	17	18	2	29	3		8	1	1	125	36
55～59歳	39		33	8	17	1	17		1	5	2	1	109	15
60～64歳	14		8	7	4	1	12			1	1		39	9
65～69歳	4		8	7	6	1	1			1			19	9
70歳以上	3		4	7							2		9	7
合 計	1,100	1,032	447	476	402	153	814	192	7	205	32	11	2,802	2,069
前年計	1,273	1,203	448	534	415	212	943	228	6	292	27	15	3,112	2,484
当年／前年	0.86	0.86	1.00	0.89	0.97	0.72	0.86	0.84	1.17	0.70	1.19	0.73	0.90	0.83
増減数	−173	−171	−1	−58	−13	−59	−129	−36	1	−87	5	−4	−310	−415

第　2　章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績

平成 11 年 4 月から施行された感染症法により位置づけを新たにされた本事業において、各地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。平成 17 年、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体及び感染症発生時の調査の検体を用いて病原体の検索を行うとともに、都内協力検査機関からの病原体情報をとりまとめ、東京都感染症週報の病原体情報及び東京都微生物検査情報（月報）として関係機関に提供・公開した。実施した主な検査は、全数把握の 4、5 類感染症及び定点把握の 5 類感染症の細菌・ウイルス検査、性感染症の抗体検査と遺伝子検査、多摩地区定点の感染性胃腸炎及びインフルエンザの検査である。

1　ウイルス

（1）臨床診断名別の検体搬入状況

平成 17 年 1 月から 12 月末までの間に、東京都内の小児科および基幹検査定点より 1,922 件の検

表1. 臨床診断名別の検体搬入状況

診断名	検体数	検体種						
		咽頭拭い液	糞便	髄液	血液	尿	結膜拭い液	その他
上気道炎	129	118	6	2	1	1	1	
下気道炎	221	200	3	8	5	2	1	2
インフルエンザ	30	16	1	12	1			
RSウイルス感染症	18	16		2				
不明熱	151	59	12	72	5	3		
感染性胃腸炎	287	14	262	4				7
無菌性髄膜炎	199	25	14	155	1	4		
脳炎･脳症	80	17	9	44	5	5		
痙攣	119	27	7	81		4		
急性散在性脳脊髄膜炎	9	3	1	2	2	1		
手足口病	9	7	1	1				
ヘルパンギーナ	13	11	1					1
麻疹	9	7			1	1		
水痘	8	5		1	2			
伝染性紅斑	7	7						
突発性発疹	19	16	2		1			
口内炎	14	11		1				2
川崎病	49	27	8	4	8	2		
不明発疹症	111	96	3	1	4	4		3
流行性耳下腺炎	53	45		8				
流行性角結膜炎	44						44	
リンパ節炎	35	29	2	3	1			
後天性免疫不全症候群	26			4	22			
脊髄炎	17	4	2	7		4		
ギランバレー症候群	16	5	4	4		3		
敗血症	16	4	3	9				
デング熱	14				14			
心筋炎	8	3	1		2			2
肝炎	6		1		3	2		
膀胱炎	5					5		
診断名記載なし	32	11	6	14				1
その他	168	61	29	41	10	20	2	5
総計	1,922	844	378	480	88	61	48	23

体が搬入された。その内訳は、糞便 378 件、咽頭拭い液 844 件、髄液 480 件、血液 88 件、結膜拭い液 48 件、尿 61 件および、その他（胸水、胃液、皮膚病巣等）23 件である。臨床診断名別の検体搬入状況を表 1 に示した。

搬入された検体は、感染性胃腸炎 287 件、神経性疾患 424 件（無菌性髄膜炎 199 件、脳炎・脳症 80 件、脊髄炎 17 件、痙攣 119 件、急性散在性脳脊髄炎 9 件）、呼吸器系疾患 549 件（上気道炎 129 件、下気道炎 221 件、不明熱 151 件、インフルエンザ 30 件、RS ウイルス感染症 18 件）、発疹性疾患 239 件（手足口病 9 件、ヘルパンギーナ 13 件、麻疹 9 件、水痘 8 件、伝染性紅斑 7 件、突発性発疹 19 件、口内炎 14 件、川崎病 49 件、不明発疹症 111 件）、流行性耳下腺炎 53 件、流行性角結膜炎 44 件、後天性免疫不全症候群 26 件、デング熱 14 件、肝炎 6 件、リンパ節炎 35 件、ギランバレー症候群 16 件、敗血症 16 件、心筋炎 8 件、膀胱炎 5 件、「その他」168 件の臨床診断名であった。「その他」には、意識障害、神経炎、中耳炎、先天性障害、紫斑病、頚髄症、多臓器不全、無呼吸症等が含まれる。また、診断名の記載が無い検体が 32 件あった。

（２）ウイルス分離検出状況

搬入された検体 1,922 件のうち、血液を除く 1,673 件を対象に、組織培養（HeLa・Hep-2・RD・MDCK・Vero・B95a 細胞等）及び乳のみマウスによるウイルス分離試験を行った結果、175 株のウイルスが分離同定された。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示すようにアデノウイルス 90 株（40.7%）、エコーウイルス 25 株（11.3%）、コクサッキーウイルス 24 株（10.9%）、ポリオウイルス 7 株（3.2%）、インフルエンザウイルス 11 株（5.0%）、ムンプスウイルス 8 株(3.6%)、RS ウイルス 6 株（2.7%）、単純ヘルペスウイルス 4 株（1.8%）である。また、酵素抗体法によりロタウイルス抗原 46 件（20.8%）が確認された。

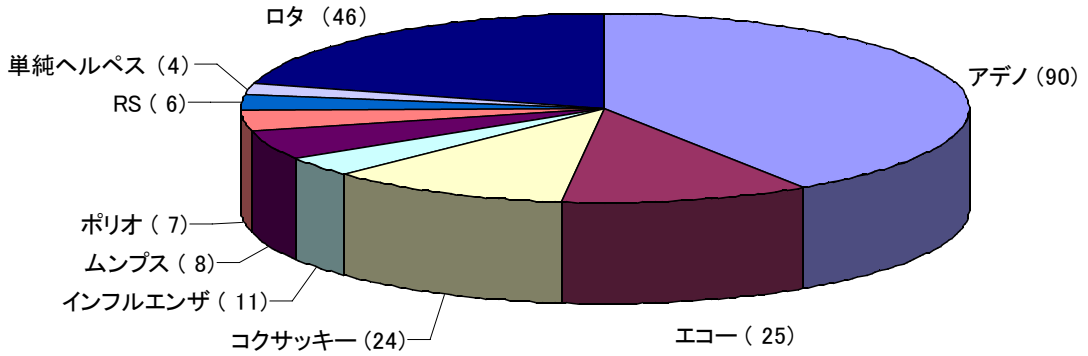


図1．ウイルス分離数（分離数：221株）

臨床診断別にみたウイルス分離状況を表 2 に示した。

本年最も多く分離されたウイルスはアデノウイルス 2 型（50 株）であった。特に上気道炎（10 株）、下気道炎（11 株）、感染性胃腸炎患者検体（12 株）からは多数分離された。また、川崎病、不明発疹症、流行性角結膜炎患者検体からも分離されており、同ウイルスの感染による臨床病状が多岐にわたることがうかがえた。昨年の分離ひん度が高かったアデノウイルス 3 型は、昨年の半分程度の検出数（17 株）であった。本年はアデノウイルス 1 型の検出数が増加しており、下気道炎・上気道炎、不明熱、感染性胃腸炎等患者検体より昨年の約 2 倍となる 13 株が分離された。

インフルエンザウイルスは、インフルエンザ・上下気道炎・不明熱・川崎病患者検体より、AH1 型 1 株、B 型 10 株が分離された。

表2. 臨床診断名別に見たウイルス分離検出状況

		分離検出数	臨床診断名																				
			上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS感染症	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	痙攣	急性散在性脳脊髄炎	手足口病	ヘルパンギーナ	口内炎	川崎病	不明発疹症	流行性角結膜炎	流行性耳下腺炎	ギランバレー症候群	敗血症	診断名記載なし	その他
検査体数		1,673	128	206	29	18	146	287	154	75	119	7	9	13	14	41	107	44	53	16	16	32	159
インフルエンザ	H1型	1			1																		
	B型	10	1	2	5		1									1							
アデノ	1型	13	2	3			2	3					1							1		1	
	2型	50	11	10			2	12	1		1			2		2	3	2	1				3
	3型	17	3	2			1	3								2		5					1
	4型	2								1													1
	5型	2						1															1
	19型	2																2					
	37型	1																1					
	40/41型	3						3															
ポリオ	1型	2		1				1															
	2型	4		1		1		1			1												
	3型	1						1															
コクサッキー	A群5型	2											1	1									
	A群6型	7					1						1	3			1					1	
	A群10型	2												2									
	B群3型	4	1						1												1		1
	B群4型	8	1				1	2			3									1			
	B群5型	1					1																
エコー	3型	1	1																				
	11型	1	1																				
	13型	3	2	1																			
	18型	2					1										1						
	24型	1		1																			
	25型	6					1	1	1							2	1						
	30型	11					1		9								1						
単純ヘルペス	1型	3							1						2								
	2型	1										1											
ムンプス		8							2										5			1	
RS		6	1	3		1	1																
ロタ(抗原検出)	A群	46						45														1	
総計		221	24	24	6	2	5	73	15	10	3	1	2	7	1	7	6	8	13	2	1	4	7

コクサッキーウイルス A 群は、ヘルパンギーナ患者検体からの分離が最も多く、5 型、6 型、10 型が分離されている。コクサッキーウイルス B 群は、上気道炎・感染性胃腸炎・不明熱・痙攣患者検体から分離されている。

エコーウイルスは、30 型の分離数が 11 株と最も多く、その多くが無菌性髄膜炎患者検体からの分離であった。

ムンプスウイルスは、流行性耳下腺炎患者検体から 5 株分離されている。さらに無菌性髄膜炎患者検体からも 2 株分離されており、ムンプスウイルスを原因とする髄膜炎の流行が示唆された。

酵素抗体法により、胃腸炎患者検体から A 群ロタウイルス 45 件が確認された。

（3）ウイルス遺伝子検索状況

ウイルス遺伝子検索状況を図 2、表 3 に示した。

搬入された検体 1,915 件を対象に遺伝子検索を実施した結果、陽性検体数は 784 件(40.8 %)でウイルス遺伝子陽性例は 956 件(49.7%)であった。その内訳をみると、アデノウイルスが 264 件(27.6%)と最も多く、以下、エンテロウイルス 181 件(19%)、ヒトヘルペスウイルス（HHV）109 件（11.4%)、ノロウイルス 69 件（7.2%)、ムンプスウイルス 62 件（6.5%)、ライノウイルス 61 件(6.4 %)、RS ウイルス 46 件（4.8%)、EB ウイルス 42 件（4.4%)、サイトメガロウイルス（CMV）29 件（3.0%)、インフルエンザウイルス 23 件（2.4%)、パラインフルエンザウイルス 21 件(2.2%)、単純ヘルペスウイルス（HSV）18 件（1.9%)、パルボ B19 ウイルス（PB19）13 件（1.4%)、水痘帯状疱疹ウイル

表3. 臨床診断名別に見たウイルス遺伝子検出状況

		総検査数	陽性検体数	臨床診断名																														
				上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS感染症	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	痘瘡	急性散在性脳脊髄炎	手足口病	ヘルパンギーナ	水痘	麻疹	伝染性紅斑	突発性発疹	口内炎	川崎病	不明発疹症	流行性耳下腺炎	リンパ節炎	流行性角結膜炎	後天性免疫不全症候群	ギランバレー症候群	肝炎	脊髄炎	膀胱炎	敗血症	心筋炎	デング熱	診断名記載なし	その他
検査検体数		1,915	784	129	221	30	18	151	287	199	80	119	9	9	13	8	9	7	19	14	49	111	53	35	44	26	16	6	17	5	16	8	14	32	168
アデノ		1,713	264	41	51	1	3	14	33	2	4	6	1	3	5			2	2	1	12	16	11	8	17		1	1		1			6	22
エンテロ	ポリオ	1,698	18	1	4		1	1	4			1								1	1	4												
	コクサッキーA群		43	12	1			4	1	1	1	3		2	11	1						1	1										2	2
	コクサッキーB群		13	1				2	2	3		1										1								1			2
	エコー		21	2	3			3	1	10		1										1											
	71型		11	2				2	1	2				2								1											1
	型別不明		75	9	9			9	5	17		3		2						1	1	9	3	1								1	5
ライノ			61	13	16		1	6	2	3	1					1			1		3	8	4	1		1							
単純ヘルペス		373	18	3	1			1		2	1				1					5		2						1					1
ヒトヘルペス	6型	308	94	6	4	1	1	8	1	2		11	2	4		1	1		11		5	27	2									5	2
	7型		15	1				3				1						1	1			7											1
サイトメガロ		269	29	2	6			3		2	1									1	2	1					1						10
EB		256	42	5				2			2				1			2			4	5	1	6		2						1	11
水痘帯状疱疹		89	7													3				1													3
インフルエンザ	AH1型	328	1			1																											
	AH3型		6		1	3						2																					
	B型		16	1	6	6		1			1										1												
風疹		35	1																														1
麻疹		65	3														1					2											
ムンプス		220	62							24	1												36	1									
ノロ		320	69	1				1	65																							1	1
パラインフルエンザ	1型	167	11	1	8		1	1																									
	3型		10	1	8																											1	
パルボB19		64	13															5	1			5										1	1
RS		354	46	8	27	1	8	2																									
マイコプラズマ・ニューモニエ		161	3		3																												
百日咳菌		8	1																														1
HIV		23	3																						3								
総計		6,451	956	110	148	13	15	63	115	68	12	29	3	13	18	6	2	10	16	10	29	90	58	17	17	3	4	2	1	1	1	0	0	18	64

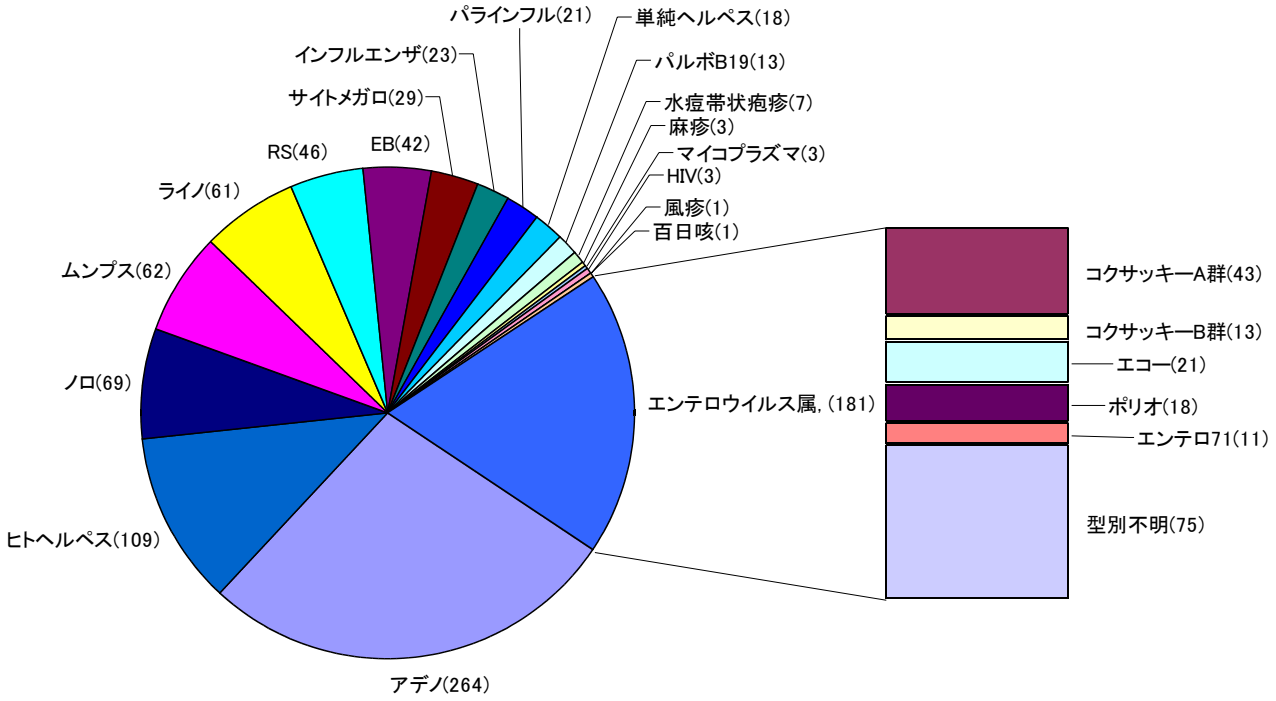


図2. ウイルス遺伝子検出数(陽性例:956件)

ス (VZV) 7 件 (0.7%)、麻疹ウイルス 3 件 (0.3%)、マイコプラズマ・ニューモニエ 3 件 (0.3%)、HIV3 件 (0.3%)、風疹ウイルス、百日咳菌 (Bordetella pertussis)、それぞれ 1 件(0.1%)であった。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシークエンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、NCBI (国立バイオテクノロジー情報 センター) の遺伝子データベースを使用して遺伝子産物の相同性検索を行い、検出遺伝子のさらなる分類を試みた。その結果、遺伝子検査陽性であったエンテロウイルス属 181 検体中、コクサッキーウイルス A 群 43 件、コクサッキーウイルス B 群 13

件、エコーウイルス 21 件、ポリオ 18 件、エンテロウイルス 71 型 11 件、型別不明検体 75 件という結果となった。エンテロウイルス遺伝子は無菌性髄膜炎患者検体から多数検出され、遺伝子解析の結果、エコーウイルスが多いことが判明した。このことは、ウイルス分離試験において無菌性髄膜炎患者検体からエコー 30 型ウイルスが最も多く分離されていた事と合致する。また、上気道炎およびヘルパンギーナ患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子の解析結果ではコクサッキーウイルス A 群が多かった。

アデノウイルスは、多様な疾患患者検体から検出され、陽性例 264 件のうち特に上・下気道炎、胃腸炎患者検体から 125 件（47.3%）が検出された。

ライノウイルスは一般に鼻風邪の原因と認識されているが、上気道炎患者検体から 13 件検出されたのに対して下気道炎患者検体からは 16 件検出され、同ウイルスが、気管支炎、肺炎等の発症にも関与していることが示唆された。また、不明発疹症患者検体から 8 件、不明熱患者検体からも 6 件検出されていた。

サイトメガロウイルス遺伝子は下気道炎から多く検出されているが、そのほとんどが 1 歳以下であった。また、同ウイルスは「その他」に分類されている臨床診断名から検出されており、その内訳は、肝機能障害 3 検体、尿路感染症 2 検体、スチーブンスジョンソン症候群、EB ウイルス感染症、サイトメガロ感染症、骨髄移植後、伝染性単核球症患者検体がそれぞれ 1 検体であった。

EB ウイルス遺伝子は 42 件が陽性で、リンパ節炎患者検体からの検出が多く、ほとんどが頸部リンパ節の炎症であった。また、不明発疹・川崎病患者からも検出されている。

ムンプスウイルス遺伝子は 62 件が陽性で、流行性耳下腺炎患者検体と無菌性髄膜炎患者検体から 60 件（96.7%）検出された。特に無菌性髄膜炎患者検体からのムンプスウイルス遺伝子の検出割合（35.3%）は、エンテロウイルス遺伝子（48.5%）に次ぐ高値を示していた。

パラインフルエンザウイルス遺伝子は主に下気道炎患者検体から検出された。遺伝子の検出時期を調べると、6 月と 7 月に集中しており、パラインフルエンウイルス 3 型についてはこの 2 ヶ月間でのみ検出されたが、同 1 型は 4 月から 10 月まで検出された。

（4）臨床診断別にみたウイルス遺伝子検索状況

ア　呼吸器疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RS ウイルス感染症患者等検体から検出されたウイルスのうち、約 9 割を占める上位 6 種（アデノ、エンテロ、インフルエンザ、パラインフルエンザ、ライノ、RS）のウイルスについて、月別の検出状況を図 3 に示した。

呼吸器系疾患の流行は、毎年 1 月から 2 月にかけて流行するインフルエンザから始まることが多く、本年も 2 月をピークとするインフルエンザの流行が見られた。この流行は 3 月にはほぼ終息し、代わりにこの月からアデノウイルスの検出（遺伝子検索と分離による）が急激に増加した。

アデノウイルスの検出状況は 6 月と 11 月をピークとする 2 峰性を示していた。今年のアデノウイルスの血清型別はウイルス分離の結果、1 型、2 型、3 型が分離されたが、その過半数が 2 型であった。

4 月になると、RS ウイルスが検出された。これは春先に見られる小流行で、本格的な流行のピークは毎年 10 月ごろとなるのが多いが、今年は 12 月に入ってさらに RS ウイルスの検出数が急増しており、今冬季において大規模な RS ウイルス感染の流行があったことが示唆された。

6 月になると、パラインフルエンザウイルス検出のピークが現れることが多く、今年も同月を中心とした検出がみられた。パラインフルエンザウイルスは主に 3 型が検出されることが多かったが、

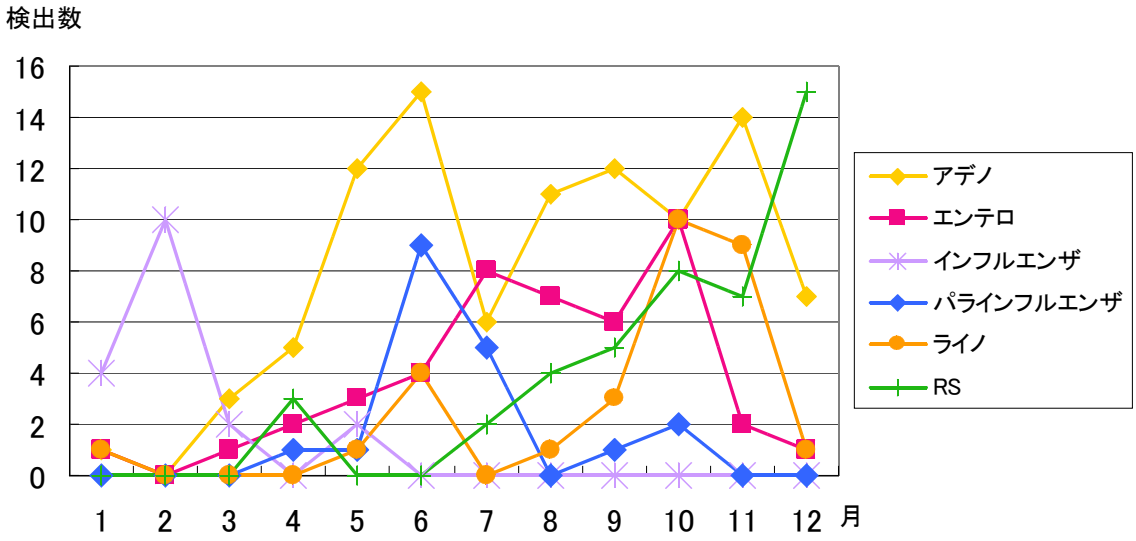


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

今年は 1 型と 3 型がほぼ同数検出されており、3 型では 6 月と 7 月のみの検出となったのとは対照的に、1 型は 4 月から 10 月まで検出されていた。

ライノウイルスは、初夏と冬季に流行のピークが見られることが多いが、今年も 6 月と 10 月に流行のピークが現れた。エンテロウイルスは主に夏風邪の原因とされるが、今年も夏季を中心とした流行パターンを示していた。

イ　無菌性髄膜炎患者からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたウイルスの中で最も多かったエンテロウイルス属とムンプスウイルスについて月別の検出状況を図 4 に示した。なお、CMV、HHV、HSV をまとめて「その他」として計上している。

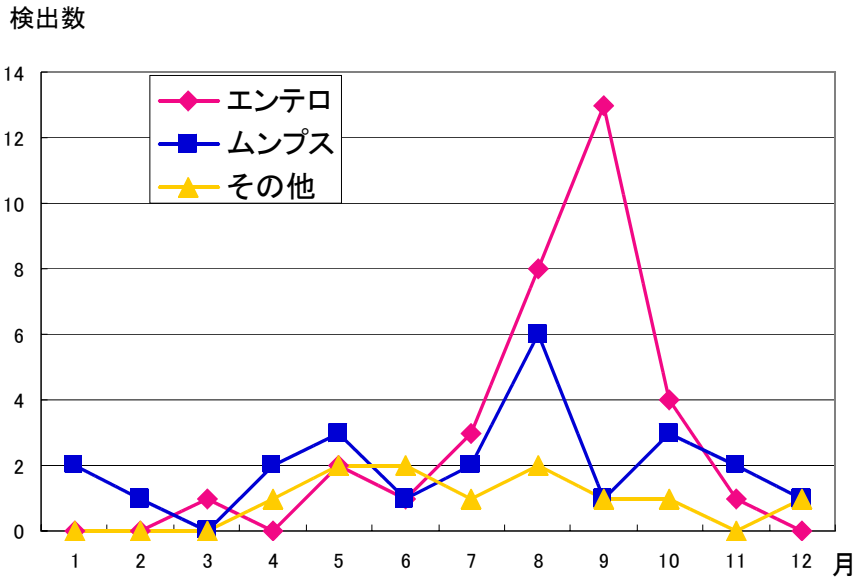


図4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

本疾患は、夏季を中心として流行する中枢神経性の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起こすが、ウイルス種、血清型は毎年のように異なる事が多い。無菌性髄膜炎は、主にエンテロウイルスによって起こることが多い。患者検体 119 件中 68 件からウイルス遺伝子が検出され、そのうちエンテロウイルス遺伝子陽性は 33 件(48.5 %)で、中でもエコーウイルス陽性数が 10 件(14.7 %)であった。また、ムンプスウイルス遺伝子陽性数が、24 件(35.3 %)あり、同ウイルスの流行があったことも示唆された。ムンプスウイルスは、一年を通じてほぼ毎月検出され、8 月にピークがみられたが、12 月になっても検出は続いた。

エンテロウイルスは例年通り夏季を中心とした流行パターンを示し、9 月に大きなピークを形成していた。エンテロウイルスの種類は遺伝子解析により、コクサッキー A 群 1 件、コクサッキー B 群 3 件、エコーウイルス 10 件、エンテロウイルス 71 型 2 件、型別不明 17 件となった。また、エンテロウイルス属のウイルス分離ではコクサッキー B 群 3 型 1 株、エコーウイルス 25 型 1 株、エコーウイルス 30 型 9 株が無菌性髄膜炎から分離されていることから考えて、今年の無菌性髄膜炎の流行株はエコーウイルス 30 型であったことが示唆された。エコーウイルス 30 型は 1991 年に本邦で大流行して以来約 7 年ごとに流行を繰り返してきた経緯があり、本年が 1998 年のエコーウイルス 30 型の流行から数えてちょうど 7 年目にあたる。なお、その他に集計されたウイルスはライノウイルス 3 件、HSV、HHV6、アデノウイルス、CMV が各 2 件であった。

ウ　感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索及び抗原検索によって検出されたウイルスの月別検出数を図 5 に示した。1 月にノロウイルスの流行が見られ、3 月にはロタウイルスのピークが見られ、再び 11 月～ 12 月にノロウイルスの流行が見られた。アデノウイルスは、ほぼ通年検出され、分離された株の血清型は、2 型が 2 株と最も多く、1 型および 3 型が各 3 株、そして 40/41 型が 3 株、5 型が 1 株であった。また、夏季にはエンテロウイルス属による小さなピークが現れた。このエンテロウイルス属の遺伝子解析を試みたが、比較的コクサッキー B 群ウイルスが多く検出されるものの、型別不能なものが多かった。分離されたエンテロウイルス属はポリオウイルス 1 型、2

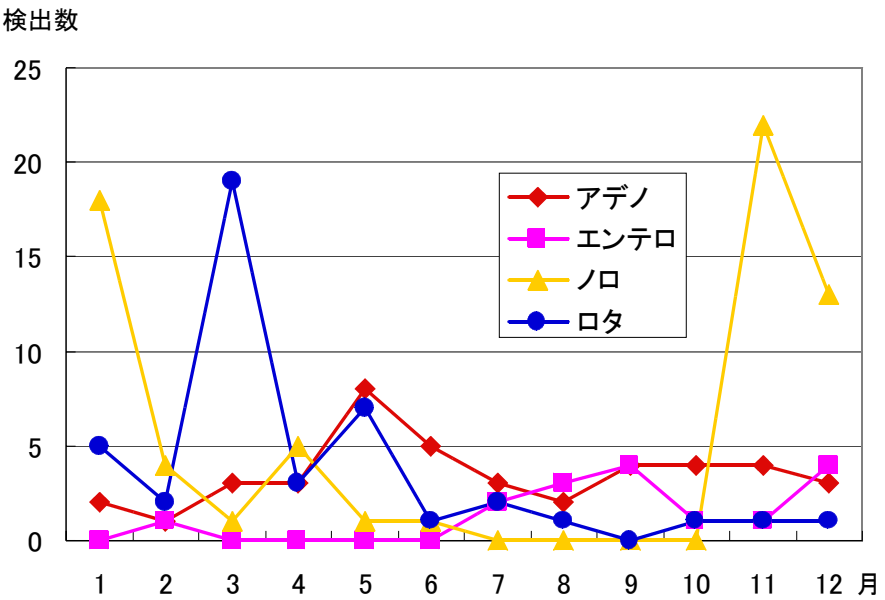


図5. 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス月別検出状況

型、3 型が各 1 株。コクサッキーウイルス B 群 4 型とエコーウイルス 25 型が各 1 株であった。ポリオウイルスが検出された患者はすべて 1 歳以下で、ポリオワクチン由来によるものと思われた。

エ　発疹性疾患患者検体からのウイルス検出状況

手足口病、ヘルパンギーナ、突発性発疹、口内炎、伝染性紅斑、水痘、麻疹の発疹性疾患患者検体 79 件より、アデノウイルス 3 株（1 型；1 株、2 型；2 株）、HSV1 型 2 株、コクサッキーA群ウイルス 8 株（5 型；2 株、6 型；4 株、10 型；2 株）が分離された。一方、遺伝子検索ではアデノウイルス 13 件、エンテロウイルス属 20 件（コクサッキーA群；14 件、エンテロ 71；2 件、ポリオ；1 件、型不明 3 件）、ライノウイルス 2 件、ヘルペスウイルス属 33 件（HHV6；17 件、HHV7；2 件、HSV；6 件、EB；3 件、CMV；1 件、VZV；4 件）、パルボ B19；6 件、麻疹ウイルス；1 件の計 75 件が陽性であった。

手足口病の起因ウイルスは、コクサッキーウイルス A 群とエンテロウイルス 71 であり、ヘルパンギーナはコクサッキーウイルス A 群 6 型が主流であった。

突発性発疹患者からの遺伝子検出陽性例 16 件（5 種類のウイルス）のうち HHV6 が 11 件（68.8%）を占め、また伝染性紅斑では 10 件の陽性例（4 種類のウイルス）のうちパルボ B19 が 5 件（50.0%）であった。

口内炎患者からの遺伝子陽性例（6 種類のウイルス）10 件のうち 5 件（50.0%）が HSV、水痘患者からは 6 件（4 種類のウイルス）のうち 3 件（50.0%）が VZV であった。

東京都が独自に監視体制をとっている「不明発疹症」と「川崎病」の 2 疾患について特記する。

① 不明発疹症患者検体からのウイルス検出状況

不明発疹症患者検体 111 件からアデノウイルス 2 型 3 株、コクサッキー A 群ウイルス 6 型 1 株、エコーウイルス 3 株（18・25・30 型各 1 株）が分離された。また、遺伝子検索状況は図 6 に示した。陽性例 90 件に対して HHV が 34 件（37.8%）を占め、そのうちの 27 件が HHV6 であった。次ぎに多く検出されたエンテロウイルス属は 17 件（18.8%）で 6 分類（ポリオ、コクサッキー A・B 群、エコー、エンテロ 71、型不明）のウイルス遺伝子が検出された。

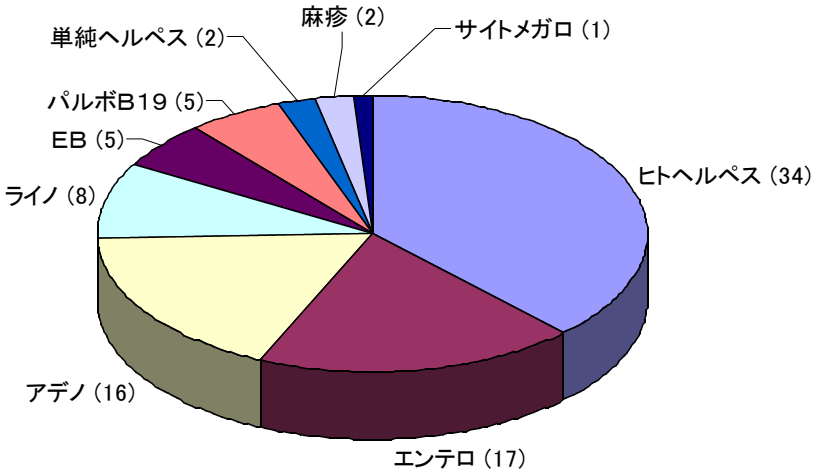


図6. 不明発疹症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

② 川崎病患者検体からのウイルス検出状況

1967 年に「急性熱性皮膚粘膜リンパ腺症候群；MCLS」と報告されたが、いまでは川崎病（Kawasaki Disease）として WHO にも認められ、最も一般的な病名となっている。この疾病の原因はいまだに判っていない。

川崎病患者検体 49 件からは、アデノウイルス 4 株（2 型；2 株、3 型；2 株）、エコーウイルス 2 型 2 株、インフルエンザウイルス B 型 1 株が分離された。遺伝子検索状況は図 7 に示した。29 件からウイルス遺伝子が検出され、アデノウイルスが 12 件（41.4%）を占め、次いで HHV6 が 5 件、EBV が 4 件であった。

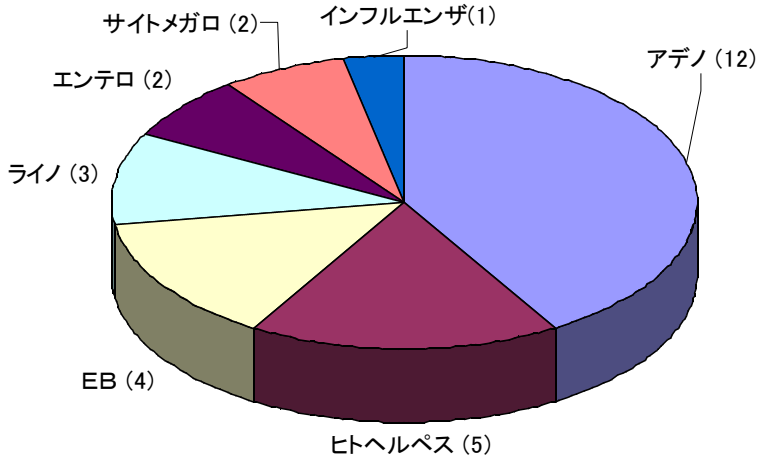


図7. 川崎病患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

（５）臨床診断別にみた抗体検査状況

血清学的検査結果を表 4 に示した。搬入された血液検体 28 件について酵素抗体法、中和抗体法、補体結合反応を行った。デング熱については、搬入された検体 7 件のうち 2 件（50.0%）が抗デングウイルス IgM 抗体陽性であった。HIV 感染症疑いで搬入された 7 件については、2 件（28.6%）の抗 HIV 抗体が陽性であった。またQ熱、ライム病、E 型肝炎が疑われた検体では全例陰性であった。

表4. 診断名別に見た抗体検査結果

診断名	抗体検査		合計
	陽性	陰性	
デング熱	7	7	14
HIV感染症	2	5	7
Q熱		4	4
ライム病		1	1
E型肝炎		1	1
HTLV-1		1	1
総計	9	19	28

（６）感染症疫学調査

ア　新興感染症関連緊急検査

① SARSアラート

平成 17 年 3 月 20 日、漁船の乗組員 3 例が、発熱、呼吸困難等の症状を呈しているとの報告が入り、SARS アラートが発動された。医療機関で採取した喀痰、咽頭拭い液、尿等よりウイルス核酸を抽出し、SARS 関連（鳥インフルエンザウイルス等を含む）の緊急検査を実施した結果、SARS コロナウイルスおよび鳥インフルエンザウイルス遺伝子は検出されなかったが、3 例中 1 例でインフルエンザウイルスＢ型が検出された。

② 高病原性鳥インフルエンザアラート

多摩小平保健所（平成 17 年 3 月 8 日）、新宿区保健所（7 月 22 日）、目黒区保健所（12 月 30 日）管内で、発熱、呼吸器症状を呈し、高病原性鳥インフルエンザを疑う症例（3 例）の報告が入り、それぞれの事例で、高病原性鳥インフルエンザアラートが発動された。各咽頭拭い液等よりウイルス核酸を抽出後、LAMP 法、Real-time PCR 法および nested-PCR 法により検査を行った結果、高病原性鳥インフルエンザウイルスは検出されなかったが、3 例それぞれからインフルエンザウイルス AH3 型が検出された。

イ　インフルエンザ関連検査

① 平成 17 年 5 月 15 日から 20 日に新宿区保健所管内の病院内で約 40 名のインフルエンザ疾患患者が報告された。19 日に、3 例の鼻腔拭い液を採取し、ウイルス核酸抽出後、インフルエンザウイルスの遺伝子検査を実施した結果、内 2 例からインフルエンザウイルス AH3 型が検出された。

② 2005 年 9 月 9 日に町田保健所管内の診療所医師より、小学校で 1 クラスの約半数が欠席し、迅速診断キットでインフルエンザ A 型陽性の患者が出ているとの連絡が同保健所にあり、同保健所はこれを受け、積極的疫学調査を開始した。検査対象者は、38.4 ～ 39.9 ℃の発熱、関節痛、倦怠感、頭痛、咳、咽頭痛等のインフルエンザ症状を呈していた 11 名（小学生 8 名、幼児 3 名）である。

採取された咽頭うがい液を材料として、ウイルス検査を実施した結果、11 例中 9 例から AH1 型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出され、増幅された遺伝子の塩基配列を決定した結果、9 例すべての塩基配列が一致した。また、MDCK 細胞に接種後 4 名の検体で細胞変性効果を確認したことから、HI 試験によりウイルス株の同定を行った結果、HI 価は A/NewCaledonia/20/99 株（ホモ HI 価 320 倍）に 20 ～ 40 倍、A/Wyoming/3/2003 に<10 倍、B/Shanghai/36/2002 に<10 倍であった。

なお、9 月 21 日以降新たな患者発生は見られず、21 日をもって調査を終了した。また、調査により、9 月 7 日に発症した 2 名の内、1 名が 8 月中旬にオーストラリア、バリ島への渡航歴があることが判明したが、渡航歴との因果関係については証明されなかった。

ウ　下痢症関連検査

平成 17 年 1 月から 12 月に、都内の高齢者福祉施設等 81 施設内で胃腸炎の集団発生があり、患者糞便材料 490 件が搬入された。ウイルス検索の結果、71 事例（87.7%）の 294 件（60%）から胃腸炎起因ウイルスが検出された。その内訳は、ノロウイルス 66 事例（G Ⅰ；8 事例、G Ⅱ；57 事例、G Ⅰと G Ⅱ同時検出；1 事例）、A 群ロタウイルス 2 事例、C 群ロタウイルス 2 事例、ノロウイルス G Ⅱと A 群ロタウイルス同時検出 1 事例であった。発生施設は高齢者施設等 37 施設（45.7%）が最も多く、次いで小学校等 18 施設（22.2%）、病院 13 施設（16.9%）、幼稚園等 12 施設（14.8%）、その他 1 施設であった。ノロウイルス G Ⅰが検出された 9 事例（G Ⅰと G Ⅱ同時検出；1 事例を含む）のうち、7 事例は小学校・幼稚園等、その他に高齢者施設、病院内からそれぞれ 1 事例ずつ検出された。A 群ロタウイルスは幼稚園、高齢者施設、病院内の事例からそれぞれ 1 事例ずつ、C 群ロタウイルスは小学校の事例から検出された。小学校での胃腸炎集団事例では、ノロウイルスと比較して検出率は低いが、A 群および C 群ロタウイルスによる事例も確認され、幅広く胃腸炎ウイルスの検索を実施することの重要性が確認された。

（７） 疾患調査（インフルエンザ集団発生）

2005 年 11 月中旬に葛飾区内の集団発生例から A 香港型（AH3 型）ウイルスが検出され、その後、同型ウイルスによる 3 事例の集団発生が続いた。12 月中旬には世田谷区内における集団発生例から A ソ連型（AH1 型）ウイルス遺伝子が検出された。以降、都内でのインフルエンザ流行は AH1 型と AH3 型による混合流行となり、最終的に、AH1 型による集団発生事例は 5 事例、AH3 型によるもの 16 事例が確認された。

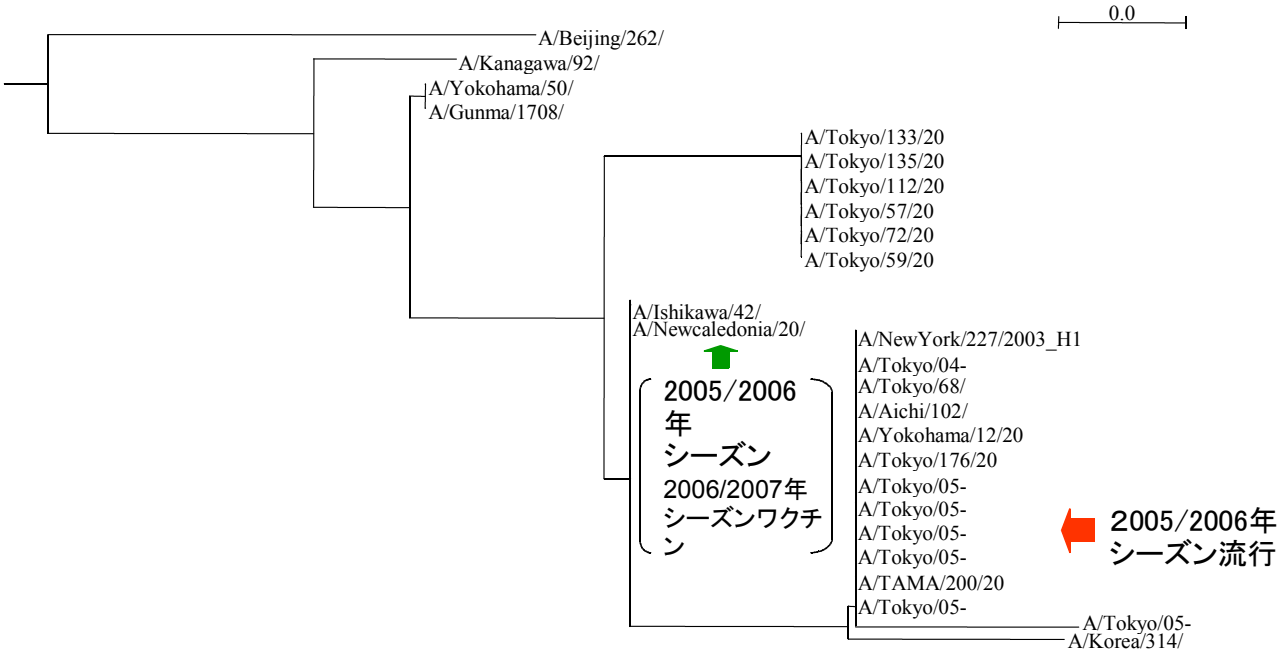


図8. 東京都におけるAソ連（AH1)型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

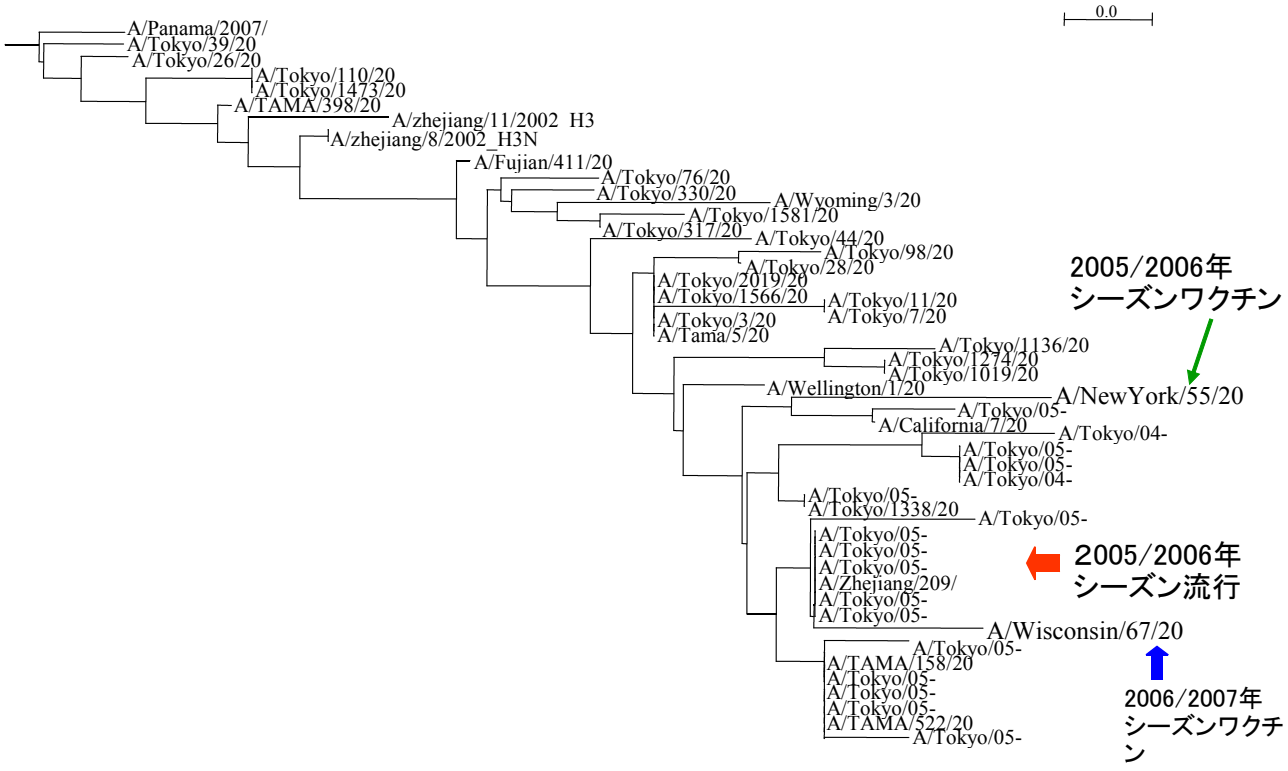


図9. 東京都におけるA香港（AH3)型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

ウイルス分離試験では、21 集団 84 件より AH1 型ウイルス 11 株、AH3 型ウイルス 13 株を分離した（ウイルス分離率 28.6%）。今季ワクチン株抗血清を用いた赤血球凝集抑制（HI）試験により分離ウイルスを型別同定した結果、AH1 型分離株は A/NewCaledonia/20/99 株抗血清（ホモ HI 価 320 倍）に対して 160 ～ 320 倍の HI 価を示し、AH3 型分離株は、A/NewYork/55/2004（H3N2）株抗血清（ホモ HI 価 160 倍）に対して 80 ～ 320 倍の HI 価を有していたことから、今回分離した株は、今季ワクチン株と高い交叉反応性を持つ株であることが明らかになった。

一方、遺伝子検査では、うがい液から抽出した核酸 RNA を試料とし、インフルエンザウイルスの HA（ヘマグルチニン）遺伝子領域の一部を RT-nested-PCR 法を用いて増幅後、特異的産物の生成を電気泳動により確認した。その結果、84 件中 20 件から AH1 型が、48 件から AH3 型が検出された（検出率 80.9%）。さらに、得られた特異産物の塩基配列をダイターミネーター法によるダイレクトシーケンスにより決定し、塩基配列をアミノ酸配列に置換後、ワクチン株（2005/2006 年シーズン）および近年の流行ウイルス株のアミノ酸配列より作製した遺伝子系統樹を用いて比較検討した。系統樹上にて各株の遺伝子配列を解析した結果、AH1 型株（A/Tokyo/05-12918/2005 等）は、ワクチン株である A/NewCaledonia/20/99（H1N1）株に近縁な株であった（図 8）。また、AH3 型株（A/Tokyo/05-9373/2005 等）は、今季ワクチン株である A/NewYork/55/2004（H3N2）株を含んだ群に大別されるものの、そこから分枝した株であることが判明した（図 9）。

（８）診断キット残液を試料としたインフルエンザ遺伝子の検索

定点病院から搬入された 565 件のインフルエンザ迅速診断キットの残液を試料とし、核酸 RNA を抽出し、Real-time PCR 法により、インフルエンザウイルスの検出および型別を試みた。その結果、迅速診断キットで A 型と診断された 223 件中 203 件が AH3 型、2 件が AH1 型であったが、18 件は陰性であった。また、B 型と診断された 247 件中 246 件から B 型遺伝子が検出され、1 例は陰性であった。さらに、迅速診断キットで陰性であった 95 例中 5 例から AH3 型が、14 例から B 型遺伝子が検出された。

２　細　菌

（１）Ａ群溶血性レンサ球菌

Ａ群溶血性レンサ球菌のサーベイランスは、都内の基幹定点からの送付試料を対象に実施している。2005 年に送付された外来患者由来 79 株、入院患者由来 6 株の合計 85 株について T 血清型別を実施した。

Ａ群レンサ球菌の月別菌分離状況は 1 ～ 3 月：24 株、4 ～ 6 月：28 株、 7 ～ 9 月：19 株、10 ～ 12 月：15 株であった。（表 5）。

表5. 分離月別件数（外来・入院）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
件数	7	4	13	5	7	16	8	6	5	3	6	6	86

Ｔ型別の成績をみると、外来患者由来株では T-4 型：21 株が最も多く、次いで T-12 型：17 株、T-28 型：11 株、T-1 型：8 株、T-6 型：8 株など 10 菌型に型別され、型別不能株は 4 株であった。

入院患者由来株では例数は少ないが、T-12 型、T-28 型、T-4 型など 5 菌型に型別された（表 6）。また、A 群保有 *S dysgalactiae* subsp.*equismilis* が 1 株分離されている

表6. T型別菌株数

T型	T-1	T-3	T-4	T-6	T-11	T-12	T-25	T-28	T-5/27/44	T-B3264	UT	合計
外来患者株	8	4	21	8	2	17		11	1	3	4	79
入院患者株				1	1	1	1	2				6

A群保有*S dysgalactiae* subsp.*equismilis*が1株分離されている

（２）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（ＭＲＳＡ）

基幹定点からの送付試料を対象に小児科外来患者のＭＲＳＡ保菌者検索を実施している。外来患者株に加え、入院患者由来の黄色ブドウ球菌についても、コアグラーゼ（Cag と略す）型別、エンテロトキシン（Ent と略す）産生性および Toxic shock syndrome toxin（TSST と略す）産生性の試験を実施している。外来患者由来のＭＲＳＡ 28 株は、Cag Ⅰ型 Ent（－）：6 株、Cag Ⅱ型 EntC+TSST-1 産生：16 株、Cag Ⅲ型 Ent（－）：3 株などであり、入院患者由来のＭＲＳＡ 22 株は、Cag Ⅰ型 Ent（－）：3 株、Cag Ⅱ型 EntC+TSST-1 産生：10 株、Cag Ⅲ型 Ent（－）：4 株などで、外来患者、入院患者ともに Cag Ⅱ型 EntC+TSST-1 産生株が最も多かった。ＭＳＳＡは 11 株であり、Cag Ⅲ型：5 株、Cag Ⅴ型：1 株、Cag Ⅶ型：2 株などで、そのうちの 9 株は毒素非産生であった。（表 7）。

表7. 黄色ブドウ球菌のコアグラーゼ型とエンテロトキシン型

	MRSA（外来）				MRSA（入院）					MSSA（入院・外来）			
エンテロトキシン	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅶ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅴ	Ⅶ	Ⅲ	Ⅴ	Ⅶ	UT
－	6	1	3	1	3		4	1		4	1	1	3
A													
AB						1			1			1	
AT													
B													
C													
D										1			
CT		16	1			10							
T		1				2							
計	6	18	3	1	3	13	4	1	1	5	1	2	3

（３）二類感染症の病原体検索

赤痢菌と疑われた 1 株について検査を実施した。生化学的・血清学的試験の結果、ソンネ赤痢菌（*Shigella sonnei*）と同定された。本症例は、インドネシア・バリ島への渡航歴があり、輸入例と考えられた。

（４）四類感染症の病原体検索

レジオネラ症

2005 年に 24 名のレジオネラ症の報告があり、2 株が当所に送付された。血清型は *L.pneumophila* の serogroup 6 、serogroup 7 が各 1 株ずつであった。また、5 名の尿中抗原検査および 2 名の喀痰の培養検査依頼があった。結果は 3 名の尿中抗原が陽性であり、1 名の喀痰から *L.pneumophila* serogroup 1 が分離された（表 8)。

表8.　分離された*L.pneumophila*の血清型

	喀　痰	気管洗浄液
L.pneumophila serogroup 1	1	
L.pneumophila serogroup 6		1
L.pneumophila serogroup 7	1	

尿検体が6件搬入:イムノクロマト法の陽性数4検体

（５）五類全数把握感染症の病原体検索

① 劇症型レンサ球菌感染症（ＴＳＬＳ）

2005 年に、東京都内で 7 名の患者発生があり、患者由来株 5 株が送付され、*S.pyogenes* 5 株のＴ型はＴ-１型：2 株、Ｔ-４型：1 株、Ｔ-２８型：1 株、型別不能：1 株であった。また全国の病院等から、10 名のＴＳＬＳ患者から分離された 10 株の検査依頼があった。*S.pyogenes* のＴ型は、Ｔ-1 型：4 株、T-4 型：1 株、Ｔ-6 型：1 株、Ｔ-12 型：2 株、Ｔ-13 型：1 株、Ｔ-28 型：1 株であった（表 9)。

表9. 劇症型レンサ球菌感染症患者由来（A群）株のT型別

T型	T-1	T-4	T-6	T-12	T-13	T-28	UT
東京	2	1				1	1
全国	4	1	1	2	1	1	

② 髄膜炎菌性髄膜炎

2005 年に、東京都内で 3 名の髄膜炎菌性髄膜炎患者の発生があり、3 名から分離された 3 株が送付された。型別試験の結果、血清型はＢ群：1 株、Ｙ群：2 株であった。PCR 法による遺伝子検査を実施したところ、Ｂ群遺伝子：1 株、Ｙ群遺伝子：2 株を保有していた（表 10)。

表10. 分離された*N. Meninngitidis*の血清型

	Ｂ群	Ｙ群
血清型	1	2
血清型遺伝子（ＰＣＲ法）	1	2

③ バンコマイシン耐性腸球菌（ＶＲＥ）

2005 年に、東京都内で 13 名の VRE 感染症の報告があり、患者由来株 13 株について同定試験を実施した。その結果、*E.faecalis*：2 株、*E.faecium*：3 株、*E.gallinarum*：4 株、*E.casseliflavus*：4 株であり、*E.faecium* の 2 株は *van*A、*E.faecalis* 2 株と *E.faecium* 1 株は *van*B 遺伝子を保有していた（表 11)。

表11. 分離されたVREと耐性遺伝子保有状況

	*van*A	*van*B	*van*C
E.faecalis		2	
E.faecium	2	1	
E.gallinarum			4
E.casseliflavus			4

（６）感染症疫学調査

① バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）調査

港区みなと保健所、板橋区板橋保健所の各保健所管内の病院でバンコマイシン耐性腸球菌感染症の発生届けがあり、患者および保菌者由来株についてパルスフィールドゲル電気泳動（PFGE）解析の積極的疫学調査を実施した。その結果、みなと保健所由来の VRE　2 株の PFGE パターンは一致し、板橋保健所由来の VRE　4 株についてもパターンは一致していた。また、葛飾区葛飾保健所管内の病院でも、バンコマイシン耐性腸球菌感染症の発生届けがあり、関係者 3 名について便からバンコマイシン耐性腸球菌の検索を行なったが全て陰性であった。

② 多剤耐性緑膿菌集団感染の調査

西多摩保健所管内の病院で多剤耐性緑膿菌による集団感染が発生した。患者 7 名から分離された 9 株について、血清型別、薬剤感受性試験、PFGE による遺伝子検査を実施した。9 株中 7 株は血清型Ｅ群、1 株はM群、1 株は型別不能（UT）であった。薬剤感受性は１３薬剤について実施し、2 薬剤を除く 11 薬剤に対して耐性を示した。PFGE パターンは、同一患者から分離された株でも 1 ～ 2 本のバンドの差が認められるものの血清型Ｅ群 7 株及び UT の 1 株は、類似したパターンを示した。

３　性感染症

2005 年 1 月から 12 月までの間に病原体定点（婦人科医院）から搬入され、検査に供した材料は延べ 295 例の被験者から採取された血清 282 件、子宮頸管擦過（分泌）物 285 件である。被験者の 5 歳ごとの年齢群（以下年齢群と略す）を表 12 に示した。最年少は 15 歳で 10 歳代は 23 例（7.8%）、20 歳代が最も多く 160 例（54.2%）、次に 30 歳代が 85 例（28.8%）、40 歳代以上は 24 例（8.2%）であった。

表12. 被験者の年齢構成および検査数

年齢群	患者数（%）	血清	スワブ	便
15～19	23　7.8%	22	22	1
20～24	72　24.4%	71	72	0
25～29	88　29.8%	83	87	1
30～34	60　20.3%	57	59	1
35～39	25　8.5%	25	24	0
40～44	9　3.1%	8	8	1
45～49	10　3.4%	8	8	2
50～54	2　0.7%	2	1	0
55以上	3　1.0%	3	1	0
不明	3　1.0%	3	3	0
合計	295	282	285	6

供試した材料のうち、血清検体については梅毒血清反応、クラミジア･トラコマチス（CT）抗体、赤痢アメーバ抗体、HIV 抗体、Ｂ型肝炎ウイルス HBc 抗体および HBs 抗原、Ｃ型肝炎ウイルス抗体を検査した。また子宮頸管擦過（分泌）物では CT 遺伝子、淋菌遺伝子、ヒトパピローマウイルス（HPV）遺伝子、トリコモナス遺伝子を、7 月より単純ヘルペスウイルス（HSV-1 型、HSV-2 型）遺伝子を加えて検査した。

（1）梅毒・クラミジア・淋菌

梅毒血清反応は脂質抗原を使用したガラス板法・RPR 法と、TP 抗原を用いた TPHA 法、必要に応じてイムノクロマト法を実施した。抗 CT IgA 抗体・IgG 抗体の測定は ELISA 法により実施した。CT 遺伝子および淋菌遺伝子の検出は PCR 法で行った。

血清検体の検査結果を表 13 に示した。梅毒血清反応検査は 282 例中 4 例(1.4%)が陽性であったが、4 例共に 45 歳以上で、脂質抗原法は陰性、TP 抗原法のみ陽性であった。

表13. 年齢群別血清検体の梅毒、CT抗体検査結果

年齢群	検査数	梅毒抗体陽性 (%)	CT抗体陽性 (%)	内　訳 (陽性数に対する割合)		
				IgA(+)・IgG(−)	IgA(+)・IgG(+)	IgA(−)・IgG(+)
15〜19	22		7 (31.8)		4 (57.1)	3 (42.9)
20〜24	71		39 (54.9)	1 (2.6)	19 (44.8)	19 (48.7)
25〜29	83		34 (41.0)	1 (2.9)	15 (44.1)	18 (52.9)
30〜34	57		26 (45.6)	6 (23.1)	13 (50.0)	7 (26.9)
35〜39	25		14 (56.9)	1 (7.1)	7 (50.0)	6 (42.9)
40〜44	8		2 (25.0)		1 (50.0)	1 (50.0)
45〜49	8	2 (25.0)	5 (62.5)		4 (80.0)	1 (20.0)
50〜54	2		2 (100)		2 (100)	
55以上	3	2 (66.6)	3 (100)		1 (33.3)	2 (66.4)
不明	3		1 (33.3)			1 (100)
合計	282	4 (1.4)	133 (47.2)	9 (6.8)	66 (49.6)	58 (43.6)

抗 CT 抗体は 282 例中 133 例(47.2%)が陽性であった。検査数が 20 例を超えている 39 歳までの年齢群別に陽性率をみると、20 歳代前半 54.9%、30 歳代後半が 56.9%と 50%を超す高い陽性率であった。また、抗体陽性 133 例中 9 例(6.8%)が IgA 抗体のみの陽性、66 例(49.6%)が IgA 抗体・IgG 抗体ともに陽性で、抗 CT 抗体陽性例の 56.4%が IgA 抗体を保有していた。残りの 58 例(43.6%)は IgG 抗体のみ陽性であった。とくに 30 歳代前半では抗体陽性例 26 例のうち 19 例(73.1%)が IgA 抗体陽性で特に高率であった。

表14. 年齢群別子宮頸管擦過(分泌)物の淋菌およびCT遺伝子検査結果

年齢群	検査数	淋菌遺伝子 (%)	CT遺伝子 (%)
15〜19	22	1 (4.6)	1 (4.6)
20〜24	72		8 (11.1)
25〜29	87	4 (5.6)	6 (6.9)
30〜34	59	1 (1.7)	5 (8.5)
35〜39	24		1 (4.2)
40〜44	8		1 (12.5)
45〜49	8		1 (12.5)
50〜54	1		
55以上	1		
不明	3		
合計	285	6 (2.1)	23 (8.1)

子宮頸管擦過(分泌)物について行った淋菌遺伝子および CT 遺伝子の検出結果を表 14 に示した。淋菌遺伝子は 285 例中 6 例(2.1%)が陽性であった。このうち 4 例（5.6%）が 20 歳代後半で、10 歳代に 1 例(4.6%)、30 歳代前半に 1 例(1.7%)あったが 20 歳代前半および 35 歳以上には陽性例は無かった。

CT 遺伝子は 23 例(8.1%)が陽性であったが、20 歳代前半では 72 例中 8 例（11.1%）が陽性で、検査数が 20 例を超えている 39 歳までの年齢群の中で最高率であった。

血清と子宮頸管擦過(分泌)物が共に搬入され、CT 抗体検査と核酸検査を行うことができた 278

例の検査結果を表 15 に示した。CT 遺伝子が陽性であった 22 例のうち抗体も陽性であったものは 19 例(86.4%)で、このうち 14 例（73.7%）が IgA 抗体が陽性であったが、IgG 抗体のみ陽性であった例も 5 例(26.3%)あった。また遺伝子が検出されても抗体陰性であったものが 3 例（13.6%）認められた。一方遺伝子陰性例 256 例のうち 111 例（43.4%）が CT 抗体陽性であったが、このうち 59 例（53.2%）は IgA 抗体を保有していた。遺伝子、抗体共に検出されなかったのは 145 例であった。

表15. CT遺伝子検査成績別CT抗体検査結果

遺伝子検査成績と検体数		抗体陽性 合計 (%)	内訳（抗体陽性数に対する割合） IgA(+)･IgG(−)	IgA(+)･IgG(+)	IgA(−)･IgG(+)	抗体陰性
陽性	22	19 (86.4)	2 (10.5)	12 (63.2)	5 (26.3)	3 (13.6)
陰性	256	111 (43.4)	7 (6.4)	52 (46.8)	52 (46.8)	145 (56.6)
合計	278	130 (46.8)	9 (6.9)	64 (49.2)	57 (43.9)	148 (53.2)

（２）ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査

性感染症定点から搬入された帯下ぬぐい液を検査試料とし、PCR 法による HPV の遺伝子検査を実施した。試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法により遺伝子検索を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価（High および Low リスク）に基づいて分類した。

2005 年に実施した検査試料数は 285 件で、そのうち 114 件（40.0%）から HPV の遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、18、58 型などの High リスク群に分類されたものは 76 件（26.7%)、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 12 件（4.2%)、リスク分類がされていない遺伝子型は 26 件（9.1%）であった（表 16)。High リスク群の検出率を年齢群別にみると、10 歳代で 6 件、20 歳代では 53 件、30 歳代では 13 件、40 歳代では 3 件となり、50 歳代以上では検出されず、特に若い年代での High リスク群の検出率が高い点が注目される。

表16. 年齢群別帯下ぬぐい液におけるHPV検査結果

年齢群	検査数	陽性 Highリスク群		Lowリスク群		リスク分類なし		陰性	
15～19	22	6	27.3%	0	0.0%	2	9.1%	14	63.6%
20～29	159	53	33.3%	9	5.7%	12	7.5%	85	53.5%
30～39	83	13	15.7%	3	3.6%	7	8.4%	60	72.3%
40～49	16	3	18.8%	0	0.0%	3	18.8%	10	62.5%
50～	2	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%
不明	3	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%
計	285	76	26.7%	12	4.2%	26	9.1%	171	60.0%

（３）単純ヘルペスウイルス（HSV）

性感染症定点から搬入された帯下ぬぐい液を検査試料とし、real-time PCR 法による HSV-1,2 型の遺伝子検査を実施した。試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象とした real-time PCR を行った。

2005 年 7 月以降、検査を実施した試料数は 155 件であり、4 件 (2.6%) から HSV-1 型を、4 件 (2.6%) から HSV-2 型の遺伝子を検出した。HSV-1 または HSV-2 が検出された 8 検体のうち 2 件からは HPV

遺伝子も同時に検出され、検出された HPV の遺伝子型はどちらも High リスク群に分類される型であった。

（４）ヒト免疫不全ウイルス（HIV）検査

血清中の HIV 抗原および抗体について、酵素免疫測定法（ELISA 法）を用いてスクリーニング検査を行い、スクリーニング検査で陽性となった場合には、ウエスタンブロット法や RT-PCR 法による確認検査を実施し、最終判定を行った。

2005 年は 282 件の血清検体について検査を行った結果、HIV 検査はすべて陰性であった。

（５）肝炎ウイルス

血清 282 例についてＢ型およびＣ型の肝炎ウイルス罹患歴を調査した。

Ｂ型肝炎ウイルス(HBV)については受身赤血球凝集反応による HBc 抗体の検出と逆受身赤血球凝集反応による HBs 抗原の検出の 2 方法によりスクリーニングし、スクリーニングで陽性となった検体は ELISA 法により HBs 抗原の確認をした。HBc 抗体は 17 例(6.0%)が陽性となり、Ｂ型肝炎ウイルス感染歴が確認されたが HBs 抗原が確認されたのは 20 歳代後半の 1 例（0.4%）にとどまった。表 17 の年齢群別検査成績に示したように、30 歳代前半までの 233 例のうち HBc 抗体陽性は 4 例（1.7%）であるが、35 歳以上の 46 例では 12 例（26.1%）が HBc 抗体陽性であった。

また、Ｃ型肝炎ウイルス(HCV)は HCV 抗原を吸着させたゼラチン粒子凝集法による抗 HCV 抗体検出によってスクリーニングを行ったが陽性例は無かった。

表17．年齢群別HBV･HCV検査結果

年齢群	検査数	ＨＢＶ（%）		ＨＣＶ（%）	
		HBc抗体	HBs抗原	遺伝子	抗体
15～19	22	1			
20～24	71	1（ 1.4）			
25～29	83	1（ 1.2）	1（ 1.2）		
30～34	57	1（ 1.8）			
35～39	25	4（16.0）			
40～44	8	2（25.0）			
45～49	8	2（25.0）			
50～54	2	1（50.0）			
55以上	3	3（100）			
不明	3	1（33.3）			
合計	282	17（ 6.0）	1（0.4）	0	0

（６）赤痢アメーバ

赤痢アメーバの検査は､ELISA 法による血清中の抗赤痢アメーバ IgG 抗体の検出により実施した。赤痢アメーバ抗体は供試した 282 検体中 14 件(5.0%)が陽性であった。陽性例は、20 歳代が 2 例、30 歳代が 2 例、40 歳代が 7 例、50 歳代が 3 例であった。また、陽性 14 例のうち 8 例が CT 抗体陽性であった。男性同性愛者において赤痢アメーバと梅毒の重複感染が多いことが知られているが、昨年に続き今回の調査でもその例はなかった。

（7）膣トリコモナス

検査は子宮頸管擦過(分泌)物を検査試料として、膣トリコモナスに特異的な 262 塩基対を標的とする PCR 法によって行った。供試した 285 検体中、1 件(0.4%)から膣トリコモナス遺伝子が検出され、陽性例は 20 歳代 1 名で、CT との重複感染例であった。

（8）重複感染の状況

血清と子宮頸管擦過(分泌)物が共に搬入され、HSV-1 型、2 型を除く調査項目 9 病原体に関する検査を行うことができた 278 例について、重複陽性例の状況を 10 歳毎に区切った年齢グループ毎に示した(表 18)。CT、B 型肝炎ウイルスについては抗体のみ陽性の場合についても感染歴があったものとして集計した。278 例のうちいずれかの病原体に陽性を示した例は 199 例(68.6%)であった。199 例のうち 1 種類の病原体のみの陽性例は 130 例(65.3%)で、2 種の病原体に重複して陽性を示した例数は 62 例(31.2%)、3 種類以上に陽性を示したのは 7 例(3.5%)であった。年齢グループ毎にみると 10 歳代の陽性率は 54.5%であったが、そのうち 2 重複陽性例の割合は 41.7%を占めていた。3 重複以上の陽性例は無かったが、20 歳代 30 歳代の重複陽性例数より高い割合であった。また 40 歳代では 4 種類の重複陽性例 2 例を含め、17 例のうち 9 例(52.9%)が重複陽性例であった。

最も陽性数が多かった CT の検査結果とその他の性感染症検査結果との関連を検討したが、表 19、表 20 に示すように今年度の調査では、CT 陽性群と CT 陰性群との間に差は認められなかった。

表18. 年代別重複陽性例数

年齢群	被験者数	陰性 (%)	陽性 (%)	陽性検査項目数 （陽性数に対する割合）			
				1種類 (%)	2種類 (%)	3種類 (%)	4種類 (%)
15～19	22	10 (45.5)	12 (54.5)	7 (58.3)	5 (41.7)		
20～29	154	42 (27.3)	112 (72.7)	73 (65.2)	37 (33.0)	2 (1.8)	
30～39	81	25 (29.8)	56 (70.2)	42 (75.0)	13 (23.2)	1 (1.8)	
40以上	18	1 (16.7)	17 (83.3)	8 (47.0)	5 (29.4)	2 (11.8)	2 (11.8)
不明	3	1 (20.0)	2 (80.0)		2 (100)		
合計	278	79 (31.4)	199 (68.6)	130 (65.3)	62 (31.2)	5 (2.5)	2 (1.0)

表19. CT検査結果別重複陽性例数

CT 検査結果	被験者数	病原体別陽性数 (%)							
		梅毒	淋菌	トリコモナス	赤痢アメーバ	HPV	highリスク型	HBV	HCV
陽性	133	1 (0.8)	2 (1.5)	1 (0.8)	5 (3.8)	54 (40.6)	36 (27.1)	10 (7.5)	0
陰性	145	1 (0.7)	4 (2.8)	0	7 (4.8)	56 (38.6)	36 (24.8)	5 (3.4)	0
合計	278	2 (0.7)	6 (2.2)	1 (0.4)	12 (4.3)	110 (39.6)	72 (25.9)	15 (5.3)	0

表20. CT検査結果別重複陽性率

CT 検査結果	被験者数	CT以外の病原体陽性例数 (%)		CT以外の病原体重複陽性種類数 (被験者数に対する割合)							
				1種類		2種類		3種類		4種類	
陽性	133	65 (48.9)	0.6*	59	(44.4)	5	(4.8)	1	(0.7)	0	
陰性	145	66 (45.5)		62	(42.8)	3	(2.1)	0		1	(0.7)

*:危険率

４　多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検査成績

健康安全研究センター多摩支所では、感染症発生動向事業の一環として、多摩地区の医療機関（10定点）の協力を得て平成 3 年 5 月から感染性胃腸炎（乳児嘔吐下痢症を含む）について腸管系病原体検索を実施してきている。また、平成 8 年 12 月からは、同医療機関においてインフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液についてもウイルス検索を実施し、本事業の充実を図っている。以下、平成 17 年 1 ～ 12 月の 1 年間に得られた成績の概略を報告する。

検査定点として協力していただいた医療機関は、江崎小児クリニック（多摩市）、桜井医院（稲城市）、野上医院（立川市）、藤田医院（武蔵村山市）、さとう小児科医院（八王子市;1 ～ 9 月）、加地医院（八王子市;10 月以降）星野小児科内科クリニック（あきる野市）、太陽こども病院（昭島市）、及び水野小児科医院（府中市）の 10 医療機関である。

（１）感染性胃腸炎検査成績

平成 17 年の 1 年間に定点医療機関から搬入された感染性胃腸炎の検体は 96 件であった。これらについて、腸管系病原菌及びウイルス検索を行った結果を表 21 に示した。96 検体中 34 件（35.4%）が病原体陽性であった。陽性例の内訳は、病原菌陽性例が 11 件(11.5%)、ウイルス陽性例が 25 件(26.0%)であった。

表21. 感染性胃腸炎からの腸管系病原体検査成績概要

（2005.1～12）

年齢区分	検査件数	陽性件数(%)	検出病原体の内訳(%)	
			病原菌	ウイルス
1歳未満	17	9(52.9)	0	10(58.8)
1 - 4歳	26	14(53.8)	4(15.4)	11(42.3)
5 - 9歳	9	1(11.1)	1(11.1)	0
10 - 14歳	0	0	0	0
15 - 19歳	2	0	0	0
20歳以上	42	10(23.8)	6(14.3)	4(9.5)
計	96	34(35.4)	11(11.5)	25(26.0)

*同一検体から複数の病原体が検出される場合があるため
陽性件数と検出病原体の数は一致しない。

患者年齢区分別検出状況を表 22 に示した。各年齢区分と検出病原体をみると 1 歳未満ではウイルスが主な病原体であり、ポリオウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスが検出された。1 ～ 4 歳でもウイルスを原因とした例が多く、その中でも多く検出されたのはロタウイルスであり、1 歳未満と同様にその他の 3 種のウイルスが検出された。また、腸管病原性大腸菌とカンピロバクターも検出された。20 歳以上の成人ではカンピロバクターが多く検出され、また、ノロウイルスも検出された。月別検出状況を表 23 及び図 10 に示した。月別病原体検出状況を見ると、これまでと同様 1 ～ 3 月及び 12 月の冬季はウイルスの検出頻度が高く、7 月から 10 月にはウイルスの検出はなかった。検出病原体は 6 種類で、2 種の病原菌と 4 種のウイルスが検出された。最も高頻度に検出された病原体はカンピロバクターとノロウイルスで各 9 件､次いでロタウイルス 7 件、ポリオウイルス 5 件、アデノウイルス 4 件、腸管病原性大腸菌 2 件であった。混合感染例が 2 例あ

表22. 感染性胃腸炎からの年齢区分別腸管系病原体検出状況

（2005.1～12）

年齢区分	検査件数	病原菌		ウイルス			
		腸管病原性大腸菌	カンピロバクター	ロタ	ノロ	アデノ	ポリオ
1歳未満	17	0	0	2	3	2	3
1 － 4歳	26	2	2	5	2	2	2
5 － 9歳	9	0	1	0	0	0	0
10 － 14歳	0	0	0	0	0	0	0
15 － 19歳	2	0	0	0	0	0	0
20歳以上	42	0	6	0	4	0	0
計 (%)	96	2 (2.1)	9 (9.4)	7 (7.3)	9 (9.4)	4 (4.2)	5 (5.2)

表23. 感染性腸炎からの月別腸管系病原体検出状況

（2005.1～12）

月	検査件数	陽性件数	(%)	検出病原体					
				病原菌		ウイルス			
				腸管病原性大腸菌	カンピロバクター	ロタ	ノロ	アデノ	ポリオ
1	15	7	(46.7)	0	2	0	4	1	0
2	9	3	(33.3)	0	0	3	0	0	0
3	9	5	(55.6)	0	1	3	1	0	0
4	5	1	(20.0)	0	1	0	0	0	0
5	8	5	(62.5)	0	0	0	1	1	3
6	9	2	(22.2)	0	0	0	0	1	1
7	9	0	(0.0)	0	0	0	0	0	0
8	5	2	(40.0)	1	1	0	0	0	0
9	2	2	(100.0)	0	2	0	0	0	0
10	6	1	(16.7)	0	1	0	0	0	0
11	8	1	(12.5)	0	0	0	0	1	0
12	11	5	(45.5)	1	1	1	3	0	1
計	96	34	(35.4)	2	9	7	9	4	5

りカンピロバクター+ノロウイルスが 1 件、ノロウイルス+ポリオウイルスが 1 件であった。

検出された 2 種の病原菌の総分離株数は 11 株であった。9 件から検出されたカンピロバクターは 8 株が *C.jejunii* であり、1 株は *C.fetus* であった。2 件より検出された腸管病原性大腸菌は病原血清型大腸菌（O126）が 1 株と毒素産生性大腸菌（OUT；LT 産生性）が 1 株であった。検出された 4 種のウイルスは 25 件からであり、そのうちノロウイルスの検出された 9 件は、1 月と 12 月の冬季に多く検出された。ロタウイルスは 7 件で、こちらは 2 月と 3 月に多く検出された。ポリオウイルスは 5 件検出されたが、すべてがワクチン株であった。

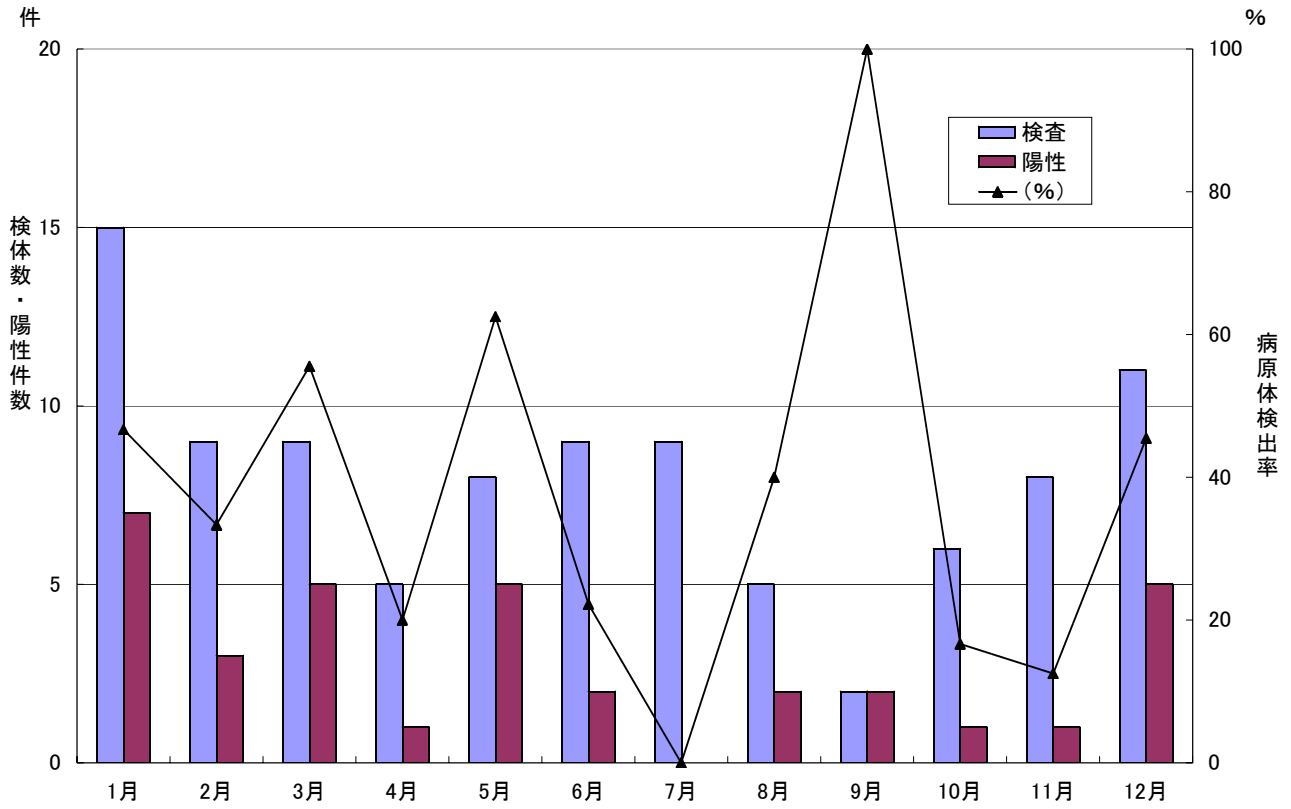


図10. 感染性胃腸炎の月別検査件数,病原体陽性件数及び陽性率（2005.1～12）

（２）インフルエンザ

2004/05 シーズンに実施した、インフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液からの MDCK 細胞を用いた分離試験、及び RT-PCR 法によるウイルス検出状況を表 24 及び図 11 に示した。多摩地区では例年に比べ立ち上がりが遅く 2005 年の 2 週にＡＨ３（Ａ香港型）がはじめて検出された。1 月の中旬から本格的な流行期に突入し 8 週をピークに 17 週まで続いた。Ｂ型、ＡＨ３型、ＡＨ１型の混合流行であったが、ＡＨ１型（Ａソ連型）は 6 週に 2 件検出されたのみであった。期間中の検査件数は 392 件で、そのうち、インフルエンザウイルス陽性件数は 264 件(67.3%)であった。陽性件数の内訳は、ＡＨ３型が 71 件（26.9%)、Ｂ型が 191 件（72.3%）であった。年齢別にみたインフルエンザウイルスの型別検出状況を表 25 に示した。11-15 歳ではＡＨ３型とＢ型が同率であったが、他の年代ではＢ型のほうが高く、なかでも 30 歳以上でのＢ型の占める割合がＡＨ３型と比べ 5 倍以上となっているのが目立った。

表24. 週別インフルエンザウイルス検出状況

(2005.1～2005.4)

週	検体搬入月日	検査件数	陽性数 (%)	型別検出数		
				AH1	AH3	B
16年第 2 週	1/11	1	1 (100)	0	1	0
3	1/17	7	1 (14.3)	0	0	1
4	1/24	10	6 (60.0)	0	3	3
5	1/31	27	14 (51.8)	0	6	8
6	2/7	62	46 (74.2)	2	10	34
7	2/14	86	57 (66.3)	0	14	43
8	2/21	85	70 (82.3)	0	15	55
9	2/28	50	39 (78.0)	0	7	32
10	3/7	17	10 (58.8)	0	5	5
11	3/14	14	7 (50.0)	0	2	5
12	3/22	9	6 (66.7)	0	1	5
14	3/28	4	2 (50.0)	0	2	0
15	4/4	4	1 (25.0)	0	1	0
16	4/11	4	2 (50.0)	0	2	0
17	4/18	9	1 (11.1)	0	1	0
18	4/25	3	1 (33.3)	0	1	0
計		392	264 (67.3)	2(0.5)	71(18.1)	191(48.7)

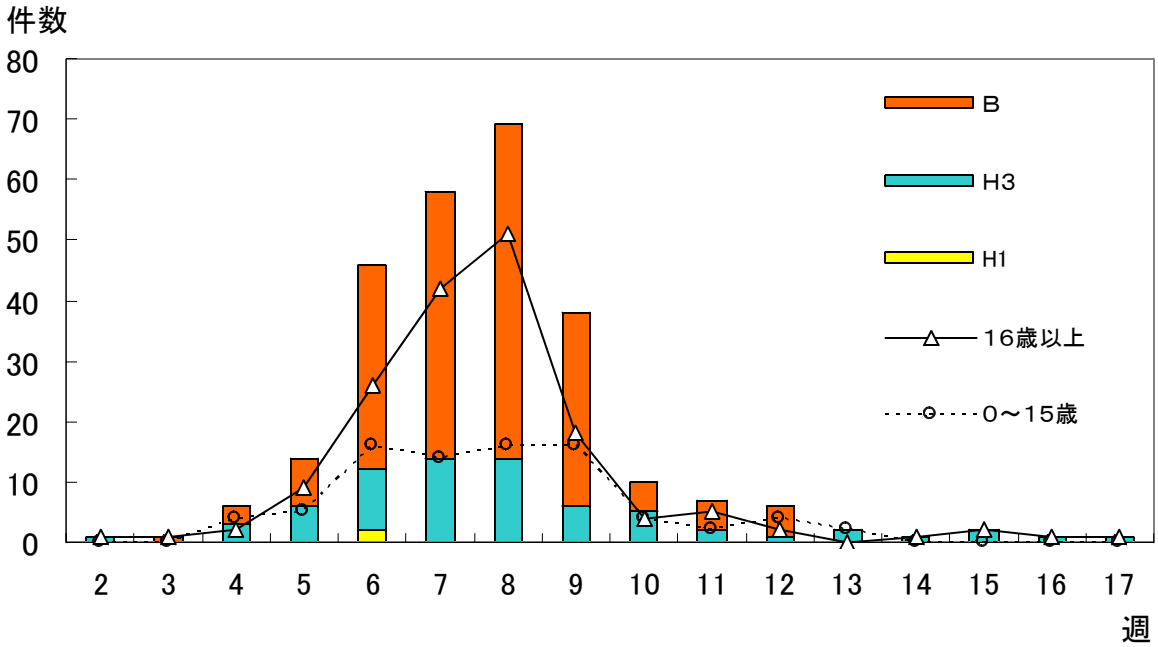


図11. インフルエンザウイルス週別検出状況(2004/05年)

表２５．年齢別インフルエンザウイルスの型別検出状況

（2005.1～2005.4）

年齢区分	検査件数	型別検出数(%)		
		AH1	AH3	B
≦5	52	2(3.8)	10 (19.2)	20 (38.5)
6-10	45	0	13 (28.9)	19 (42.2)
11-15	28	0	9 (32.1)	9 (32.1)
16-20	13	0	2 (15.4)	5 (38.5)
21-30	53	0	13 (24.5)	22 (41.5)
31-40	77	0	7 (9.0)	46 (59.7)
41-50	37	0	4 (10.8)	25 (67.6)
51-60	40	0	4 (10.0)	23 (57.5)
≧61	30	0	3 (10.0)	16 (53.3)
不明	17	0	6 (35.3)	6 (35.3)
合計	392	2(0.5)	71 (18.1)	191 (48.7)

（３）咽頭ぬぐい液からのウイルス分離・検出状況

平成 17 年の 1 年間に定点医療機関より 607 件の咽頭ぬぐい液の検体が搬入された。それらについて PCR 法によるウイルス遺伝子検査、組織培養（HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK 細胞）によるウイルス分離試験を行った結果、陽性例は 350 件であった。そのうち、ウイルスが分離同定されたのは 289 株で、内訳は、インフルエンザウイルス 264 株、アデノウイルス 16 株、エコーウイルス 8 株、コクサッキーウイルス 1 株であった。一方、ウイルス遺伝子検査で最も多く検出されたウイルスは、RS ウイルス、エンテロウイルス属が各 22 件、次いで EB ウイルス等であった。

表２６．咽頭ぬぐい液からのウイルス分離状況概要

（2005.1 ～ 2005.12）

検査件数	陽性数 (%)	インフルエンザ(型別)			アデノ	エコー	コクサッキー
		AH1	AH3	B			
607	289 (47.6%)	2 (0.3%)	71 (11.7%)	191 (31.5%)	16 (2.6%)	8 (13.2%)	1 (0.2%)

第　3　章

資　　料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成17年12月31日現在：順不同

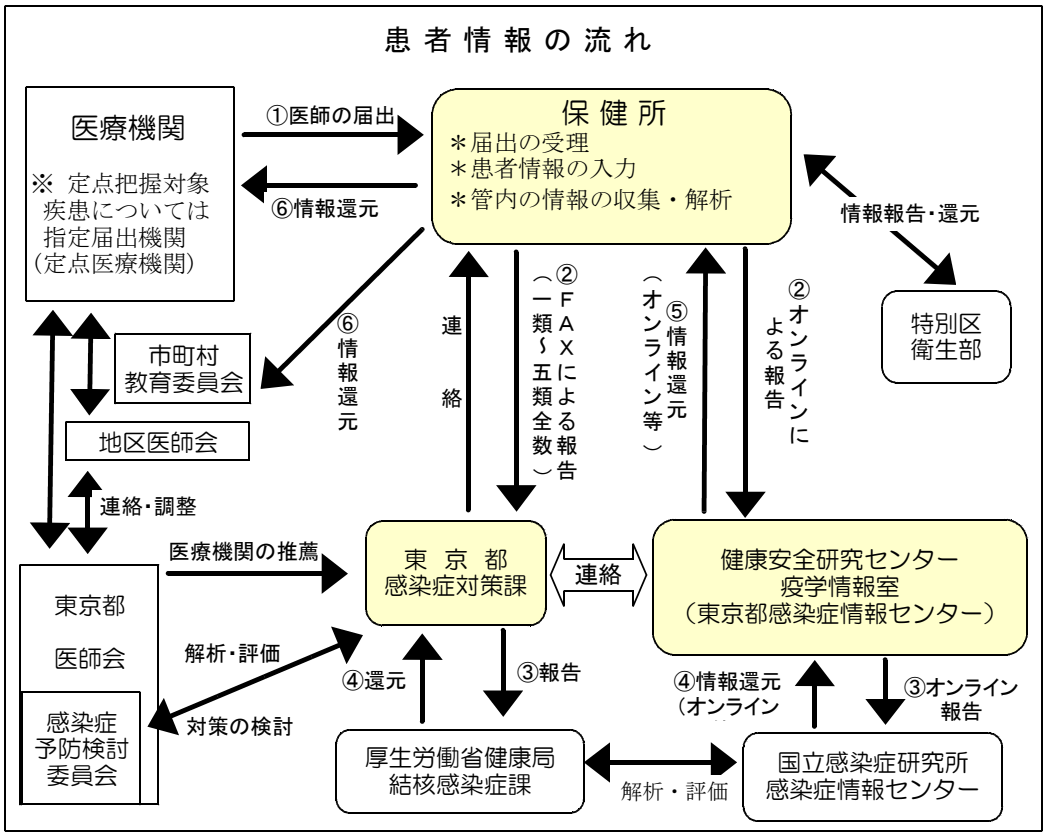
氏　　名	役　　職
◎ 南　谷　幹　夫	杏林大学客員教授
○ 影　山　公　一	港区医師会
長　山　直　弘	独立行政法人国立病院機構東京病院内科医長
尾　形　英　雄	（財）　結核予防会複十字病院第一診療部長
吉　村　伸　子	渋谷区保健所長
友　松　栄　二	多摩府中保健所長
根　岸　昌　功	東京都立駒込病院感染症科部長
長　島　建　一	東京都福祉保健局健康安全室食品監視課副参事 （食品危機管理担当）
矢　野　一　好	東京都健康安全研究センター微生物部食品微生物研究科長
山　下　和　予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
稲　垣　智　一	東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課長
小　島　弘　敬	東京都南新宿検査・相談室長
松　田　静　治	江東区医師会
井　手　邦　彦	世田谷区医師会
水　野　幸　治	府中市医師会
福　田　敏　雅	東京都眼科医会
川　口　　毅	昭和大学公衆衛生学教授
平　山　宗　宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長
池　田　忠　生	日本大学医学部生物学教室助教授

道　永　麻　里	東京都医師会理事（公衆衛生担当）

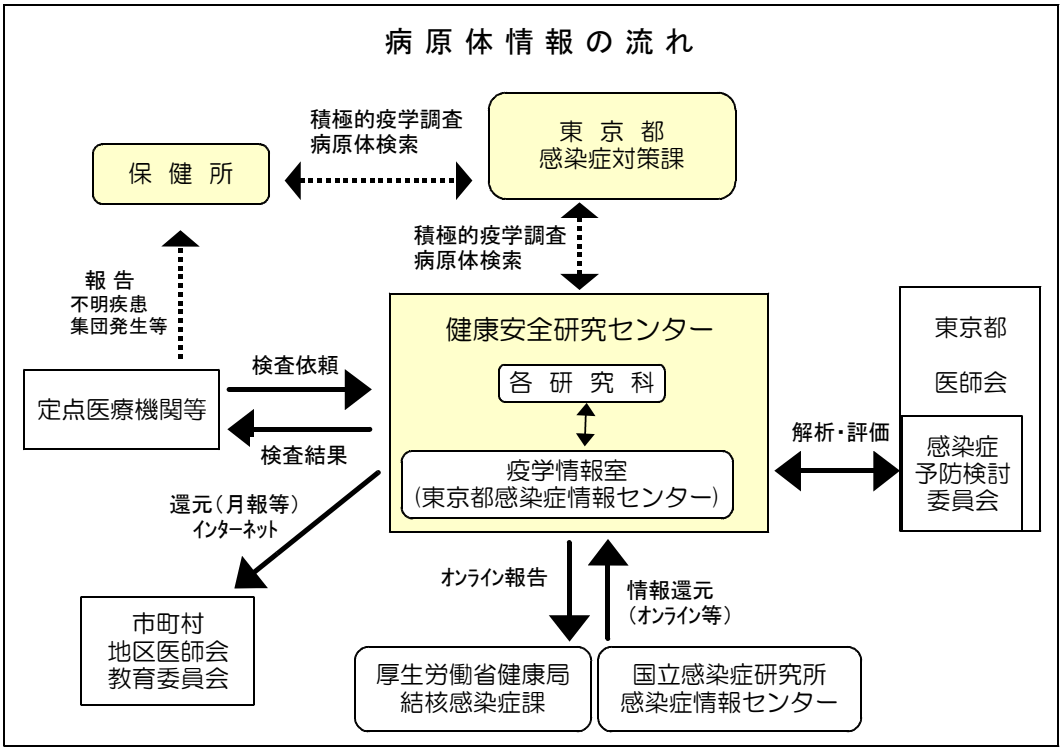
◎は委員長
○は副委員長

3　感染症発生動向調査システムの概要

1　患者情報の流れ



2　病原体情報の流れ



４　東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

１１衛福結第６８０号
平成１２年３月３０日
最終改正　１６健サ感第１６５号
平成１６年８月　１日

第１　趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和５６年７月から１８疾病を対象に開始され、昭和６２年１月からは対象疾病を２７に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成１１年４月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者へ的確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ疾病のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第２　根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第３　対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表１のとおりとする。

第４　実施体制

１　地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に１か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

２　指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報及び病原体情報を収集するため、患者定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第５　事業の実施

１　一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症

(1)　対象とする感染症患者の状態

一類感染症並びに二類感染症のうちコレラ、細菌性赤痢、腸チフス及びパラチフスにつ

いては、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者とする。

二類感染症のうち急性灰白髄炎及びジフテリア並びに三類感染症及び四類感染症については、患者及び無症状病原体保有者とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

上記（１）に該当する患者等を診断した医師は、別記様式１又は別記様式３を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式２の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、別記様式４に該当する項目について、直ちに地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式２の検査票を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

なお、保健所においては、一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症の届出があった場合には、地域の特性に応じた適切な方法を用いて、届出があった事実（個人情報に関する事項を除く。）を前記の関係機関に連絡する。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター（厚生労働省健康局結核感染症課）へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式２の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式２により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2　全数把握対象の五類感染症

(1)　対象とする感染症患者の状態

各々の全数把握対象の五類感染症について、「感染症新法に基づく医師から都道府県知事等への届出のための基準について」（平成１１年３月３０日付健医感発第４６号厚生省保健医療局結核感染症課長通知。以下「届出基準」という。）を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2)　調査単位及び実施方法

ア　診断した医師

上記（１）に該当する患者等を診断した医師は、別記様式５を用いて、７日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式２の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。

イ　保健所

(ア)　上記アの届出を受けた保健所は、別記様式６に該当する項目について、医師が当該患者を診断してから７日以内の可能な限り早い段階で地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式２の検査票を添付して依頼するものとする。

(イ)　保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について週報（月単位の場合は月報）として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

ウ　健康安全研究センター

(ア)　健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター（厚生労働省健康局結核感染症課）へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

(イ)　健康安全研究センターは、別記様式２の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式２により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。

(ウ)　検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ)　健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ)　基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3　定点把握対象の五類感染症

(1)　対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2)　定点の選定

ア　患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。

(ｱ)　人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ｲ)　小児科定点

対象感染症のうち、別表１の５９から７３までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。

(ｳ)　インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表１の７４に掲げるインフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザを除く。以下同じ。）については、前記(ｲ)で選定した小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ｴ)　眼科定点

対象感染症のうち、別表１の７５及び７６に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(ｵ)　性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の７７から８２までに掲げるものについては、産婦人科又は産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(ｶ)　基幹定点

対象感染症のうち、別表１の８３から９０までに掲げるものについては、小児科医療と内科医療を提供している病院を各２次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ　病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ｱ)　原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(ｲ)　アの(ｲ)により選定された患者定点の概ね10％を小児科病原体定点とする。

(ｳ)　アの(ｲ)及び(ｳ)により選定された患者定点の概ね10％をインフルエンザ病原体定点とする。

(ｴ)　アの(ｴ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(ｵ)　アの(ｵ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(ｶ)　アの(ｶ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3)　調査単位等

調査期間の単位等は、別表２のとおりとする。

(4)　実施方法

ア　患者定点

(ｱ)　患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(ｲ)　(2)のアの(ｲ)により選定された小児科定点においては別記様式７により、同(ｲ)及び(ｳ)により選定されたインフルエンザ定点においては別記様式８により、同(ｴ)により選定された眼科定点においては別記様式９により、同(ｵ)により選定された性感染症定点においては別記様式１０により、同(ｶ)により選定された基幹定点においては別記様式１１により、それぞれの調査単位の患者発生状況を記載する。

イ　病原体定点

(ｱ)　病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

(ｲ)　病原体定点で採取された検体は、別記様式２の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ　保健所

(ｱ)　保健所は、患者定点から得られた患者情報（別記様式７から１１まで）の情報項目を調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の３日までに、地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全室感染症対策課及び地方感染症情報センターに報告する。

(ｲ)　保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ　健康安全研究センター

(ｱ)　健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター（厚生労働省健康局結核感染症課）へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

(ｲ)　健康安全研究センターは、別記様式２の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式２により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。

(ｳ)　検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ)　健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ)　基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4　その他

(1)　上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2)　本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

5　特別区との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区と協議し、連携を図るものとする。

附　則

この実施要綱は、平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この実施要綱は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この実施要綱は、平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この実施要綱は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この実施要綱は、平成１５年１１月５日から適用する。

附　則

この実施要綱は、平成１６年８月１日から施行する。

別表１

感染症法に基づく感染症の分類について

１　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症

		疾　患　名	届出対象者			届出方法	
			患　者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時　期
一類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	重症急性呼吸器症候群 （病原体がＳＡＲＳコロナウイルスであるものに限る。）					
	4	痘そう					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二類	8	急性灰白髄炎	○	－	○	全数	直ちに
	9	コレラ	○	○	○		
	10	細菌性赤痢	○	○	○		
	11	ジフテリア	○	－	○		
	12	腸チフス	○	○	○		
	13	パラチフス	○	○	○		
三類	14	腸管出血性大腸菌感染症	○	－	○	全数	直ちに

		疾　患　名	届出対象者			届出方法	
			患　者	疑似症患　者	無症状病原体保有者	届　出種　別	時　期
四類	15	Ｅ型肝炎	○	－	○	全数	直ちに
	16	ウエストナイル熱 （ウエウストナイル脳炎を含む。）	○	－	○		
	17	Ａ型肝炎	○	－	○		
	18	エキノコックス症	○	－	○		
	19	黄熱	○	－	○		
	20	オウム病	○	－	○		
	21	回帰熱	○	－	○		
	22	Ｑ熱	○	－	○		
	23	狂犬病	○	－	○		
	24	高病原性鳥インフルエンザ	○	－	○		
	25	コクシジオイデス症	○	－	○		
	26	サル痘	○	－	○		
	27	腎症候性出血熱	○	－	○		
	28	炭疽	○	－	○		
	29	つつが虫病	○	－	○		
	30	デング熱	○	－	○		
	31	ニパウイルス感染症	○	－	○		
	32	日本紅斑熱	○	－	○		
	33	日本脳炎	○	－	○		
	34	ハンタウイルス肺症候群	○	－	○		
	35	Ｂウイルス病	○	－	○		
	36	ブルセラ症	○	－	○		
	37	発しんチフス	○	－	○		
	38	ボツリヌス症	○	－	○		
	39	マラリア	○	－	○		
	40	野兎病	○	－	○		
	41	ライム病	○	－	○		
	42	リッサウイルス感染症	○	－	○		
	43	レジオネラ症	○	－	○		
	44	レプトスピラ症	○	－	○		

2　全数把握対象の五類感染症

	疾　患　名	届出対象者			届出方法	
		患　者	疑似症患　者	無症状病原体保有者	届　出種　別	時　期
45	アメーバ赤痢	○	－	－	全数	7日以内
46	ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	○	－	－		
47	急性脳炎 （ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く。）	○	－	－		
48	クリプトスポリジウム症	○	－	－		
49	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	－	－		
50	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	－	－		
51	後天性免疫不全症候群	○	－	○		
52	ジアルジア症	○	－	－		
53	髄膜炎菌性髄膜炎	○	－	－		
54	先天性風しん症候群	○	－	－		
55	梅毒	○	－	○		
56	破傷風	○	－	－		
57	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	－	－		
58	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	－	－		

3　定点把握対象の五類感染症

	疾　患　名	届出対象者			届出方法	
		患　者	疑似症患　者	無症状病原体保有者	届　出種　別（定点）	時　期
59	ＲＳウイルス感染症	○	－	－	別表２参照	
60	咽頭結膜熱	○	－	－		
61	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	－	－		
62	感染性胃腸炎	○	－	－		
63	水痘	○	－	－		
64	手足口病	○	－	－		
65	伝染性紅斑	○	－	－		
66	突発性発しん	○	－	－		
67	百日咳	○	－	－		
68	風しん	○	－	－		
69	ヘルパンギーナ	○	－	－		
70	麻しん（成人麻しんを除く。）	○	－	－		
71	流行性耳下腺炎	○	－	－		
72	不明発しん症　　（都単独）	○	－	－		
73	ＭＣＬＳ（川崎病）　　（都単独）	○	－	－		
74	インフルエンザ （高病原性鳥インフルエンザを除く。）	○	－	－		
75	急性出血性結膜炎	○	－	－		
76	流行性角結膜炎	○	－	－		
77	性器クラミジア感染症	○	－	－		
78	性器ヘルペスウイルス感染症	○	－	－		
79	尖圭コンジローマ	○	－	－		
80	淋菌感染症	○	－	－		
81	トリコモナス症　　（都単独）	○	－	－		
82	梅毒様疾患　　（都単独）	○	－	－		
83	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	○	－	－		
84	細菌性髄膜炎	○	－	－		
85	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	－	－		
86	マイコプラズマ肺炎	○	－	－		
87	成人麻しん	○	－	－		
88	無菌性髄膜炎	○	－	－		
89	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	－	－		
90	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	－	－		

別表２

指定届出機関（定点）からの届出疾患と調査単位

定点種別	疾患名	届出方法	
		定点種別	報告時期
小児科定点	ＲＳウイルス感染症	週単位 （月曜日から日曜日。以下同じ。）	次の月曜
	咽頭結膜熱		
	Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	風しん		
	ヘルパンギーナ		
	麻しん（成人麻しんを除く。）		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症　（都単独）		
	ＭＣＬＳ（川崎病）　（都単独）		
	インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザを除く。）		
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ定点	インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザを除く。）	週単位	次の月曜
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜
	流行性角結膜炎		
性感染症定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	トリコモナス症　（都単独）		
	梅毒様疾患　（都単独）		
基幹定点	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	週単位	次の月曜
	細菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	成人麻しん		
	無菌性髄膜炎		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

別記様式一覧表

別記様式１　　一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票

別記様式２　　一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票（病原体）

別記様式３　　四類感染症発生届

別記様式４　　一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所項目（患者）

別記様式５　　五類感染症発生届
（クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、
先天性風しん症候群を除く）

別記様式５－２　クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

別記様式５－３　後天性免疫不全症候群発生届（ＨＩＶ感染症を含む）

別記様式５－４　先天性風しん症候群発生届

別記様式６　　五類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）

別記様式７　　感染症発生動向調査（小児科定点）報告票

別記様式８　　感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）報告票

別記様式９　　感染症発生動向調査（眼科定点）報告票

別記様式１０　感染症発生動向調査（ＳＴＩ定点）報告票

別記様式１１　感染症発生動向調査（基幹定点）報告票

別記様式１

保健所ｺｰﾄﾞ　西　暦　ＩＤ

一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（　　年　　月　　日）

医　師　の　氏　名　　印（自署または記名押印のこと）
所属する病院・診療所等施設名
上記施設の住所・電話番号＊　　（電話　　）

（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　患者氏名	2　性別	3　診断時の年齢　　歳	4　患者職業
	男・女	生年月日　明・大・昭・平　年　月　日	
5　患者住所		6　患者所在地	
電話（　　）		電話（　　）	
7　保護者氏名	8　保護者連絡先（７，８は患者が未成年の場合のみ記入）		
	電話（　　）		

9　病　名	10　診　断　方　法	11　症　状	12　発病年月日
・エボラ出血熱 ・クリミア・コンゴ出血熱 ・重症急性呼吸器症候群 （病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る） ・痘そう ・ペスト ・マールブルグ病 ・ラッサ熱	・病原検査　（検体　）（方法　）（型　） ・血清学的検査（検体　）（方法　）（型　） ・臨床決定 ・その他（　）	・有 （　）	平成　年　月　日
・コレラ ・細菌性赤痢 ・腸チフス ・パラチフス	・病原検査　（検体　）（方法　）（型　） ・血清学的検査（検体　）（方法　）（型　） ・臨床決定 ・その他（　）		平成　年　月　日
・急性灰白髄炎 ・ジフテリア	・病原検査　（検体　）（方法　）（型　） ・血清学的検査（検体　）（方法　）（型　） ・その他（　）		平成　年　月　日
・腸管出血性大腸菌感染症	・病原検査　（検体　）（方法　）（型　） ・血清学的検査（検体　）（方法　）（型　） ・その他（　）	・無	平成　年　月　日

13　初診年月日
平成　年　月　日
14　診断（検案※）年月日
平成　年　月　日
15　感染したと推定される年月日
平成　年　月　日
16　死亡年月日※
平成　年　月　日

この届出は診断後直ちに行ってください

17　推定される感染地域・感染原因・感染経路		
・最近数年間の主な居住地 １　日本国内 ２　その他（　） ３　不明	・推定される感染地域 １　日本国内 ２　その他（　） ３　不明	・推定される感染原因・感染経路 （　）

18　その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために必要と認める事項

（２、９から11、17欄は該当する番号等を○で囲み、３、４、12から16欄は年齢・年月日等を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。）

別記様式2

保健所コード　西暦　ID　衛研受付番号　病原体定点コード
□□□□□□□□　□□□□　□□□-□□□□　□□□□□□　□□□□

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症検査票（病原体）

患者	性別	（ 男 ・ 女 ）
	年齢	（ 歳 ヵ月 ）

［主治医等記載欄］

医療機関等名及び主治医等医師名（記載者）		
検体送付日		年 月 日　分離株（無、有、検査中）
診断名		
発病日		年 月 日
検査材料	採取日	年 月 日
	材料の種類［該当するもの一つを○で囲んで下さい］	・ふん便（腸内容物、直腸ぬぐい液）　・髄液　・尿 ・喀痰　・気管吸引液　・穿刺液（腹水、胸水、関節液、その他　） ・咽頭ぬぐい液（うがい液、鼻汁）　・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂）　・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料（臓器　） ・血液（全血、血清、血漿、抗凝固剤［　］） ・その他［　］
臨床的事項	臨床症状・徴候等［該当するもの全てを○で囲んで下さい］（基礎疾患を除く）	・無症状　・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・発熱（最高　℃）　・角膜炎、結膜炎、角結膜炎 ・関節痛、筋肉痛　・髄膜炎、意識障害、麻痺（部位　）、中枢神経系症状（脳炎、脳症、脊髄炎、その他　） ・口内炎、上気道炎、下気道炎（肺炎、気管支炎）　・循環器障害（心筋炎、心膜炎、心不全） ・発しん（水疱、丘しん、紅斑、バラしん）、出血傾向　・黄疸　・肝機能障害 ・リンパ節腫脹、腫脹（部位　）、浮腫（部位　）　・腎機能障害（HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全） ・ショック症状（低血圧、循環不全）　・尿路生殖器症状 ・その他の症状（上記以外の症状や臨床徴候） ［　］
基礎疾患		
転帰		経過観察中、軽快、治癒、死亡（原因　）
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項		

［保健所等記載欄］（主治医記載可）

発生の状況		・散発　・地域流行　・家族内発生（無、有） ・集団発生（無、有） 有の場合（保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、その他［　］）
最近の海外渡航歴	国名	
	期間	年 月 日 ～ 年 月 日
ワクチン接種歴	ワクチン名	最近の接種年月日　年 月 日

［地方衛生研究所記載欄］

記載者名		
抗体検出	方法	（蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他　）
	結果	（　）
病原体検出	検出年月日	年 月 日
	検出方法［陽性となった方法を○で囲んで下さい］	・分離培養（培養細胞：細胞名［　］） 人工培地、発育鶏卵、動物、その他　） ・抗原検出等（電顕、鏡検、蛍光、EIA、凝集反応、その他　） ・遺伝子検出（1.非増幅［ハイブリ、PAGE、その他　］ 2.増幅［PCR、その他　］）
	検出病原体（群、型、亜型）	

［その他特記事項］

注1）主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
注2）ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
注3）二類、三類感染症について医療機関（民間検査所を含む）で病原体を分離した場合は、可能な範囲で地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

別記様式３

保健所ｺｰﾄﾞ　西暦　ＩＤ

四類感染症発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成　　年　　月　　日）

医師の氏名　　印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名
上記施設の住所・電話番号※　　（電話　　）
（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　患者氏名	2　性　別	3　診断時の年齢
	男　・　女	生年月日　明・大・昭・平　　年　　月　　日　　歳
4　患者職業	5　患者住所	
	電話（　　）	
6　患者所在地		
	電話（　　）	
7　保護者氏名	8　保護者連絡先	（7、8は患者が未成年の場合のみ記入）
	電話（　　）	

9　病名（該当する番号等を○で囲むこと）

1　E型肝炎
2　ウエストナイル熱
（1)ｳｴｽﾄﾅｲﾙ熱、2)ｳｴｽﾄﾅｲﾙ脳炎）
3　A型肝炎
4　エキノコックス症
（1)単包条虫、2)多包条虫）
5　黄熱
6　オウム病
7　回帰熱
8　Q熱
9　狂犬病
10　高病原性鳥インフルエンザ
11　コクシジオイデス症
12　サル痘
13　腎症候性出血熱
14　炭疽
15　つつが虫病
16　デング熱
（1)ﾃﾞﾝｸﾞ熱、2)ﾃﾞﾝｸﾞ出血熱）
17　ニパウイルス感染症
18　日本紅斑熱
19　日本脳炎
20　ハンタウイルス肺症候群
21　Bウイルス病
22　ブルセラ症
23　発しんチフス
24　ボツリヌス症
（1)食餌性（食中毒）、2)乳児
3)創傷、4)成人定着、5)不明）
25　マラリア
（1)三日熱、2)四日熱、3)卵形、
4)熱帯熱、5)不明）
26　野兎病
27　ライム病
28　リッサウイルス感染症
29　レジオネラ症
30　レプトスピラ症

10　診断方法
1)　病原検査（検体　　）
（方法　　）
（型　　）
2)　血清学的検査（検体　　）
（方法　　）
（型　　）
3)　臨床決定
4)　その他（　　）
（該当するもの全てに記載すること）

11　診断時の症状
1)　有（　　）
2)　無

12	発病年月日	平成　年　月　日
13	初診年月日	平成　年　月　日
14	診断（検案※）年月日	平成　年　月　日
15	感染したと推定される年月日	昭和・平成　年　月　日
16	死亡年月日※	平成　年　月　日

17・18　推定される感染地域・感染原因・感染経路

・最近数年間の主な居住地
1　日本国内　2　その他（　　）　3　不明
・推定される感染地域
1　日本国内　2　その他（　　）　3　不明
・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動
1　あり（　　）　2　その他
・推定される感染源・感染経路等
1　経口感染（推定される飲食物　　）
2　媒介動物等からの感染（動物の種類　　）
3　その他（　　）
4　不明
・同疾患または同様の症状の者の発症
1　同居者にいる　2　同じ職場や学校等にいる
3　その他（　　）　4　いない

この届出は診断後直ちに行ってください

（2、9から11、17・18欄は該当する番号等を○で囲み、3、4、12から16欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。）

別記様式４

一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症保健所項目（患者）

一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症につき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式１及び別記様式３のうち、

「９　病名」
「10　診断方法」
「11　症状」
「12　発病年月日」
「13　初診年月日」
「14　診断（検案）年月日」
「15　感染したと推定される年月日」
「16　死亡年月日」
「17･18　推定される感染地域・感染原因・感染経路」
及び
「３　診断時の年齢」のうち、患者の「生年月日」

以上

別記様式５－１

保健所ｺｰﾄﾞ　西　暦　ＩＤ

五類感染症発生届
（クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風しん症候群を除く）

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成　　年　　月　　日）

医師の氏名　　印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名
上記施設の住所・電話番号※　　（電話　　）
（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　性別	男　・　女
2　診断時の年齢	歳

3　病名（該当する番号等を○で囲むこと）

1　アメーバ赤痢
2　ウイルス性肝炎
（1)Ｂ型、2)Ｃ型、3)Ｄ型、4)その他（　　）、5)不明）
3　急性脳炎（ｳｴｽﾄﾅｲﾙ脳炎及び日本脳炎を除く）
（1)病原体（　　）、2)病原体不明）
4　クリプトスポリジウム症
5　劇症型溶血性レンサ球菌感染症
6　ジアルジア症
7　髄膜炎菌性髄膜炎
8　梅毒
（1)早期顕症梅毒（ｱ.Ⅰ期、ｲ.Ⅱ期）、2)晩期顕症梅毒、3)無症候梅毒、4)先天梅毒）
9　破傷風
10　ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ耐性黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症
11　バンコマイシン耐性腸球菌感染症

4　診断方法
1) 病原検査（検体　　）（方法　　）（型　　）
2) 血清学的検査（検体　　）（方法　　）（型　　）
3) 臨床決定
4) その他（　　）
（該当するもの全てに記載すること）

5　診断時の症状
1) 有（　　）
2) 無

6	発病年月日	平成　年　月　日
7	初診年月日	平成　年　月　日
8	診断（検案※）年月日	平成　年　月　日
9	感染したと推定される年月日	昭和・平成　年　月　日
10	死亡年月日※	平成　年　月　日

11・12　推定される感染地域・感染原因・感染経路

・最近数年間の主な居住地
1　日本国内　2　その他（　　）　3　不明
・推定される感染地域
1　日本国内　2　その他（　　）　3　不明
・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動
1　あり（　　）　2　なし
・推定される感染源・感染経路等
1　経口感染（推定される飲食物　　）
2　性行為感染
ア．異性間性的接触　イ．同性間性的接触
3　静注薬物使用
4　母子感染
5　輸血
6　媒介動物等からの感染（動物の種類　　）
7　その他（　　）
8　不明
・同疾患または同様の症状の者の発症
1　同居者にいる　2　同じ職場や学校等にいる
3　その他（　　）　4　いない

この届出は診断から7日以内に行ってください

（1、3から5、11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2、6から10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。）

別記様式５－２

保健所ｺｰﾄﾞ　西　暦　ＩＤ

クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成　　年　　月　　日）

医師の氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名
上記施設の住所・電話番号※　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（電話　　）
（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　性別	男・女
2　診断時の年齢	歳
3　病名	クロイツフェルト・ヤコブ病 1)弧発性ＣＪＤ　2)家族性ＣＪＤ 3)新変異型ＣＪＤ　4)ＧＳＳ 5)ＦＦＩ （ｱ.確実　ｲ.ほぼ確実　ｳ.疑い）
4　診断方法	1) 病原検査（異常プリオンたん白の検出） 部位 (1)脳　(2)扁桃　(3)その他 方法 (1)Western Blot法　(2)免疫染色法型（免疫染色法による） (1)ｱﾐﾛｲﾄﾞ斑型　(2)ｼﾅﾌﾟｽ型 2) プリオンたん白遺伝子検査 (1)コドン（　）の異常 (2)コドン１２９の多型 （ｱ.M/M　ｲ.M/V　ｳ.V/V） (3)コドン２１９の多型 （ｱ.E/E　ｲ.E/K　ｳ.K/K） (4)その他（　） 3) 臨床決定 4) その他（　） （該当するもの全てに記載すること）

5　診断時の症状	1) 有 ｱ. 進行性痴呆（　年　月より） ｲ. 記憶障害（　年　月より） ｳ. 精神・知能障害（　年　月より） ｴ. 臨床的に頑固な不眠（　年　月より） ｵ. 視覚異常（　年　月より） ｶ. 錯感覚、異常感覚（　年　月より） ｷ. 錐体路症状（　年　月より） ｸ. 痙性対麻痺（　年　月より） ｹ. 錐体外路症状（　年　月より） ｺ. 筋強剛（　年　月より） ｻ. 小脳症状（　年　月より） ｼ. ミオクローヌス（　年　月より） ｽ. 無動性無言状態（　年　月より） ｾ. 脳波検査でＰＳＤあり（　年　月より） ｿ. その他（　）（　年　月より） 2) 無

6	発病年月日	平成　年　月　日
7	初診年月日	平成　年　月　日
8	診断(検案※)年月日	平成　年　月　日
9	感染したと推定される年月日	昭和･平成　年　月　日
10	死亡年月日※	平成　年　月　日

この届出は診断から7日以内に行ってください

11・12　推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1) 日本国内　2) その他（　） 3) 不明 ・推定される感染地域 1) 日本国内　2) その他（　） 3) 不明 ・同疾患または同様の症状の者 1) 家族にいる　2) 同じ職場等にいる 3) その他（　）　4) いない	・推定される感染経路等 1) ヒト乾燥硬膜 2) ヒト下垂体由来成長ホルモン製剤 3) 角膜手術 4) 手術等観血的処置 （種類　） 5) 輸血等 6) その他（　） 7) 不明

（1、3から5、11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2、6から10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。）

別記様式５－３

保健所ｺｰﾄﾞ　西暦　ＩＤ

後天性免疫不全症候群発生届
（ＨＩＶ感染症を含む）

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成　　年　　月　　日）

医師の氏名　　印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名
上記施設の住所・電話番号※　　（電話　　）
（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　性別	男　・　女
2　診断時の年齢	歳
3 病名	1）無症候性キャリア 2）ＡＩＤＳ 3）その他（　　）
4-1 診断方法	・抗ＨＩＶ抗体スクリーニング検査 1)ELISA法　2)ＰＡ法　3)ＩＣ法 4)その他（　　） ・確認検査 1)Western Blot法　2)ＩＦＡ法 3)その他（　　） ・病原検査 1)ＨＩＶ抗原検査　2)ウイルス分離 3)ＰＣＲ法 4)その他（　　） ・１８か月未満の児の免疫学的所見 （　　） （該当するもの全てに○をすること）

5 診断時の症状	1）有（　　） 2）無 （無症候性キャリアの場合は、当欄の記載は不要）
6　発病年月日（AIDSの指標疾患(4-2)の発病日）	平成　年　月　日
7　初診年月日	平成　年　月　日
8　診断（検案※）年月日（AIDSの場合は指標疾患(4-2)の診断日）	平成　年　月　日
9　感染したと推定される年月日	昭和・平成　年　月　日
10　死亡年月日※	平成　年　月　日

4-2 AIDSと診断した指標疾患（該当する全てに○）

1）カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）
2）クリプトコッカス症（肺以外）
3）コクシジオイデス症（①全身に播種したもの　②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの）
4）ヒストプラズマ症（①全身に播種したもの　②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの）
5）カリニ肺炎
6）トキソプラズマ脳症（生後１か月以後）
7）クリプトスポリジウム症（１か月以上続く下痢を伴ったもの）
8）イソスポラ症（１か月以上続く下痢を伴ったもの）
9）化膿性細菌感染症（１３歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により①敗血症　②肺炎　③髄膜炎　④骨関節炎　⑤中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍のいずれかが、２年以内に、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの）
10）サルモネラ菌血症（再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く）
11）活動性結核（肺結核又は肺外結核）
12）非定型抗酸菌症（①全身に播種したもの　②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの）
13）サイトメガロウイルス感染症（生後１か月以後で、肝、脾、リンパ節以外）
14）単純ヘルペスウイルス感染症（①１か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの　②生後１か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの）
15）進行性多巣性白質脳症
16）カポジ肉腫
17）原発性脳リンパ腫
18）非ホジキンリンパ腫（ＬＳＧ分類により　①大細胞型、免疫芽球型　②Burkitt型）
19）侵潤性子宮頸癌
20）反復性肺炎
21）リンパ性間質性肺炎／肺リンパ過形成：ＬＩＰ／ＰＬＨ complex（１３歳未満）
22）ＨＩＶ脳症（痴呆又は亜急性脳炎）
23）ＨＩＶ消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）

11・12　推定される感染地域・感染原因・感染経路

・最近数年間の主な居住地
1）日本国内　2）その他（　　）　3）不明
・推定される感染地域
1）日本国内　2）その他（　　）　3）不明
・国籍
1）日本　2）その他（　　）　3）不明

・推定される感染経路等
1）性行為感染
ア．異性間性的接触　イ．同性間性的接触
2）静注薬物使用
3）母子感染
4）輸血
5）その他（　　）
6）不明

この届出は診断から7日以内に行ってください

（１、３から５、11・12欄は該当する番号等を○で囲み、２、６から10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること）

別記様式５－４

保健所ｺｰﾄﾞ　西　暦　ＩＤ

先天性風しん症候群発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）　殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第１２条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成　　年　　月　　日）

医師の氏名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記施設の住所・電話番号※　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（電話　　）

（＊所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1　性別	男　・　女
2　診断時の年齢	歳
3　病名	先天性風しん症候群
4　診断方法	1）病原検査 （検体　　） （方法　　） 2）血清学的検査 （検体　　） （方法　　） 3）臨床決定 4）その他 （　　） （該当するもの全てに記載すること）
5　診断時の症状	1）有（　　） 2）無
6　発病年月日	平成　　年　　月　　日
7　初診年月日	平成　　年　　月　　日
8　診断（検案※）年月日	平成　　年　　月　　日
9　感染したと推定される年月日	昭和・平成　　年　　月　　日
10　死亡年月日※	平成　　年　　月　　日

この届出は診断から７日以内に行ってください

11・12　推定される感染地域・感染原因・感染経路

・最近数年間の主な居住地
　1）日本国内　　2）その他（　　）
　3）不明
・推定される感染地域
　1）日本国内　　2）その他（　　）
　3）不明

・母親の妊娠中の風しん罹患歴
　1）あり　　2）なし
・母親の風しん抗体価と測定時期
（　　）
・母親の風しん予防接種歴
　1）あり　　2）なし

（１、３から５、11・12欄は該当する番号等を○で囲み、２、６から10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。）

別記様式６

五類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）

五類感染症のうち全数把握対象のものにつき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式５のうち、すべての項目

以上

別記様式7

感染症発生動向調査(小児科定点)

調査期間 平成　年　月　日 ～　月　日 (週報)　　西暦　　年 第　　週　　保健所コード　　定点コード

疾患名＼年齢		～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20歳以上	合 計
ＲＳウイルス感染症	男															
	女															
咽頭結膜熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男															
	女															
感染性胃腸炎	男															
	女															
水痘	男															
	女															
手足口病	男															
	女															
伝染性紅斑	男															
	女															
突発性発しん	男															
	女															
百日咳	男															
	女															
風しん	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
麻しん(成人麻しんを除く)	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
ＭＣＬＳ(川崎病)	男															
	女															
不明発疹症	男															
	女															

別記様式8

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）

調査期間　平成　　年　　月　　日　～　　月　　日　（週報）

西暦　　年　第　　週　　保健所コード　　定点コード

疾患名＼年齢		～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	合　計
インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザを除く）	男																					
	女																					

別記様式9

感染症発生動向調査(眼科定点)

調査期間　平成　　年　　月　　日　～　　月　　日　(週報)

西暦　　年　第　　週　　保健所コード　　定点コード

疾患名＼年齢		～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	合　計
急性出血性結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

別記様式１０

感染症発生動向調査（ＳＴＩ定点）

調査期間　平成　　年　　月　　日　～　　月　　日（月報）　　西暦　　年　第　　月　　保健所コード　　定点コード

疾患名＼年齢		0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合　計
性器クラミジア感染症	男																	
	女																	
性器ヘルペスウイルス感染症	男																	
	女																	
尖圭コンジローマ	男																	
	女																	
淋菌感染症	男																	
	女																	
トリコモナス症	男																	
	女																	
梅毒様疾患	男																	
	女																	

（注）トリコモナス症、梅毒様疾患は東京都独自の報告対象疾病です

別記様式11

感染症発生動向調査（基幹定点）

調査期間　平成　　年　　月　　日　～　　月　　日（週報）　　平成　　年　第　　週　　保健所コード　　定点コード

ID番号	性	年・月齢	病名	採取年月日	検査方法	検査結果（病原体名称）
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	
			1　2　3　4　5		1 2 3 4 5 6	

病名

1：細菌性髄膜炎（真菌性を含む）
2：無菌性髄膜炎
3：マイコプラズマ肺炎
4：クラミジア肺炎（オウム病を除く）
5：成人麻しん

検査方法

1：分離・培養
2：抗原検出
3：核酸・PCR
4：塗末検鏡
5：電顕
6：血清

調査期間　平成　　年　　月　　日　～　　月　　日（月報）　　平成　　年　第　　月　　保健所コード　　定点コード

ID番号	性	年・月齢	病名	採取年月日	採取部位
			1　2　3		
			1　2　3		
			1　2　3		
			1　2　3		
			1　2　3		

病名

1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症

別添１　「検査結果コード表」

10000 VirusNT
10100 Adeno NT
10101 Adeno-1
10102 Adeno-2
10103 Adeno-3
10104 Adeno-4
10105 Adeno-5
10106 Adeno-6
10107 Adeno-7
10108 Adeno-8
10109 Adeno-9
10110 Adeno-10
10111 Adeno-11
10112 Adeno-12
10113 Adeno-13
10114 Adeno-14
10115 Adeno-15
10116 Adeno-16
10117 Adeno-17
10118 Adeno-18
10119 Adeno-19
10120 Adeno-20
10121 Adeno-21
10122 Adeno-22
10123 Adeno-23
10124 Adeno-24
10125 Adeno-25
10126 Adeno-26
10127 Adeno-27
10128 Adeno-28
10129 Adeno-29
10130 Adeno-30
10131 Adeno-31
10132 Adeno-32
10133 Adeno-33
10134 Adeno-34
10135 Adeno-35
10136 Adeno-36
10137 Adeno-37
10138 Adeno-38
10139 Adeno-39
10140 Adeno-40
10141 Adeno-41
10142 Adeno-42
10300 Parainf.NT
10301 Parainf.1
10302 Parainf.2
10303 Parainf.3
10304 Parainf.4
10400 RS
10500 Rhino-ALL
10800 Coxa.ANT
10801 Coxa.Al
10802 Coxa.A2
10803 Coxa.A3
10804 Coxa.A4
10805 Coxa.A5
10806 Coxa.A6
10807 Coxa.A7
10808 Coxa.A8
10809 Coxa.A9
10810 Coxa.A10
10811 Coxa.A11
10812 Coxa.A12
10813 Coxa.A13
10814 Coxa.A14
10815 Coxa.A15
10816 Coxa.A16
10817 Coxa.A17
10818 Coxa.A18
10819 Coxa.AI9
10820 Coxa.A20
10821 Coxa.A21
10822 Coxa.A22
10824 Coxa.A24
10900 Coxa.B NT
10901 Coxa.B1
10902 Coxa.B2
10903 Coxa.B3
10904 Coxa.B4
10905 Coxa.B5
10906 Coxa.B6
11000 Echo-2
11001 Echo-1
11002 ECho-2
11003 Echo-3
11004 Echo-4
11005 Echo-5
11006 Echo-6
11007 Echo-7
11009 Echo-9
11011 Echo-11
11012 Echo-12
11013 Echo-13
11014 Echo-14
11015 Echo-15
11016 Echo-16
11017 Echo-17
11018 Echo-18
11019 Echo-19
11020 Echo-20
11021 Echo-21
11022 Echo-22
11023 Echo-23
11024 Echo-24
11025 Echo-25
11026 Echo-26
11027 Echo-27
11029 Echo-29
11030 Echo-30
11031 Echo-31
11032 Echo-32
11033 Echo-33
11100 Polio NT
11101 Polio-1
11102 Polio-2
11103 Polio-3
11200 Mumps
11300 HV group
11301 HSV NT
11302 EBV
11303 VZV
11306 HSV-1
11307 HSV-2
11502 Picorna NT
11521 Measles
11522 Rubella
11552 Rabies
11555 Papova
11556 CMV
11562 Reo NT
11564 Rota
11565 Calici
11566 Norwalk
11567 SRV
11568 Entero68
11569 Entero69
11570 Entero70
11571 Entero71
11702 JE
11703 Dengue.ALL
11709 Other Arbo
11750 Hantavirus ALL
11801 ATL Virus

11802 HIV
12000 Inf.A(H1)
12010 Inf A NT
12011 Inf.A HINI
12020 Inf.A(H2)
12022 Inf.AH2N2
12030 Inf.A(H3)
12032 Inf.AH3N2
12203 Inf.B
12204 Inf.C
20100 Chlam.trc.NT
20101 Chlam.trc.A
20102 Chlam.trc.B
20103 Chlam.trc.BA
20104 Chlam.trc.C
20105 Chlam.trc.D
20106 Chlam.trc.D'
20107 Chlam.trc.E
20108 Chlam.trc.F
20109 Chlam.trc.G
20110 Chlam.trc.H
20111 Chlam.trc.I
20112 Chlam.trc.I'
20113 Chlam.trc.J
20114 Chlam.trc.K
20115 Chlam.trc.L1
20116 Chlam.trc.L2
20117 Chlam.trc.L2'
20118 Chlam.trc.L3
20119 Chlamydia Pneumoiae
20600 Mycopl.Pn.
20601 Other Mycopl.
20700 Chlam.Psi.
21401 C.Burneti
21402 Other Ric.
21403 R.Prowaze.
21404 R.Tsutsug.
88888 詳細不明
91000 Bacteria
91001 Bacteria
91002 Bacteria
91003 Bacillus
91004 Bacillus
91005 Coccus
91006 Coccus
91010 Anaerobic bacteria
91011 Anaerobi.bact.G-pos
91012 Anaerobi.bact.G-neg
91013 Anaerobi.baci.G-Pos
91014 Anaerobi.baci.G-neg
91015 Anaerobi.cocc.G-pos
91016 Anaerobi.cocc.G-neg
91100 Pseudomonas sp.
91101 P.Aeruginosa
91110 Vibrio sp.
91120 Campylobacter sp.
91130 Spirillum sp.
91140 Plesimonas sp.
91300 Chromobacterium sp.
91310 Alcaligenes sp.
91320 Aeromonas sp.
91330 Flavobacterium sp.
91340 Escherichia sp.
91350 Shigella sp.
91360 Salmonella sp.
91370 Erwinia sp.
91380 Citrobacter sp.
91390 Klebsiella sp.
91400 Enterobacter sp.
91410 Hafnia sp.
91420 Seratia sp.
91430 Proteus sp.
91440 Providencia sp.
91450 Yersima sp.
91460 Pasteurella sp.
91470 Bordetella sp.
91480 Brucella sp.
91490 Haemophilus sp.
91491 H.influenzae
91494 H.parainfluenzae
91500 Edwardsiella sp.
91520 Moraxella sp.
91540 Bacteroides sp.
91550 Fusobacterium sp.
91590 Micrococcus sp.
91600 Staphylococcus sp
91601 S.aureus
91602 S.epidermidis
91610 Peptococcus sp.
91620 Legionella sp.
91621 L.pneumophila
91630 Neisseria sp.
91631 N.gonorrhoeae
91632 N.meningitidis
91640 Acinetbacter sp.
91670 Peptostreptococus sp.
91680 Streptococcus sp.
91681 Streptococcus-βhemo
91682 Streptococcus-αUvi-hemo
91683 Streptococcus-D
91684 Streptococcus-B
91685 Streptococcus-C
91686 Streptococcus-G
91688 S.pneumoniae
91690 Lactobacillus sp.
91700 Corynebacterium sp.
91710 Listeria sp.
91711 L.monocytogenes
91720 Propionibacter.sp.
91730 Bacillus sp.
91740 Clostrium sp.
91750 Mycobacterium sp.
91751 M.tuberculosis
91770 Nocardia sp.
91780 Actinomyces sp.
91820 Treponema sp.
91821 T.pallidum
91830 Leptospira
94010 Fungi
94300 Fungi imperfecti
94301 Cryptococcus
94302 Cryptococcus neoformans
94303 Candida
94304 candida albicans
94400 Parasite
94421 Entamoeba
94422 Entamoeba histolytica
94457 Giardia
94458 Giardia lamblia
94461 Trichomonas
94464 Trichomonas vaginalis
94493 Mararia
94496 Toxoplasma
94497 Toxoplasma gondi
94498 Pneumocystis
94499 Pneumocystis carinii
94500 Helminth
99999 その他病原体

別添２　「採取部位リスト」

【病名が「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」の場合】
１　喀痰（肺炎）
２　気管洗浄液
３　血液
４　髄液
５　胸水
６　腹水
７　術創部（創部感染）
８　留置カテーテル（血管・気管・尿路・体腔内・その他）
９　その他

【病名が「ペニシリン耐性肺炎球菌感染症」の場合】
１　喀痰（肺炎）
２　気管洗浄液
３　血液
４　髄液
５　胸水
６　腹水
７　術創部（創部感染）
８　耳漏液
９　その他

【病名が「薬剤耐性緑膿菌感染症」の場合】
１　喀痰（肺炎）
２　気管洗浄液
３　血液
４　髄液
５　胸水
６　腹水
７　術創部（創部感染）
８　留置カテーテル（血管・気管・尿路・体腔内・その他）
９　膿（開放性・非開放性）・分泌液
１０　その他

感染症発生動向調査事業報告書
平成１７年（２００５年）

平成１８年７月

登録番号（１８）　５

編集・発行　東京都健康安全研究センター
〒169-0073　東京都新宿区百人町３－２４－１
電　話　（０３）３３６３－３２３１
印　刷　所　有限会社太平印刷
〒171-0051　東京都豊島区長崎５－８－６
電　話　（０３）３９５７－３９１１